兵庫県文化財調査報告　第 524 冊

姫路市

# 池ノ下遺跡Ⅱ

－　一般国道２号姫路バイパス改築事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書　－

令和５（2023）年２月

兵 庫 県 教 育 委 員 会

兵庫県文化財調査報告　第 524 冊

姫路市

# 池ノ下遺跡Ⅱ

－　一般国道２号姫路バイパス改築事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書　－

令和５（2023）年２月

兵 庫 県 教 育 委 員 会

# 例　　言

１．本書は兵庫県姫路市苫編に所在する、池ノ下遺跡の発掘調査報告書である。

２．池ノ下遺跡の発掘調査報告書は、既刊の成果として、中播都市計画英賀保駅周辺土地区画整備事業に伴い、兵庫県教育委員会刊行『池ノ下遺跡』(2012.3) 兵庫県文化財調査報告第435冊が刊行されており、本報告は『池ノ下遺跡Ⅱ』(2023.2) 兵庫県文化財調査報告第524冊とした。

３．発掘調査は一般国道２号姫路バイパス改良事業に係るもので、兵庫県教育委員会が国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所の依頼を受けて、平成19年度は兵庫県立考古博物館が、平成29年度と平成30年度は公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターが実施した。

４．出土品整理は兵庫県教育委員会が国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所の依頼を受けて、令和元年度～令和４年度に公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターが実施した。

５．遺構全体の航空写真測量を入札により、平成19年度は富士測量株式会社に、平成29年度は株式会社イビソクに、平成30年度は株式会社オオバに業務委託した。

６．写真は、遺構を調査員が担当し、遺物については入札により、株式会社地域文化財研究所に委託した。

７．本書の図版１は、国土地理院発行の1/200,000「姫路」を使用した。図版２は、兵庫県発行の兵庫県地質図1/100,000を使用した。図版３は、姫路市都市計画図「飾磨区付城」を使用した

８．本書に使用した方位は世界測地系（第Ⅴ系）の座標北を示す。また、標高値は東京湾平均海水面（T.P.）を基準とした。

９．出土品の分析は、入札により土器の胎土分析を株式会社古環境研究所に、木製品の樹種同定を一般社団法人　文化財科学研究センターに委託した。

10．本書の執筆は、以下のとおりである。

第１章　篠宮　正

第２章　西口圭介

第３章　第１節を西口

第３章　第２節・第３節・第５節・第８節を篠宮

第３章　第６節・第７節・第９節を西口

第３章　第４節を西山昌孝

第４章　第１節・第２節を篠宮

第４章　第３節を西口

第４章　第４節・第５節を鐵　英記

第５章　第１節を株式会社古環境研究所

第５章　第２節を一般社団法人文化財科学研究センター

第６章　第１節を篠宮

第６章　第２節・第３節を西口

11. 本書の編集は整理技術員　柏原美音・寺西梨紗の補助のもと篠宮・西口が行った。

12. 本書にかかる写真・図面などの記録や出土した遺物などは、兵庫県立考古博物館が保管している。

13. その他の記載項目

・ 本報告書の体裁については概ね『池ノ下遺跡』(2012. 3) 第435冊を踏襲した。

・ 調査区の名称については、『池ノ下遺跡』(2012. 3) 第435 冊の区名に続く番号として、東側から70 区～77 区とした。

・ 掲載遺構番号については、今回掲載した遺構に限り『池ノ下遺跡』(2012. 3) 第435 冊の続く遺構番号に振り替えた。

・ 掲載遺物の番号については、今回掲載した遺物に限り『池ノ下遺跡』(2012. 3) 第435 冊の掲載番号に続く番号に振り替えた。

・ 遺構の製図および遺物の実測・製図は公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター　整理技術員が行った。なお、遺構図版の作成に際し、南を天にするものがある。

・ 中世の遺物については主に兵庫津遺跡Ⅱ（第270 冊）の用語を参考とし、土師器・須恵器・瓦器の表現を概ね使用した。用字については、磁器以外の種別には杯・椀・鍋の字を使用、磁器については碗の字を使用した。また、土製煮炊具については土師器鍋・羽釜とし、瓦質の鍋・羽釜については瓦質土器鍋・羽釜の用語を使用している。また、石器・木器・金属器の用語を使用している。

・ 今回言及した調査区の地形環境については立命館大学非常勤講師　青木哲哉氏に現地にてご教示をいただいている。加えて『池ノ下遺跡』(2012. 3) 第435 冊に掲載した地形分類を参考にしている。文責は今回の執筆者にある。

14. 発掘調査および報告書の作成にあたり、

姫路市教育委員会

青木哲哉（立命館大学）、秋枝　芳・大谷輝彦・森　恒裕・中川　猛・小柴治子・福井　優・関　梓（姫路市教育委員会）、岡田章一・新田宏子（兵庫県立考古博物館）の各機関・各氏にご援助・ご指導・ご教示頂いた。記して深く感謝の意を表する。

# 池　ノ　下　遺　跡　Ⅱ

一般国道２号姫路バイパス改築事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書


例　　言

目　　次 …… ⅰ～ⅳ

第１章　遺跡をとりまく環境 …… 1
　第１節　地理的環境 …… 1
　第２節　歴史的環境 …… 1

第２章　調査の契機と経過 …… 5
　第１節　調査にいたる経緯 …… 5
　第２節　確認調査の経過 …… 5
　第３節　本発掘調査の経過 …… 6
　第４節　出土品整理作業の経過 …… 8

第３章　発掘調査の成果－遺構－ …… 11
　第１節　発掘調査の概要 …… 11
　第２節　70 区の調査 …… 12
　第３節　71 区の調査 …… 18
　第４節　72 区の調査 …… 18
　第５節　73 区の調査 …… 22
　第６節　74 区の調査 …… 23
　第７節　75 区の調査 …… 24
　第８節　76 区の調査 …… 28
　第９節　77 区の調査 …… 32

第４章　発掘調査の成果－遺物－ …… 35
　第１節　遺物の概要 …… 35
　第２節　弥生時代から古墳時代の土器 …… 35
　第３節　古代・中世の土器 …… 41
　第４節　石器 …… 51
　第５節　金属器 …… 52

第５章　自然科学的調査の成果 …… 53
　第１節　池ノ下遺跡胎土分析（薄片法） …… 53
　第２節　池ノ下遺跡における樹種同定 …… 67

第６章　調査の成果 …… 69
　第１節　古墳時代初頭の遺構と遺物 …… 69
　第２節　古代から中世の遺構と遺物 …… 70
　第３節　池ノ下遺跡の総括 …… 72

別　　表 …… １～４

図　　版 …… １～76

写真図版 …… １～93

報告書抄録

## 挿　図　目　次


第１図　池ノ下遺跡周辺の微地形復原(2,000 分の 1)････ 10
第２図　土器　2001～2004 ･･････････････････････････ 35
第３図　土器　2051～2061 ･･････････････････････････ 40
第４図　胎土中の砕屑物の各粒度階における鉱物・
　　岩石出現頻度(1) ･･････････････････････････ 59
第５図　胎土中の砕屑物の各粒度階における鉱物・
　　岩石出現頻度(2) ･･････････････････････････ 60
第６図　胎土中の砕屑物の粒径組成(3)･･････････････････ 61
第７図　胎土中の砕屑物の粒径組成(2)･･････････････････ 62
第８図　砕屑物・基質・孔隙の割合･･････････････････････ 62
第９図　胎土薄片(1) ･･････････････････････････････ 63
第10図　胎土薄片(2) ･･････････････････････････････ 64
第11図　胎土薄片(3) ･･････････････････････････････ 65
第12図　胎土薄片(4) ･･････････････････････････････ 66
第13図　池ノ下遺跡の木材 ･･････････････････････････ 68


## 表　目　次


第１表　76 区土坑一覧(1)(2) ･･････････････････････････ 30・31
第２表　分析試料一覧 ･･････････････････････････････ 53
第３表　薄片観察結果(1)(2)(3)･･････････････････････････ 56～58
第４表　池ノ下遺跡における樹種同定結果･･････････････････ 67


## 別　表　目　次


別表１　土器一覧(1)～(5) ･･････････････････････････ 73～77
別表２　石器一覧 ･･････････････････････････････････ 78
別表３　金属器一覧 ･･････････････････････････････････ 78
別表４　木器一覧 ･･････････････････････････････････ 78


## 図　版　目　次


図版 1　遺跡　1 兵庫県の位置
　　2 姫路市の位置
　　3 池ノ下遺跡の位置(200,000 分の 1)
図版 2　遺跡　池ノ下遺跡周辺の主要遺跡(25,000 分の 1)
図版 3　遺跡　池ノ下遺跡　調査区位置図(1,500 分の 1)
図版 4　遺跡　遺跡全体図１
図版 5　遺跡　遺跡全体図２
図版 6　遺構　70 区　全体図・南壁・西壁・東壁土層断面図
図版 7　遺構　70 区　全体図
図版 8　遺構　70 区　SD301・SD302・SD303・SD304・SD306
　　SD308・SD309・SD310・SD311・SD312
　　SD315
図版 9　遺構　70 区　SB301・SB302
図版 10　遺構　70 区　SB303
図版 11　遺構　70 区　SB304
図版 12　遺構　70 区　SB305
図版 13　遺構　70 区　SB305 柱穴
図版 14　遺構　70 区　SA301・SA302・SA303
図版 15　遺構　70 区　SA304・SA305・SA306
図版 16　遺構　70 区　SK301・SK302・SK304・SK305・SK306・SK307
図版 17　遺構　71 区　全体図・西壁土層断面図・SD317
図版 18　遺構　72 区　全体図・第１面・第２面
図版 19　遺構　72 区　北壁土層断面図・SD319
図版 20　遺構　72 区　SD320・SX2003・SX2004
図版 21　遺構　73 区　全体図・西壁土層断面図・SD321・SD322
図版 22　遺構　74 区　全体図
図版 23　遺構　74 区　南壁土層断面図
図版 24　遺構　74 区　北壁・西壁土層断面図
図版 25　遺構　74 区　P74101・P74102・SK401・SX101・SR101
図版 26　遺構　75 区　全体図・南壁土層断面図
図版 27　遺構　75 区　粘土採掘坑Ⅰ SK506・SK512
図版 28　遺構　75 区　粘土採掘坑Ⅱ SK502・SK503・SK505・SK507
　　SK508・SK509・SK510・SK514
　　SK515・SK516・SK517
図版 29　遺構　76 区　全体図・南壁土層断面図
図版 30　遺構　76 区　全体図１
図版 31　遺構　76 区　全体図２
図版 32　遺構　76 区　SK604・SK605
図版 33　遺構　76 区　SK606・SK608・SK627・SK662
図版 34　遺構　76 区　SK612・SK613・SK646・SK648・SK635
図版 35　遺構　76 区　SK614・SK615・SK616・SK743
図版 36　遺構　76 区　SK618・SK669
図版 37　遺構　76 区　SK621・SK622・SK625・SK663
図版 38　遺構　76 区　SK619・SK623・SK632
図版 39　遺構　76 区　SK666・SK649・SK639
図版 40　遺構　76 区　SK650・SK630・SK629
図版 41　遺構　76 区　SK676・SK624・SK677
図版 42　遺構　76 区　SK670・SK671・SK636・SK637・SK638
図版 43　遺構　76 区　SK640・SK642・SK656・SK657
図版 44　遺構　76 区　SK641・SK664・SK628・SK660
図版 45　遺構　76 区　SK652・SK633・SK644・SK674
図版 46　遺構　76 区　SK700・SK701・SK675・SK634
図版 47　遺構　76 区　SK673・SK702・SK720
図版 48　遺構　76 区　SK707・SK651・SK709
図版 49　遺構　76 区　SK655・SK643・SK658
図版 50　遺構　76 区　SK678・SK679・SK680・SK682・SK685
　　SK686
図版 51　遺構　76 区　SK687・SK688・SK691・SK692・SK721
図版 52　遺構　76 区　SK698・SK699・SK703・SK704・SK705
　　SK706
図版 53　遺構　76 区　SK722・SK723・SK724・SK725・SK731
　　SK732・SK716
図版 54　遺構　77 区　全体図
図版 55　遺構　77 区　東壁土層断面図
図版 56　遺構　77 区　南壁土層断面図
図版 57　遺構　77 区　SB306
図版 58　遺構　77 区　SB307
図版 59　遺構　77 区　SB308
図版 60　遺構　77 区　SB309
図版 61　遺構　77 区　SB310
図版 62　遺構　77 区　SB311
図版 63　遺構　77 区　SK793・SB308P150・SD330
　　第２面粘土採掘坑
図版 64　遺物　土器　2005～2020
図版 65　遺物　土器　2021～2031
図版 66　遺物　土器　2032～2050
図版 67　遺物　土器　2101～2129
図版 68　遺物　土器　2130～2144
図版 69　遺物　土器　2145～2162
図版 70　遺物　土器　2163～2180
図版 71　遺物　土器　2181～2201
図版 72　遺物　土器　2202～2227
図版 73　遺物　土器　2228～2238
図版 74　遺物　土器　2239～2250
図版 75　遺物　石器　S201～S212
図版 76　遺物　金属器　M201～M214

# 写　真　図　版　目　次


写真図版１　全景（2007 年撮影）（東から）
全景（2007 年撮影）（北から）
写真図版２　70 区　近景（上が南）
全景（上が南）
写真図版３　70 区　全景（東から）
写真図版４　70 区　全景（西から）
写真図版５　70 区　SB301・SB302（西から）
SB301 P02 土層断面（南から）
SB301 P05 土層断面（南から）
SB301 P04 土層断面（南から）
SB301 P05 石出土状況
（南から）
写真図版６　70 区　SB303（東から）
SB303 P02 土層断面（南から）
SB303 P03 土層断面（南から）
SB303 P05 土層断面（南から）
SB303 P06 土層断面（南から）
写真図版７　70 区　SB304（西から）
SB304 P03 土層断面（南から）
SB304 P05 土層断面（南から）
SB304 P04 土層断面（南から）
SB304 P05 柱出土状況
（南から）
写真図版８　70 区　SB304 P06 柱出土状況
（南から）
SB304 P07 土層断面（南から）
SB304 P08 土層断面（南から）
SB304 P09 土層断面（南から）
SB304 P10 土層断面（南から）
SB304 P11 土層断面（南から）
SB304 P16 土層断面（南から）
SB304 P17 石出土状況
（南から）
写真図版９　70 区　SB305（西から）
SB305 P01 土層断面（南から）
SB305 P02 遺物出土状況
（東から）
SB305 P01 石出土状況
（南から）
SB305 P02 土層断面
（南東から）
写真図版 10 70 区　SB305 P03 石出土状況
（南から）
SB305 P04 柱出土状況
（東から）
SB305 P05 遺物出土状況
（南から）
SB305 P06 土層断面（南から）
SB305 P07 土層断面（南から）
SB305 P09 土層断面（南から）
SB305 P08 土層断面（南から）
SB305 P09 鉄滓出土状況
（南から）
写真図版 11 70 区　SA304（北東から）
SA304 P01 土層断面（南から）
SA304 P02 土層断面（南から）
SA304 P03 土層断面（南から）
SA304 P02 遺物検出状況
（南から）
SA304 P04 土層断面（南から）
SA304 P05 土層断面（南から）
写真図版 12 70 区　SD301 土層断面（南西から）
SD303 土層断面（南西から）
SD304 土層断面（西から）
SD303 W301 杭出土状況
（北東から）
SD306 土層断面（南から）
SD308 土層断面（南から）
SD307 土層断面（東から）
SD310 土層断面（南西から）
写真図版 13 70 区　SD311 土層断面（南から）
SD312 土層断面（西から）
SD315 土層断面（西から）
SK302 土層断面（南から）
SK301 遺物出土状況（西から）
SK308（西から）
SK303 土層断面（南から）
SK308 土層断面（南から）
写真図版 14 70 区　SK304 完掘状況（南から）
SK305 完掘状況（南から）
SK306 完掘状況（南から）
SK307 完掘状況（南から）
SK304・SK305・SK306・SK307
土層断面（北から）
写真図版 15 71 区　全景（上が南）
全景（東から）
写真図版 16 71 区　SD317（東から）
SD317（東から）
SD317 土層断面（東から）
写真図版 17 72 区　遠景（東から）
遠景（北から）
写真図版 18 72 区　上層水田（東から）
上層水田（西から）
写真図版 19 72 区　上層水田　東半部（東から）
上層水田　西半部（西から）
SD318（北から）
写真図版 20 72 区　下層全景（北から）
下層水田跡（東から）
写真図版 21 72 区　調査区北壁の状況
（西北西から）
調査区北壁　東端の土層堆積
（南から）
調査区北壁　SD318 部分土層
堆積（南から）
調査区中央東寄り土層堆積
（南から）
調査区北壁中央　土層堆積
（南から）
調査区北壁　SD319 部分土層
堆積（南から）
SD319　調査区北壁部分
（南から）
写真図版 22 72 区　SD320 土層堆積（西から）
SD320 土層断面（西から）
SD320 断ち割り（西から）
SX2003・SD320（南南東から）
SX2004（北東から）
SX2004 断ち割り（東から）
写真図版 23 73 区　全景（北から）
南壁土層断面（北から）
写真図版 24 73 区　SD321（北から）
SD322（北から）
SD321 土層断面（北から）
SD322 土層断面（西から）
写真図版 25 74 区　遠景（東北東から）
遠景（西から）
全景（北から）
写真図版 26 74 区　全景（東から）
全景（西から）
写真図版 27 74 区　西壁土層断面（東から）
北壁西端土層断面（南から）
北壁西半土層断面（南から）
北壁中央付近土層断面
（南から）
北壁東端土層断面（南から）
南壁中央部土層断面（北から）
写真図版 28 74 区　P74101（南から）
P74102（南から）
SK401（南から）
SX101（南から）
旧河道 SR101 断ち割り状況
（南東から）
SR101 土層断面（東から）
写真図版 29 75 区　遠景（西北西から）
遠景（東から）
全景（北から）
写真図版 30 75 区　近景（西から）
全景（西から）
全景（東から）
写真図版 31 75 区　西半部（東から）
東半部（東から）
北壁　北東隅（南から）
東壁（西から）
南壁（西北西から）
P75201（北から）
奈良時代　SK516（北から）
写真図版 32 75 区　粘土採掘坑検出状況（北から）
粘土採掘坑検出状況（西から）
粘土採掘坑群（東から）
粘土採掘坑群（南南東から）
SK502・SK503（西から）
SK503（南から）
SK512・SK505・SK506
（北から）
SK505（南から）
写真図版 33 75 区　SK506（北から）
SK506 土層断面（東から）
SK507・SK508（西から）
SK507・SK508 土層断面
（東から）
SK509・SK510（東北東から）
SK509・SK510 土層断面
（東から）
SK511（北から）
SK512 土器出土状況（南から）
写真図版 34 75 区　SK512 完掘状況（北から）
SK512 土層断面（南から）
SK514・SK515（南から）
SK514・SK515 土層断面
（西から）
SK517-1・SK517-2（南から）
SK517 土層断面（南から）
SK518（南から）
SD327（北から）
写真図版 35 76 区　全景（上が南）
全景（上が南）
写真図版 36 76 区　全景（東から）
写真図版 37 76 区　SK650 遺物出土、完掘状況
（西から）
SK605 土層断面、完掘状況
（西から）
SK650 土層断面（南から）
SK610 土層断面、完掘状況
（西から）
SK607 完掘状況（西から）
SK665 土層断面（南から）
SK604 土層断面、完掘状況
（北から）
SK620 完掘状況（北から）
写真図版 38 76 区　SK666・SK649・SK614・SK623
（東から）
SK666 土層断面（西から）
SK649 土層断面（南西から）
SK614 土層断面（東から）
SK623 土層断面、遺物出土
状況（南から）
写真図版 39 76 区　SK612 遺物出土状況（西から）
SK613 遺物出土状況（西から）
SK612 土層断面（西から）
SK613 土層断面（西から）
SK615 遺物出土状況
（北西から）
SK619 遺物出土状況（北から）

SK615 土層断面（西から）
SK619 土層断面（北から）
写真図版 40 76 区 SK624・SK630・SK669・SK631（北から）
SK624 土層断面（南西から）
SK630 土層断面（北東から）
SK669 土層断面（北から）
SK631 土層断面（西から）
写真図版 41 76 区 SK606 周辺（北から）
SK606 遺物出土、完掘状況（北から）
SK606 遺物出土状況（東から）
SK606 土層断面（西から）
SK606 遺物出土状況（東から）
写真図版 42 76 区 SK743 遺物出土、完掘状況（東から）
SK646 遺物出土、完掘状況（北から）
SK743 土層断面（北東から）
SK646 土層断面（北から）
SK632 遺物出土、完掘状況（西から）
SK621・SK622 遺物出土、完掘状況（西から）
SK632 土層断面（南西から）
SK621・SK622 土層断面（西から）
写真図版 43 76 区 SK663 遺物出土状況（北東から）
SK627 完掘状況（西から）
SK663 土層断面（北東から）
SK627 土層断面（西から）
SK629 遺物出土、完掘状況（南西から）
SK625 完掘状況（西から）
SK629 遺物出土状況（南西から）
SK625 土層断面（西から）
写真図版 44 76 区 SK628・SK673・SK664・SK675（西から）
SK628 土層断面（南西から）
SK673 土層断面（北東から）
SK664 土層断面（西から）
SK675 土層断面（西から）
写真図版 45 76 区 SK670・SK671 遺物出土、完掘状況（南から）
SK674 遺物出土状況（北から）
SK670・SK671 土層断面（南西から）
SK674 土層断面（東から）
SK658 遺物出土、完掘状況（南から）
SK633 遺物出土、完掘状況（西から）
SK658 土層断面（西から）
SK633 土層断面（南西から）
写真図版 46 76 区 SK643 完掘状況（西から）
SK638 完掘状況（西から）
SK643 土層断面（西から）
SK638 土層断面（西から）
SK651 完掘状況（北から）
SK660 完掘状況（北から）
SK651 土層断面（西から）
SK660 土層断面（西から）
写真図版 47 76 区 SK709 完掘状況（東から）
SK641 完掘状況（北から）
SK702 遺物出土、完掘状況（東から）
SK641 土層断面（西から）
SK652 土層断面（西から）
SK608 土層断面（北西から）
SK637 土層断面（西から）
SK640・SK642 土層断面（北から）
写真図版 48 76 区 SK720 遺物出土、完掘状況（南から）
SK655 遺物出土、完掘状況（西から）
SK720 土層断面（南から）
SK655 土層断面（西から）
SK720 遺物出土状況（南から）
SK655 遺物出土状況（北から）
SK668 土層断面（北西から）
SK644 土層断面（東から）
写真図版 49 76 区 SK679・SK680 遺物出土、完掘状況(北東から)
SK685 遺物出土状況（西から）
SK679・SK680 土層断面（北東から）
SK685 土層断面（西から）
SK721 遺物出土、完掘状況（南から）
SK685 遺物出土状況（北から）
SK721 土層断面（南から）
SK730 遺物出土、完掘状況（北西から）
写真図版 50 76 区 SK699 土層断面（北から）
SK725 土層断面（南から）
SK711 土層断面（東から）
SK713 土層断面（北から）
SK716 遺物出土、完掘状況（南西から）
SK715 遺物出土、完掘状況（南から）
SK716 遺物出土状況（南から）
SD329 完掘状況（北から）
写真図版 51 77 区 遠景（西から）
第 1 面（北から）
第 1 面近接（北から）
写真図版 52 77 区 第 1 面（南から）
第 2 面（南から）
写真図版 53 77 区 南壁（西北西から）
南壁（東北東から）
東壁（西から）
東壁近接（西から）
南壁東半近接（北から）
南壁中央近接（北から）
写真図版 54 77 区 奈良時代の掘立柱建物跡
SB306・SB307（南から）
SB308・SB309（東から）
SB310・SB311（東から）
写真図版 55 77 区 SB306 P80 土層断面（北から）
SB306 P67 土層断面（西から）
SB306 P67 土層断面（東から）
SB306 P67 土層断面（南から）
SB306 P67 土層断面（北から）
SB306 P05 土層断面（西から）
SB306 P139 土層断面（東から）
SB306 P137 土層断面（東から）
SB306 P136 土層断面（西から）
写真図版 56 77 区 SB306 P148 土層断面（東から）
SB306 P123 土層断面（東から）
SB305 P95・SB306 P100（南から）
P98・SB307 P101・SB306 P102（南から）
SB306 P102（南から）
SB306 P106（北から）
SB306 P106（東から）
SB306 P106（南から）
SB306 P106（西から）
写真図版 57 77 区 SB307 P16（北から）
SB307 P16（東から）
SB307 P63（東から）
SB307 P76（東から）
SB307 P176（東から）
SB307 P09（西から）
SB307 P04（西から）
写真図版 58 77 区 SB308 P229 遺物出土状況（西から）
SB308 P150 白磁碗出土状況（西から）
SB308 P150 土層断面（北から）
SB308 P191 土層断面（西から）
SB308 P195・P194（西から）
SB308 P195（南から）
SB309 P218 土器出土状況（北から）
SB309 P220 遺物出土状況（北から）
SB309 P220 土層断面（西から）
写真図版 59 77 区 P77059 土師器皿出土状況（南から）
P77070 土師器皿出土状況（南から）
P77254 土師器皿出土状況（東から）
写真図版 60 77 区 SK793 須恵器甕検出状況（南東から）
SK793 埋積状況（西から）
SK793 埋納状況（南東から）
SK793 完掘状況（北西から）
写真図版 61 77 区 SD330 全景（南西から）
SD330 土層断面（西から）
SD330 遺物出土状況（南から）
第 2 面粘土採掘坑（西から）
第 2 面粘土採掘坑近接（西から）
南東隅　粘土採掘坑部分土層断面（北西から）
写真図版 62 平成 19 年度現地説明会状況
70 区現地説明会状況
76 区現地説明会状況
写真図版 63 遺物 土器 1
写真図版 64 遺物 土器 2
写真図版 65 遺物 土器 3
写真図版 66 遺物 土器 4
写真図版 67 遺物 土器 5
写真図版 68 遺物 土器 6
写真図版 69 遺物 土器 7
写真図版 70 遺物 土器 8
写真図版 71 遺物 土器 9
写真図版 72 遺物 土器 10
写真図版 73 遺物 土器 11
写真図版 74 遺物 土器 12
写真図版 75 遺物 土器 13
写真図版 76 遺物 土器 14
写真図版 77 遺物 土器 15
写真図版 78 遺物 土器 16
写真図版 79 遺物 土器 17
写真図版 80 遺物 土器 18
写真図版 81 遺物 土器 19
写真図版 82 遺物 土器 20
写真図版 83 遺物 土器 21
写真図版 84 遺物 土器 22
写真図版 85 遺物 土器 23
写真図版 86 遺物 土器 24
写真図版 87 遺物 土器 25
写真図版 88 遺物 土器 26
写真図版 89 遺物 土器 27
写真図版 90 遺物 土器 28
写真図版 91 遺物 土器 29
写真図版 92 遺物 石器 1
写真図版 93 遺物 石器 2・金属器・木製品

# 第１章　遺跡をとりまく環境

## 第１節　地理的環境（図版１・２）

池ノ下遺跡は兵庫県姫路市苫編、町坪、飾磨区高町に所在する。姫路市は兵庫県の中西部に位置しており、南は瀬戸内海に面し、南東は高砂市、東は加古川市、北東は加西市、北は神崎郡福崎町・市川町・神河町、北西は宍粟市、西はたつの市と揖保郡太子町に接している。

池ノ下遺跡は姫路市街の西端の籾取山（標高 200.3m）を主峰とする鬢櫛山から山崎山にかけて南北に連なる荒川山塊の南部の苫編山（標高 165.8m）南東麓に位置する。荒川山塊を東西に最短距離で結ぶ峠道は、道路事情が良くなった現在ではあまり使用されていないが、苫編峠や伯母ヶ谷峠がある。

荒川山塊は中生代白亜紀に位置づけられる相生層群伊勢塁層の流紋岩質多結晶溶結凝灰岩を主体として下部と中部には凝灰質の砂岩や頁岩などの堆積岩などが挟まれている。池ノ下遺跡をはじめとする平野部は新生代第四紀完新世の砂礫やシルトが堆積している。

荒川山塊の西側には夢前川が流れ、池ノ下遺跡の東側には今宿南の清水を水源とする大井川が南流し、水尾川に合流して播磨灘に注いでいる。現在の大井川は明暦年間（1655～1658）に夢前川を御立横関で現在の河道に付け替えるまでは置塩川と呼ばれていた。御立横関から蛤山や荒川山塊の東側を流れ水尾川とつながっていた。

池ノ下遺跡周辺の平野部は近年の大規模造成や溜め池、旧河道などを除いては、条里型地割が良好に残っており、池ノ下遺跡は標高 3.2m～6.5mであり、緩やかに北東から南西に傾斜している。縄文海進時の海岸線は現在の T.P.4m ～5m 付近に位置していたと考えられている。

池ノ下遺跡の名称の元になった「池ノ下」の小字は北側に位置する四ツ池（北から町坪池・玉手池・中池・苫編池）の下方に位置することから付けられた。

明治 22 年（1889）11 月には池ノ下遺跡の南東側を走る姫路から竜野間の山陽鉄道（明治 39 年に国有化され国鉄を経て現在 JR 山陽線）が開通した。池ノ下遺跡の南 西 800mには姫路駅と網干駅の中間駅として大正２年（1913）４月に英賀保駅が開業し、交通が便利になった。遺跡の南側を国道２号姫路バイパスが走り、東側約２㎞に中地ランプがあり、交通動脈の中心をなしている。

## 第２節　歴史的環境（図版２）

池ノ下遺跡は姫路市の南西部に所在する。池ノ下遺跡周辺には平安時代から中世の集落である豆田遺跡や大淨口遺跡や村東遺跡が存在しており、遺跡の密度が高い。

今回中心となる遺構と遺物は旧石器時代から中世までである。したがって、池ノ下遺跡周辺地域、特に夢前川下流域から船場川下流域の縄文時代から中世の遺跡を中心に時代ごとに概観する。

### １．旧石器・縄文時代

旧石器時代の遺跡は姫路市南部では調査が行われていない。ただし遊離した状態で、池ノ下遺跡から旧石器時代後期のナイフ形石器が出土し、豆田遺跡から角錐状石器が出土している。

縄文時代の池ノ下遺跡では、区画整理事業に伴う発掘調査で、流路から中期の土器や晩期の土器が出

土している他、石鏃や石匙などの石器が出土している。周辺では辻井遺跡・堂田遺跡・橋詰遺跡・大鳥遺跡・鹿谷道遺跡・出手遺跡などで調査が行われている。辻井遺跡では中期から晩期の土器が多量に出土し、中期の屈葬人骨や晩期の土器棺を検出している。橋詰遺跡では包含層から後期と晩期の土器が出土している。大鳥遺跡では晩期後半の溝や土坑などを調査している。他に石ヶ坪遺跡や鹿谷道遺跡などで後期の土器が、堂田遺跡・出手遺跡や小山遺跡などで晩期の土器が見つかっている。

## ２．弥生時代

弥生時代の池ノ下遺跡では、区画整理事業に伴う発掘調査で、前期の土坑や溝、中期の竪穴住居跡や溝、後期の溝などを調査している。周辺では、今宿遺跡・今宿丁田遺跡・名古山遺跡・辻井遺跡・岩端町遺跡・千代田遺跡・西延末遺跡・八反長遺跡・東川遺跡・笹山田遺跡などで調査が行なわれている。弥生時代中期から始まる遺跡には千代田遺跡・八反長遺跡・橋詰遺跡・権現遺跡などがある。石ツミ遺跡・今宿丁田遺跡・名古山遺跡・笹山田遺跡などで中期の竪穴住居跡を検出しており、遺跡数・遺跡規模ともに拡大している。岩端町遺跡では掘立柱建物跡を検出している。弥生時代後期では今宿遺跡・今宿丁田遺跡・西延末遺跡・笹山田遺跡・竹の前遺跡などで竪穴住居跡を検出している。笹山田遺跡では円形周溝墓を調査している。

東川遺跡で銅鐸の破片が出土しており、合わせて鋳型や鏡の粗型なども出土している。名古山遺跡と今宿丁田遺跡では袈裟襷文銅鐸の石製鋳型が出土しており、水尾川流域は播磨における青銅器生産の中心地であった。

## ３．古墳時代

池ノ下遺跡では区画整理事業に伴う発掘調査で、古墳時代初頭の掘立柱建物跡や流路、古墳時代中期から後期の流路や溝を調査しており、多量の遺物が出土している。北側に隣接する四ツ池遺跡では鳥形木製品が採集されている。古墳時代の集落遺跡には笹山田遺跡・長越遺跡・畑田遺跡・湯田遺跡などがあり、調査が行われている。

長越遺跡・畑田遺跡・湯田遺跡では古墳時代初頭の竪穴住居跡・井堰などを調査しており、船場川流域の中心的な集落遺跡である。遺物は他地域の広域的な土器が多量に出土している。笹山田遺跡では古墳時代初頭の竪穴住居跡・柵列・井戸、中期の竪穴住居跡・掘立柱建物跡、後期の竪穴住居跡・掘立柱建物跡を調査している。

八反長遺跡では古墳時代初頭の方形周溝墓を、畑田遺跡では円形周溝墓を検出している。周辺では前期古墳や中期古墳の調査は行われていない。出土場所は不明ながら、苫編地区の山塊から 2 面の鏡の出土が伝えられている。一例は現在フランスのギメ国立博物館所蔵品となっている変形四神四獣鏡、もう一例は現品不明であるが内行花文鏡である。後期の古墳は、山崎山群集墳（7 基）・手柄山北丘群集墳（12 基）・山所群集墳（8 基）など丘陵上や丘陵斜面に横穴式石室を主体部とする群集墳が存在している。手柄山北丘群集墳では発掘調査が行われている。周辺には規模の大きい横穴式石室を主体部とする古墳は存在していない。

## ４．古代

奈良時代において、この地域は播磨国餝磨郡に含まれていた。７世紀後半の藤原宮出土の木簡に「志

加麻評」とあり、シカマの初見である。『播磨国風土記』には餝磨郡は 16 里が記されており、池ノ下遺跡周辺は東部の町坪が伊和里、西部の苫編が英賀里に比定されている。平安時代の『和名類聚抄』には餝磨郡は 14 郷が記載されており、東部の町坪が伊和郷、西部の苫編が英賀郷に比定されている。

播磨国府・播磨国分寺・播磨国分尼寺はいずれも餝磨郡に所在している。播磨国府は本町遺跡に推定されており、豆腐町遺跡からは「郡」・「郷」の墨書土器や漆工房関連遺物などが出土しており、播磨国府の関連遺跡と考えられている。播磨国分寺・播磨国分尼寺は市川左岸に位置する。

『延喜式』兵部省諸国駅伝馬条によると播磨国に 9 駅が記載されている。池ノ下遺跡の北側約 2.5km には古代山陽道が東西方向に推定されており、周辺に駅馬 30 疋の草上駅が置かれていた。『延喜式』神名帳に記載のあるいわゆる式内社は餝磨郡に 4 座あり、射楯平主神社ニ座・白国神社・高岡神社がある。

餝磨郡には古代寺院が多く、池ノ下遺跡の上流域には今宿廃寺や辻井廃寺があるほか、郡内には市之郷廃寺や見野廃寺などがある。池ノ下遺跡の西側の夢前川沿いの山所遺跡からは瓦や塼が出土している。『播磨国風土記』の餝磨御宅は三宅遺跡に比定されており、発掘調査によって播磨国府系瓦を含む白鳳から奈良時代にかけての瓦が大量に出土したことから、寺院跡の存在が指摘されている。

池ノ下遺跡の周辺の条里型地割は宅地化などの開発で失われた地区も多いが、広い範囲に古代山陽道を基準とした北から東に約23°振る餝磨郡条里の地割が残る。池ノ下遺跡では区画整理事業に伴う発掘調査で、掘立柱建物跡を調査しており、唐三彩の弁口瓶や円面硯や石帯などの遺物が出土している。四ツ池遺跡からは工事中に鳥形木製品が出土したと伝わっている。

集落遺跡ではほかに今宿遺跡・今宿丁田遺跡などで調査が行われている。辻井遺跡からは掘立柱建物跡や井戸を検出しており、墨書土器や木簡が出土している。今宿丁田遺跡では掘立柱建物跡を検出している。

古代における須恵器生産をはじめとする窯業遺跡は餝磨郡西部から揖保郡東部にかけて群集しており、青山窯跡群・桜峠窯跡群・打越窯跡群・大池窯跡群・赤坂窯跡群・峰相口窯跡群などがある。

## ５．中世

中世の姫路については、不明な点が多い。古代の国府は律令制の衰退とともに、次第にその機能を失い、院政期には事実上、播磨国府は院の御分国と化してしまう。鎌倉時代に入ると、守護所が加古川に置かれたことから、国衙の機能はいっそう衰退したと考えられる。国衙機構が完全に衰退するのは、小河氏が守護赤松氏の被官化し、守護所となった書写坂本城の守護代館に移り住むようになる明徳年間以後と考えられる。以後、姫路が播磨の中心として再び歴史上に登場するのは、黒田氏による姫路城の築城期、さらには羽柴秀吉による初期城下町の形成期である。

池ノ下遺跡では区画整理事業に伴う発掘調査で、鎌倉時代の掘立柱建物跡や木棺墓を調査しており、密度が濃い。東部の町坪が伊和西郷、西部の苫編が英賀保に比定されている。

中世の集落には村東遺跡・豆田遺跡・大浄口遺跡・今宿遺跡・大石橋遺跡・鹿谷道遺跡・出手遺跡・横枕遺跡・岩端町遺跡・笹山田遺跡・加茂遺跡・南通り遺跡などの発掘調査が行われている。

村東遺跡や豆田遺跡や笹山田遺跡では平安時代後期～鎌倉時代の掘立柱建物跡・井戸・土坑墓を検出しており、池ノ下遺跡と同様に広域に集落が広がっている。豆田遺跡の井戸からは応永年間(1394～1428)の墨書がある大般若経や仁王般若経の転読札がまとまって出土しており、在地領主や武士などの富裕層の存在が考えられる。笹山田遺跡では平安時代後期から鎌倉時代の掘立柱建物跡・井戸・土坑墓を検出

している。加茂遺跡では鎌倉時代の掘立柱建物跡、室町時代から安土桃山時代にかけての堀・土塁・掘立柱建物跡・井戸・池などを調査しており、城館跡と推定されている。

## ６．近世

池ノ下遺跡周辺は姫路藩領であり、江戸時代初期の元禄時代以降には町坪村、苫編村と呼ばれており、幕末に至っている。村の中央には姫路城下と室津を東西に結ぶ室津道が走っている。

四ツ池のうち、南端の苫編池は寛永 15 年（1638）の拡張工事により現在の形に整備された。

近代交通発展以前の集落は、近世の景観を保っていたと考えられ、苫編に鎮座する苫道国主神社の創建については不明な点が多いが、宝暦４年（1707）に社殿が改築されている。木村興宗寺は火災に遭った本堂を宝暦 10 年（1707）に再建している。

## ７．近代

池ノ下遺跡が存在する姫路市町坪と苫編は、明治４年（1871）の廃藩置県により、姫路藩が７月から姫路県となり、11 月に飾磨県と改称し、明治９年８月に兵庫県となった。明治 22 年（1889）の市制町村制施行により飾西郡荒川村に属し、明治 29 年（1896）４月には郡制がひかれ飾磨郡に所属した。大正 12 年（1923）３月には郡制が廃止された。昭和 11 年（1936）４月に姫路市に合併し、姫路市の大字となって現在に至っている。姫路市は平成８年に中核都市となり、播磨の中心となっている。

# 第２章　調査の契機と経過

## 第１節　調査にいたる経緯（図版３）

英賀保駅周辺遺跡第４地点は、姫路市英賀保駅周辺土地区画整理事業に伴い、姫路市教育委員会が平成12 年度から平成 14 年度にかけて試掘を行い、新たに存在が明らかになった遺跡である。

仮称英賀保駅周辺遺跡第４地点（遺跡番号020578）として埋蔵文化財包蔵地として登録され、後に池ノ下遺跡と改名された。

調査の発端となった姫路市英賀保駅周辺土地区画整理事業に伴い実施した本発掘調査は、平成 17 年度・平成 18 年度・平成 19 年度、５期に分かれて実施した。調査面積は 25,276㎡である。これら区画整備事業に伴う調査成果及び経緯、今回の調査に隣接した地点の調査成果については、2012 年３月刊行の兵庫県教育委員会『池ノ下遺跡』文化財調査報告第 435 冊にまとめられており、参照されたい。

本事業の国土交通省による国道２号姫路バイパスの側道拡幅工事は、英賀保駅周辺土地区画整理事業地内にかかっており、仮称英賀保駅周辺遺跡第４地点内に含まれていたため、工事に先立ち、本発掘調査が必要であると判断された。

以上の事由から、国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所長の依頼（国近整姫工第64号平成19年９月25日付）を受けて、事業予定地の一部について平成19年12月７日から２月18日にかけて試掘調査の成果に基づき本発掘調査を実施した。

調査は一般国道２号姫路バイパス北側側道の北側に位置する事業用部分について実施した。

平成19年時点では事業地内には区画整理との換地が済んでいない宅地や市道や里道・水路などの調査不可能な部分が含まれていた。このため、調査可能な部分合計４か所に調査区を設定した。西から東に向かって当初１区・２区・３区・４区とした。３区と４区の間には区画整理で調査を実施した67区がある。

今回、報告に当たり、区画整理事業での調査成果と整合性をとるため、平成19年度の調査区を東から４区を70区、３区を71区とし、２区を73区、１区を76区とした。また、平成29年度の調査区を72区・77区、平成30年度の調査区を74区・75区とした。

## 第２節　確認調査（図版３）

国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所長の依頼（国近整姫二工第 67 号平成 30 年１月９日付）を受けて　70 区より東側に３か所のグリッドを設定し確認調査を実施した。

**遺跡調査番号**　2017054

**所在地**　姫路市苫編

**調査主体**　兵庫県教育委員会

**調査担当者**　兵庫県立考古博物館　総務部　埋蔵文化財課　中川　渉

**調査期間**　平成 30 年１月 16 日

**調査面積**　10 ㎡

**概　　要**　３か所のグリッド全てで、埋蔵文化財は認められず。

# 第３節　本発掘調査の経過

姫路市教育委員会の試掘調査の結果および英賀保駅周辺土地区画整理事業における発掘調査成果を踏まえ、本発掘調査を平成 19 年度・平成 29 年度・平成 30 年度に実施した。

当該地点は、事前に事業者が耕土を除去しており、平成 29 年度・平成 30 年度の調査区では併せて工事用道路の設置を行っていた。発掘調査は調査区の設定後、盛土および後世撹乱層の掘削を機械によって行った。遺物包含層の掘削・遺構の検出・遺構の精査については人力によって行った。遺構の測量は、全体を空中写真測量で実施し、調査の進展に会わせて撮影・測量を行った。詳細な遺構の平面図・遺物出土状況図や断面図などと写真撮影については調査担当職員および調査補助員が行った。

## １．平成 19 年度の発掘調査（図版３）

一般国道２号姫路バイパス北側側道の北側に位置する事業用地部分について実施した。事業用地内には英賀保駅周辺土地区画整理事業の換地が済んでいない宅地や市道や里道・水路等の調査不可能な部分が含まれていた。このため今年度は宅地ではない調査可能な部分について事業者からの発掘調査依頼に基づき合計４箇所の調査区において本発掘調査を実施した。

調査区は西から東に向けて１区（76 区）・２区（73 区）・３区(71 区)・４区（70 区）と呼称し、調査を進めた。空中写真測量は、１回の撮影・測量を行った。

調査途中の平成 20 年１月 8 日に地元苫編子供会を対象に現場見学および出土品の見学会を実施し、50 人が参加した。また、調査の進展にあわせて、１月28日に報道機関に公表し、平成20年２月２日に現地説明会を実施し、130人が参加した。

**遺跡調査番号**　2007107

**調査担当者**　兵庫県立考古博物館　埋蔵文化財調査部　調査第２課　篠宮　正・鐵　英記

**調査期間**　平成 19 年 12 月 7 日～平成 20 年２月 18 日

**調査面積**　1,347㎡

**工事請負**　家島建設（株）

## ２．平成 29 年度の発掘調査（図版３）

一般国道２号姫路バイパス改築事業では平成 19 年度に対象地の一部について、英賀保遺跡第４地点として本発掘調査を実施している（遺跡調査番号：2007107）。平成 29 年度に周辺の状況が整ったことにより、国土交通省　近畿地方整備局　姫路河川国道事務所からの調査依頼（平成 29 年９月 27 日付　国近整姫二工第 42 号）を受け、平成 19 年度調査地点（2007107）に隣接するＡ区（77 区）とＢ区（72 区）を、池ノ下遺跡として本発掘調査を実施することとした。

**遺跡調査番号**　2017078

**調査担当者**　（公財）兵庫県まちづくり技術センター　埋蔵文化財調査部
調査課　西口圭介・西山昌孝

**調査機関**　平成 30 年１月 11 日～平成 30 年３月９日

**調査面積**　280 ㎡（72 区　90 ㎡・77 区　190 ㎡）

**工事請負**　平和建設（株）

## ３．平成 30 年度の発掘調査（図版３）

平成 30 年度（2018 年度）の調査地点は、2017 年度のＡ・Ｂ両地区の間に設定した。平成 19 年度の調査地点２区の西側に設定したＣ－１区（74 区）と平成 19 年度調査地点１区の東側に位置するＣ－２区（75 区）の２地区である。国土交通省　近畿地方整備局　姫路河川国道事務所からの調査依頼（平成 30 年３月８日付　国近整姫二工第 80 号）を受け、本発掘調査を実施した。

**遺跡調査番号**　2018013

**調査担当者**　（公財）兵庫県まちづくり技術センター　埋蔵文化財調査部
調査第１課　西口圭介・乗本愛実

**調査期間**　平成 30 年６月 29 日～平成 30 年９月６日

**調査面積**　248 ㎡（74 区　139 ㎡・75 区　109 ㎡）

**工事請負**　栄伸工業（株）

## ４．発掘調査の組織

### （１）平成19年度

調査主体　兵庫県教育委員会

調査事務　兵庫県立考古博物館
館長　石野博信
副館長（総務部長兼務）　松下信一　総務課　課長　若狭健利
埋蔵文化財調査部長　若生晃彦　主幹　岡崎正雄
調査第２班　調査専門員　山本三郎
総務部　埋蔵文化財課　主査　中川　渉（確認調査）

調査担当　調査第２班　主査　篠宮　正　主査　鐵　英記
調査補助員　小谷義男　清水洋子　森崎由起子　山本　啓

### （２）平成29年度

調査主体　兵庫県教育委員会

調査事務　公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター
企画調整課　課長　中川　渉　主任　垣内拓郎
調査課　主任技術専門員　村上泰樹

調査担当　調査第２班　副課長　西口圭介　臨時的専門職員　西山昌孝

### （３）平成30年度

調査主体　兵庫県教育委員会

調査事務　公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター
企画調整課　課長　中川　渉　技術職員　渡瀬健太
調査第１課　主任技術専門員　村上泰樹

調査担当　調査第１課　副課長　西口圭介　臨時的専門職員　乗本愛実

# 第４節　出土品整理作業の経過

現地において遺物洗浄の一部を行ったほかは、すべての現地調査終了後、令和元年度に兵庫県立考古博物館魚住分館において遺物洗浄・ネーミング作業、令和３年度に木製品の保存処理作業を行い、その他の作業については、令和元年度から遺物の接合から報告書の刊行までの一連の作業を兵庫県立考古博物館において実施した。これらの作業は、何れも（公財）兵庫県まちづくり技術センターが実施した。

## １．出土品整理の概要

令和元年度は、出土遺物の洗浄・ネーミング・接合・補強を行い、実測及び金属器の保存処理を行った。

令和２年度は、遺物の復元、遺物写真撮影、遺構図補正作業を行った。

令和３年度は、遺物の復元、遺物写真撮影、遺構・遺物図のトレース作業・木器の保存処理を行った。

令和４年度は、遺構図のトレース作業及び昨年度にトレースをした遺物図・構図と写真のレイアウトを行った。原稿執筆・編集を行った後、報告書を刊行した。

## ２．出土品整理の組織

**令和元年度**

整理担当調査員　篠宮　正　西口圭介　鐵　英記　西山昌孝

整理保存課　多賀茂治　村上泰樹　深江英憲　大本朋弥　大嶋昭海

担当整理技術員　（水洗・ネーミング）栗山美奈・藤尾裕子・藤田久範

（接合・補強）　荻野舞衣・小野潤子・石原早苗・岡﨑眞子・小林礼子
菅生真理子・森松沙耶香

（実　測）　柏原美音・古谷章子・佐伯純子・尾鷲都美子

（金属保存）大前篤子・桂　昭子・大本昌子・香山玲子

**令和２年度**

整理担当調査員　篠宮　正　西口圭介　鐵　英記　西山昌孝

整理保存課　深江英憲　西口圭介　大本朋弥　大嶋昭海　藤原怜史

担当整理技術員　（復　元）　荻野舞衣・小野潤子・石原早苗・岡﨑眞子・梶原奈津子・小林礼子
菅生真理子・森松沙耶香

（遺物写真・図補正）柏原美音・古谷章子・佐伯純子・尾鷲都美子・寺西梨紗
西本奈生

**令和３年度**

整理担当調査員　篠宮　正　西口圭介　鐵　英記　西山昌孝

整理保存課　深江英憲　久保弘幸　西口圭介　大嶋昭海　野田優人

担当整理技術員　（木器保存）栗山美奈・藤尾裕子・藤田久則

（復　　元）荻野舞衣・小野潤子・石原早苗・岡﨑眞子・梶原奈津子・小林礼子
菅生真理子・富永愛子・森松沙耶香

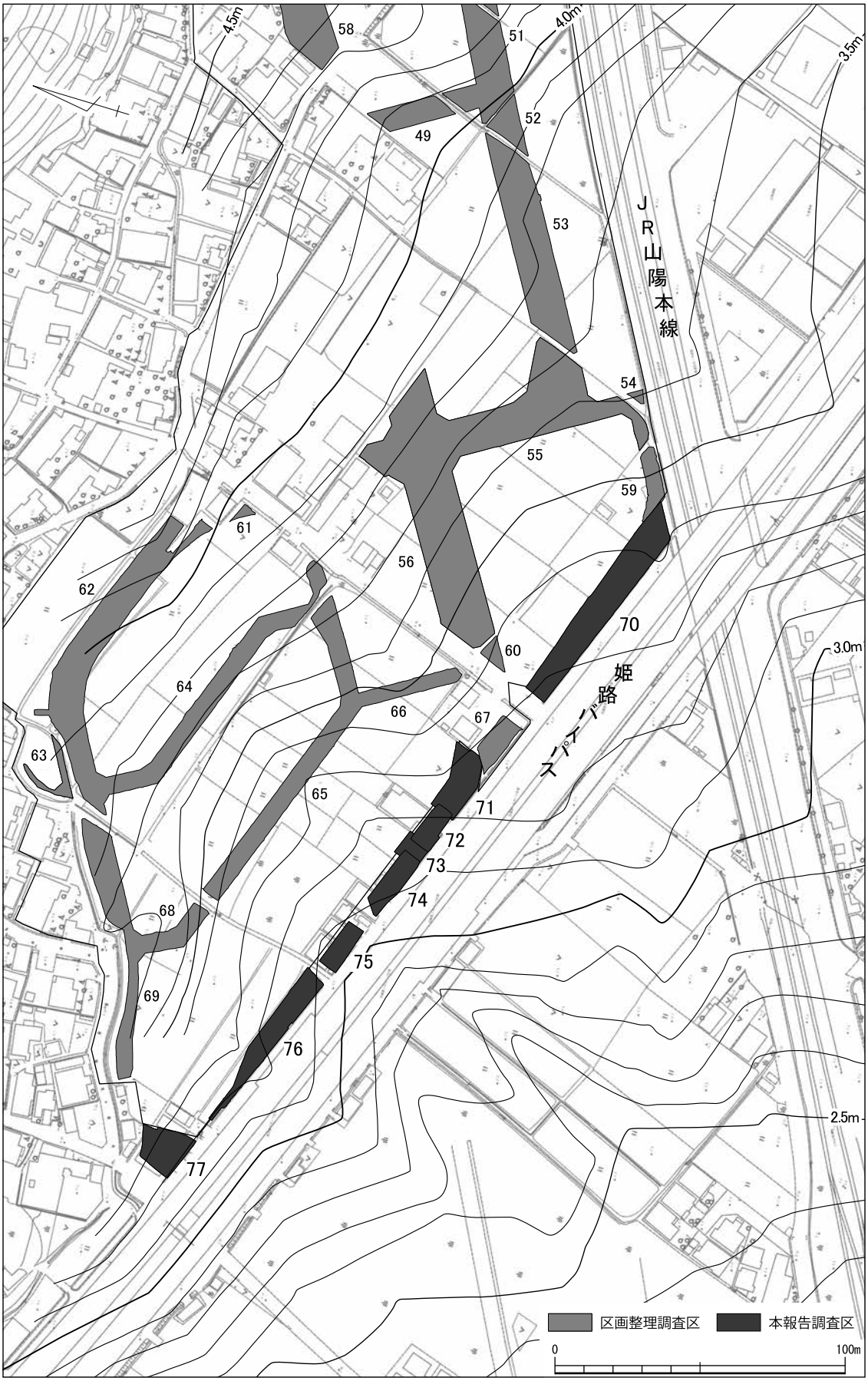
（遺物写真・製図）柏原美音・古谷章子・尾鷲都美子・寺西梨紗・佐々木誓子
西本奈生

**令和４年度**

整理担当調査員　西口圭介　鐵　英記　西山昌孝

整理保存課　深江英憲　西口圭介　大嶋昭海　野田優人

担当整理技術員　（レイアウト　報告書編集作業）柏原美音・古谷章子・尾鷲都美子・宮田麻子
寺西梨紗・西本奈生　（順不同）




第1図　池ノ下遺跡周辺の微地形復原（2,000 分の 1）

# 第３章　発掘調査の成果－遺構－

## 第１節　発掘調査の概要

### １．池ノ下遺跡の調査（図版３・４）

平成 19 年度までの中播都市計画事業英賀保駅周辺土地区画整理事業に伴う調査は以下の通りである。

試掘調査は姫路市教育委員会が平成 14 年度に実施した。

兵庫県教育委員会が実施した本発掘調査は平成 17 年度～平成 19 年度にかけて５次にわたる。

平成 17 年度の本発掘調査は２回に分けて実施した。平成 17 年度の第１次調査（遺跡調査番号 2005157）は町坪地区から苫編地区東半部にかけての 22 区～39 区である。平成 17 年度の第２次調査（遺跡調査番号 2005194）は町坪地区から苫編地区東半部にかけての 40 区～44 区である。

平成 18 年度の本発掘調査は２回に分けて実施した。平成 18 年度の第１次調査（遺跡調査番号 2006055）は町坪地区の４区～18 区である。平成 18 年度の第２次調査（遺跡調査番号 2006093）は苫編地区東半部の 45 区～56 区である。

平成 19 年度の本発掘調査（遺跡調査番号 2007057）は、昨年まで調査を実施し残った地点であるため広域に多数の地点が存在する。町坪地区の１区～３区 19 区～21 区、苫編地区東半部の 57 区・58 区、苫編地区西半部の 59 区～69 区の大きく４地区に分かれる。

一般国道２号姫路バイパス改築事業に伴う調査は、国道２号姫路バイパスの北側で土地区画整理事業地に面した箇所で実施した。東端はＪＲ山陽線、西端に市道が存在している。東西方向の延長は約 290ｍ、幅は最大 20ｍを測る。この間、道路や水路、住宅進入路確保等の状況により８分割して実施した。

平成 19 年度に対象地の一部について、英賀保遺跡第４地点として 70 区・71 区・73 区・76 区の本発掘調査を実施している（遺跡調査番号2007107）。

平成 29 年度（2017 年）、周辺の状況が整ったことにより、平成 19 年度調査地点（2007107）に隣接する 72 区・77 区の２地点について、遺跡名を池ノ下遺跡と変更して本発掘調査を実施した。

平成 30 年度（2018 年）の調査地点は、2017 年度の 72 区・77 区の間に設定した。平成 19 年度の調査地点 72 区の西側に設定した 74 区と平成 19 年度調査地点 76 区の東側に位置する 75 区の２地区で本発掘調査を実施し、バイパス改築事業に伴う調査を終了した。

### ２．調査区の呼称と遺構名の表記（図版３）

池ノ下遺跡の本発掘調査対象地は東西 900ｍ、南北 260ｍと広大で、調査も複数年次に亘って実施した。調査の順番も工事を優先に実施したため、まとまりが無い。このため、区画整理事業に伴う池ノ下遺跡発掘調査報告書『池ノ下遺跡』兵庫県文化財調査報告書第 435 冊の作成にあたり、地区のまとまりと調査単位とを重視して、新たに調査地区と調査区の名称を付け替えた。今回の調査区についても、その調査区名を踏襲する。原則的には北東から南西に向かって順番に付与した。なお、遺構の呼称も各遺構の種類ごとに遺構名称を付け替えた。

即ち、地区名は 70 区から 77 区まで存在する。

遺構名は、前回の遺構№から引き続きの№を付与する。

遺物№についても、『池ノ下遺跡』からの連続番号とする。

# 第２節　70 区の調査（図版６～16　写真図版２～14）

## １．概要と層序

70 区は調査対象地の最東部に位置する。東端にＪＲ山陽線、南側に国道２号姫路バイパスの側道が位置している。北東端は区画整理調査の 59 区が接している。西側には市道を挟んで区画整理調査の 67 区が存在している。東西方向に長い調査区であり、耕作土および床土直下で遺構を検出している。南西方向に行くにしたがって、土壌層の堆積が深くなっている。

## ２．遺構

### 溝

**ＳＤ３０１**（図版８・写真図版 12）

**検出状況**　調査区中央部に位置し、北側および南側は調査区外に延びる。

**形状規模**　やや蛇行する溝で、一部途切れる。規模は幅 34cm 前後、深さ３㎝、断面形はＵ字状を呈する。

**出土遺物**　遺物は出土していない。

**ＳＤ３０２**（図版８　写真図版３・４）

**検出状況**　調査区の中央部、SD301 の南端の西側に位置し、南側は調査区外に延びる。

**形状規模**　溝 SD301 に並行する溝である。規模は幅 70 ㎝前後、深さ５㎝、延長２ｍ以上を測り、断面形は浅いＵ字状を呈する。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**ＳＤ３０３**（図版８　写真図版 12）

**検出状況**　溝 SD301 の西側に位置する。北側および南側は調査区外に延びる。
溝 SD304 が合流し、土坑 SK050、掘立柱建物跡 SB303 の柱穴 P04 と重複し、P04 が新しい。

**形状規模**　直線的で溝肩部は凹凸がある。ほぼ中央部の溝 SD304 との合流地点に杭を３本打ち込んだ SW301 がある。溝の規模は幅 2.1ｍ前後、深さ 65cm を測り、断面形は浅いＵ字状を呈する。位置関係と断面形状、埋土から 55 区の中央部の溝 SD169 と同一であると考えられる。

**出土遺物**　弥生土器（2001）が出土した。

**ＳＤ３０４**（図版８　写真図版 12）

**検出状況**　溝 SD301 と SD303 の間に位置し、溝 SD303 に合流する。

**形状規模**　溝 SD301 にほぼ並行し、途中から湾曲し、溝 SD303 に取りつく。規模は幅 52cm、深さ 15cm、延長 10m 以上を測り、断面形はＵ字状を呈する。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**ＳＤ３０５**（図版７　写真図版４）

**検出状況**　溝 SD303 の西側に位置する。北側および南側は調査区外に延びる。

**形状規模**　やや蛇行する溝である。規模は幅 50cm 前後、深さ５㎝、延長 8.5ｍ以上を測り、断面形は浅いＵ字状を呈する。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**ＳＤ３０６**（図版８　写真図版 12）

**検出状況**　調査区の西端に位置する。

**形状規模**　調査区の長軸に直交する直線的な溝である。規模は幅 80 ㎝前後、深さ 34㎝、延長 7.6ｍ以上を測り、断面形はＵ字状を呈する。位置関係と断面形状、埋土から 55 区の中央部の溝 SD170 と同一と考えられる。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**ＳＤ３０７**（図版７　写真図版 12）

**検出状況**　調査区の北東隅に位置し、南肩のみ検出した。

**形状規模**　ほとんど調査区外にあるため、規模は不明である。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**ＳＤ３０８**（図版８　写真図版 12）

**検出状況**　調査区東半部に位置し、柱列 SA301 の北辺の東側に存在する。土坑 SK303 と重複し新しく、溝 SD312 と重複し、古い。

**形状規模**　調査区の長軸にやや斜交する直線的な溝で、方位は N34°Ｅである。規模は幅 44cm、深さ 16cm、延長 10.6ｍを測り、断面形は浅いＵ字状を呈する。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**ＳＤ３０９**（図版８　写真図版４）

**検出状況**　調査区西半部に位置し、掘立柱建物跡 SB304 の南側に存在する。南側は調査区外に延びる。

**形状規模**　調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位は N48.5°Ｅである。規模は幅 35cm、深さ４㎝、延長 1.2ｍ以上を測り、断面形は浅いＵ字状を呈する。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**ＳＤ３１０**（図版８　写真図版 12）

**検出状況**　調査区西半部に位置する。溝 SD309 と並行し、掘立柱建物跡 SB304 の柱穴 P06・P10 と重複し、両柱穴が新しい。両端とも調査区外に延びている。

**形状規模**　調査区の長軸に斜交する直線的な溝で、方位は N55°Ｅである。規模は幅 36cm、深さ 20cm、延長 1.2ｍ以上を測り、断面形は浅いＵ字状を呈する。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**ＳＤ３１１**（図版８　写真図版 13）

**検出状況**　調査区東半部の溝 SD303 の西側に位置する。北側は調査区外に延びる。

**形状規模**　北は調査区の長軸に直交する直線的な溝で、途中から屈折する。直線部分の方位は N22°Ｅである。規模は幅 60cm、深さ６㎝を測り、断面形は浅いＵ字状を呈する。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**ＳＤ３１２**（図版８　写真図版 13）

**検出状況**　調査区南東部に位置する。東側は調査区外に延びる。掘立柱建物跡 SB301 の柱穴 P06、溝 SD308 と重複し、新しい。埋土の状況から溝 SD314 とは同時存在していたと考えられる。

**形状規模**　調査区の長軸に並行する直線的な溝で、方位は N70°Ｗである。規模は幅 53～120cm、深さ６～10cm、延長 14ｍ以上を測り、断面形は浅いＵ字状を呈する。

**出土遺物**　須恵器椀（2126・2127）が出土した。

**ＳＤ３１３**（図版７　写真図版５）

**検出状況**　調査区南東隅に位置し、溝 SD312 の南側に並行する。西側は埋土の状況から溝 SD315 につながり、東側は溝 SD316 と重複し、古い。

**形状規模**　調査区の長軸に並行する直線的な溝で、方位は N75°W である。規模は幅 20～40 ㎝、深さ４㎝、延長 1.1ｍ以上を測り、断面形は浅いＵ字状を呈する。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**ＳＤ３１４**（図版７　写真図版５）

**検出状況**　調査区南東隅に位置する。溝 SD312 と SD313・SD315 との間にあり、両溝をつなぐもので、同時存在していたと考えられる。

**形状規模**　直線的な溝で、方位は N27°E である。規模は幅１ｍ前後、深さ３㎝、延長３ｍを測り、断面形は浅いＵ字状を呈する。

**出土遺物**　土師器小皿（2129）が出土した。

**ＳＤ３１５**（図版８　写真図版 13）

**検出状況**　調査区南東隅に位置する。溝 SD314 の南西側に位置し溝 SD313 と同一の可能性があり、溝 SD314 と同時存在していた可能性がある。西側は調査区外に延びている。

**形状規模**　直線的な溝で、方位は N83°W である。規模は幅 70 ㎝以上、深さ 45㎝、延長４ｍ以上を測り、断面形は浅いＵ字状を呈する。

**出土遺物**　土師器小皿（2113～2115）・土師器皿（2116～2118）・土師器鍋脚（2120）・土錘（2119）・瓦器椀（2121）・須恵器椀（2123・2124）・白磁碗（2125）が出土した。

**ＳＤ３１６**（図版７　写真図版５）

**検出状況**　調査区南東隅に位置する。溝 SD312・SD313 と重複し、新しい。南側は調査区外に延びている。

**形状規模**　直線的な溝で、方位は N17°E である。規模は幅 20 ㎝以上、深さ４㎝、延長 1.9ｍ以上を測り、断面形は浅いＵ字状を呈する。

**出土遺物**　土師器小皿（2128）が出土した。

## 掘立柱建物跡

**ＳＢ３０１**（図版９　写真図版５）

**検出状況**　調査区東端に位置し、東方向と南方向は調査区外に延びる可能性がある。溝SD312に柱穴P06が切られている。

**形状規模**　南北軸を N29°E、東西軸を N67°W にとる菱形に歪んだ総柱建物である。南北３間（7.8ｍ）以上×東西２間（5.0ｍ）以上の規模である。建物の柱間は、南北１間 2.6ｍ・2.5ｍ・2.8ｍ、東西１間 2.4ｍ・2.4ｍである。

**柱　　穴**　柱穴は円形で、掘形径 20㎝～30㎝、柱痕は径約 15㎝、深さは 15㎝～22㎝である。P05 から石が出土した。

**出土遺物**　遺物は P03 から土師器小皿（2101）が出土し、P05 から石が出土した。

**ＳＢ３０２**（図版９　写真図版５）

**検出状況**　調査区東端に位置し、一部重複して北側の区画整理調査の 59 区に広がり、さらに調査区外まで広がる可能性がある。SB301 と重複しているが、先後関係は明らかではない。

**形状規模**　南北軸を N21°E にとる総柱建物である。区画整理調査の 59 区と合わせて、南北２間（6.3ｍ）

以上×東西２間（5.3m）以上の規模である。建物の柱間は、南北１間2.5m、東西１間2.6m、2.7mである。

**柱　　穴**　柱穴は円形で、掘形径15cm～20cm、深さは約20cmである。

**出土遺物**　図化できる遺物は出土していない。

**ＳＢ３０３**（図版10　写真図版６）

**検出状況**　調査区中央部に位置し、北側は調査区外に延びている。下層の溝SD303と重複し、P04は新しい。

**形状規模**　南北軸をN16.5°Ｅにとる総柱建物である。南北１間（3.6m）以上×東西２間（4.3m）の規模である。建物の柱間は、南北１間2.3m、東西１間2.1mである。

**柱　　穴**　柱穴は円形で、掘形径20cm～30cm、柱痕は径約15cm、深さは約20cmである。

**出土遺物**　図化できる遺物は出土していない。

**ＳＢ３０４**（図版11　写真図版７・８）

**検出状況**　調査区西半部に位置する。掘立柱建物跡SB03の西側にあり、北辺の一部は調査区外に延びている。溝SD310と重複し、P08・P10が切っており、新しい。

**形状規模**　南北軸をN23°Ｅにとる東西棟の総柱建物である。南北３間（6.1m）×東西４間（8.8m）の規模である。建物の柱間は、南北１間2.1m・2.0m、東西１間2.1m～2.3mである。

**柱　　穴**　柱穴は円形で、掘形径20cm～30cm、柱痕は径約15cm、深さは約20cmである。P17からは石が出土している。

**出土遺物**　遺物はP04・P13・P14・P16の柱穴から土器が出土している。P05からは柱材が、P06からは礎板が出土している。

**ＳＢ３０５**（図版12・13　写真図版９・10）

**検出状況**　調査区西半部に位置し、北側は調査区外に延びる。掘立柱建物跡SB304の西側に方位をそろえており、南辺には柱列SA304が存在する。

**形状規模**　南北軸をN16°Ｅにとる南北棟の側柱建物である。南北３間(6.0m)以上×東西２間(3.4m)の規模である。建物の柱間は、南北１間2.1m・2.1m・1.8m、東西１間1.9m・1.5mである。

**柱　　穴**　柱穴は円形で、掘形径20cm～30cm、柱痕は径約15cm、深さは約30cm～55cmである。P01・P02・P03・P04・P05・P07の下部から石が出土した。

**出土遺物**　遺物はP03・P07以外の柱穴から土器が出土している。P02から羽口（2104)、P09から須恵器椀（2103)・椀形滓（M213・M214）が出土したほか、P04からは柱の一部と考えられる木片が出土した。

## 柵　列

**ＳＡ３０１**（図版14）

**検出状況**　調査区東部に位置し、SD308の西側に位置する。調査区外に延びる可能性もある。

**形状規模**　南北軸の方位をN17.5°Ｅにとる柱列である。規模は南北２間（3.5m）以上である。柱間は1.8mと1.7mである。

**柱　　穴**　柱穴は円形で、掘形径15cm～20cm、深さは7cm～15cmである。

**出土遺物**　　図化できる遺物は出土していない。

**ＳＡ３０２**（図版14）

**検出状況**　調査区中央部の南端に位置し、調査区外に延びるため掘立柱建物跡の可能性もある。

**形状規模**　東西軸の方位を N77°Ｗにとる柱列である。規模は東西３間（6.1m）以上である。柱間は 2.1m・2.1m・1.5m と不揃いである。

**柱　　穴**　柱穴は円形で、掘形径 15cm～30cm、深さは 15cm～38cm である。

**出土遺物**　柱穴 P04 からは木と石が出土した。

**ＳＡ３０３**（図版 14　写真図版６・７）

**検出状況**　調査区中央部に位置し、掘立柱建物跡 SB303 の南辺の柱穴と近接並行している。

**形状規模**　東西軸の方位を N73°Ｗにとる柱列で、規模は東西２間（4.5m）の規模である。柱間は 2.0m と 2.5m と不揃いである。

**柱　　穴**　柱穴は円形で、掘形径 15cm～20cm、深さは 20cm～40cm である。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**ＳＡ３０４**（図版 15　写真図版 11）

**検出状況**　調査区西半部に位置し、掘立柱建物跡 SB304・SB305 の南辺の柱穴と近接並行している。

**形状規模**　南北軸の方位を N75°Ｗにとる柱列である。規模は東西４間（7.3m）であり、西側柱間は 2.0m、東側柱間は 1.9m である。

**柱　　穴**　柱穴は円形で、掘形径 15cm～20cm、深さは P03 が特に深く 45cm で、他は７cm～25cm である。

**出土遺物**　遺物は P02・P03 から土器が出土している他、柱穴 P03 からは椀形滓（M212）が出土した。

**ＳＡ３０５**（図版 15）

**検出状況**　調査区西半部に位置し、掘立柱建物跡 SB304・SB305 と重複している。

**形状規模**　南北軸の方位を N66°Ｗにとる柱列である。規模は東西４間（13.1m）であるが、ほぼ等間隔に並ぶ P3 と P4 の間では柱穴を検出できなかった。柱間は 3.0m と 2.6m・2.3m と不揃いである。

**柱　　穴**　柱穴は円形で、掘形径 20cm～25cm、深さは 2cm である。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**ＳＡ３０６**（図版 15）

**検出状況**　調査区西端に位置するため、調査区外に広がる掘立柱建物跡の可能性もある。

**形状規模**　南北軸の方位を N17°Ｅにとる柱列である。規模は南北３間（3.35m）で、柱間は 1.7m と 1.6m と不揃いである。

**柱　　穴**　柱穴は円形で、掘形径 15cm～20cm、深さは 20cm～40cm 程度である。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

### その他の柱穴（図版 7）

**概　要**　上記、掘立柱建物跡、柱列に伴わない柱穴で遺物が出土しているものについて述べる。

**Ｐ７００１**　調査区南東部に位置し、溝 SD312・SD314・SD313・SD316 に囲まれて位置する。柱穴は円形で、掘形径 26cm、深さは 30cm である。土師器小皿（2107）が出土した。

**Ｐ７００２**　調査区中央部に位置し、柱列 SA302 の西側に位置する。柱穴は円形で、掘形径 14cm、深さは 27cm である。土師器小皿（2105）が出土した。

**Ｐ７００３・Ｐ７００４**　調査区西半部、掘立柱建物跡 SB304 の南東隅の柱間の間に位置する。共に柱穴は不整な円形で、P7003 は掘形径 20.5cm、深さは 3cm である。P7004 は掘形径 28cm・深さは 24 cmである。柱根部分からは石が出土した。

**Ｐ７００５**　調査区中央部に位置し、溝 SD302 と SD303 の間に位置する。柱穴は円形で、掘形径 17cm、

深さは18cmである。須恵器椀（2108）が出土した。

## 土杭

**ＳＫ３０１**（図版16　写真図版13）

**検出状況**　調査区の北端に位置し、溝SD312の南側、溝SD313の北側、溝SD314の東側に位置する。

**形状規模**　平面形は円形で、断面は浅いＵ字形である。規模は直径49cm、深さは9cmを測る。

**出土遺物**　土師器小皿（2112）が出土した。

**ＳＫ３０２**（図版16　写真図版13）

**検出状況**　調査区東部、溝SD308の東側、SD312の北側に位置する。

**形状規模**　平面形は南北に長い楕円形で、断面はＵ字形である。規模は南北1.0ｍ、東西30cm、深さは13cmを測る。

**埋　　土**　灰黄褐色土の単層である。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**ＳＫ３０３**（図版７　写真図版13）

**検出状況**　調査区東半部に位置し、溝SD308と重複し古い。

**形状規模**　平面形は円形で、断面形は浅い皿状で凹凸がある。規模は直径40㎝、深さは8cmを測る。

**埋　　土**　細礫混じりの灰褐シルトである。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**ＳＫ３０４～ＳＫ３０７**（図版16　写真図版14）

**検出状況**　調査区東部の南壁に接している。溝SD312の南側で、溝SD308の東側に位置している。東側から順にSK304、SK305、SK306、SK307である。一直線にほぼ等間隔に並んでいるが、SK307のみやや離れている。

**形状規模**　平面形は円形で、断面形はＵ字形である。規模は直径54cm～63cm、深さは20cm前後を測る。

**埋　　土**　灰黄褐色土の単層である。

**出土遺物**　SK304から土師器皿（2109）、SK306から土師器小皿（2110）、SK307から土師器小皿（2111）が出土した。

**ＳＫ３０８**（図版７　写真図版13）

**検出状況**　調査区東部に位置し、溝SD311の西側に位置している。

**形状規模**　平面形は南北に長い楕円形で、断面形は浅いＵ字状である。規模は南北1.7ｍ、東西1.3ｍ、深さは53cmを測る。

**埋　　土**　上層は10YR5/2灰黄褐極細砂～細砂・中層には2.5Y7/2灰黄褐極細砂（地山土のブロック）が入る。下層には2.5Y5/2暗灰黄細砂～極細砂が埋土となっている。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

# 第３節　71 区の調査（図版 17　写真図版 15）

## １．概要と層序

71 区は区画整理事業調査の 67 区の西側、平成 29 年度調査の 72 区の東側との間に位置し、南側には国道姫路バイパスの側道が走る。東西に長く、東半分が北側に屈折した調査区である。遺構検出面は黒色シルト及びベース土面上である。検出した遺構は溝１条のみである。

## ２．遺構

**ＳＤ３１７**（図版 17　写真図版 15・16）

**検出状況**　調査区の全体に位置し、東側は調査区外から延び、西側は 72 区 SD320 に続く。

**形状規模**　調査区の東端から西端にかけて蛇行して西に向かって流れる溝である。規模は幅１ｍ以上、深さ 35cm、延長 23m 以上を測り、断面形は浅いＵ字状を呈する。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

# 第４節　72 区の調査

## １．概要と層序（図版 18・19　写真図版 17・21）

東側に位置する東西方向に長い調査区で、面積 90 ㎡を測る。旧耕土まで機械掘削、以下は人力掘削を行った。基本となる包含層は４層あり、９層上面、９層下面の２面で遺構検出を行い水田 28 枚、溝３条を検出した。

出土土器は、弥生時代から近世にわたるが、何れもローリングや人為的攪拌によって、細片である。

本調査では、限界掘削深度である現地表面下約3.5ｍまでの土層をa層（人為的堆積層）とb層（自然堆積層）に区別し、１～ 15層に分層し主な層序のみ記述する。

盛土は搬入土で、厚さ約１ｍを測る。１a層は調査区西側1/3にのみ堆積する近世の耕作土で、所々に攪乱を受ける。7.5YR6/1褐灰色砂質シルトで、厚さ約18cmを測る。細礫（円礫）が少し混じり、よく締まる。上面より耕作に関係する溝を検出した。１a層からは伊万里碗片と共に弥生土器・土師器・古墳時代後期や奈良時代の須恵器が出土した。２a層は調査区西側1/3にのみ堆積する近世の耕作土である。5YR5/1褐灰色砂質シルト～粘土質砂で、厚さ約20cmを測り、西側に向かって厚みを増す。粗粒砂～中粒砂が混じり、やや締まりがある。土師器・須恵器・土師質土錘・瓦（2237）等が出土した。３a層は調査区西側1/3にのみ堆積する耕作土である。10YR7/1灰白色砂質シルトで、厚さ約10cmを測る。粘性はなく、1.5～３cm大の角礫～亜円礫が少し混じり、やや締まりがある。遺構は上面より耕作に関係する溝を検出した。３a層からは古墳時代前期の土師器や須恵器が少量出土した。４a層は調査区西側半分に堆積する耕作土である。5YR6/2灰褐砂質シルトで、厚さ約14cmを測る。

## ２．第１面の遺構（図版 18　写真図版 18・19）

### 水田遺構

調査区中央から東側に位置する。水田 13 枚を検出した。上方からの耕作(攪拌)深度が異なり、部分的に重層して畦畔、または痕跡を検出した。切り合いより３段階に分けることができた。

第１段階は調査区西側で検出し、主軸をやや西に振った畦畔で構成される。畦畔幅約 50cm、高さ約１cm を測る。第２段階は全面で検出し、主軸を東に振った畦畔で構成されている。畦畔幅約 30cm、高さ１～10cm を測る。中央で検出した水田は大きく、東西幅約４ｍを測る。東側には畦畔を伴った溝、SD318 があり方形区画であるが、西側では畦畔の方向が乱れている。第３段階は畦畔状の高まりを確認したが、明確な水田の形態、規模は検出できなかった。

**ＳＮ８・９・１０・１１・１２・１３**

**検出状況**　調査区西側に位置する。第１段階の水田で耕作土は残存しておらず、擬似畦畔Ｂの検出である。方位は N38°Ｅを示す。

**形状規模**　残存短辺約 1.5ｍ～２ｍを測る。

**ＳＮ１**

**検出状況**　調査区東端に位置する。第２段階の水田で、南側の畦畔は SD318 に直行する。方位は N22°Ｅを示す。

**形状規模**　残存長辺約１ｍ、短辺約 2.3ｍを測る。畦畔の高さは約 10cm を測る。

**埋　　土**　第１面水田の耕作土（３ａ層）である。

**出土遺物**　出土しなかった。

**備　　考**　遺構の時期は、不明である。

**ＳＮ４**

**検出状況**　調査区中央東寄りに位置する。第２段階の水田で、南側の畦畔は SD318 に直行する。北側の畦畔は方位は N111°Ｅを示す。

**形状規模**　残存長辺約 4.2ｍ、残存短辺約 2.9ｍを測る。畦畔の幅は約 40cm を測る。

**埋　　土**　第１面水田の耕作土（３ａ層）である。

**出土遺物**　出土しなかった。

**備　　考**　本遺構のみ水田の長辺が確認できる。遺構の時期は、不明である。

**ＳＬ１**

**検出状況**　調査区中央東寄りに位置する。第３段階の水田で耕作土は残存しておらず、擬似畦畔Ｂの検出である。南北方向の畦畔の痕跡が１条残るのみである。方位は N21°Ｗを示す。

**備　　考**　全く異なる方位の畦畔を検出したため、第３段階とした。遺構の時期は、不明である。

**ＳＤ３１８**

**検出状況**　調査区東側に位置する。北から南へ向かって流れる溝で、左右に畦畔を伴う第２段階の水田耕作用水路である。方位は N22°Ｅを示す。

**形状規模**　幅約 0.3ｍ、深さ約 7.5cm を測る。

**埋　　土**　溝より越流した土砂は耕作され、第１面水田の耕作土（３ａ層）を構成する。

**出土遺物**　出土しなかった。

**備　　考**　遺構の時期は、不明である。

## ３．第２面の遺構（図版 18～20　写真図版 20～22）

### 水田遺構

調査区中央から東側に位置する。水田 15 枚を検出した。しかし、水田上面に明確なｂ層の堆積が見

られず、畦畔は耕作の底面(基底部)での検出となった。そのため、畦畔は擬似畦畔Ｂにあたり、水田の痕跡である。痕跡は２段階に分けることができた。水田はやや南へ曲がる SD320 に沿うように配置され、規模は小さく約 1.5 ㎡から約 3.8 ㎡、畦畔基底部の幅約 30cm を測る。古段階の畦畔はやや溝より離れる。これは溝の埋没、掘直しにより、溝幅が狭くなったことと対応する。耕作土は 5Y7/3 浅黄色砂質シルトから 5Y2/1 黒色砂質シルト、北壁東側で少し残っており厚さ約 14cm を測る。耕作土は攪拌されているが淘汰は悪く、母材となった土壌の様相が残っている。

なお、第２面の水田は SD319 より越流した土砂により埋没したと考えられる。

**ＳＮ１４**

**検出状況**　調査区北東端に位置する。第１段階の水田で、SD320 に接する。南西隅には SX2003 がある。

**形状規模**　残存長辺約 1.2m、短辺約 1.3mを測る。畦畔は残っていなかった。

**埋　　土**　第２面水田の耕作土(４a 層)である。

**出土遺物**　出土しなかった。

**備　　考**　遺構の時期は、不明である。

**ＳＮ１５**

**検出状況**　調査区東側に位置する。第１段階の水田で、南側の畦畔は SD320 の北側堤と共用する。

**形状規模**　残存長辺約 1.6m、短辺約 1.2mを測る。

**埋　　土**　第１面水田の耕作土(４a 層)である。

**出土遺物**　出土しなかった。

**備　　考**　遺構の時期は、不明である。

**ＳＮ１６**

**検出状況**　調査区東側に位置する。第１段階の水田で、南側の畦畔は SD320 の北側堤と共用する。

**形状規模**　長辺約 1.7m、短辺約 1.3mを測る。

**埋　　土**　第１面水田の耕作土(４a 層)である。

**出土遺物**　出土しなかった。

**備　　考**　遺構の時期は、不明である。

**ＳＮ１７**

**検出状況**　調査区中央に位置する。第１段階の水田で、南側の畦畔は SD320 の北側堤と共用する。

**形状規模**　長辺約 1.6m、短辺約 1.5mを測る。

**埋　　土**　第１面水田の耕作土(４a 層)である。

**出土遺物**　出土しなかった。

**備　　考**　遺構の時期は、不明である。

**ＳＮ２４**

**検出状況**　調査区西側に位置する。第１段階の水田で、SD320 より離れて２列目である。

**形状規模**　長辺約２m、短辺約 1.3mを測る。

**埋　　土**　第１面水田の耕作土(４a 層)である。

**出土遺物**　出土しなかった。

**備　　考**　３列目は確認できなかった。遺構の時期は、不明である。

**ＳＮ２７**

**検出状況**　調査区東側に位置する第１段階の水田で、南側の畦畔はSD320の北側堤と共用する部分には水口SX2004がある。

**形状規模**　一辺約1.1ｍを測る。南側畦畔は確認できなかった。

**埋　　土**　第１面水田の耕作土（４ａ層）である。

**出土遺物**　出土しなかった。

**備　　考**　遺構の時期は、不明である。

**ＳＤ３１９**

**検出状況**　調査区北西隅に位置する。東から西へ流れる溝である。方位はN79°Eを示す。この溝は73区SD322へ続く。

**形状規模**　幅約1.8ｍ、深さ約30cmを測る。

**埋　　土**　溝より越流した土砂は耕作され、第１面水田の耕作土（３ａ層）を構成する。

**出土遺物**　弥生土器の小片が出土した。

**備　　考**　遺構の時期は、既存の調査成果から古墳時代頃と思われる。

**ＳＤ３２０**

**検出状況**　調査区東半に位置する。東から西へ流れる蛇行している溝で、左右に畦畔を伴う水田耕作の用水路である。方位は概ねN5°Wを示す。この溝は71区SD317から続き72区で調査区南側へと流れ出る。

**形状規模**　幅約0.85ｍ、深さ約23～48cmを測る。

**出土遺物**　遺物は出土しなかった。

**備　　考**　埋没による掘り直しは２回以上ある。溝に面する水口SX2003・SX2004は、水口底面より溝底面が低いことから排水用の溝と考えられる。遺構の時期は、既存の調査成果から弥生時代と考えられる。

**ＳＸ２００３**

**検出状況**　調査区東側、SD320の北岸に位置する。水田SN14の水口である。

**形状規模**　幅約80cm、深さ約11cmを測る。SD320の最終段階の一つ前の段階でに機能した水口と考えられる。

**備　　考**　本遺構の周辺は最終面とする堆積と同じであるがやや攪拌されており、下位に遺構のような埋土がブロック状の堆積が観察できる。しかし、明確な面が確認できなかったことから耕作の影響が大きく、同じ場所で繰り返し水口を設置したためと思われる。SD320の埋土には広い範囲に流入による堆積が確認でき、小さな破堤が発生した可能性も考えられる。水口から湧出した土砂が、溝岸を形成している部分もある。

**ＳＸ２００４**

**検出状況**　調査区中央の南側、SD320の南岸に位置する。水田SN27の水口である。

**形状規模**　掘方は楕円形で幅約30cm、深さ約14cmを測る。

**備　　考**　遺構の上面はよく締まっており、水田の水を排水した後、埋め戻されたと考えられる。

**参考文献**　佐藤甲二1999「水田跡に関する擬似畦畔Ｂと連続耕作」『人類誌集報1999』東京都立大学人類誌調査グループ

# 第５節　73 区の調査（図版 21　写真図版 23）

## １．概要と層序

73 区は平成 29 年度調査の 72 区の西側、平成 30 年度調査の 74 区の東側の間に位置する。南側は国道２号姫路バイパス側道が走る。ほぼ正方形の調査区である。耕作土・床土の下に褐灰シルト質極細砂（4 層）が堆積しており、遺構を被覆・埋積している。遺構検出面は土壌層（6 層）の上である。検出した遺構には、溝 2 条がある。

## ２．遺構

**ＳＤ３２１**（図版 21　写真図版 24）

**検出状況**　調査区北東隅から南西隅にかけて斜めに位置し、西側は 74 区に続く。

**形状規模**　ほぼ直線的に流れる溝である。規模は幅 1.5m前後、深さ 10cm 前後を測り、断面形は浅いＵ字状を呈する。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**ＳＤ３２２**（図版 21）

**検出状況**　調査区東部に位置する。東側は 72 区の溝 SD319 から続き、南側は調査区外に延びる。

**形状規模**　北東から南西方向に流れる、やや蛇行する溝である。規模は幅 1.4m、深さ 11cm を測り、断面形は浅いＵ字状を呈する。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

# 第６節　74 区の調査

## １．概要と層序（図版 22～24　写真図版 25～27）

幅 5.7～6.0ｍ・全長 22.0ｍの調査区を設定した。面積 139 ㎡を測る。但し、調査区の西辺に民家の出入り口を確保しため、西側は調査区の形が矩形となり、75 区と調査区を分けた。

調査区は扇状地の末端あたる。調査の結果、埋没した旧河道の凹み、水田畦畔の痕跡を検出した。

約1.2ｍの盛り土下には、Ⅰ層　近現代の旧耕土、近世の耕土（Ⅱ層　黄白色土)、中世後期に遡る耕土(Ⅲ層　灰色土)、灰色土下に洪水砂礫を含むⅣ層　暗灰色土がある。この暗灰色土が中世前期の土壌層(耕土）と考えられる。暗灰色土下には土壌化したⅤ・Ⅵ層　灰褐色シルトが堆積しており、古代の遺物を含む水田土壌である。灰褐色シルト下にはⅦ層　黒褐色シルトが広がっている。黒褐色シルトには弥生中期の土器が若干含まれている。黒褐色シルト下に周辺の基盤層であるⅧ層　灰白シルト～砂が出現する。このⅧ層上面を遺構検出面とした。標高は約2.5ｍである。

74 区からは下記の遺構以外に、不定形な浅い落ち込みが幾つか検出されている。これらは、水田に伴う起耕痕や樹木の根痕と考えられるが、明確にはできなかった。また、調査区南東隅の落ち込みは 73区 SD321 の延長と考えられる。74 区での説明は省いた。

## ２．遺構

### 柱穴・土坑・落ち込み・水田畦畔痕跡・埋没旧河道

**Ｐ７４１０１**（図版 25　写真図版 28）

**検出状況**　調査区東端、P74102 と並んで検出した。

**形状規模**　平面形は不整方形で、断面形は箱型である。規模は一辺 20 ㎝、深さは４㎝を測る。

**埋　　土**　10YR4/2灰黄褐シルト質砂

**備　　考**　出土遺物はない。時期・性格共に不明である。

**Ｐ７４１０２**（図版 25　写真図版 28）

**検出状況**　調査区東端、P74101 と並んで検出した。

**形状規模**　不整な卵形で、断面形は逆台形である。規模は南北 40 ㎝、東西 18 ㎝、深さは 10㎝を測る。

**埋　　土**　上層は 10YR3/1 黒褐砂質シルト・下層は 10YR3/1 黒褐シルト

**備　　考**　出土遺物はない。時期・性格共に不明である。

**ＳＫ４０１**（図版 25　写真図版 28）

**検出状況**　調査区東半、SX102 の東隣に位置する。

**形状規模**　南北軸を N75°Ｗにとる不整な卵形の土坑である。南北長 1.40ｍ・東西幅 0.54ｍ・深さ 0.05ｍを測る。断面は浅いⅢ状、中央部に向かって傾斜する。

**埋　　土**　10YR3/1 黒褐シルト

**備　　考**　出土遺物はない。時期・性格共に不明である。

**ＳＸ１０１**（図版 25　写真図版 28）

**検出状況**　調査区中央、水田遺構の東端に位置する。

**形状規模**　南北軸を N26°Ｅにとる不整な四角形の落ち込みである。南北長 2.70ｍ・東西幅 0.95ｍ・深さ 0.08ｍを測る。断面は極浅いすり鉢状、中央部に向かって傾斜する。

**埋　　土**　10YR3/1 黒褐シルト、2.5Y4/2 暗灰黄シルトのブロックが混じる。

**備　　考**　水田遺構の東端に並行しており、ベース土を攪拌している。水田区画の残欠とも考えられる。

**水田畦畔痕跡**（図版 22　写真図版 26）

**検出状況**　水田畦畔は SR101 を埋没させた黒褐色シルトの上面に痕跡が残ったものである。東西南北に小畦畔の痕跡を検出した。概ね方位を N60°Ｗにとる。

**形状規模**　重複があり、個別の水田区画の規模は不明である。

**埋　　土**　5Y4/1 灰粘土質シルト・2.5Y3/1 黒褐シルトが耕土化している。

**出土遺物**　灰褐シルトに若干、古代の須恵器が含まれている。

**備　　考**　当該水田も古代以降の時期が考えられる。

**埋没旧河道ＳＲ１０１**（図版 25　写真図版 28）

**検出状況**　調査区西半部において、北東から南西に帯状に検出された。この帯状の変色は、旧河道が埋没した最上部の凹みを黒褐色シルトが被覆して形成されたものである。

**形状規模**　旧河道の最上層の凹みは幅３ｍ・深さ 0.4ｍの浅いⅢ状、深さ 45 ㎝以上。旧河道は元々幅 13ｍ前後であったと考えられ、北東から南西に走っている。

**埋　　土**　黒褐シルト

**出土遺物**　弥生時代中期と考えられる摩滅した土器片が出土した。

**備　　考**　『池ノ下遺跡』第 435 冊において立命館大学　青木哲哉氏が分析した北方から２本に分岐して南流する旧河道のうちの東側の流れにあたり、上流では黒灰シルト（本調査区の黒褐シルト対応）が旧河道を埋没・被覆している。黒灰シルトからは弥生時代中期の土器が出土している。旧河道は、分岐して 74 区と 75 区・76 区周辺に至ると分析されており、74 区ではその東側の河道の延長が確認できた。

# 第７節　75 区の調査

## １．概要と層序（図版 26　写真図版 29）

幅 6.5～７ｍ・全長 16.5ｍ、長方形の調査区を設定した。面積 109 ㎡を測る。

調査区は扇状地の末端あたる。調査の結果、江戸時代の溝、奈良時代のピット、弥生時代末の粘土採掘坑群、時期不明の２方向の水田畦畔痕跡を検出した。

約1.2ｍの盛り土下には、現代の旧耕土（Ⅰ層）があり、以下、近世の耕土（Ⅱ層）、中世～近世にかけての洪水砂起因の耕土（Ⅲ層）がある。Ⅳ層の黄灰シルトは中世（前期）の耕土と考えられる。Ⅳ層下には土壌化したⅤ層　褐灰シルトが堆積しており、古代の遺物を含む水田土壌である。Ⅴ層の下には更に暗調のⅥ層が局所的に残存している。この層位も古代の水田土壌であった可能性が高い。平面的に起耕痕が認められる。75区では74区で認められたⅦ層　黒褐色シルトはなく、直下に基盤層であるⅧ層黄白シルト～砂層が出現する。この層上面を遺構検出面とした。標高は約2.8ｍである。75区では埋没旧河道は面的には確認できなかったが、SK512の壁面に砂層が認められる。

## ２．弥生時代末の粘土採掘坑群（図版27・写真図版32・33）

調査区北西部を中心に16基の不整形土坑が検出された。これらの土坑は人為的に埋められており、SK512の土坑底からは弥生時代末の甕片が出土している。各土坑は粘土採掘坑と考えられ、Ⅷ層を対象に

掘削されている。この土坑群は76区において調査された粘土採掘坑群の東端に当たる。土坑群の西端は77区の東端において確認されており、東西方向約80ｍの範囲に広がることが判明した。

また、調査区内において面的に検出されない腐植質シルト（74区のⅦ層　黒褐シルト）が埋土に混じっており、同層が75区にも及んでいたことも明らかとなった。

**粘土採掘坑ＳＫ５０６**（図版 27・写真図版 33）

**検出状況**　調査区北西半より検出された。他の採掘坑とは切り合わない。SK512 の西隣に位置する。

**形状規模**　長軸を北北東にとる不整な卵形の土坑である。長軸 0.94ｍ・短軸 0.75ｍ・深さ 0.33ｍを測る。断面は深い箱形、一部袋状になる。

**埋　　土**　SK512 と類似、上部１～３層は自然堆積、４層にはシルトのブロック土が入る。

**出土遺物**　最上部の凹みから土器片が出土している。図示できる出土遺物はない。

**粘土採掘坑ＳＫ５１２**（図版 27・写真図版 32・33・34）

**検出状況**　調査区北西半より検出された。他の採掘坑とは切り合わない。SK506 の東隣に位置する。

**形状規模**　長軸を西南西にとる不整な円形の土坑である。長軸 1.00ｍ・短軸 0.90ｍ・深さ 0.40ｍを測る。断面は深いバケツ状、中央部に向かってやや深く掘る。

**埋　　土**　１～４層は自然堆積、５層以下はシルト・粘土ブロックを含み人為的に埋め戻されている。

**出土遺物**　土坑底からは弥生時代末の甕（2003）が出土している。

**粘土採掘坑ＳＫ５０２－１**（図版 28・写真図版 32）

**検出状況**　調査区北西隅から検出された。SK503 と切り合い古い。SK502-2 下層に袋状に潜り込む。

**形状規模**　切り合いがあり形状は不明。南北に長軸をもつ不整な三角形（オムスビ形か）。長軸 1.30ｍ以上・短軸 1.20ｍ・深さ 0.40ｍを測る。断面は深い箱形、底部は平坦。袋状に掘削している。

**埋　　土**　ベース土を主体としたブロック土で人為的に埋められている。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**粘土採掘坑ＳＫ５０２－２**（図版 28・写真図版 32）

**検出状況**　SK503 に切られている。SK502-1 が袋状に下層に潜り込む。

**形状規模**　南北に長軸をもつ不整な三角形。長軸 1.22ｍ・東西幅 1.00ｍ以上・深さ 0.22ｍを測る。断面は舟底状、中央部に向かって傾斜する。北辺は真直ぐ掘り下げられる。

**埋　　土**　ベース土主体のブロック土と黒褐腐植質シルトのブロック土で人為的に埋められている。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**粘土採掘坑ＳＫ５０３**　（図版 28・写真図版 32）

**検出状況**　調査区北西隅から検出された。SK502-1・SK502-2 と切り合い新しい。

**形状規模**　長軸を東西方向に持つ不整な楕円形の土坑である。南北長 1.06ｍ・東西幅 1.00ｍ・深さ 0.30ｍを測る。断面形状は舟底形を呈する。

**埋　　土**　上層（１・２層）は SK506・SK512 と同じ自然堆積、下層はシルト・粘土ブロックを含み人為的に埋め戻されたと考えられる。

**出土遺物**　弥生土器甕（2002）が出土している。

**粘土採掘坑ＳＫ５０５**（図版 28・写真図版 32）

**検出状況**　調査区北西半北壁から検出された。北端は調査区外にある。SK504・SK513 の間に位置する。

**形状規模**　長軸を南北にとる楕円形の土坑である。長軸 0.70ｍ以上・短軸 0.78ｍ・深さ 0.21ｍを測る。

断面は舟底形。

**埋　　土**　上層（1・2 層）は SK506 と同じ自然堆積、下層はシルト・粘土ブロックを含み人為的に埋め戻されたと考えられる。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**粘土採掘坑ＳＫ５０７**（図版 28・写真図版 33）

**検出状況**　調査区西壁中央付近から検出された大型の粘土採掘坑。西壁に西半部が入る。SK508 と切り合い SK508 の下層埋土が SK507 に一部被覆する。

**形状規模**　長軸を南北にとる不整な長楕円形の土坑である。長軸 2.50ｍ・短軸 1.00ｍ以上・深さ 0.25ｍを測る。断面は舟底形、底面は平坦である。

**埋　　土**　ベース土主体のブロック土と黒褐腐植質シルトのブロック土で人為的に埋められている。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**粘土採掘坑ＳＫ５０８**（図版 28・写真図版 33）

**検出状況**　調査区西壁中央付近から検出された。SK507 と切り合い新しい。

**形状規模**　長軸を南北にとる不整な隅丸方形の土坑である。長軸 0.97ｍ・短軸 0.95ｍ・深さ 0.18ｍを測る。断面はすり鉢形、底面は凹凸が激しい。

**埋　　土**　ベース土主体のブロック土と黒褐腐植質シルトのブロック土で人為的に埋められている。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**粘土採掘坑ＳＫ５０９**（図版 28・写真図版 33）

**検出状況**　調査区南西隅から検出された。SK510 と切り合い新しい。

**形状規模**　長軸を東西にとる不整ないわゆるオムスビ形の土坑である。東西長 1.10ｍ・南北辺 0.92ｍ・深さ 0.21ｍを測る。断面は舟底形で、西辺に段が生じる。底面は平坦である。

**埋　　土**　上層（２・３層）は自然堆積、以下はベース土主体のブロック土と褐色シルトのブロック土で人為的に埋められている。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**粘土採掘坑ＳＫ５１０**（図版 28・写真図版 33）

**検出状況**　調査区南西隅から検出された。SK509 と切り合い古い。

**形状規模**　長軸を南北にとる不整な楕円形の土坑と考えられる。長軸 0.80ｍ以上・短軸 0.95ｍ・深さ 0.20ｍを測る。断面は舟底形で、底面は SK509 側で一段下がる。

**埋　　土**　ベース土主体のブロック土と黒褐腐植質シルトのブロック土で人為的に埋められている。

**出土遺物**　弥生土器甕（2004）が出土している。

**粘土採掘坑ＳＫ５１４**（図版 28・写真図版 34）

**検出状況**　調査区南西半、SK512 の南側に位置する。SK515 と切り合い古い。

**形状規模**　長軸を東西にとる不整ないわゆるオムスビ形の土坑である。東西長1.05ｍ・南北辺0.80ｍ・深さ0.10ｍを測る。断面は東半がすり鉢形で、西辺に段が生じる。

**埋　　土**　１層は自然堆積、３層はベース土のブロック土で人為的に埋められている。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**粘土採掘坑ＳＫ５１５**（図版 28・写真図版 34）

**検出状況**　調査区南西半、SK512 の南側に位置する。SK514 と切り合い新しい小土坑である。

**形状規模**　長軸を東西にとる不整な卵形の土坑である。長軸 0.49ｍ・短軸 0.40ｍ・深さ 0.13ｍを測る。断面は凹凸が激しい。

**埋　　土**　１・２層共に自然堆積、１層は SK514 と同一層が被覆する。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**粘土採掘坑ＳＫ５１７－１**（図版 28・写真図版 34）

**検出状況**　粘土採掘坑群の東端に位置する。調査区北壁に係る。SK517-2 と切り合い古い。

**形状規模**　長軸を南北方向にとる。不整形の土坑である。長軸 1.10ｍ・東西短軸 0.70ｍ以上・深さ 0.19ｍを測る。底面は凹凸が激しい。

**埋　　土**　３層は SK503 の４層と同じ、シルト・粘土ブロックを含み人為的に埋め戻されたと考えられる。４層は自然堆積。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

**粘土採掘坑ＳＫ５１７－２**（図版 28・写真図版 34）

**検出状況**　粘土採掘坑群の東端に位置する。調査区北壁に係る。SK517-1 と切り合い新しい。

**形状規模**　半円形に検出した。東西径 0.85ｍ・南北 0.50ｍ・深さ 0.20ｍを測る。断面は箱形、底面は凹凸が激しい。

**埋　　土**　１層は律令期の水田土壌、２層はシルト・粘土ブロックを含み人為的に埋め戻されている。

**出土遺物**　図示できる出土遺物はない。

## ３．奈良時代の遺構

**ＳＫ５１６**（図版 28・写真図版 31）

**検出状況**　調査区中央北より検出した。奈良時代の須恵器杯蓋片が検出され、その直下より柱痕を検出した。対になるその他の柱穴は検出されなかった。

**形状規模**　東西方向に長軸をもつ不整な卵形の土坑である。長軸 0.50ｍ・短軸 0.42ｍ・深さ 0.20ｍを測る。断面は深い箱形。直径 0.18ｍの柱痕が認められる。

**埋　　土**　　ベース土が混ざった 5Y4/1 灰　極細砂混じり粘質シルトを掘形埋土としている。

**出土遺物**　須恵器杯蓋（2136）が出土した。同時代の遺物としては、Ｖ層　褐灰シルト中より墨書のある須恵器杯身（2140）が出土している。

## ４．その他の遺構

**江戸時代の溝**（図版26）

調査区西端において南北方向に走る溝2条を検出した。SD324（古）からは18世紀代の肥前系染付磁器(2144)が出土している。現在の用水路に並行しており、同様の性格をもっていたと考えられる。本報告では壁断面のみの報告とした。平面図等は挙げていない。

**水田畦畔痕跡**（図版26・写真図版30・31）

遺構面上の酸化鉄の集積状況によりＡＢ２種の畦畔痕跡を検出した。ＡはN17°Eに方位を持つもので、長方形を企図しているようである。調査区東半の極一部で検出できた。ＢはN75°Eに方位を持つもので、畦畔の幅が広く、不整形である。旧地形に沿って水田区画を営んだものと考えられる。

両者とも時期は不明であるが、Ａは2017年度調査の72区の上層、Ｂは下層の様相に近い。

# 第８節　76 区の調査（図版 29～53　写真図版 35～50）

## １．概要と層序（図版 29　写真図版 35・36）

76 区は東側に水路を挟み平成 30 年度調査の 75 区が位置し、西側に平成 29 年度調査の 77 区が位置する。南側は国道２号姫路バイパス側道が走る。東西方向に長く、西側半分は徐々に幅が狭くなっている。調査区が細長く遺構の密度が高いため、東側から調査区の変化点を目安としてＡ区・Ｂ区・Ｃ区・Ｄ区・Ｅ区と小地区を設定して報告する。Ａ区は 0ｍから 10ｍ、Ｂ区は 10ｍから 20ｍ、Ｃ区は 20ｍから 34.5ｍ、Ｄ区は 34.5ｍから 59ｍ、Ｅ区は 59ｍから 73.5ｍである。

調査区全体に耕作土および旧耕作土、床土が堆積しており、床土下の土壌層を除去すると遺構検出面である。床土下の土壌層や堆積層は、南西部に行くに従い厚くなっている。この土壌層から、古墳時代から中世にかけての遺物が多量に出土した。

## ２．遺構

検出した遺構は、溝・土坑がある。土坑については 75 区の西半部から続く土坑群である。

Ａ・Ｂ区は黄灰色の粘土層が堆積しており、この粘土を採取するための土坑が累積的に掘られている。

Ｃ区は基盤層が上がってきており、土坑がまばらになり、Ｃ区からＤ区にかけては小形のものが多く、柱穴の可能性もある。Ｄ区からＥ区は検出面が低くなり、土坑は調査区外に伸びており、詳細は不明であるが、全体に大型である。

以下、小地区ごとに概略を説明するが、詳細な数値等は一覧表（第１表）に掲示する。

**Ａ区**（図版 29・30・32～41　写真図版 37～43）

Ａ区はほぼ全面に SK604・SK605・SK606・SK607・SK608・SK610・SK611・SK612・SK613・SK614・SK615・SK616・SK617・SK618・SK619・SK620・SK621・SK622・SK623・SK624・SK625・SK627・SK629・SK630・SK631・SK632・SK634・SK635・SK639・SK645・SK646・SK648・SK649・SK650・SK662・SK663・SK665・SK666・SK669・SK676・SK677・SK743 の土坑 42 基を調査した。

密集して、複雑に切り合っていることや、調査区外まで延びているものもあることから、数は変わる可能性がある。不定形のものが多いが、楕円形を中心に円形に掘削が行われている。規模は直径が１ｍから２ｍのものが多く、深さは25cmから50cmのものが多い。

遺物は SK606・SK607・SK612・SK613・SK614・SK615・SK618・SK622・SK623・SK632・SK650・SK666・SK743 からは土器が出土しており、SK650 の最上層から墨書のある須恵器（2145）が出土しているが、混入の可能性が高い。そのほかは弥生時代末から古墳時代初頭の土器である。弥生時代末から古墳時代で一番新しい土器が出土している土坑 SK743 は深さ 10cm 程度と極端に浅い。

SK606・SK624 からは石鏃（S205・S202）が出土している。

**Ｂ区**（図版 29～31・42～49　写真図版 44～48）

Ｂ区はほぼ全面に、SK628・SK633・SK636・SK637・SK638・SK640・SK641・SK642・SK643・SK644・SK651・SK652・SK653・SK656・SK657・SK658・SK660・SK664・SK667・SK668・SK670・SK671・SK673・SK674・SK675・SK700・SK701・SK702・SK707・SK708・SK709・SK720・SK737・SK738・SK739・SK655 の土坑 36 基を調査した。

Ａ区同様、密集して複雑に切り合っていることや、調査区外まで延びているものもあることから、数は変わる可能性がある。例えば不定形大形のSK618は複数の土坑が累積的に掘られ、埋められた痕跡が断面から読み取れた。不定形のものが多く、楕円形を中心に掘削が行われている。規模は直径が１ｍから２ｍのものが多く、深さは35cmから20cmが多く、Ａ区より相対的に浅い。

SK664・SK655・SK670・SK673・SK701・SK707・SK708・SK720・SK737・SK738から土器が出土した。SK655の鉢（2027）とSK637の壺（2024）、SK720の壺（2036）以外は甕である。

SK655・SK700からは石鏃（S203・S204）が出土している。

**Ｃ区**（図版29・31・50～52　写真図版49）

Ｃ区はSK678・SK679・SK680・SK681・SK682・SK684・SK685・SK686・SK687・SK688・SK689・SK691・SK692・SK698・SK710・SK721・SK728・SK730・SK733・SK734・SK735・SK736・SK742・SK729の土坑24基を調査した。

東半分はＡ・Ｂ区と同様であり、密集して複雑に切り合っている

西半部からＤ区にかけてのSK733やSK729の大形の土坑が存在するほか､基盤層が上がってきており、土坑がまばらになり、円形で小形の10cmから30cmと浅い土坑がほとんどである。柱列は並ばないが、柱穴等他の機能を有するものと考えられる。

SK680・SK685・SK687・SK730・SK733・SK734からは土器（2038～2042）が出土した。

**Ｄ区**（図版29・31・52・53　写真図版50）

Ｄ区はSK699・SK703・SK704・SK705・SK706・SK711・SK712・SK713・SK717・SK719・SK722・SK723・SK724・SK725・SK726・SK727・ＣＤ区にかかるSK729・SK731・SK732の土坑計19基を調査した。

Ｃ区西半部からＤ区にかけてのSK733やSK729・SK713の大形の土坑を切る小形の土坑SK687・SK680・SK679・SK689・SK688・SK691・SK692・SK728・SK698・SK699・SK706・SK721・SK723・SK704・SK705・SK724・SK725・SK726・SK717・SK731・SK732については、柱痕跡は確認できなかったが、円形で10cmから20cmと浅く土器づくりに適した土層まで掘削が及んでいないため、柱列は並ばないが、柱穴等他の機能を有するものと考えられる。SK699からは古代の甕（2148）が出土しており、遺構検出時に遊離した古代の遺物が多数出土していることからも肯定できる。

SK725からは弥生土器甕（2037）が出土した。

**Ｅ区**（図版53　写真図版50）

Ｅ区はSK715・SK716・SK718の3基の土坑を調査した。幅が狭く、調査区外に広がっているため不明であるが、比較的大形で不定形な形であり相対的に浅い。

SK715からは弥生土器甕（2034）、SK716からは弥生土器甕（2035）が出土した。

**ＳＤ３２９**　（図版31　写真図版50）

**検出状況**　Ｅ区西端に位置し、調査区に直交し、北側および南側は調査区外に続く。

**形状規模**　調査幅は狭く詳細は不明であるが、ほぼ直線的に流れる溝である。規模は幅70cm前後、深さ12cm前後を測り、断面形は浅いＵ字状を呈する。

**埋　　土**　10YR4/1　褐灰極細砂混じりシルトである。

**出土遺物**　土師器皿（2147）が出土した。

## 第1表　76区土坑一覧(1)

| 地区 | 遺構No. | 形状 | 長辺(m) | 短辺(m) | 深さ(m) | 切り合い | 土器 | 石器 | 図版 | 写真図版 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| A | SK604 | 楕円形 | 1.44 | 0.6+ | 0.26 | | | | 32 | 37 | |
| A | SK605 | 隅丸方形 | 2.08 | 1.2+ | 0.49 | | | | 32 | 37 | 調査区外へ |
| A | SK606 | 不定形 | 2.08 | 1.50 | 0.47 | | 2005・2006 | S205 | 33 | 41 | |
| A | SK607 | 円形 | 0.7+ | 0.5+ | − | SK608を切る | 2007～2009 | | 30 | 37 | 調査区外へ |
| A | SK608 | 楕円形 | 1.2+ | 0.54 | 0.18 | SK607に切られる | | | 33 | 47 | 調査区外へ |
| A | SK610 | 円形 | 0.94 | 0.5+ | − | SK616を切る | | | 30 | 37 | 調査区外へ |
| A | SK611 | 円形 | 0.7+ | 0.2+ | − | SK620を切る | | | 30 | − | 調査区外へ |
| A | SK612 | 隅丸方形 | 1.30 | 0.97 | 0.34 | | 2010・2011 | | 34 | 39 | |
| A | SK613 | 楕円形 | 1.36 | 1.3+ | 0.38 | | 2012 | | 34 | 39 | |
| A | SK614 | 楕円形 | 0.72 | 0.46 | 0.24 | | 2013 | | 35 | 38 | |
| A | SK615 | 不定形 | 1.31 | 1.10 | 0.30 | SK616を切る | 2014 | | 35 | 39 | |
| A | SK616 | 不定形 | 2.44 | 2.33 | 0.43 | SK610・SK615に切られる | | | 35 | − | |
| A | SK617 | 不定形 | 1.9+ | 0.65 | − | SK618を切りSK616に切られる | | | 30 | − | |
| A | SK618 | 不定形 | 3.12 | 1.48 | 0.32 | SK617に切られる | 2015～2017 | | 36 | − | |
| A | SK619 | ほぼ円形 | 1.00 | 0.87 | 0.34 | | | | 38 | 39 | |
| A | SK620 | 不定形 | 1.7+ | 1.10 | − | SK611に切られる | | | 30 | 37 | 調査区外へ |
| A | SK621 | 楕円形 | 1.21 | 0.7+ | 0.33 | SK622に切られる | | | 37 | 42 | |
| A | SK622 | 楕円形 | 1.10 | 0.76 | 0.28 | SK621を切る | 2018 | | 37 | 42 | |
| A | SK623 | 楕円形 | 1.01 | 0.71 | 0.30 | | 2019 | | 38 | 38 | |
| A | SK624 | 不定形 | 1.23 | 1.15 | 0.34 | SK677を切る | | S202 | 41 | 40 | |
| A | SK625 | 楕円形 | 0.89 | 0.68 | 0.24 | | | | 37 | 43 | |
| A | SK627 | 不定形 | 1.4+ | 0.78 | 0.30 | | | | 33 | 43 | 調査区外へ |
| A | SK629 | 楕円形 | 1.35 | 0.77 | 0.31 | SK630・SK662を切る | | | 40 | 43 | |
| A | SK630 | 隅丸方形 | 0.84 | 0.7+ | 0.26 | SK663を切りSK629に切られる | | | 40 | 40 | |
| A | SK631 | 不定形 | 1.1+ | 0.90 | − | SK632に切られる | | | 30 | 40 | |
| A | SK632 | 不定形 | 1.68 | 1.10 | 0.30 | SK631・SK639を切る | 2020 | | 38 | 42 | |
| A | SK634 | 楕円形 | 1.4+ | 0.67 | 0.36 | | | | 46 | − | 調査区外へ |
| A | SK635 | 楕円形 | 0.76 | 0.43 | 0.25 | | | | 34 | − | |
| A | SK639 | 台形 | 1.17 | 0.7+ | 0.28 | SK632に切られる | | | 39 | − | |
| A | SK645 | 円形 | 1.35 | 1.15 | − | | | | 30 | − | |
| A | SK646 | 円形 | 1.16 | 1.04 | 0.29 | | | | 34 | 42 | |
| A | SK648 | 円形 | 0.58 | 0.5+ | 0.06 | | | | 34 | − | |
| A | SK649 | 円形 | 0.81 | 0.66 | 0.37 | | | | 39 | 38 | |
| A | SK650 | 不定形 | 2.2+ | 1.4+ | 0.35 | | 2145 | | 40 | 37 | 調査区外へ |
| A | SK662 | 楕円形 | 1.3+ | 0.44 | 0.18 | SK629に切られる | | | 33 | − | |
| A | SK663 | 不定形 | 1.7+ | 1.29 | 0.29 | SK630に切られる | | | 37 | 43 | 調査区外へ |
| A | SK665 | 隅丸方形 | 1.00 | 0.5+ | − | | | | 30 | 37 | 調査区外へ |
| A | SK666 | 不定形 | 2.5+ | 2.14 | 0.32 | | 2025 | | 39 | 38 | |
| A | SK669 | 楕円形 | 1.96 | 1.26 | 0.31 | | | | 36 | 40 | |
| A | SK676 | 不定形 | 1.4+ | 0.94 | 0.27 | | | | 41 | − | |
| A | SK677 | 不定形 | 3.39 | 1.4+ | − | SK624に切られる | | | 41 | − | 調査区外へ |
| A | SK743 | 不定形 | 0.66 | 0.64 | 0.09 | | 2045 | | 35 | 42 | |
| B | SK628 | 楕円形 | 1.6+ | 1.26 | 0.27 | | | | 44 | 44 | 調査区外へ |
| B | SK633 | ほぼ円形 | 0.99 | 0.89 | 0.25 | SK652を切る | | | 45 | 45 | |
| B | SK636 | 不定形 | 1.5+ | 1.2+ | − | | | | 42 | − | |
| B | SK637 | 不定形 | 1.9+ | 1.52 | 0.31 | | | | 42 | 47 | |
| B | SK638 | 不定形 | 1.09 | 0.97 | 0.28 | | | | 42 | 46 | |
| B | SK640 | 楕円形 | 1.4+ | 0.78 | 0.30 | | | | 43 | 47 | |
| B | SK641 | 不定形 | 2.0+ | 1.16 | 0.30 | | | | 44 | 47 | 調査区外へ |
| B | SK642 | 不定形 | 0.97 | 0.62 | 0.24 | | | | 43 | 47 | |
| B | SK643 | 楕円形 | 1.32 | 1.06 | 0.37 | | | | 49 | 46 | |
| B | SK644 | 不定形 | 2.2+ | 2.0+ | 0.34 | SK739を切りSK671・SK674に切られる | 2021・2022 | | 45 | 48 | 調査区外へ |
| B | SK651 | 不定形 | 1.27 | 0.8+ | 0.27 | | | | 48 | 46 | 調査区外へ |
| B | SK652 | 楕円形 | 1.6+ | 0.89 | 0.26 | | | | 45 | 47 | |
| B | SK653 | 楕円形 | 1.3+ | 0.8+ | − | | | | 30 | − | 調査区外へ |
| B | SK656 | 不定形 | 2.6+ | 1.45 | 0.24 | | | | 43 | − | 調査区外へ |
| B | SK657 | 不定形 | 1.8+ | 0.77 | 0.26 | | | | 43 | − | |
| B | SK658 | 菱形 | 1.39 | 0.81 | 0.23 | | | | 49 | 45 | |
| B | SK660 | 楕円形 | 1.15 | 0.57 | 0.35 | | | | 44 | 46 | |
| B | SK664 | 隅丸方形 | 0.77 | 0.69 | 0.22 | | | | 44 | 44 | |
| B | SK667 | 楕円形 | 1.00 | 0.60 | − | | | | 30 | − | |
| B | SK668 | 楕円形 | 1.20 | 1.05 | − | | | | 30・31 | 48 | |

## 第1表　76区土坑一覧(2)

| 地区 | 遺構No. | 形状 | 長辺(m) | 短辺(m) | 深さ(m) | 切り合い | 土器 | 石器 | 図版 | 写真図版 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| B | SK670 | 楕円形 | 1.35 | 0.80 | 0.27 | | 2026 | | 42 | 45 | |
| B | SK671 | 楕円形 | 1.81 | 1.01 | 0.19 | SK644を切る | | | 42 | 45 | |
| B | SK673 | 楕円形 | 0.78 | 0.59 | 0.20 | | 2027 | | 47 | 44 | |
| B | SK674 | 楕円形 | 1.11 | 0.66 | 0.22 | | | | 45 | 45 | |
| B | SK675 | 隅丸方形 | 0.76 | 0.65 | 0.25 | | | | 46 | 44 | |
| B | SK700 | 楕円形 | 1.06 | 0.86 | 0.18 | | | S204 | 46 | － | |
| B | SK701 | 不定形 | 2.2+ | 1.02 | 0.27 | | 2031 | | 46 | － | |
| B | SK702 | 不定形 | 1.93 | 1.15 | 0.16 | | | | 47 | 47 | |
| B | SK707 | 楕円形 | 2.83 | 1.62 | 0.16 | | 2032 | | 48 | － | |
| B | SK708 | 不定形 | 2.2+ | 1.4+ | － | | 2033 | | 30 | － | 調査区外へ |
| B | SK709 | 楕円形 | 0.97 | 0.77 | 0.19 | | | | 48 | 47 | |
| B | SK720 | 不定形 | 1.81 | 1.71 | 0.18 | | 2036 | | 47 | 48 | |
| B | SK737 | 不定形 | 2.0+ | 1.0+ | － | | 2043 | | 30 | － | |
| B | SK738 | 不定形 | 3.4+ | 1.1+ | － | | 2044 | | 48 | － | |
| B | SK739 | 不定形 | 1.8+ | 0.5+ | － | | | | 30 | － | 調査区外へ |
| B・C | SK655 | 方形 | 2.1+ | 1.92 | 0.32 | | 2023・2024 | S203 | 49 | 48 | 調査区外へ |
| C | SK678 | 楕円形 | 1.17 | 0.82 | 0.16 | | | | 50 | － | |
| C | SK679 | 円形 | 0.57 | 0.48 | 0.19 | | | | 50 | 49 | |
| C | SK680 | ほぼ円形 | 0.69 | 0.6+ | 0.19 | | 2028 | | 50 | 49 | |
| C | SK681 | 不定形 | 1.8+ | 1.5+ | － | | 2146 | | 31 | － | 調査区外へ |
| C | SK682 | 楕円形 | 1.4+ | 0.87 | 0.25 | | | | 50 | － | 調査区外へ |
| C | SK684 | 不定形 | 1.10 | 0.75 | － | | | | 31 | － | |
| C | SK685 | 隅丸方形 | 0.81 | 0.71 | 0.26 | | 2029 | | 50 | 49 | |
| C | SK686 | 楕円形 | 1.51 | 0.78 | 0.28 | SK733を切る | | | 50 | － | |
| C | SK687 | 楕円形 | 0.81 | 0.71 | 0.22 | SK733を切る | 2030 | | 51 | － | |
| C | SK688 | 円形 | 0.61 | 0.60 | 0.20 | | | | 51 | － | |
| C | SK689 | ほぼ円形 | 0.50 | 0.40 | － | | | | 31 | － | |
| C | SK691 | 楕円形 | 0.69 | 0.44 | 0.09 | | | | 51 | － | |
| C | SK692 | 楕円形 | 0.64 | 0.47 | 0.19 | | | | 51 | － | |
| C | SK698 | 楕円形 | 1.29 | 0.59 | 0.30 | | | | 52 | － | |
| C | SK710 | ほぼ円形 | 1.10 | 0.90 | － | | | | 31 | － | |
| C | SK721 | 隅丸方形 | 1.87 | 1.37 | 0.20 | | | | 51 | 49 | |
| C | SK728 | 不定形 | 1.30 | 0.80 | － | | | | 31 | － | |
| C | SK730 | 楕円形 | 3.30 | 2.60 | － | | 2038・2039 | | 31 | 49 | |
| C | SK733 | 不定形 | 6.2+ | 3.9+ | － | SK686に切られる | 2040 | | 31 | － | 調査区外へ |
| C | SK734 | 不定形 | 5.2+ | 4.6+ | － | | 2041・2042 | | 31 | － | |
| C | SK735 | 隅丸方形 | 2.30 | 1.2+ | － | | | | 31 | － | |
| C | SK736 | 不定形 | 2.4+ | 0.9+ | － | | | | 31 | － | |
| C | SK742 | 不定形 | 1.2+ | 0.6+ | － | | | | 31 | － | 調査区外へ |
| C・D | SK729 | 不定形 | 10.50 | 4.2+ | － | | | | 31 | － | |
| D | SK699 | 円形 | 0.58 | 0.51 | 0.26 | | 2148 | | 52 | 50 | |
| D | SK703 | 円形 | 0.52 | 0.46 | 0.12 | | | | 52 | － | |
| D | SK704 | 楕円形 | 0.75 | 0.56 | 0.12 | | | | 52 | － | |
| D | SK705 | ほぼ円形 | 0.60 | 0.55 | 0.11 | | | | 52 | － | |
| D | SK706 | 楕円形 | 0.62 | 0.56 | 0.16 | | | | 52 | － | |
| D | SK711 | 楕円形 | 1.30 | 0.6+ | － | | | | 31 | 50 | |
| D | SK712 | 不定形 | 1.10 | 0.8+ | － | | | | 31 | － | |
| D | SK713 | 不定形 | 3.1+ | 3.30 | － | | | | 31 | 50 | |
| D | SK717 | 円形 | 0.45 | 0.40 | － | | | | 31 | － | |
| D | SK719 | 楕円形 | 1.00 | 0.65 | － | | | | 31 | － | |
| D | SK722 | 円形 | 0.44 | 0.39 | 0.12 | | | | 53 | － | |
| D | SK723 | 楕円形 | 0.68 | 0.57 | 0.12 | | | | 53 | － | |
| D | SK724 | 楕円形 | 0.54 | 0.34 | 0.09 | | | | 53 | － | |
| D | SK725 | 楕円形 | 0.52 | 0.36 | 0.22 | | 2037 | | 53 | 50 | |
| D | SK726 | 円形 | 0.40 | 0.2+ | － | | | | 31 | － | |
| D | SK727 | 不定形 | 0.60 | 0.3+ | － | | | | 31 | － | |
| D | SK731 | 楕円形 | 0.76 | 0.68 | 0.12 | | | | 53 | － | |
| D | SK732 | 楕円形 | 0.80 | 0.5+ | 0.11 | | | | 53 | － | |
| E | SK715 | 不定形 | 3.1+ | 1.4+ | － | | 2034 | | 31 | 50 | |
| E | SK716 | 不定形 | 1.70 | 0.8+ | 0.27 | | 2035 | | 53 | 50 | |
| E | SK718 | 楕円形 | 1.85 | 0.5+ | － | | | | 31 | － | |

# 第９節　77 区の調査

## １．概要と層序（図版 55　写真図版 51～54）

76区の西側にあり池ノ下遺跡１区～77区の中で最も西側に設定した調査区である。南北長17.3m、東西幅15.0m、面積190㎡を測る。不整な五角形の調査区である。

弥生時代後期から鎌倉時代にかけての遺構・遺物を検出した。

調査地点は支流性扇状地の末端に位置しており、洪水砂礫が複数回供給されている。

遺構面は北から南へと緩やかに傾斜しており、黄褐色砂礫19層を挟んで上下２面に分かれる。上面（第１面）からは弥生時代末から鎌倉時代（主に13世紀代）の遺構を検出した。下面（第２面）、黄褐色砂礫層下の旧地表面上からは、調査区南東端において弥生時代後期の粘土採掘坑を検出した。

東壁の層序を挙げる。調査地点の大半には約1.5mの盛り土があり、多量のコンクリートガラ・アスファルトが混入していた。盛り土下には近現代の旧耕土２層、近世の耕土（黄灰色土）３層、中世後期に遡る耕土（灰色土）東壁４・５層、灰色土下には洪水砂礫を含む褐灰色土６層があり、この褐灰色土が13世紀頃の遺物を含む土壌層と考えられる。褐灰色土下には土壌化した灰色砂礫７層が堆積しており、８世紀代の遺物を含む土壌層である。

灰色砂礫の下には黄褐色砂礫19層が堆積しており、弥生時代後期から末にかけての洪水砂礫である。

弥生時代末から鎌倉時代の遺構はすべてこの上面において検出した。

黄褐色砂礫の下層には旧地表と考えられる34層があり、その下層が灰白シルト35層で構成される基盤層である。

上面からは弥生時代末の甕等、８世紀前半から中頃の須恵器杯・稜椀、緑釉陶器椀、平瓦片、平安時代後期～鎌倉時代の土師器皿・須恵器椀、中国製白磁玉縁碗・白磁端反り口縁碗のほか、華南産灰釉陶器壺片などが出土している。

下層の遺構からは弥生時代後期の甕・高坏などが出土している。

## ２．第１面の遺構

### 弥生時代末の溝

**ＳＤ３３０**（図版 54　写真図版 61）

**検出状況**　北東から南西へ流れ、調査区を横断した状態で検出した。

**形状規模**　検出した長さは 13m で幅約 1.1m、深さ約 0.2m を測る。断面は浅いＵ字形である。北東から南西 N34°Ｅ方向に流れ、南壁付近では更に西側へ向きを変えている。

**埋　　土**　洪水砂礫によって埋没している。

**出土遺物**　上下層で時期が判れる。

**時　期**　最上層には14世紀代の土器、下層には弥生時代末の多量の土器を包含しており、至近に同時期の集落が存在すると考えられる。

### 奈良時代の掘立柱建物跡

掘立柱建物跡2棟を検出した。

**ＳＢ３０６**（図版 57　写真図版 54～56）

**検出状況**　調査区南西部分で検出した。SB307と切り合い古い。

**形状規模**　南北棟の総柱建物、桁行の方位がN1.5°Wである。桁行南北３間（5.00m）、梁行東西２間（4.70m）・床面積23.5㎡を測る。柱穴は概ね隅丸方形か隅丸長方形を呈し、主柱穴である。柱間は桁行が１間1.72m・1.55m、梁行１間は2.35mを測る。加えて、棟行・梁行の柱通り上に８基の柱穴を0.75m～0.80mの間隔で検出している。これらは径20㎝前後の円もしくは長軸50㎝・短軸40㎝程度の楕円形で、束柱と考えられる。

**柱　　穴**　柱穴の形状は先述の通り、一辺が70㎝～100㎝、深さは30㎝～50㎝である。柱痕は概ね径30㎝前後である。掘形埋土にはベース土35層のブロックが多く含まれており、全体に灰白色を呈する。
断面観察から掘り替えが認められる。

**出土遺物**　柱穴P05から須恵器皿（2202）。P139から須恵器杯Ｂ（2203）が出土している。

**ＳＢ３０７**（図版58　写真図版54・57）

**検出状況**　調査区南西部分で検出した。SB306と切り合い新しい。北西隅の柱穴は調査区外にある。

**形状規模**　南北棟の側柱建物、桁行の方位がN3°Wである。桁行南北４間（7.80m）・梁行東西２間（4.50m）・床面積35.1㎡を測る。梁行方向の柱間は１間が2.25mである。桁行の柱間は１間1.73m、南１間は2.60mと長い。

**柱　　穴**　柱穴は一辺60㎝～70㎝の正方形を呈する。深さは34㎝～10㎝である。柱痕は概ね30㎝を測る。

**出土遺物**　図示できる遺物は出土していない。

## 中世前期の建物跡と柱穴群

SB306・SB307の東側を中心に200基近い柱穴を検出した。直径20㎝～30㎝の円形の柱穴で構成されている。白磁端反り碗・須恵器椀・土師器皿が柱穴内より出土している。複数棟の掘立柱建物跡が存在したと考えられ、4棟を復元した。時期は出土遺物から主に12世紀代～13世紀前半代と考えられる。

**ＳＢ３０８**（図版59　写真図版54・58・63）

**検出状況**　調査区南東部で検出した。SB310・SB311と切り合い古い。東側・南側は調査区外に延びる可能性は残る。

**形状規模**　南北棟の総柱建物、桁行の方位がN6°E、桁行４間（7.90m）以上・梁行２間（4.12m）以上、床面積32.5㎡以上を測る。桁行１間1.95m前後、梁行は東１間が2.10m・西１間が2.02mを測る。

**柱　　穴**　柱穴は円形もしくは楕円形で、掘形径は20㎝～80㎝、深さは35㎝である。P150は根石を持つ。また、白磁端反り口縁碗を埋納している。

**出土遺物**　柱穴P229から土師器小皿（2203・2204）、須恵器椀（2205）。柱穴P49から土師器小皿（2206）。P77179から土師器皿（2208）、瓦器椀（2209）。P58から平瓦（2210）。P150から白磁端反り口縁碗（2211）・土師質土錘（2212）。P180から土師器皿（2207）・華南産灰釉（黄釉）陶器四耳壺（2213）が出土している。

**ＳＢ３０９**（図版60写真図版54・58）

**検出状況**　調査区南東部で検出した。SB308・SB310・SB311と重複するが先後関係は不明。東側・南側は調査区外に延びる可能性は残る。

**形状規模**　南北棟の総柱建物、桁行の方位がN7°E、桁行４間（8.00m）以上・梁行２間（4.25m）以上・床面積32.5㎡以上を測る。南東２間分は柱がない。桁行１間2.00m、梁行は東１間が2.15m・西１間が2.10mを測る。

**柱　　穴**　柱穴は円形で、掘形径は 20 ㎝～40 ㎝、深さは 16 ㎝である。P220 には柱根が遺存していた。柱根は長 22 ㎝・径 14 ㎝が残存しており、樹種はヒノキ属である。

**出土遺物**　柱穴 P50 から土師器小皿（2214）。柱穴 P62 から土師器小皿（2215・2216）、柱穴 P218 から須恵器椀（2217）が出土している。

**ＳＢ３１０**（図版 61　写真図版 54）

**検出状況**　調査区南東部で検出した。SB309 と切り合い新しい。

**形状規模**　南北棟の側柱建物である。桁行の方位が N10°Ｅ、桁行３間（5.10ｍ）・梁行３間（3.70ｍ）・を測る。更に南桁行側に１間分 2.80ｍの柱通りがある。桁行１間 1.60ｍ・1.80ｍ、梁行は北梁行で 1.25ｍ・0.85ｍ・1.60ｍを測るが、全体にばらつきがある。合わせて床面積 29.2 ㎡を測る。

**柱　　穴**　柱穴は円形で、掘方径は 15 ㎝～25 ㎝、深さは 20 ㎝前後である。

**出土遺物**　柱穴 P173 からは土師器小皿（2218）が出土している。

**ＳＢ３１１**（図版 62　写真図版 54）

**検出状況**　調査区南東部で検出した。SB308 と切り合い、新しい。

**形状規模**　南北棟の総柱建物である。桁行の方位が N8°Ｅである。桁行３間（5.00ｍ）・梁行は南梁行で４間（3.80ｍ）を測る。桁行１間 1.80ｍ・1.40ｍ、梁行は北梁行で 1.20ｍ・1.10ｍ・0.70ｍを測るが、全体にばらつきがある。

**柱　　穴**　柱穴は円形もしくは不整な隅丸方形で、掘形径は 15 ㎝～40 ㎝、深さは 30 ㎝～40 ㎝である。

**出土遺物**　柱穴から図示できる遺物は出土していないが、P29 には柱根片が遺存していた。
樹種はヒノキ属である。

**ＳＫ７９３**（図版 63　写真図版 60）

**検出状況**　調査区南東隅に位置する。土坑底に器高 51.9 ㎝・最大腹径 47 ㎝以上の亀山焼甕を据えていたと考えられる。甕は内部に崩落しており、最大腹径部分は後世に削平を受け、残っていなかった。

**形状規模**　土坑の平面形は径 0.55ｍ・深さ 0.23ｍの円形である。半球形に掘られている。

**埋　　土**　甕本体は土坑に密着している。崩落した甕内には黄灰礫混じりシルトが堆積している。

**出土遺物**　亀山焼甕（2227）が出土している。甕の時期は 13 世紀前半と考えられる。

## ３．第２面の遺構　　弥生時代後期の粘土採掘坑群

調査区南東隅において粘土採掘坑群を検出した。調査区の隅から検出されており、南北約 2.50ｍ、東西約2.00ｍ、深さ0.45ｍの範囲で複数回掘削されている。各掘削坑は切り合い、重複しており、個々の規模は不明である。採掘坑中からは弥生時代後期の土器が出土している。今回検出した粘土採掘坑は平成 19 年度に調査された 76 区から続く粘土採掘坑群の西端に当たる。

**粘土採掘坑ＳＫ７９４**（図版 63・写真図版 61）

**検出状況**　調査区南東隅から検出した。

**形状規模**　東西N75°Ｗにとる不整な卵形の土坑である。東西長3.20ｍ・南北幅2.80ｍ・深さ0.35ｍから 0.50ｍを測る。断面は箱形の土坑が３基以上、複数切り合って形成されている。

**埋　　土**　ベース土のブロックで人為的に埋められている。

**出土遺物**　弥生土器甕（2052・2053）、弥生土器高坏（2054・2055）が出土している。

# 第４章　発掘調査の成果－遺物－

## 第１節　遺物の概要

池ノ下遺跡は広大な面積の調査を実施したため、旧石器時代から近代に至る遺物が出土した。また遺物の種類も土器・石器・金属器など多種多様な遺物が出土した。

遺物の出土状況は第３章の遺構の説明で述べたため、本章では弥生時代から古墳時代と古代から中世の土器、石器、金属器に分けて成果を述べる。

## 第２節　弥生時代から古墳時代の土器

### １．概要

弥生時代から古墳時代の遺構には溝・土坑などがある。特に土坑からは弥生時代後期後半から古墳時代初頭の土器が多く出土している。以下、地区ごとに説明する。

### ２．70 区（第２図　写真図版 63）

**ＳＤ３０６**

甕 2001 は大形甕の平底の底部で、外面は縦方向のミガキ痕跡が残り、内面は上方向のケズリを行う。

### ３．75 区（第２図　写真図版 63）

**ＳＫ５０３**

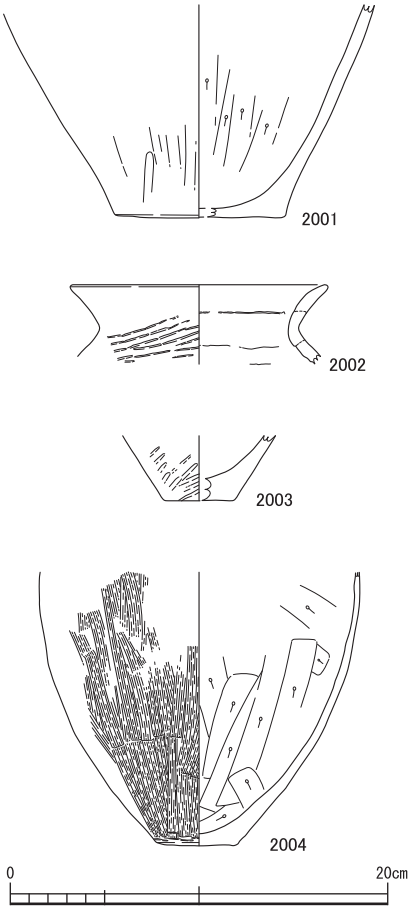
甕 2002 は体部からく字に外反する口縁部で体部外面はタタキ整形を行う。体頸部内面は粘土紐接合痕が残る。口縁部外面にススが付着している。

**ＳＫ５１２**

甕 2003 は平底の底部で、体部は右上がりのタタキ整形で仕上げている。底部から体部にかけて接地黒斑が存在している。

**ＳＫ５１０**

甕 2004 は縦長の体部で、平底である。外面は下部をタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行い、内面は縦方向のケズリを行う。体部下端から底部にかけて接地黒斑がある。体部に厚く帯状のススが付着し、それより下部はスス酸化部である。




第2図　土器　2001 ～ 2004

### ４．76 区（図版 64～66　写真図版 63～69）

**ＳＫ６０６**

2005は直口壺で、平底で球形の体部に直立する口縁

部が付く。口頸部には粘土紐の接合痕が残り、やや斜めに作っている。体部外面下半は縦方向のミガキを行う。底部から体部下半部には接地黒斑があり、対する肩部と口縁部の一部に覆接触黒斑がある。体下半部に部分的にススが付着する。

甕2006は体部からく字に外反する口縁を持ち、口縁端部を上方につまみ上げ凹線状の面を作る。体部外面はタタキ整形、内面はナデ調整を行い、上部は粘土紐接合痕跡や指オサエ痕跡が残る。外面下半部にススが付着している。

**ＳＫ６０７**

壺 2007 は底部が完存した破片で、平底である。体部外面はタタキ整形後縦方向のハケ調整、内面は斜め方向のハケ調整を行う。外面にはススが付着している。甕 2008 は体部からく字に外反する口縁をもつ。体部外面はタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。内面上部には粘土紐接合痕跡が残り、部分的に横方向のケズリを行う。外面下半部に薄くススが付着している。甕 2009 は底部が完存した破片で、平底である。体部外面はタタキ整形調整を行い、底部は木葉圧痕が残る。体部外面にはススが付着している。

**ＳＫ６１２**

甕 2010 は球形の体部に、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部を上方につまみ上げ面を作る。外面はタタキ整形後ハケ調整、内面はハケ調整を行う。上部には粘土紐接合痕や指オサエ痕が残る。外面下半部にススが付着している。内面の一部に薄いコゲが存在する。甕 2011 は底部の破片で、平底である。体部外面はタタキ整形後弱いハケ調整、内面はハケ調整を行う。体部最大径部にはススが付着し、底部付近はスス酸化部があり、対する内面にはコゲが付着する。

**ＳＫ６１３**

甕 2012 は長球形の体部に、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部を上方につまみ上げ凹線状の面を作る。外面はタタキ整形後ハケ調整を行う。内面は火回り不良黒斑がある。体部外面下半部には薄くススが付着している。

**ＳＫ６１４**

甕 2013 は底部が完存した破片で、平底である。体部内外面ともに縦方向のハケ調整を行う。内面には薄いコゲが残る。

**ＳＫ６１５**

甕 2014 は長球形の体部に、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部にタタキ工具でキザミを付ける。外面はタタキ整形後ハケ調整を行う。体部外面下半部および口縁部にはススが付着し、肩部に吹きこぼれ痕跡が残る。

**ＳＫ６１８**

甕 2015 は球形の体部に、く字に外反する口縁をもつ。外面はタタキ整形後ハケ調整、内面は上部に粘土紐接合痕や指オサエ痕が残る。肩部および口縁内面には覆接触黒斑痕跡がある。甕 2016 は体部からく字に外反する口縁をもつ。外面はタタキ整形後ハケ調整を行う。薄くススが付着している。甕 2017 は長球形の体部に、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部を上方につまみ上げ面を作る。外面はタタキ整形後弱いハケ調整を行う。内面は下部をハケ調整、上部は粘土紐接合痕や指オサエ痕が残る。体部外面下半部および口縁部にはススが付着している。肩部には吹きこぼれ痕跡が残る。

**ＳＫ６２２**

甕 2018 は球形の体部に、く字に外反する口縁をもつ。外面は縦方向のハケ調整、内面は横方向のケズリを行い、一部にケズリ滓が付着している。

**ＳＫ６２３**

甕 2019 は長球形の体部に、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部に面を作る。外面は縦方向のミガキ調整、内面は横方向のケズリを行う。内面は火回り不良黒斑がある。体部外面下半部および口縁部にはススが付着しており、吹きこぼれ痕跡が残る。

**ＳＫ６３２**

甕 2020 は小形の球形の体部に、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部を上方につまみ上げ面を作る。外面はタタキ整形後弱いハケ調整を行う。内面には部分的に粘土紐接合痕や指オサエ痕が残る。体部外面下半部および口縁部にはススが付着している。

**ＳＫ６４４**

甕 2021 は、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部に面を作る。体部内面は横方向のケズリを行う。甕 2022 は肩部から最大頸部の破片で、外面は縦方向のハケ調整、内面は最大頸部を横方向のケズリ、肩部は指オサエ痕跡が残る。胎土は鈍い黄橙色を呈し外面にススが付着している。

**ＳＫ６５５**

広口壺 2023 は球形の体部に直立する頸部と短く外反する口縁部をもつ。体上半部はタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。頸部にはタタキ工具の当たりが残り、口縁部には指爪の痕跡が残る。内面は横方向のハケ調整を行う。肩部には覆接触黒斑がある。壺 2024 は口縁部の破片で、口縁部は内傾して立ち上がる。ヨコナデを行い、内面は縦方向のミガキを行う。

**ＳＫ６６６**

壺 2025 は球形の体上半部の破片で、頸体部境には同一工具による沈線と直下に刺突文が巡る。内面は上部に指オサエの痕跡が残り、最大頸部は横方向のケズリを行う。

**ＳＫ６７０**

甕 2026 は底部が完存した破片で、底部周囲を突出させ、上げ底にしている。体部外面はタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。体下半部から底部にかけて接地黒斑があり、内面は火回り不良黒斑である。

**ＳＫ６７３**

鉢 2027 は底部が完存した破片で、平底である。体部内外面共に縦方向のミガキを行う。内面に熾溜黒斑がある。

**ＳＫ６８０**

甕 2028 は長球形の体部に、く字に外反する口縁をもつ。外面はタタキ整形後ハケ調整を行う。体部外面下半部にはススが付着し、被熱による剥離が著しい。

**ＳＫ６８５**

直口壺 2029 はやや扁平な体部から直線的に伸びる口頸部を持ち、口縁部に凹線を巡らす。体部下半部は縦方向のハケ調整を行い、最大径部は横方向のミガキを行う。内面下半部はハケ調整を行い、体上半部は粘土紐接合痕が残る。底部はやや上げ底気味の平底である。体部下半部に接地黒斑が残り、対する肩部に覆接触黒斑が弱く残る。

**ＳＫ６８７**

壺 2030 は球形の体部に外反する口頸部を持ち、口縁端部に面を作る。体部はタタキ整形後、斜め方向のミガキを行う。内面下半部はハケ調整を行い、体上半部は粘土紐接合痕と指オサエ痕が残る。体部外面下半部には厚くススが付着している。内面は火回り不良黒斑がある。

**ＳＫ７０１**

甕 2031 は長球形の体部に外反する口頸部を持ち、口縁端部に面を作る。体部はタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。内面下半部は縦方向のケズリ痕跡が残る。外面下半部と口縁部に厚くススが付着する。体部下半部はススが酸化しており、対する内面にはコゲが付着する。

**ＳＫ７０７**

甕 2032 は長球形の体部に、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部を上方につまみ上げ凹線状の面を作る。体部はタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。内面下半部は斜め方向のケズリ、上半部は横方向のケズリ痕跡が残る。体部外面最大径部および口縁部にススが付着し、吹きこぼれ痕跡が残る。体部下半部はススが酸化しており、対する内面にはコゲが付着する。

**ＳＫ７０８**

甕 2033 は球形の体部に、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部を上方につまみ上げ凹線状の面を作る。体部はタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。内面下半部は縦方向、上半部は横方向のハケ調整を行う。体部外面最大径部および口縁部にススが付着している。

**ＳＫ７１５**

甕 2034 は完存する底部で、周縁に粘土を貼り付け、置いた状態の平底である。体部は左上がりのタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。体部外面下半部に接地黒斑が、対する内面には熾溜黒斑がある。

**ＳＫ７１６**

甕 2035 は体部に、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部に擬凹線の面を作る。体部外面は縦方向のハケ調整、内面は横方向のケズリを行う。

**ＳＫ７２０**

壺 2036 は直立する頸部から外反する口縁部を持つ。体部外面はタタキ整形後、頸部にかけてハケ調整を行う。内面は頸体境に粘土紐接合痕跡が残り、体部は横方向のケズリを行う。

**ＳＫ７２５**

甕 2037 は長球形の体部にく字に外反する口縁をもつ。体部はタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。内面下半部は斜め方向のハケ調整、上半部は粘土紐接合痕が残る。また、下半部には熾溜黒斑がある。外面下半部と口縁部にススが付着する。

**ＳＫ７３０**

甕 2038 は長球形の体部に外反する口頸部を持ち、口縁端部に面を作る。体部はタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。甕 2039 は長球形の体部に、く字に外反する口縁を持ち、口縁端部に面を作る。体部外面は縦方向のハケ調整、内面は横方向のケズリを行う。

**ＳＫ７３３**

鉢 2040 は口縁部にかけて直線的に開き、外面はハケ調整後縦方向のミガキを行う。

**ＳＫ７３４**

甕 2041 は完存する底部で、底部および体部下端はタタキ整形を行い、体部は縦方向のハケ調整を行っ

ている。外面はススが付着し、下部はススが酸化しており、対する内面には帯状のコゲが付着する。鉢2042は口縁部が外反する大形の鉢である。

**ＳＫ７３７**

甕2043は長球形の体部に外反する口頸部を持ち、口縁端部は欠損する。体部は左上がりのタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。内面は粘土接合痕跡と横方向のハケ調整が残る。外面最大径部および口縁部に厚くススが付着している。

**ＳＫ７３８**

甕2044は完存する底部で、体部はタタキ整形を行い、内面はケズリ後ナデで仕上げる。底面は「－」のヘラ記号がある。外面にススが付着している。

**ＳＫ７４３**

甕2045は球形の体部に外反する口頸部を持つ小形の甕である。底部の器壁は他に比べ厚く、底部は未調整の為、本来丸底であったものが乾燥時に平底化している。体部下端に接地黒斑があり、対する内面に熾溜黒斑がある。

**遺構に伴わない土器**

甕2046は球形の体部に外反する口頸部を持ち、口縁端部に面を作る。体部はタタキ整形後、縦方向のハケ調整を行う。内面は粘土接合痕跡が残る。肩部に覆接触黒斑が弱く残る。甕2047は縦長の体部に短い有段口縁を持ち、口縁端部は上方に拡張し、擬凹線文を施す。体部外面は縦方向のハケ調整、内面は横方向のケズリを行う。甕2048はほぼ完存する底部は厚く、底面に葉脈痕が残る。体部外面はタタキ整形を行う。底面の一部に接地黒斑がある。甕2049は完存する底部で、体部および底面はタタキ整形を行い、のち体部はハケ調整を行う。体部下端に接地黒斑があり、対する内面に熾溜黒斑がある。甕2050は完存する底部で、体部はタタキ整形を行う。体部にススが付着している。

## ５．77区（第３図　写真図版70）

**ＳＫ７９４**

甕（2051・2052）・高坏（2053・2054）がある。

甕 2051 はく字に外反する口縁で口唇に面を持つ。体部外面は右上がりのタタキ整形後ハケ調整を行っている。内面は斜め方向のハケ調整を行う。甕2052は完存する底部で、体部外面は右上がりのタタキ整形で仕上げている。体部下半部から底部にかけては接地黒斑が残る。

高坏2053は坏部に稜を作り、口縁部が外反する。外面は横方向に細かいミガキを行う。高坏2054は脚部の破片で大きく広がる低い脚部でφ９㎜の円孔を外から内へ穿つ。

**ＳＤ３３０**

壺（2055）・甕（2056・2057・2058）・高坏（2059）・製塩土器（2060）・弥生土器壺（2061）がある。

壺2055は口縁部の破片で直線的に斜めに立ち上がる。

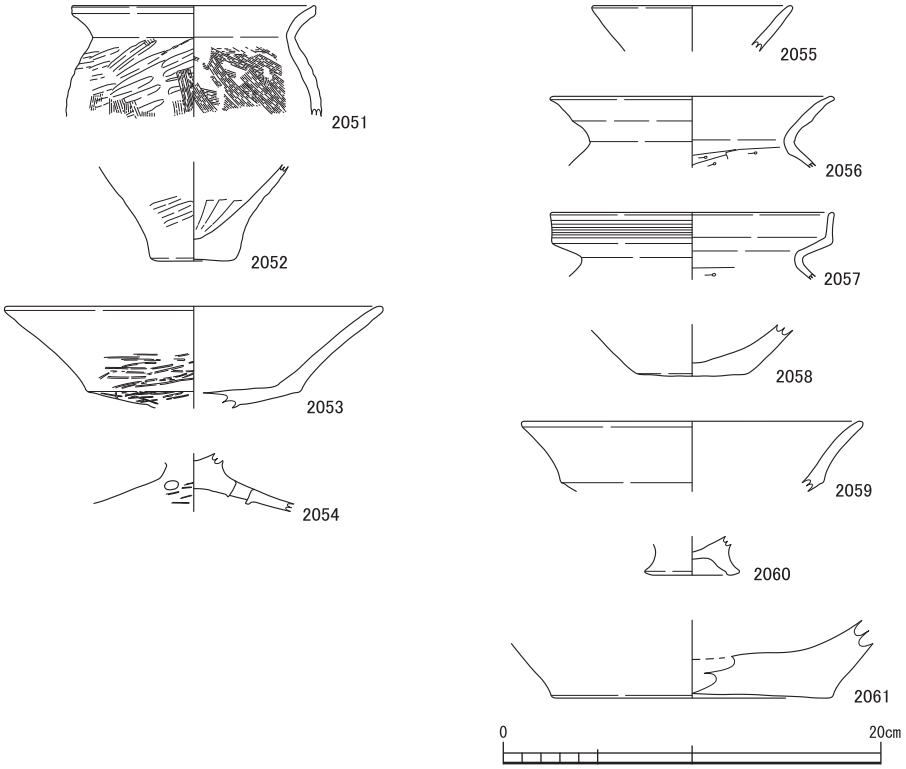
甕2056は口縁部の破片で、く字に外反する。体部内面上部は横方向のケズリを行う。

甕2057は口縁部の破片で、口縁部は直立し、外面に擬凹線を施す。体部内面上部は横方向のケズリを行う。甕2058は底部の破片で、底部から体部にかけて丸く立ち上がる。讃岐地域系の甕である。

高坏2059は坏部の破片で、坏部に稜を作り、口縁部が外反する。調整は磨滅のため不明である。

製塩土器2060は底部の破片で低い脚台が付く。二次的な火を受けている。

弥生土器壺 2061 は大形壺の底部で、底面は敷き砂の痕跡が残り、体部は形成時の粘土紐接合剥離痕跡が残る。




第3図　土器　2051 ～ 2061

# 第３節　古代・中世の土器

## １．概要

古代の土師器・須恵器ついては調査地西部の包含層から多く出土しており、中世の土器・陶磁器などは70区・76区・77区の掘立柱建物跡の柱穴や溝などに加え各区の包含層から出土している。ごく一部、近世の土器・陶磁器も報告している。なお、土師器煮炊具や陶磁器の記述にあたっては以下の文献の掲げる編年・分類などを参考とした。

土師器煮炊具：長谷川眞「播磨における土製煮炊具の様相」『中近世土器の基礎研究』21　2007 年
兵庫県教育委員会2004.3『兵庫津遺跡Ⅱ　浜崎・七宮地区の調査』第270冊
備前焼：乗岡実「備前焼擂鉢の編年について」『第３回中近世備前焼研究会資料』2000 年
亀山焼：永野千織「安芸地方における中世須恵器の研究：西条盆地の出土資料を中心に」『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要』2012 年
肥前系陶磁器：九州近世陶磁研究会『九州陶磁の編年』2000 年
輸入陶磁器：森田勉・横田賢次朗「大宰府出土の輸入陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集』４ 1978 年
小野正敏「15～16 世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』№.２　1982 年
太宰府市教育委員会『大宰府条坊跡ＸＶ－陶磁器分類編－』2000 年
硯について：九州歴史資料館『大宰府政庁周辺官衙跡Ｖ‐不丁地区　遺物編２』2014 年

## ２．70 区（図版 68・69　写真図版 71・73・74・75）

**ＳＢ３０１Ｐ０３**

2101 は土師器小皿である。底部は丸みを帯び、手捏ね整形と考えられる。口縁部は浅く、端部は丸く収める。

**ＳＡ３０２Ｐ１０４**

2102 は須恵器椀である。底部を欠く。心持ち体部は内湾して立ち上がり、口縁端部は若干外反する。中世前期と思われる。

**ＳＢ３０５Ｐ０９**

2103 須恵器椀である。口縁部のみ残る。低く外方へ開き、端部は稜をもつ。

**ＳＢ３０５Ｐ０２**

2104 は大鍛冶に使用したと考えられる、ふいご羽口。２重に巻いて径 10.05 ㎝の円筒を作っている。

**Ｐ７００２**

2105 は手捏ね整形の土師器小皿である。底部は丸みを帯びユビオサエ整形後内外面ともナデ、口縁部はヨコナデ調整を施す。

**Ｐ７００６**

2106 は手捏ね整形の土師器小皿である。底部は丸みを帯び内外面ともナデ、口縁部はヨコナデ調整を施す。2105 に比べ口径がやや大きい。

**Ｐ７００１**

2107 は手捏ね整形の土師器小皿である。底部はユビオサエ整形後内外面ともナデ、口縁部はヨコナデ

調整を施す。器壁が厚く、口縁端部は心持ち摘まみ上げられる。

**Ｐ７００５**

2108 は須恵器椀である。底部を欠く。体部・口縁部は外方に開き、口縁端部は外反する。

**ＳＫ３０４**

2109 は手捏ね整形の土師器皿である。底部を欠く。ユビオサエ整形後内外面ともナデ、口縁部はヨコナデ調整を施し、端部に稜をもつ。

**ＳＫ３０６**

2110 は手捏ね整形の土師器小皿である。底部は丸みを帯び内外面ともナデ、口縁部はヨコナデ調整を施し、端部は丸く収める。

**ＳＫ３０７**

2111 は手捏ね整形の土師器小皿である。底部は丸みを帯び内外面ともナデ、口縁部は強めのヨコナデ調整を施し、心持ち外反気味。端部は丸く収める。

**ＳＫ３０１**

2112 は手捏ね整形の土師器小皿である。底部は平たく、底径が大きい。内外面ともナデ、口縁部はヨコナデ調整を施し、端部は丸く収める。底部外面に黒斑が広がる。

**ＳＤ３１５**

2113～2120 を図示した。

2113・2114・2115 は何れも手捏ね整形の土師器小皿である。ユビオサエ整形後内外面ともナデ、口縁部はヨコナデ調整を施し、端部に弱い稜をもつ。2116 は手捏ね整形の土師器皿である。京都系土師器皿である。ヨコナデによって口縁部は外反し、体部と底部の内面境は大きく窪み、円圏が出来ている。口縁端部は摘み上げられる。16 世紀代と考えられる。2117 は口径に対し底径が大きい手捏ね整形の土師器皿である。器高は低く、口縁部は外反し端部は弱い稜をもつ。2118 は 2116 に近い形をもつが、底部・体部の境に稜を持ち、口縁部の器壁が厚い。2119 は土師質の土錘である。最大径を中位にもつ。2120 は小型の土師器三足脚付の羽釜である。直線的な筒状の体部に短い鍔をもつ。口縁端部は上部に面をもつ。口縁部はヨコナデ、体部にはユビオサエ痕が認められる。脚部の貼付痕が認められる。兵庫津羽釜タイプＡ系統Ｉ類に分類される。時期は 13 世紀後半代と考えられる。2121 は土師器三足脚付の羽釜の脚部である。脚部外面にはタテハケが全面に認められる。羽釜の貼付部分にはヨコハケが認められる。2122 は瓦器椀である。底部を欠く。口縁部内外面・体部内外面ともに横方向のヘラミガキが認められる。2123 は須恵器椀である。底部の大半を欠くが、平底。回転糸切りが認められる。体部との境にはユビオサエ痕が残る。斜め外方へ立ち上がり、口縁端部は肥厚し丸く収められる。2124 は須恵器甕の口頸部である。頸部外面に縦方向のタタキを施し、後内外面共にロクロナデを施す。口縁部は外反し端部は水平に伸びる。端部は外側に面をもち、上方に摘まみ上げられ、内側に凹部が巡る。2125 は白磁玉縁口縁碗である。口縁端部は上方に拡張され、外側に内傾する面をもつ。外面に貫入・ピンホールが認められる。

**ＳＤ３１２**

2126・2127 を挙げた。共に須恵器椀である。2126 は平底。底部外面に回転糸切りが認められる。体部は斜め外方へ立ち上がり、口縁端部は肥厚し丸く収められる。体部下半に籾痕が認められる。2127 は底部を欠く。体部は斜め外方へ、若干内湾気味に立ち上がり、口縁端部は肥厚し丸く収める。器壁が 2126 に比べ薄い。

**ＳＤ３１６**

2128 はロクロ土師器小皿である。口縁部は厚く、内面側に肥厚する。底部外面は糸切り後板状工具による調整を施す。2129 は手捏ね整形土師器小皿である。底部外面はユビオサエ整形後ナデ、内面はナデ。口縁部はヨコナデ調整である。

**包含層**

2130 は手捏ね整形の土師器小皿である。底部は心持ち丸みを帯び、口縁部は短く、内湾気味に外方に立ち上がる。底部内外面はナデ、口縁部はヨコナデを施す。2131 は瓦器椀である。底部を欠く。外面下半はユビオサエ痕が残る。口縁部は内外面ともヨコナデ。内面下半は横方向のヘラミガキ後粗い縦方向のヘラミガキを施す。2132 は須恵器小皿である。底部は右回転の糸切りを施す。口縁部は厚く、外方に開く。端部は丸く収める。2133 は須恵器捏ね鉢である。体部下半以下を欠く。体部は直線的に外方へ開き、口縁端部は上下に肥厚し、内傾して外側に面をもつ。

## ３．71 区（図版 69　写真図版 74）

**包含層**

2134 は白磁皿である。内外面ともに施釉しており、口縁端部のみ露胎のいわゆる口禿となっている。口縁端部は僅かに外反し、内側が若干窪む。大宰府編年で白磁皿Ⅸ－１ｂ類もしくはｃ類、13世紀後半～14 世紀前半と考えられる。

## ４．72 区（図版 69　写真図版 74）

**攪乱層**

2135 は平瓦である。凸面に格子タタキ、凹面に布目痕が認められる。

## ５．75 区（図版 69　写真図版 76）

**ＳＸ５１６**

2136 は SX216 の上面から出土した。ボタン形の摘みを持った須恵器杯蓋である。平坦な天井部から僅かに口縁部に向かって傾斜を見せる。内面に『×』のヘラ描きがある。時期は８世紀中頃か。

**包含層**

2137～2144 は褐灰シルト層を主にベース面までの掘削で出土した。2137 は土錘、中央部に最大径をもつ。2138 は摘みを欠く須恵器杯蓋である。平坦な天井部から僅かに口縁部に向かって傾斜し口縁端部は折り曲げ、断面三角形。外側に面をもつ。2139は須恵器杯Ａである。底部はロクロヘラ切りを施し平底である。杯部は外方に開き、ごくわずかに端部は外反する。器壁は薄い。2140 は杯Ａもしくは皿の底部である。底部はロクロヘラ切りを施し平底。内面に回転ナデを施す。内面にはヘラ描きの沈線および『个』状の墨書が書かれている。2141 は杯Ｂと考えられる。底部は欠く。杯部が直立し、口縁端部が僅かに外反する。2142は須恵器皿である。口縁部はロクロケズリによって突出し、口縁部は低く外方に開く。端部は小さく外側に拡張する。時期は 10 世紀前半代。2143 は須恵器捏ね鉢である。体部下半・底部を欠く。口縁部は外方に開き、端部は上方に拡張、内傾して外側に面をもつ。時期は13世紀後半と考えられる。2144 は近世溝SD324（古）から出土した施釉陶器椀底部である。断面三角形の高台をもつ。高台及び高台裏は露胎。見込みに草花文が描かれている。

## ６．76 区（図版 70～72　写真図版 77～83）

### ＳＫ６５０

2145 は須恵器杯Ｂ底部である。底部外面はロクロヘラケズリの後ナデ。杯部との境近くに、小さく断面三角形の高台が貼付されている。底部外面高台裏には『福』の墨書がある。時期は８世紀代か。

### ＳＫ６０８

2146 は須恵器杯Ｂ底部である。杯身底部外面はロクロヘラ切りの後ナデ調整。杯部内外面はロクロナデ、底部内面には仕上げナデを施す。杯部との境近くに外方に踏ん張る小さな高台が貼付されている。2157 と類似する。時期は８世紀代中頃か。

### ＳＫ６９９

2148 は８世紀代の土師器甕である。屈曲して開く口縁にラグビーボール形の体部が付く。外面に煤が付着する。

### ＳＤ３２９

2147 は須恵器皿で、高台がつく台付皿の可能性がある。口縁部は強いロクロナデによって外反し、中位と端部に稜をもつ。皿は内外面共にロクロナデを施す。時期は８世紀末～９世紀初めか。

### 包含層

2149～2162 は灰色粘質シルトから出土した。

2149 は土師質フイゴ羽口である。先端部は欠損している。 径約７cm前後と考えられる。孔は欠損のため不詳。表面は融解している。2150 は土師質の土錘である。最大径は中央よりも一方に偏っている。2151 は須恵器脚部、台付壺の脚部と考えられる。６世紀末～７世紀初頭か。方形の透かしが認められる。2152 は須恵器底部である。底部に回転糸切り、緩やかに上方へ開く。内面に墨書『□』がある。釈読は不明。2153 は須恵器杯蓋Ｂである。扁平な笠形、平坦な天井部から外縁部は緩やかに屈曲し水平に伸びる。端部は短く折り曲げられ、外側に面を持つ。内面は平滑で墨痕が若干残る。転用硯と考えられる。2154 は須恵器杯蓋Ｂである。扁平な笠形、平坦な天井部から外縁部は緩やかに屈曲し水平に伸びる。端部は短く折り曲げられ、断面三角形、外側に面を持つ。外面はロクロケズリ後ナデ。内面は平滑で転用硯の可能性がある。2155は須恵器杯蓋Ｂである。扁平な笠形、天井部から外縁部は緩やかに屈曲し水平に伸びる。端部は短く折り曲げられ、断面三角形、外側に面を持つ。2156 は須恵器杯Ａである。平坦な底部から杯部は内湾して立ち上がり、口縁部は心持ち内湾し、端部は丸く収める。底部は回転ヘラ切りの後板状工具によるナデを施す。2157 は杯Ｂである。平坦な底部から杯部は内湾して立ち上がる。口縁部端部を欠く。端部は丸く収める。底部は平坦で、ロクロヘラ切りの後ナデを施す。杯・底部境に甘い断面三角形の高台を貼付している。2158 は須恵器皿。底部はロクロヘラ切りの後ナデ、口縁部は低く外方に開き、口縁部は外反し水平に伸びる。端部は欠く口縁部内外面は右回転のロクロナデ、内面には仕上げナデを施す。内面は平滑で、薄い墨が付着する。転用硯と考えられる。2158 は須恵器杯もしくは皿の底部である。外面はロクロケズリの後ロクロナデ、内面はロクロナデを施す。外面には一本線のヘラ記号、内面は平滑で、転用硯の可能性がある。2160は須恵器円面硯である。陸部及び脚部下半を欠く。脚部の透かしは２か所認められるが、透かし幅・単位は不明。2161 は無釉陶器壺下半である。底部の大半を欠く。体部との境付近はヘラ切り調整、内面はナデ調整。体部内外面はロクロナデ、外面下半にユビオサエ痕が残る。胎土は白色の粒を含み、粘質・精良・練り込みの線が断面に認められる。中国南方系あるいはベトナムなどの産地の可能性がある。2162は龍泉窯系青磁劃花文椀

である。内面口縁端部下に沈線が走る。体部下半以下を欠く。12 世紀中頃～後半の時期が考えられる。

2163～2169 は灰色シルトから出土した。

2163 は手捏ね土製品である。ユビオサエで整形されている。不整形な円錐状を呈しており、脚付皿もしくは杯の脚の可能性が考えられる。2164 は須恵器杯底部片と考えられる。外面はロクロヘラ切り、内面はロクロナデ後ナデが認められる。外面には『□』の墨書が認められる。2165 が須恵器杯Ｂの蓋である。扁平な笠形の形状である。摘み部分は欠く。ロクロケズリの後丁寧なロクロナデを施した平坦な天井部から外縁部は緩やかに屈曲し水平に伸びる。端部は短く折り曲げられ、外側に面を持つ。下端は丸みを帯びる。器壁は全体に厚い。内面に擦痕が認められ、転用硯と考えられる。2166は須恵器杯蓋である。平坦な天井部から屈曲し、口縁端部は折り曲げ、断面は小さな三角形となり、外側に面をもつ。外面天井部はロクロケズリ後ロクロナデ、口縁部及び内面はロクロナデ。外面天井部と口縁部の境には波型の工具痕が残る。内面には墨が薄く付着しており、擦痕が認められる。転用硯と考えられる。2167 は須恵器杯Ａである。平坦な底部から杯部は外方に直線的に立ち上がり、口縁部は心持ち外反し、端部は丸く収める。底部は右回りの回転ヘラ切りの後一部ナデを施す。底部内面・杯部内外面はロクロナデを施す。外面に火襷が認められる。2168 は須恵器壺もしくは須恵器杯Ｂの高台と考えられる。破片上部に接合痕が認められる。2169 は白磁玉縁口縁碗である。底部を欠く。玉縁外側面には釉ダレが波状に認められ、体部外面にはピンホールが点々と認められる。内面口縁部下にはロクロ成形時の浅い沈線が一巡している。大宰府編年白磁碗Ⅳ類にあたる。 2170～2180 は暗褐灰色粘質シルトから出土した。2170 は土師器杯Ａ、底部中央を欠く。丸みを帯びた底部から内湾気味に体部が立ち上がる。口縁部は外反し、端部は内湾、内面に凹部を作る。先端部は丸く収める。体部外面にはユビオサエ痕が残り、底部・体部内外面はナデ、口縁部内外面はヨコナデ調整を施す。2171 は土師器杯、底部を欠く。丸みを帯びた底部から内湾気味に体部が立ち上がり、口縁部は外反して、内湾、内面に沈線が巡る。端部は稜をもつ。体部外面には 3 条の沈線が巡る。体部内外面はナデ、口縁部内外面は強いヨコナデ調整を施す。内外面には化粧土を施す。2172は土師質土錘である。最大径を中位に持つ。2173は土師器鍋の把手である。断面形状は長方形、上部に向かって外反する。先端を欠く。2174は須恵器杯蓋である。扁平な笠形、平坦な天井部から外縁部は緩やかに屈曲し口縁部に至る。端部は短く折り曲げられ、断面三角形、外側に面を持つ。天井部は右回りのロクロケズリ、外縁部と内面はロクロナデの後、内面に仕上げナデを施す。2175 は須恵器杯蓋である。2174 に比べ扁平な器形、平坦な天井部から外縁部は緩やかに屈曲し口縁部に至る。口縁端部は短く折り曲げられ、鈍い三角形の断面、外側に面を持つ。天井部は右回りのロクロ削り、外縁部と内面はロクロナデの後、内面に仕上げナデを施す。2176 は須恵器杯Ｂ蓋である。ボタン形の摘みと天井部の一部が残る。2177 は須恵器稜椀の蓋である。平坦な天井部に断面三角形の環状の摘みが貼付されている。天井部外面はロクロヘラ切りの後ロクロナデ、内面は丁寧なナデが施されている。2178 は須恵器杯Ａである。平坦な底部から杯部が外方に直線的に立ち上がり、口縁部は強いロクロナデを施す。口縁端部は稜をもつ。底部は右回りのロクロヘラ切りの後ナデ。底部内面・杯部内外面はロクロナデを施す。内面に火襷が認められる。2179 は須恵器杯Ａである。平坦な底部から杯部は外方に直線的に立ち上がり、口縁端部は稜をもつ。底部は右回りの回転ヘラ切りの後ナデを施す。底部内面・杯部内外面はロクロナデを施す。口縁部は強いロクロナデを施す。底部外面に火襷が認められる。2180は須恵器椀底部である。底部は突出し、内面は中央に向かい緩やかに窪み、中央にユビオサエを施す。底部外面は左回りの回転糸切りを施す。体部外面は強いロクロナデによって弱い稜が目立つ。

2181～2195 は粗砂混じりシルトから出土した。

2181 は土師器皿である。中央が上げ底となった底部から体部が内湾して立ち上がり口縁部はヨコナデによって心持ち外反する。端部は丸く収める。底部外面はヘラケズリもしくは板ナデ、体部との境部分は面取りを施す。口縁部内外面はヨコナデ調整を施す。内外面には化粧土を施す。2182 は土師器杯Ａ、底部を欠く。体部は直線的に外方に立ち上がり、口縁部は厚みを増し、紡錘形である。端部は摘み上げ、内面に沈線が巡る。内外面には化粧土を施す。内面には漆が付着しており、パレットとして使用されたと考えられる。2183 は 2197 と類似する製塩土器である。口縁部は屈曲して直口する。端部上面に面を持つ。器壁は、体部部分は厚く、口縁端部に向かって厚みが減じてゆく。口縁部分内外面ともにユビオサエ整形である。2185 は土師質の土錘である。両端が窄まり、体部は細長い管状である。2186 は土師器底部片と考えられる。内外面には化粧土を施す。内面には漆が付着しており、パレットとして使用されたと考えられる。2187 は瓦質鍋である。体部下半以下を欠く。体部は内湾気味に上方へ立ち上がり、頸部で屈曲し、口縁部は外方へ開き、受け口状に内湾する。端部外側には内傾した面をもつ。体部内外面はユビオサエ整形の後、外面はナデ、内面は板ナデ及びナデ調整を施す。口縁部はヨコナデを施す。兵庫津編年鍋形Ⅱ類に属し、時期は 13 世紀後半と考えられる。2188 は平瓦である。凹凸面共にナデ、端部は面取りを行っている。2189 は土師器杯蓋である。須恵器杯蓋 2190 に比べ扁平な器形、広い天井部に短い口縁部が付き、口縁端部に至る。端部は丸く玉縁状に収められる。天井部は内外面ともナデ、口縁部はヨコナデを施す。内外面には化粧土を施す。2190 は須恵器杯蓋である。扁平な笠形、平坦な天井部から外縁部は緩やかに傾斜し口縁部に至る。端部は短く折り曲げられ、断面三角形、外側に面を持つ。天井部は右回りのロクロケズリ、外縁部と内面はロクロナデ。2191 は須恵器杯Ａである。底部は右回転のロクロヘラ切りの後ナデ調整を施し、全体に丸みを帯びる。体部との境は稜がなく丸い。口縁部は外反し端部は丸く収める。志方窯跡群中谷４号窯（８世紀後半）の時期に対応か。2192 は須恵器杯Ｂである。底部を欠く。体部・口縁部は斜め上方に立ち上がり端部を丸く収める。外面口縁部下の全面に弱い横方向のヘラミガキを施す。口縁部及び内面はロクロナデを施す。底部境付近に強いヘラミガキを施している。2193は緑釉陶器である。丸みを帯びた底部をもち、高台を体部との境に貼付している。内面見込みはヨコナデもしくはミガキ、体部内面はナデ、外面はロクロナデが認められる。2194 は須恵器鉢、底部を欠く。底部と体部の境はロクロヘラケズリを施し丸い。口縁部は外反し、端部は外側・上部に面を持つ。2195は須恵器円形硯である。皿もしくは杯Ａの一方に脚部がついた硯と考えられる。底部内面が緩やかに盛り上がり陸としている。外縁に沿って窪み、体部もしくは口縁部へと続く屈曲がある。底部外面には一部欠損した脚部と脚部の剥離痕があり、少なくとも２か所に逆台形と推測される脚部が底部と体部の境に貼付されていた。底部外面の脚部周辺はロクロケズリを施し、内側は一方向の強いナデ調整が施されている。内面はロクロ目が顕著なロクロナデを施している。内面は平滑で、擦過痕が認められることから硯と判断した。本硯の類例は、大宰府政庁周辺官衙跡から出土しており、定形硯Ⅱ類円形硯に分類される。2195は大宰府政庁周辺官衙跡　不丁地区出土例を参考とし、脚を２個とした。

2196～2201 は機械掘削・側溝から出土した。

2196 は土師器カマドの一部と考えられる。中央の鍔の部分は端部が欠損している。体部側は粗い刷毛目を施す。2196 は 2182 と類似する製塩土器である。口縁部は屈曲して直口する。端部は丸く収める。内外面ともにユビオサエ痕が顕著である。2198 は大型の須恵器蓋と考えられる。口縁部周辺のみ残存する。平坦な天井部から口縁部に向かって湾曲し端部に至る。端部は丸く収めるが、稜を伴う。天井部は

内外面ともナデ、口縁部はロクロナデを施す。2199 は須恵器台付皿である。輪状の高台、平坦な底部から湾曲して口縁端部に至る。口縁端部は巻き込むように端反りする。底部外面はロクロヘラ削りの後、ロクロナデ・ナデ。内面は丁寧なロクロナデ後仕上げナデを行い平滑である。口縁部は内外面ともにロクロナデを施す。９世紀前半代と考えられる。2200 は須恵器杯Ｂである。杯身底部外面はロクロヘラケズリの後ロクロナデ調整。杯部との境近くに高台が貼付されている。高台は小さく断面三角形である。杯部は内湾気味に立ち上がり、口縁端部外面はロクロナデによって心持ち外反気味。器壁は厚い。時期は 10 世紀代か。2201 は須恵器蓋の摘みである。円錐状に尖り、蓋身部分との境は細くなる。全体にロクロナデを施す。広口壺類の蓋と考えられる。

## ７．77 区（図版 73～75　写真図版 85～90）

2202～2250 を挙げた。

### ＳＢ３０６Ｐ０５

2202 は柱穴 P05 掘形内から出土した須恵器皿である。底部を欠く。体部・口縁部は外方に大きく直線的に開き、端部は端反りとなる。体部は右回転のロクロケズリ。口縁部はロクロナデ。８世紀後半代か。

### ＳＢ３０６Ｐ１３９

2203 は柱穴 P139 掘形内から出土した。須恵器杯Ｂである。底部を欠く。底部・体部との境は丸く、沈線が巡る。体部・口縁部は直線的に外方に立ちあがり口縁端部は紡錘形となる。内外面ともにロクロナデ、口縁端部は強い丁寧なロクロナデを施す。

### ＳＢ３０８Ｐ３１

2204～2206 は柱穴 P31 から出土した。2204 は手捏ね整形の土師器小皿である。底部は丸みを帯び、中央はユビオサエの凹凸が顕著である。口縁部は短く、内湾気味に立ち上がる。口縁端部は外側に面をもつ。底部内外面はナデ、口縁部はヨコナデを施す。2205 は手捏ね整形の土師器皿である。底部外面は平坦。口縁部との境は丸く、ユビオサエ痕が残る。口縁部は内湾して立ち上がる。口縁端部は外側に面をもつ。底部内外面はナデ、口縁部はヨコナデを施す。2206 は須恵器椀である。底部を欠く。口縁部に強いロクロナデを施し口縁部は外反、端部は肥厚し丸く収める。体部・口縁部の境はロクロナデの強弱によって弱い稜となる。

### ＳＢ３０８Ｐ４９

2207 は柱穴 P49 から出土した手捏ね整形の土師器小皿である。底部はやや丸みを持つ。口縁部との境は丸く、内湾気味の短い口縁部が付く。端部は丸く収める。ユビオサエ整形後、底部内外面はナデ、口縁部は ヨコナデを施す。

### ＳＢ３０８Ｐ１７９

2209・2210 は柱穴 P179 から出土した。2209 は手捏ね整形の土師器皿である。底部を欠く。底部・体部の境は丸く、体部はヨコナデによって外反気味、口縁部はヨコナデによって端部に内傾する面を持つ。2210は掘形から出土した瓦器椀である。底部を欠く。体部は内湾気味、口縁部は外反する。外面口縁部と内面口縁端部はヨコナデ、体部はユビオサエ整形痕が顕著。内面は体部・口縁部共にナデ・ヨコナデののち横方向のミガキを施す。

### ＳＢ３０８Ｐ５８

2211 は柱穴 P58 から出土した平瓦である。凹面には布目、凸面にはタタキが施される。断面観察から

瓦は表・裏２枚の粘土を貼り合わせて作成した可能性が高い。

**ＳＢ３０８Ｐ１５０**

2212・2213 は柱穴 P150 から出土した。2212 は白磁端反り口縁碗で、高台は細く高く直立し断面形状は矩形である。体部は内湾し、口縁部は屈折し外方に伸びる。釉は体部下半部まで掛かる。ロクロケズリは体部中位以下である。大宰府編年白磁碗Ｖ類である。2213 は土師質土錘で、管状の形状である。

**ＳＢ３０８Ｐ１８０**

2208 は手捏ね整形の土師器小皿。底部はやや丸みを持つ。口縁部との境は丸く、内湾気味の短い口縁部が付く。端部は丸く収める。ユビオサエ整形後、底部内外面はナデ、口縁部はヨコナデ調整を施す。2207に比べ器高がやや高い。2214 は柱穴掘形から出土した。華南産灰釉（黄釉）陶器四耳壺の口頸部片である。大宰府条坊跡編年の陶器耳壺Ｖ−２類に相当する。耳壺Ｖ−２類は肩部には横形の四耳を貼付し、各耳を巡って波状沈線が１条巡る。2214 では耳の貼付痕と波状沈線の一部が残っている。肩部と頸部の境目には断面三角形の凸帯が巡り、両者の境を強調している。頸部は内傾し、口縁部は短く外へ屈折し、端部は肥厚、外側と上面に面をもつ。口縁部から体部上半にはロクロナデの痕跡が顕著である。内面は、頸部・肩部の境は甘い。横方向に強いナデが認められ、板状工具を使用したか。胎土は灰白〜灰褐色で精良である。内外面共に灰釉が掛かる。華南産灰釉陶器片は別個体の 2246 が包含層から出土している。

**ＳＢ３０９Ｐ５０**

2215 は手捏ね整形の土師器小皿。底部は心持ち丸みを帯び、口縁部は短く、内湾気味に外方に立ち上がる。底部外面には指オサエ痕が顕著である。底部内外面はナデ、口縁部はヨコナデを施す。

**ＳＢ３０９Ｐ６２**

2216・2217 が出土した。2216 は手捏ね整形の土師器小皿である。底部中央が微かに盛り上がる個体である。口縁部は内湾し、端部は丸く収める。底部内外面はユビオサエ整形後ナデ、口縁部はヨコナデを施す。内面には白色の化粧土が遺存する。2217 は掘形内から出土した。手捏ね整形の土師器皿である。底部を欠く。口縁部は大きく内湾し、口縁端部は上方に摘まみ上げられ、外傾する面をもつ。下半は内外面ともナデ、上半はヨコナデ調整を施す。内面に化粧土が遺存する。

**ＳＢ３０９Ｐ２１８**

2218 は須恵器椀である。平底から内湾して体部が立ちあがり、口縁部に至る。口縁部は丸く収める。底部外面は回転糸切り、内面にはロクロナデの後仕上げナデを施す。体部・口縁部は内外面共にロクロナデ、ロクロ目が顕著である。

**ＳＢ３１０Ｐ１７３**

2219 は手捏ね整形の土師器小皿である。底部は丸く口縁部は外方に浅く開く。端部は丸く収める。底部内外面はユビオサエ整形後ナデ、口縁部はヨコナデを施す。器壁が厚く、歪みの激しい個体である。

**ＳＢ３１０Ｐ１８２**

2224 はＰ182 から出土した土師質鍋。半球形の体部に屈曲し外側に伸びる口縁部が付く。口縁端部は肥厚し、外側に面をもつ。体部外面はタタキ整形を行い、後、粗いタテハケ、内面は粗いヨコハケ。口縁部外面はヨコナデ、内面はヨコハケを施す。内外面に煤が付着する。底部外面にはタタキ目が残る。

**各柱穴出土の遺物**

建物として復元できなかった柱穴出土の遺物を挙げる。2220 は P80 から出土した手捏ね整形の土師器小皿。器高は低い。平坦な底部から口縁部は外反して外方に開く。端部は水平に伸び、稜を持つ。底部

外面はユビオサエ整形後ナデ。内面はナデ。口縁部はヨコナデ調整。2221 はＰ77059 から出土した。手捏ね整形の土師器小皿である。底部は心持ち丸みを帯び、口縁部は短く、内湾気味に外方に立ち上がる。底部外面にはユビオサエ痕が顕著である。調整は、底部内外面はナデ、口縁部はヨコナデを施す。2215 と類似した個体である。2222は Ｐ77070 から出土した。手捏ね整形の土師器小皿である。底部は丸みを帯び中央部はユビオサエで凹みをもつ。底部内外面はユビオサエ整形後ナデ調整、口縁部は強いヨコナデによって短く外反し、底部との境と口縁端部に稜をもつ。底部は厚く、焼成は 2207 に類似する。2223はＰ77254から出土した。手捏ね整形を行う、いわゆる京都系土師器皿である。底部は平坦で、体部との境は丸い、口縁部は大きく外反し、端部は内湾する。底部内外面はナデ調整、口縁部はヨコナデを施す。体部から口縁部にかけて粘土紐巻き上げ痕が認められる。口縁部外面には種子痕が認められる。2225 はＰ77155 から出土した。土師質の鍋である。口縁部は外側に肥厚し、端部は丸く収める。口縁部から体部外面にはユビオサエ痕が見受けられ、内面にはヨコハケ調整を施す。端部はヨコナデ調整を施す。内面にはススが付着する。2226 はＰ77155 から出土した瓦質羽釜である。口縁部は直立し端部は上部に面をもつ。口縁端部下に短い鍔が付く。外面体部はユビオサエの後ナデ、内面はヨコ方向のナデ調整を施す。兵庫津羽釜タイプＡＩ類にあたる。2227はＰ77052から出土した。褐釉陶器片である。中国南方系の陶器壺肩部周辺の部位と考えられる。外面は唐草文をヘラ描きし施釉されている。壺の腹径は 20 ㎝程度と考えられる。同一個体と考えられる破片が複数出土している。

**土坑ＳＫ７９３**

2228 は土坑内に埋置された亀山焼甕である。底部は丸く、胴部はやや長胴と考えられる。口縁部は中位で屈曲し外反するが、水平にはならず、外方へ開く。口縁端部の外側面は外傾し、窪む。口縁部から底部まで外面は格子目のタタキを施すが、口縁部はロクロナデによってナデ消されている。内面は、口縁部はロクロナデ、体部上面は同心円文の当て具痕をナデ消している。下半から底部については、丸い痕跡が認められ、ユビオサエ痕もしくは丸石などを当て具に使用した可能性がある。これらの痕跡上にユビナデ痕が認められる。岡田編年の第２段階（13 世紀前半）の製品と考えられる。

**包含層**

2229～2250 は 77 区の各層から出土した。2229 は須恵器杯Ｂ蓋である。平坦な天井部から口縁端部に至る扁平な器形。口縁端部は折曲げられ、外側に面を持つ。端部は丸く収める。天井部はロクロケズリ、外縁部はロクロナデを施す。８世紀第１四半世紀の時期と考えられる。2230 は須恵器稜椀の蓋である。環状の摘みは剝離している。笠形の天井部から屈曲して口縁端部に至る。端部の断面は三角形、端部外側に面を持ち、くぼむ。天井部はロクロケズリ、内面は平滑で、転用硯に使用したと考えられる。平城宮Ⅲ段階の時期と考えられる。2231 は須恵器皿である。第１面の上層礫混じり灰色粘質土（７層）から出土した。底部外面は右回転のロクロヘラケズリ、底部内面・口縁部内外面はロクロナデを施す。外面底部・口縁部の境はロクロケズリによって丸い。８世紀後半の時期と考えられる。2232 は須恵器杯Ａである。ロクロヘラ切りを施した平底から体部は内湾して立ち上がり、口縁部は外反する。端部は肥厚し、内側に弱い稜を作り出す。底部・体部の境はロクロケズリを施す。体部・口縁部内外面はロクロナデを施す。８世紀第２四半世紀の時期と考えられる。2233 は須恵器稜椀である。底部を欠く。口縁端部は玉縁を作り出している。機械掘削時に出土した。2234 は須恵器杯Ｂ、底部を欠く。深い器形である。体部下半は若干丸みをもつが、口縁部は外上方に真直ぐ伸び、口縁端部は尖る。内外面共に右回転のロクロナデを施し、下半はロクロ目が目立つ。類似する志方窯跡群中谷４号窯（８世紀後半）の時期に対応か。

2235は調査区南東隅から出土した。須恵器杯Ｂ、口縁部を欠く。平坦な底部に体部との境際に低い高台が貼付される。高台畳付は内側のみ接している。底部外面はロクロヘラ切り後ロクロナデ、工具の圧痕が認められる。内面は、中央部は平坦で仕上げナデを施す。体部との境が大きくくぼむ。体部は上方に真直ぐ伸びる。８世紀前半以降の時期が考えられる。2236は遺構面直上から出土した。須恵器杯Ｂ底部である。体部との境に短く踏ん張る高台が付く。高台裏はロクロヘラ切り、内面はロクロナデ後仕上げナデを施す。８世紀前半の時期と考えられる。2237は平瓦片である。西側側溝から出土した。凹面には布目、凸面には格子目タタキを施す。焼成後凹面から凸面側に穿孔されている。2238は第３層（近世耕土）から出土した。京都系緑釉陶器底部である。短い高台が付き、高台畳付から高台裏にかけては露胎である。底部内面には細い沈線が見込みに巡り、内側にはヨコ方向のヘラミガキの後ロクロナデを施す。縁を打ち欠き、円盤状土製品に転用している。2239は第２・３層（近現代の旧耕土・近世耕土）から出土した。手捏ね整形の土師器小皿である。底部内外面共にユビオサエ整形痕が残る。整形後内外面ともナデ、口縁部はヨコナデを施し、端部に弱い稜をもつ。2240はSD330上面の窪みに落ち込む近世耕土中から出土した土師器鍋である。口縁部は直立し、口縁端部は断面三角形に外方に摘まみだされる。口縁部は内外面ともヨコナデ。最大径は体部中位にもつ。体部外面は右上がりの平行タタキ、内面は当て具痕が残る。兵庫津編年甕タイプⅡ類、14世紀前半代と考えられる。2241は瓦質羽釜口頸部片である。第３層（近世耕土）から出土した。直立する口縁部に断面長方形の鍔が水平に付く。内外面共に粗いヨコハケを施し、口縁部内面の端部付近と外面鍔部より上についてヨコナデを施す。兵庫津羽釜タイプＢ系列Ⅱ類に近いものか。2242は調査区南東部、地形に沿って落ち込む第３層（近世耕土）から出土した瓦質羽釜片である。体部に脚部の剥離痕が残る。口縁部は内傾し、口縁端部は強いヨコナデで窪み、端部は丸く収める。口縁部下に角頭の短い鍔がやや上方に向いて付く。体部外面にはユビオサエ痕が顕著、内面はナデ調整を施し、ハケ調整は認められない。形態からは兵庫津編年羽釜タイプＢ系列ⅡＡ類に対応する。14世紀後半代と考えられる。2243は第３層（近世耕土）から出土した瓦質羽釜脚部である。外面にタテハケ、体部との接合部にもハケ目が認められる。2244・2245は土師質土錘である。2244は掘削残土中から、2245は第３層（近世耕土）から出土した。2246は華南産灰釉（黄釉）陶器四耳壺の口頸部片である。大宰府条坊跡編年の陶器耳壺Ｖ－２類に相当する。耳壺Ｖ－２類は肩部には横形の四耳を貼付し、各耳を巡って波状沈線が１条巡る。肩部と頸部の境目には断面三角形の凸帯が巡り、両者の境を強調している。頸部は内傾し、口縁部は外反、端部は外へ拡張し上面に面をもつ。口縁部から体部上半にはロクロナデの痕跡が顕著である。内面は、頸部・肩部の境は甘い。横方向にナデが認められ、板状工具を使用したか。胎土は灰白色で精良である。内外面共に灰釉が掛かる。別個体の華南産灰釉陶器2214がSB308P180から出土している。2247は白磁玉縁口縁碗、体部下半以下を欠く。第３層（近世耕土）から出土した。大宰府編年白磁碗Ⅳ類である。玉縁は下側への肥厚はない。2248は第２・３層（近現代の旧耕土・近世の耕土）から出土した。同安窯系青磁碗である。体部は丸く口縁部の外面には浅い沈線状の凹み、内面には体部との境に界線がある。外面には６本の櫛目、内面には文様の一部が認められる。大宰府分類 同安窯系青磁碗Ⅰ-1ｃ類に属す。12世紀中頃～後半の時期と考えられる。2249は調査区北西隅第２・３層（近現代の旧耕土・近世耕土）から出土した。龍泉窯系青磁碗底部である。内面及び外面高台外側まで施釉、畳付及び高台裏は露胎である。内面に印花が薄ら認められる。外縁が打ち欠かれ円盤状にされている。2250は調査区北西隅第２・３層（近現代の旧耕土・近世耕土）から出土した青磁碗である。体部下半以下が残る。高台際から体部が外方に開く。外面は上部に釉が残る以外は高台裏まで露胎である。見込みに蛇の目釉剥ぎ、内面にもロクロケズリのカンナ痕が認められる。

## 第４節　石器（図版75・写真図版92・93）

ナイフ形石器と石鏃といった打製石器と砥石類が出土している。12 点を実測し、種類ごとに記述していく。なお、70 区 SB305 の P01・P05で検出した礎石（S213・S214）は写真のみ掲載している。

**ナイフ形石器**（S201）

77 区のピット SB306P136付近から出土した。金山産サヌカイト製の国府型ナイフ形石器である。表面は風化していると共に、上端に新しい欠損も認められる。

**石鏃（S202～S205）**

S202～S205 は石鏃である。いずれも 76 区から出土しており、サヌカイト製である。S202 は平面形がほぼ正三角形を呈する。先端及び基部両端には凹圧剥離を施しているが、端部はにぶく終わる。鏃身断面は薄く、大きな剥離面を残す。SK624 から出土している。S203 も平面形がほぼ正三角形を呈する。鏃身断面は薄い菱形を呈し、鏃身中央に鎬が形成されている。SK655 から出土している。S205 は平面形が二等辺三角形を呈する。大きな剥離面を残したまま、周縁を調整し刃部と基部を形成しており、断面形は不整形となっている。基部片側を欠損する。SK606 から出土した。以上 3 点は平基式である。S204 は凹基式である。基部の繰り込みは浅く、片側の逆刺を欠損する。側辺は途中までほぼ平行して伸び、先端部付近で丸みを帯びて端部を形成する。先端をわずかに欠損している。鏃身断面は薄い杏仁形を呈する。SK700 から出土している。

**砥石（S206～S210）**

S206～S210 は研磨により平滑化した面を持つことから、砥石と考えている。形状は多様である。S206 は扁平な亜角礫で片側端部を欠く。上下両面とも使用により平滑化している。77 区から出土している。S207 は方柱状を呈する小型の砥石である。上下両面を使用し、削痕が認められる。77 区から出土した。S208 は片端が欠損し、平面形が長方形を呈する。上面から右側縁にかけてよく使用している。70 区から出土している。S209 は両端を欠くうえ、上面と右側縁のみが残存したものだが、本来は据え置いた大型の砥石と考えられる。残された２面とも使用しているが、上面の平滑化が著しく、主たる機能面は上面と考えられる。77 区から出土した。S210 は機能面１面が細長く残された砥石である。最終的な形態は板状を呈する。77 区の SB308P180 から出土した。

**敲石（S211）**

S211 は棒状を呈する礫を使用した敲石である。片側の端部に敲打痕が認められる。反対側の端部には一部に平滑化した箇所があるため、磨棒状の使用も考えられる。76 区から出土した。

**器種不明(S212)**

S212 は器種不明の石器である。薄い板状の粘板岩の両面が平滑化しており、側縁に押圧剥離を施していると考えられるため、石器とした。75 区から出土している。

# 第５節　金属器（図版76・写真図版93）

釘・その他の鉄製品と鉄滓が出土している。種類ごとに記述していく。

**鉄製品（M201～M205）**

M201は鉄釘である。頭部と先端部を欠くが、断面が方形を呈する角釘であると考えられる。77区のSK793から出土している。M202 も鉄釘である。頭部は一部を欠損するが敲き曲げて作り出す。断面方形の角釘で先端に向かい細くなる。77 区の SB307P176 から出土した。

M203 は棒状を呈する鉄製品である。両端が尖り、片方が大きく鈎状に曲がっている。断面はほぼ円形を呈する。70 区から出土した。

M204 は刀子の刀身部である。断面形は三角形を呈し、70 区から出土している。

M205 は板状を呈する鉄製品の一部である。錆び膨れで大きく変形しているものの、緩やかに屈曲しており、鍋・やかんなどの胴部である可能性がある。77 区から出土した。

**鉄滓（M206～M214）**

鉄滓は表土・包含層から出土したものが大半を占め、所属時期は不明である。

M206・M207 は 76 区、M208～M214 は 70 区からの出土である。比重を計測していないため、正確な数値は不明ながら、体積／重量比でグルーピング可能と考えられる。

M209・M211 が比較的軽いグループ、M212～M214 が重いグループに当たると考えられる。

重いグループに当たる M212～M214 はいわゆる椀形滓で、 断面が明確な凹形で底部が尖り気味である。いずれも 70 区のピットから出土している。

M212 は SA304P02 から、M213 と M214 は SB305P09 から出土している。

# 第５章　自然科学的調査の成果

## 第１節　池ノ下遺跡胎土分析（薄片法）

株式会社 古環境研究所

### １．はじめに

姫路市苫編地先に所在する池ノ下遺跡は、中播丘陵南端に近い播磨平野西部、夢前川下流域左岸の沖積低地上に位置する。調査区のうち、北部の 76 区は段丘上に位置し、その南東側の73区以下は沖積低地上に位置する。発掘調査では弥生時代後期後半から古墳時代初頭とされる粘土採掘坑が検出され、それらに伴う土器などの遺物が出土している。

今回の分析調査では、粘土採掘坑より出土した土器の材質(胎土)の特性を明らかにし、調査区内の堆積物および周辺地質との比較から、当該期の土器生産について検討する。

### ２．試料

試料は、池ノ下遺跡の粘土採掘坑より出土した弥生時代後期後半とされる土器の甕・壺の破片７点と比較対照試料として調査区内より採取された堆積物５点の合計12点である。各試料には、試料番号１～12が付されており、試料番号１～７は土器片、試料番号８～12は堆積物である。各試料の出土遺構などは、一覧にして第２表に示す。

**第２表　分析試料一覧**

| 試料番号 | 報告番号 | 調査番号 | 種別 | 器種 | 出土地区 | 出土遺構 | 時期 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 2017 | 2007107 | 土器 | 甕 | 76 | 粘土採掘坑 SK618 | 弥生時代後期後半 |
| 2 | 2019 | 2007107 | 土器 | 甕 | 76 | 粘土採掘坑 SK623 | 弥生時代後期後半 |
| 3 | 2028 | 2007107 | 土器 | 甕 | 76 | 粘土採掘坑 SK680 | 弥生時代後期後半 |
| 4 | 2029 | 2007107 | 土器 | 壺 | 76 | 粘土採掘坑 SK685 | 弥生時代後期後半 |
| 5 | 2036 | 2007107 | 土器 | 壺 | 76 | 粘土採掘坑 SK720 | 弥生時代後期後半 |
| 6 | 2038 | 2007107 | 土器 | 甕 | 76 | 粘土採掘坑 SK730 | 弥生時代後期後半 |
| 7 | 2043 | 2007107 | 土器 | 甕 | 76 | 粘土採掘坑 SK737 | 弥生時代後期後半 |
| 8 | － | 2007107 | 土 | － | 76 | SK616底 | |
| 9 | － | 2007107 | 土 | － | 76 | SK637・SK638 | |
| 10 | － | 2007107 | 土 | － | 76 | － | |
| 11 | － | 2007107 | 土 | － | 76 | － | |
| 12 | － | 2007107 | 土 | － | 76 | SK606とSK634の間 | |

### ３．分析方法

薄片は、試料の一部をダイアモンドカッターで切断し(堆積物については樹脂で固化した後に切断)、正確に0.03㎜の厚さに研磨して作製した。薄片は偏光顕微鏡による岩石学的な手法を用いて観察し、胎土中に含まれる鉱物片、岩石片および微化石の種類構成等を明らかにした。なお、土器胎土および赤玉の薄片のデータの呈示は、松田ほか(1999)が示した仕様に従う。砂粒の計数は、メカニカルステージを

用いて0.5㎜間隔で移動させ、細礫～中粒シルトまでの粒子をポイント法により200個あるいはプレパラート全面で行った。また、同時に孔隙と基質のポイントも計数した。これらの結果から、各粒度階における鉱物・岩石別出現頻度の３次元棒グラフ、砂粒の粒径組成ヒストグラム、孔隙・砂粒・基質の割合を示す棒グラフを呈示する。

## ４．結果

結果を第３表、第４～12図に示す。胎土中の砕屑物について、鉱物・岩石の種類構成、粒径組成、砕屑物の割合の順に述べる。

１）鉱物・岩石の特徴

土器試料７点は、全体的に計数された砕屑物の粒数が少ないために、試料によって各種類の１粒あたりの評価が大きく異なる。したがって、その割合をグラフにすると各試料それぞれ異なる特徴を示すように見えるが、第３表に示された各鉱物や各岩石片の出現傾向からは、７点の試料に共通する特徴を見出すことができる。鉱物片は石英が多い傾向にあり、少量の斜長石を伴い、試料によっては微量のカリ長石や角閃石を含む。岩石片は、凝灰岩と多結晶石英が多い傾向にあり、微量の花崗岩類と珪化岩を伴い、試料によってはチャートや頁岩などの堆積岩類を極めて微量含む。さらに各試料ともにバブル型の火山ガラスを少量含むことも共通する特徴とされる。

堆積物試料の特徴は、試料番号12以外の４点にバブル型火山ガラスが含まれることである。特に試料番号８と10には多量に含まれている。また、火山ガラス以外の砕屑物では、試料番号12も含めた５点の試料において、鉱物片の種類も岩石片の種類も、土器試料とほぼ同様の傾向を示す。

２）粒径組成

前述したように、土器試料では計数された砕屑物全体の粒数が少ないために、粒径組成においても試料によるばらつきが大きい。したがって、粒径組成の詳細な評価はできないが、土器試料の全体的な傾向としては、中粒砂および細粒砂の割合が高いとみることができる。

堆積物試料については、極細粒砂の割合の高い傾向が認められる。極細粒砂のうち多くを植物珪酸体が占めているが、それを除いても石英の鉱物片や火山ガラスに極細粒砂の多い傾向が認められる。

３）砕屑物の割合

土器試料では、試料番号３と４以外の５点は概ね10%前後を示す。試料番号３は、それよりも多く、20%程度を示し、試料番号４はそれよりも低い５%程度を示す。

堆積物試料では、試料番号11と12は土器試料と同程度の10%前後を示すが、他の３点の試料は15～20%であり、土器試料に比べると若干多い。

## ５．考察

分析結果で述べたように、土器試料の胎土における鉱物・岩石の種類の出現傾向は、調査区内で採取された堆積物のそれと非常によく類似する。このことは、土器試料の原材料には、周辺堆積物と同様の地質学的背景を有する地域の堆積物が使用されている可能性が高いことを示唆している。

猪木(1981)や山元ほか(2000)などによれば、調査区背後の中播丘陵は、中生代白亜紀後期の流紋岩・デイサイト質の凝灰岩により構成されており、丘陵内には調査区北方の桜山岩体に代表されるような角閃石黒雲母花崗閃緑岩からなる白亜紀～古第三紀の貫入岩体が点在する。また、凝灰岩中には、ロウ石

鉱床などを胚胎する塊状鉱床が散在し、この鉱床には珪化岩体が伴われている。さらに、中播丘陵背後の中国山地東南端部の産地には中生代ペルム紀の堆積岩類からなる超丹波帯と呼ばれる地質が分布している。そして、火山ガラスについては、丘陵の縁辺に形成された山麓緩斜面堆積物中に姶良 Tn テフラ(AT:町田・新井,1976)や鬼界アカホヤテフラ(K-Ah:町田・新井,1978)といったいずれもバブル型火山ガラスを主体とするテフラ層が確認されている。調査区の位置する播磨平野西部には、夢前川をはじめとする諸河川により、これら地質に由来する砕屑物が移動して混在し堆積することによって、今回の土器胎土や堆積物に認められる鉱物・岩石の出現傾向を形成していると考えることができる。したがって、今回の土器試料７点は、いずれも播磨平野西部の堆積物を材料として作製されたと考えられる。

なお、土器試料と堆積物試料との関係についてより詳細にみれば、出現傾向は一致するものの各鉱物や岩石片の割合、粒径組成および砕屑物の割合まで全て一致するものはない。一般には土器の素地土(成形・焼成直前の土)に、自然の堆積物が単味でそのまま利用されることはないとされ、堆積物と素地土との間には水簸や混和材の添加など、砕屑物の除去や添加という調整過程が加わっていると想定される。本分析調査における土器試料と堆積物試料との間に認められる各組成の違いにも、そのことが表れていると考えられる。

**引用文献**

猪木幸男（1981）20万分の1地質図幅「姫路」. 地質調査所.

町田　洋・新井房夫（1976）広域に分布する火山灰－姶良Tn火山灰の発見とその意義－. 科学, 46, p. 339-347.

町田　洋・新井房夫（1978）南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラーアカホヤ火山灰. 第四紀研究, 17,
p. 143-163.

松田順一郎・三輪若葉・別所秀高（1999）瓜生堂遺跡より出土した弥生時代中期の土器薄片の観察－岩石学的・堆積学的による－. 日本文化財科学会第16回大会発表要旨集, p. 120-121.

山元孝広・栗本史雄・吉岡敏和（2000）龍野地域の地質. 地域地質研究報告(5万分の1図幅), 地質調査所, 66p.

## 第3表　薄片観察結果(1)

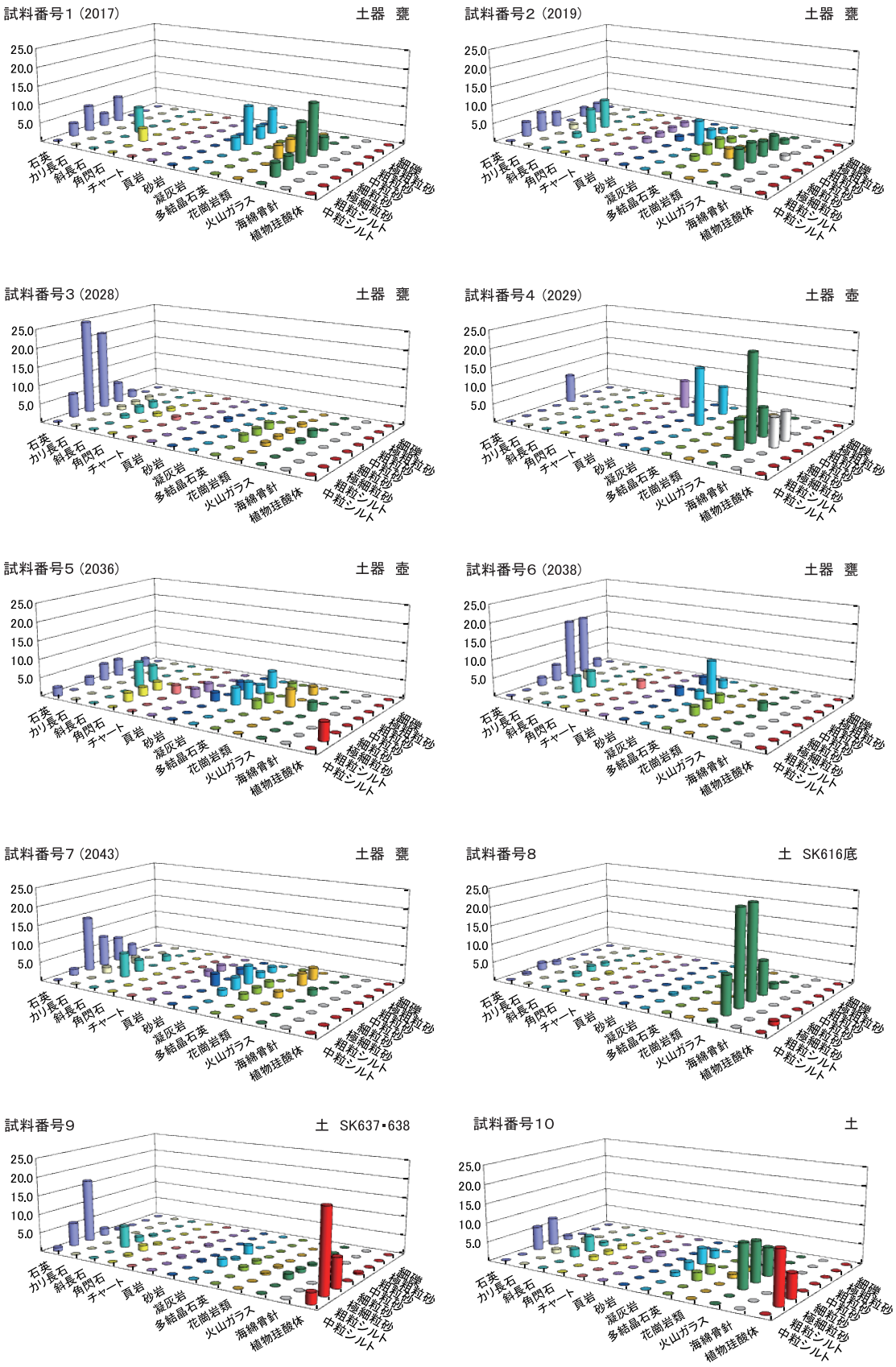
| 試料番号 | 砂粒区分 | | 砂粒の種類構成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 鉱物片 | | | | | | | | | | | | 岩石片 | | | | | | | | | | | | その他 | | | | | |
| | | | 石英 | カリ長石 | 斜長石 | 斜方輝石 | 単斜輝石 | 角閃石 | 酸化角閃石 | 白雲母 | 黒雲母 | ジルコン | 褐簾石 | 不透明鉱物 | チャート | 頁岩 | 砂岩 | 凝灰岩 | 溶結凝灰岩 | 流紋岩・デイサイト | 多結晶石英 | 花崗岩類 | 珪長岩 | 粘板岩 | 脈石英 | 変質岩 | 珪化岩 | 火山ガラス | 炭質物 | 酸化鉄結核 | 海綿骨針 | 植物珪酸体 | |
| 1<br>2017 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | | 粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | 2 |
| | | 中粒砂 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | 1 | | | | | 1 | 4 | | | | 11 |
| | | 細粒砂 | 1 | | 2 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | 3 | | | | 8 |
| | | 極細粒砂 | 2 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 4 |
| | | 粗粒シルト | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 2 |
| | | 中粒シルト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 236 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 17 |
| | 備考 | | 基質は珪長質鉱物、セリサイトなどで埋められる。火山ガラスはバブル型を示す。細粒砂サイズの黒雲母の鉱物片もきわめて微量含まれる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2<br>2019 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 極粗粒砂 | 2 | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | 2 | 1 | 2 | | | | 9 |
| | | 粗粒砂 | 2 | | | | | | | | | | | | | 1 | | 2 | | | 1 | | | | | | 1 | 3 | | | | | 10 |
| | | 中粒砂 | | | 6 | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 5 | | | 2 | 1 | | | | | 4 | 3 | | | 1 | | 24 |
| | | 細粒砂 | 3 | 1 | 5 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 2 | 2 | | | | | 2 | 4 | 1 | | | | 21 |
| | | 極細粒砂 | 4 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | 4 | | | | | 10 |
| | | 粗粒シルト | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| | | 中粒シルト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 589 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7 |
| | 備考 | | 基質は珪長質鉱物、セリサイトなどで埋められる。火山ガラスはバブル型を示す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3<br>2028 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 粗粒砂 | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 3 | | | | | 7 |
| | | 中粒砂 | 6 | 1 | 2 | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | 2 | 1 | | | | | 4 | 2 | | 1 | | | 21 |
| | | 細粒砂 | 23 | 1 | 2 | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | 2 | 1 | | | | | 2 | 1 | | | | | 34 |
| | | 極細粒砂 | 36 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | | | | | 1 | | | | | | 41 |
| | | 粗粒シルト | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7 |
| | | 中粒シルト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 376 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 15 |
| | 備考 | | 基質は珪長質鉱物、セリサイトなどで埋められる。火山ガラスはバブル型を示す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4<br>2029 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | 3 |
| | | 粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 中粒砂 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | 5 |
| | | 細粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | 1 | | 4 |
| | | 極細粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| | | 粗粒シルト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 中粒シルト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 337 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 20 |
| | 備考 | | 基質は珪長質鉱物、セリサイトなどで埋められる。火山ガラスはバブル型を示す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

## 第3表　薄片観察結果(2)

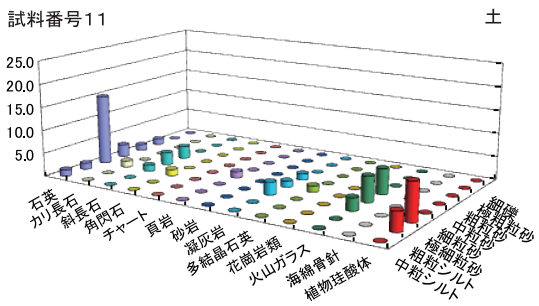
| 試料番号 | 砂粒区分 | | 砂粒の種類構成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 鉱物片 | | | | | | | | | | | | 岩石片 | | | | | | | | | | | | その他 | | | | | |
| | | | 石英 | カリ長石 | 斜長石 | 斜方輝石 | 単斜輝石 | 角閃石 | 酸化角閃石 | 白雲母 | 黒雲母 | ジルコン | 褐簾石 | 不透明鉱物 | チャート | 頁岩 | 砂岩 | 凝灰岩 | 溶結凝灰岩 | 流紋岩・デイサイト | 多結晶石英 | 花崗岩類 | 珪長岩 | 粘板岩 | 脈石英 | 変質岩 | 珪化岩 | 火山ガラス | 炭質物 | 酸化鉄結核 | 海綿骨針 | 植物珪酸体 | |
| 5<br>2037 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 極粗粒砂 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | 1 | 1 | | | | 1 | 1 | | | | | | 7 |
| | | 粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | | 中粒砂 | 2 | | 2 | 1 | | | | | | | | | | 1 | | 2 | | | 1 | 2 | | | | | | 1 | | | | | 12 |
| | | 細粒砂 | 2 | | 3 | | | 1 | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 2 | | 1 | 1 | | | | | | 2 | | | 1 | | | 16 |
| | | 極細粒砂 | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | | 粗粒シルト | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 3 |
| | | 中粒シルト | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 536 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 8 |
| | 備考 | | 基質はセリサイトなどで埋められる。火山ガラスはバブル型を示す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6<br>2039 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 極粗粒砂 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| | | 粗粒砂 | 7 | | | | | | | | | | | | | | | 4 | | | | | | | | | 1 | | | | | 12 |
| | | 中粒砂 | 7 | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | 1 | | | 1 | | | | | | 3 | 1 | | | | | 16 |
| | | 細粒砂 | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 2 | | | | | | 7 |
| | | 極細粒砂 | 1 | | 2 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 | | | | | | 6 |
| | | 粗粒シルト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 中粒シルト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 289 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 |
| | 備考 | | 基質は珪長質鉱物、セリサイトなどで埋められる。火山ガラスはバブル型を示す。角閃石の一部が弱酸化している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7<br>2044 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 2 | | | | | 1 | | | 3 | | | 7 |
| | | 粗粒砂 | 2 | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | | | | 2 | | | | | 1 | | | | | | 9 |
| | | 中粒砂 | 4 | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | 3 | | | 1 | | | | | | | 1 | | | | | 11 |
| | | 細粒砂 | 5 | | 2 | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | 13 |
| | | 極細粒砂 | 9 | 1 | 4 | 1 | | | | | 1 | | | | | | | 1 | | | 1 | | | | | | 1 | | 1 | 1 | | | 21 |
| | | 粗粒シルト | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | 中粒シルト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 442 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 |
| | 備考 | | 基質は雲母鉱物、セリサイトなどで埋められる。火山ガラスはバブル型を示す。角閃石の一部が弱酸化している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | 3 |
| | | 中粒砂 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 18 | | | | 20 |
| | | 細粒砂 | 2 | | 3 | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 51 | | | | 58 |
| | | 極細粒砂 | 4 | | 2 | | | | | | | | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | 87 | | | | 95 |
| | | 粗粒シルト | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 20 | | | | 2 | 23 |
| | | 中粒シルト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 1 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 778 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 24 |
| | 備考 | | 基質は珪長質鉱物、粘土鉱物、水酸化鉄によって埋められる。火山ガラスは無色透明のバブル型を主体とし、まれに軽石型を伴う。基質には有孔虫、植物珪酸体などの微化石が認められる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

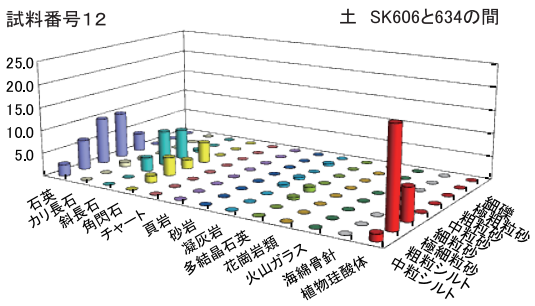
## 第3表　薄片観察結果(3)

| 試料番号 | 砂粒区分 | | 砂粒の種類構成 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 鉱物片 | | | | | | | | | | | | 岩石片 | | | | | | | | | | | | その他 | | | | | |
| | | | 石英 | カリ長石 | 斜長石 | 斜方輝石 | 単斜輝石 | 角閃石 | 酸化角閃石 | 白雲母 | 黒雲母 | ジルコン | 褐簾石 | 不透明鉱物 | チャート | 頁岩 | 砂岩 | 凝灰岩 | 溶結凝灰岩 | 流紋岩・デイサイト | 多結晶石英 | 花崗岩類 | 珪長岩 | 粘板岩 | 脈石英 | 変質岩 | 珪化岩 | 火山ガラス | 炭質物 | 酸化鉄結核 | 海綿骨針 | 植物珪酸体 | |
| 9 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| | | 中粒砂 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | 5 | | | | | | | | 2 | 1 | 1 | | | 1 | 13 |
| | | 細粒砂 | 4 | | 3 | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | 2 | 1 | | | | | 2 | 8 | | | | 22 |
| | | 極細粒砂 | 35 | | 12 | | | 3 | | 1 | | | | | | 1 | 1 | 4 | | | 2 | 1 | | | | | 3 | 21 | | | 16 | 100 |
| | | 粗粒シルト | 13 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7 | | | 44 | 65 |
| | | 中粒シルト | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 | 8 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1086 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 43 |
| | 備考 | | 基質は珪長質鉱物、粘土鉱物、水酸化鉄によって埋められる。火山ガラスは無色透明のバブル型。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | | | | 3 |
| | | 中粒砂 | 1 | 1 | 1 | | | 1 | | | | | | | | 1 | | 4 | | | | 1 | | | | 1 | 7 | | | | | 18 |
| | | 細粒砂 | 7 | | 4 | 1 | | 1 | | | | | | | | 1 | | 2 | | | 2 | 1 | | | | | 10 | | | | | 29 |
| | | 極細粒砂 | 6 | 1 | 2 | | 3 | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | 2 | | | | | 1 | 11 | | | | 6 | 34 |
| | | 粗粒シルト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 13 | 13 |
| | | 中粒シルト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 369 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| | 備考 | | 基質は珪長質鉱物、粘土鉱物、水酸化鉄によって埋められる。火山ガラスは無色透明のバブル型。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 粗粒砂 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 2 | | | | 4 |
| | | 中粒砂 | 1 | | 2 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | 4 | 1 | | | | 10 |
| | | 細粒砂 | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | | | 1 | | | | | 4 | 4 | 5 | | | | 20 |
| | | 極細粒砂 | 11 | 1 | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | 2 | 8 | | | 6 | 32 |
| | | 粗粒シルト | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | 3 | 6 |
| | | 中粒シルト | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 776 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| | 備考 | | 基質は珪長質鉱物、粘土鉱物、水酸化鉄によって埋められる。火山ガラスは無色透明のバブル型。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | 砂 | 細礫 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| | | 極粗粒砂 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | 粗粒砂 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | 中粒砂 | 8 | | 13 | | | 9 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | 32 |
| | | 細粒砂 | 20 | 1 | 15 | | | 4 | | | | | | | | | | 1 | | | 2 | | | | | 1 | | | | | | 44 |
| | | 極細粒砂 | 20 | 2 | 6 | | 1 | 8 | | | | | | 2 | | | | | | | 1 | | | | | 3 | | | | | 14 | 57 |
| | | 粗粒シルト | 13 | | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 41 | 57 |
| | | 中粒シルト | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | 8 |
| | 基質 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1353 |
| | 孔隙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| | 備考 | | 基質は珪長質鉱物、粘土鉱物、水酸化鉄によって埋められる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

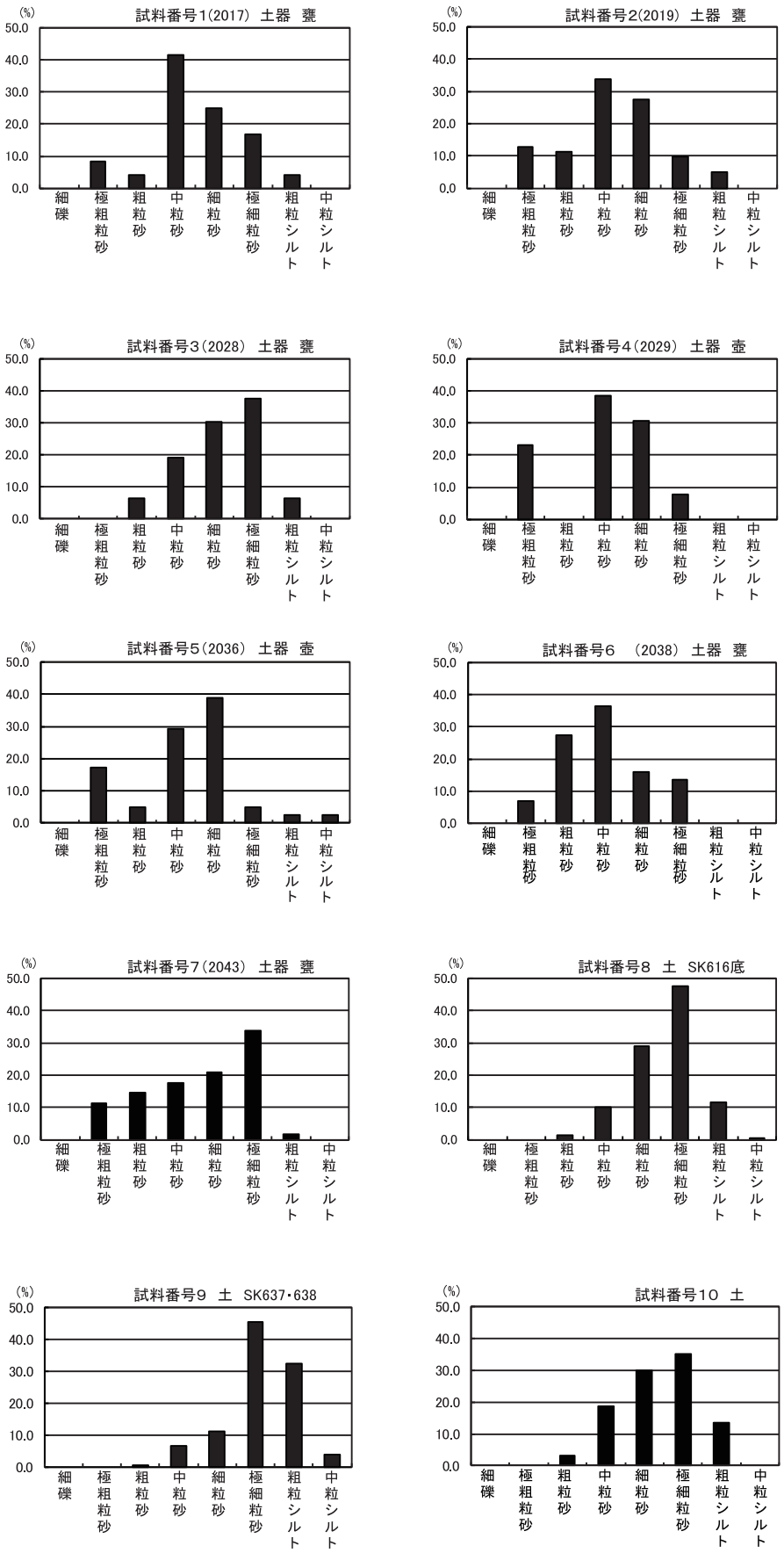



第４図　胎土中の砕屑物の各粒度階における鉱物･岩石出現頻度(1)

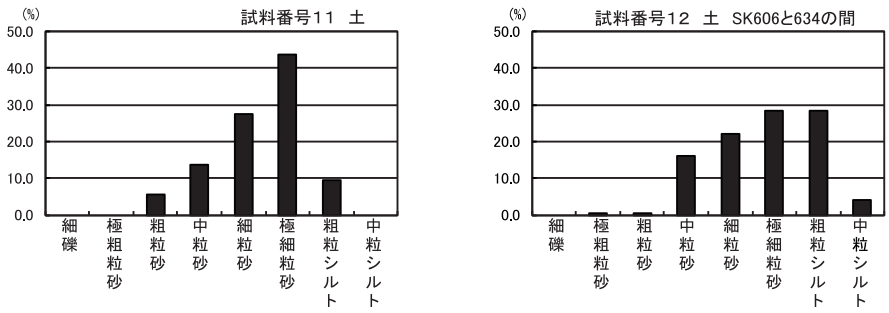


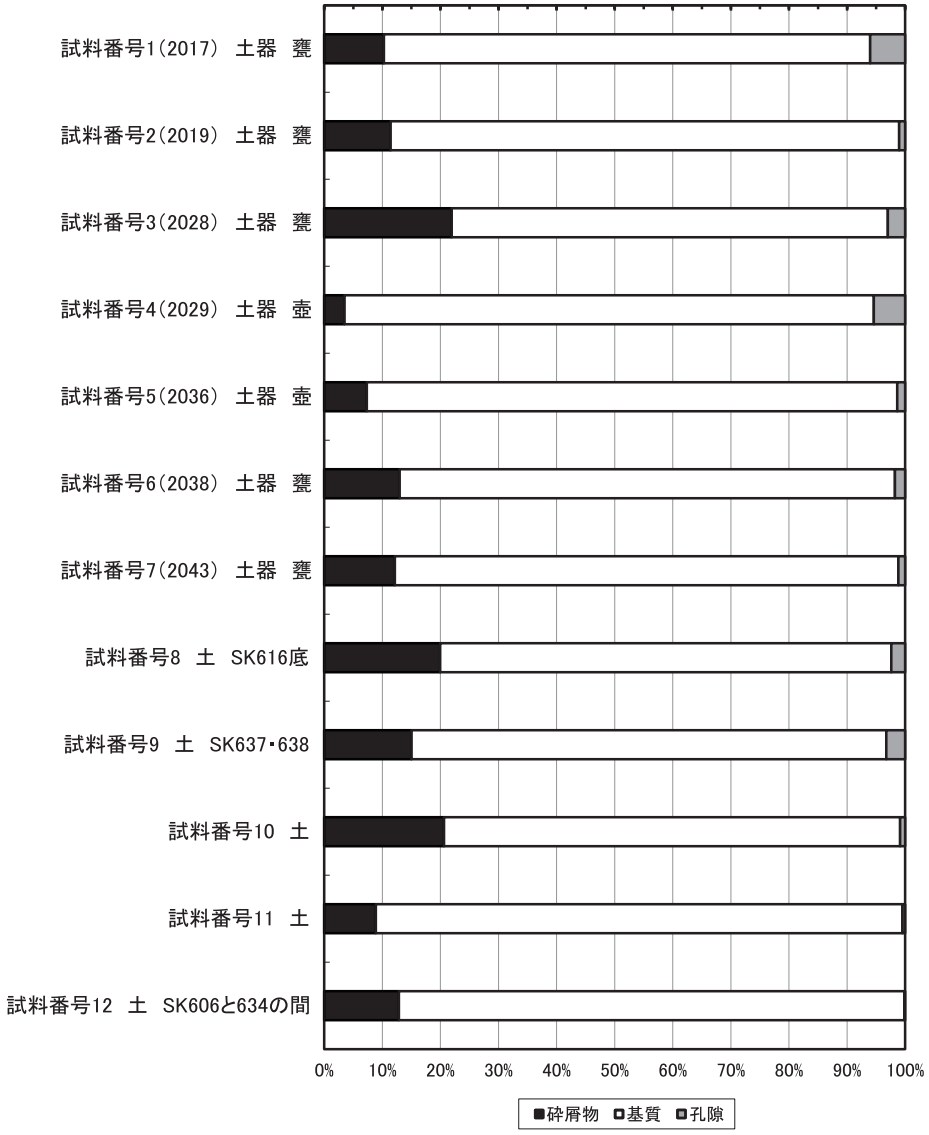

第5図　胎土中の砕屑物の各粒度階における鉱物・岩石出現頻度(2)



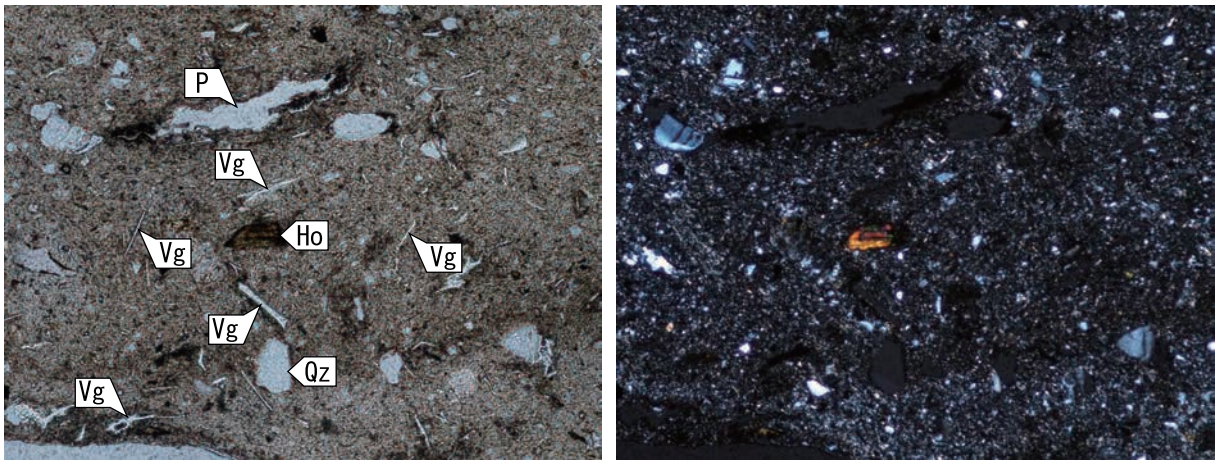

第6図　胎土中の砕屑物の粒径組成(1)



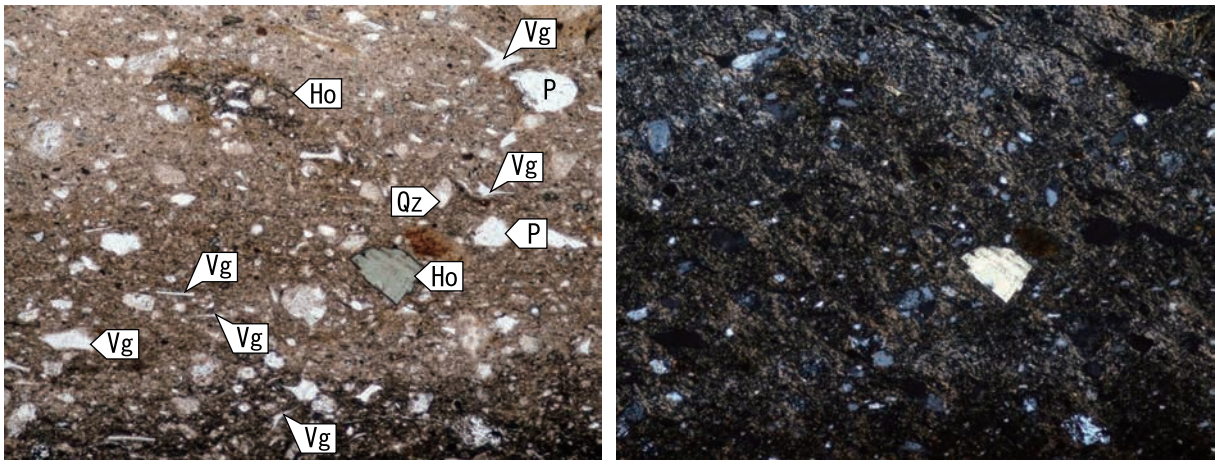

第7図　胎土中の砕屑物の粒径組成(2)



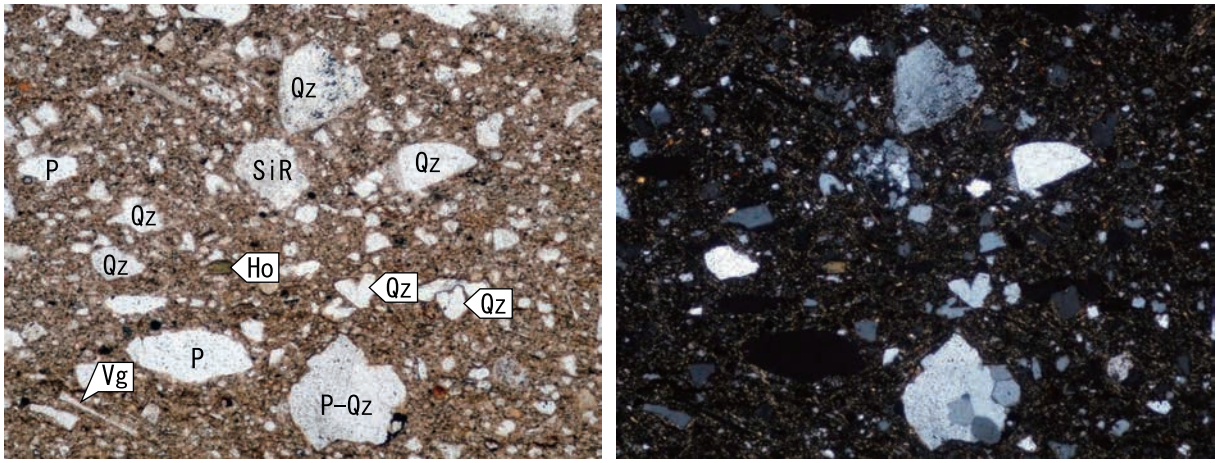

第8図　砕屑物･基質･孔隙の割合




1.試料番号1(2017　土器　甕　粘土採掘坑　SK618)




2.試料番号2(2019　土器　甕　粘土採掘坑　SK623)

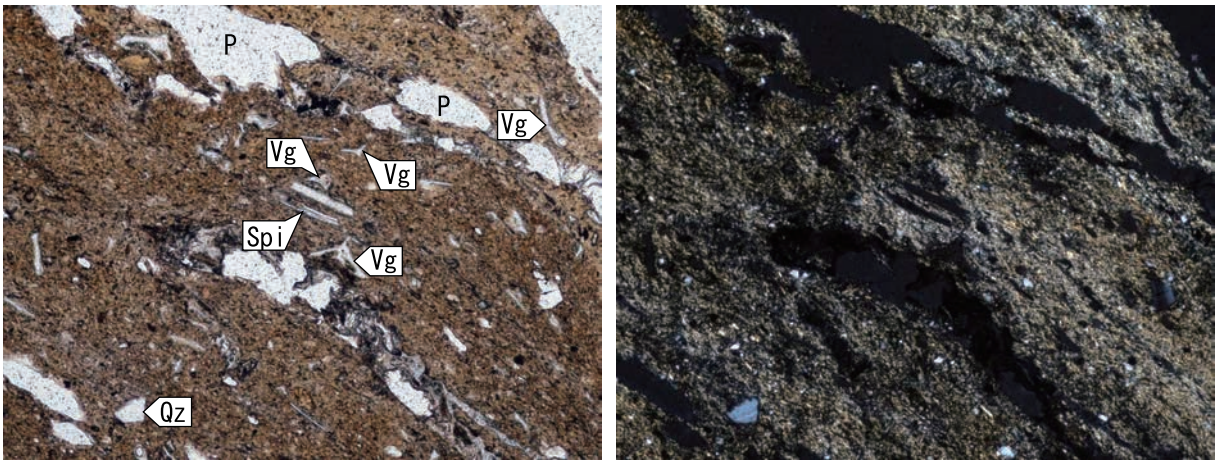



3.試料番号3(2028　土器　甕　粘土採掘坑　SK680)

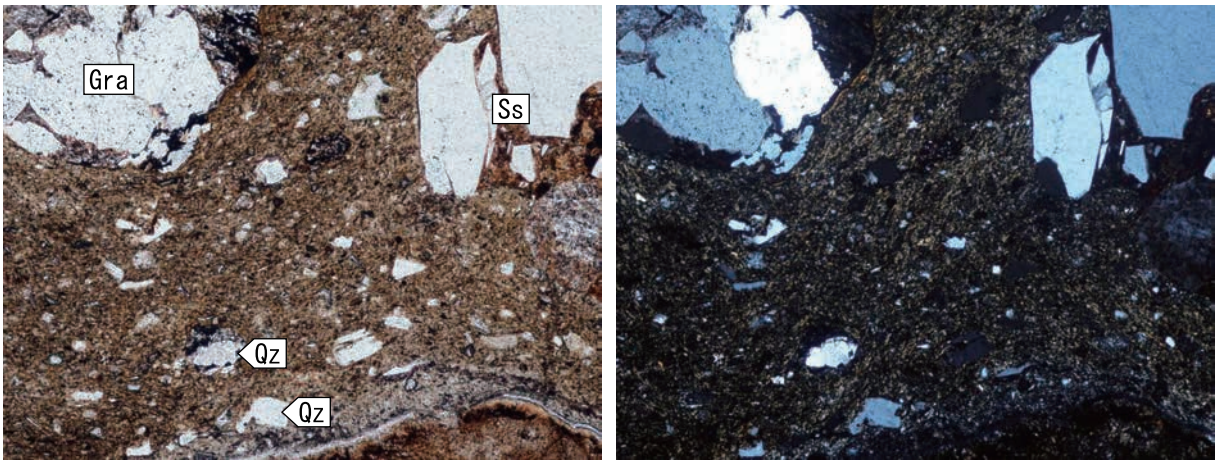
Qz:石英. Ho:角閃石. P-Qz:多結晶石英. SiR:珪化岩. Vg:火山ガラス.
P:孔隙.
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

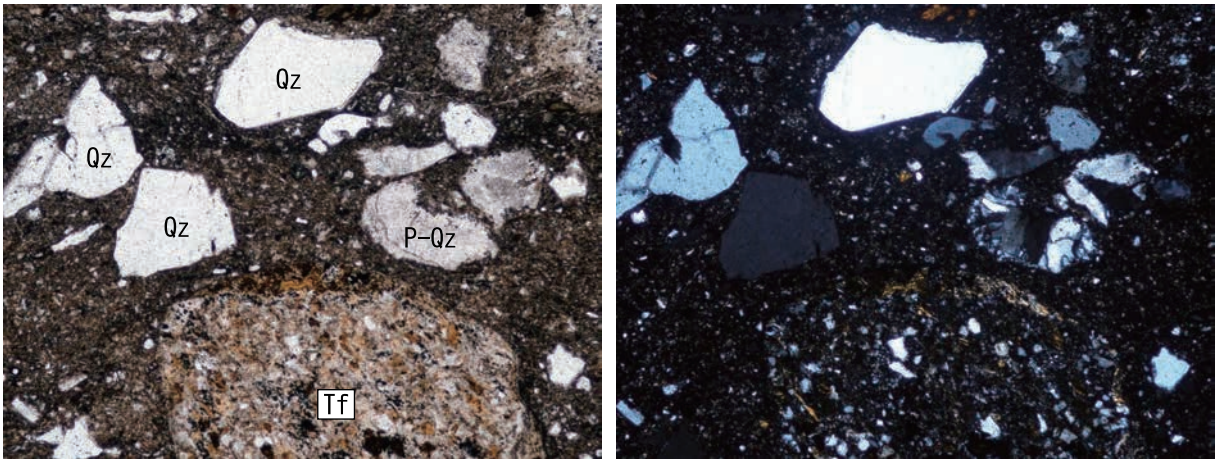
第9図　胎土薄片(1)




4.試料番号4(2029　土器　壺　粘土採掘坑　SK685)




5.試料番号5(2036　土器　壺　粘土採掘坑　SK720)

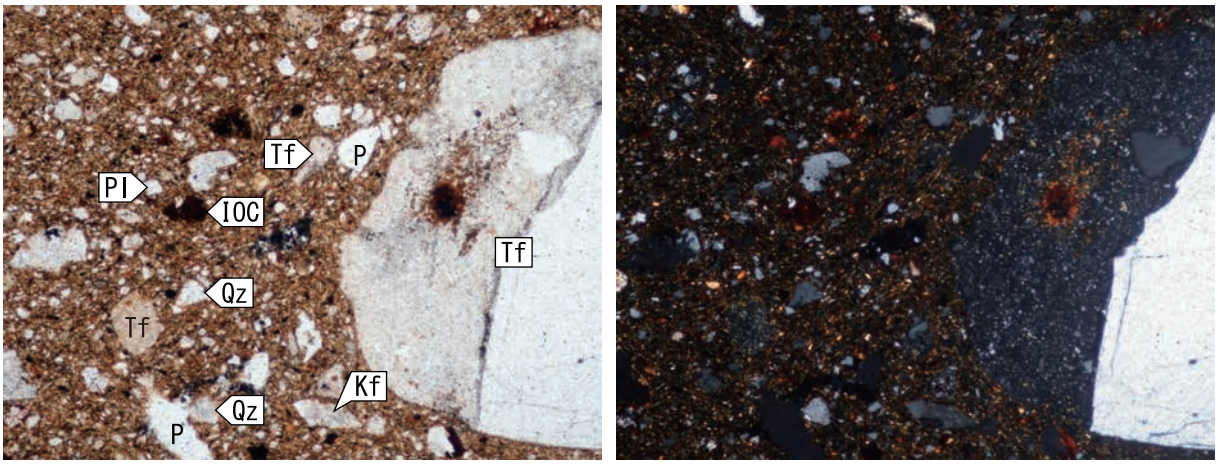



6.試料番号6(2038　土器　甕　粘土採掘坑　SK730)

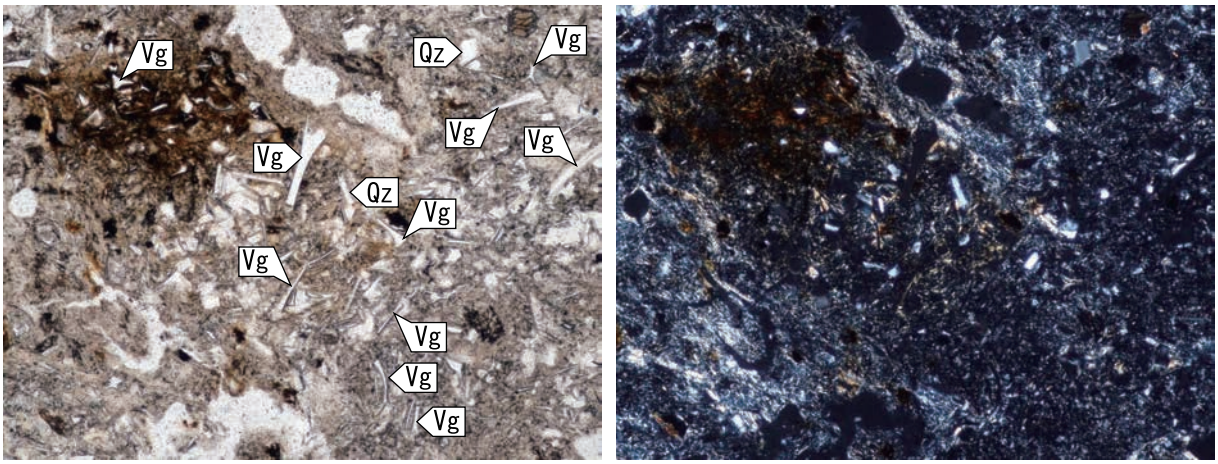
Qz:石英. Ss:砂岩. Tf:凝灰岩. P-Qz:多結晶石英. Gra:花崗岩.
Vg:火山ガラス. Spi:海綿骨針. P:孔隙.
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

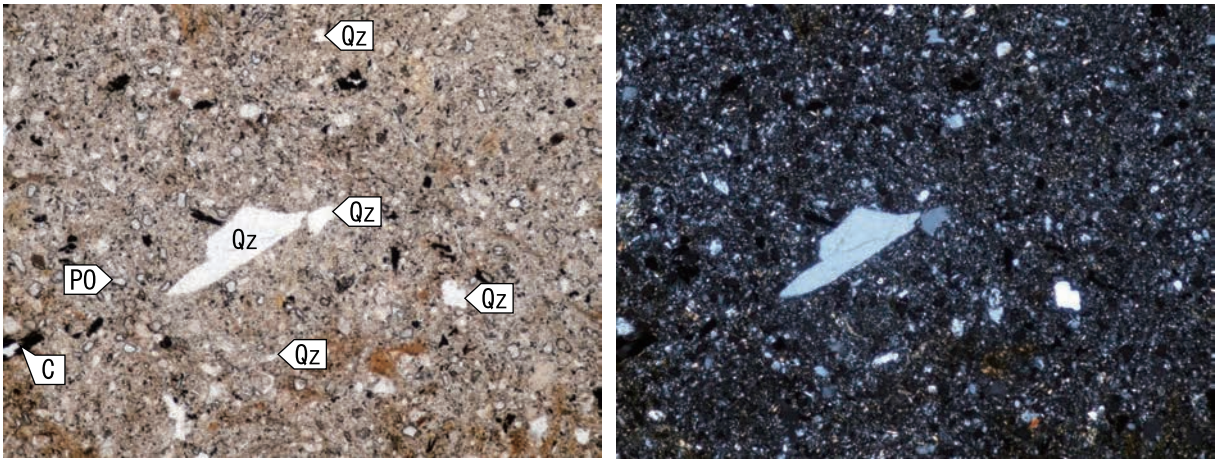
第10図　胎土薄片(2)




7.試料番号7(2043　土器　甕　粘土採掘坑　SK737)




8.試料番号8(土　SK616底)

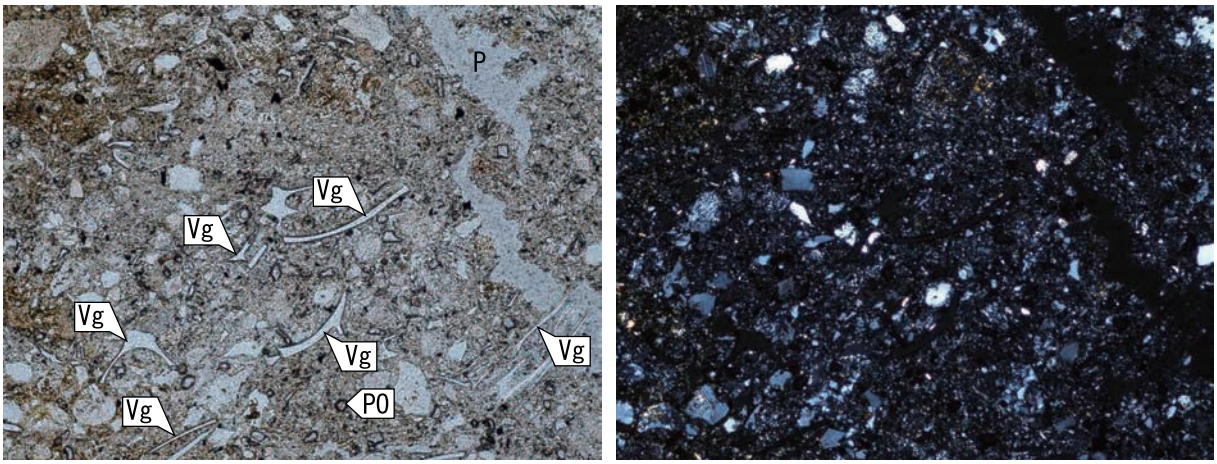



9.試料番号9(土　SK637･638)

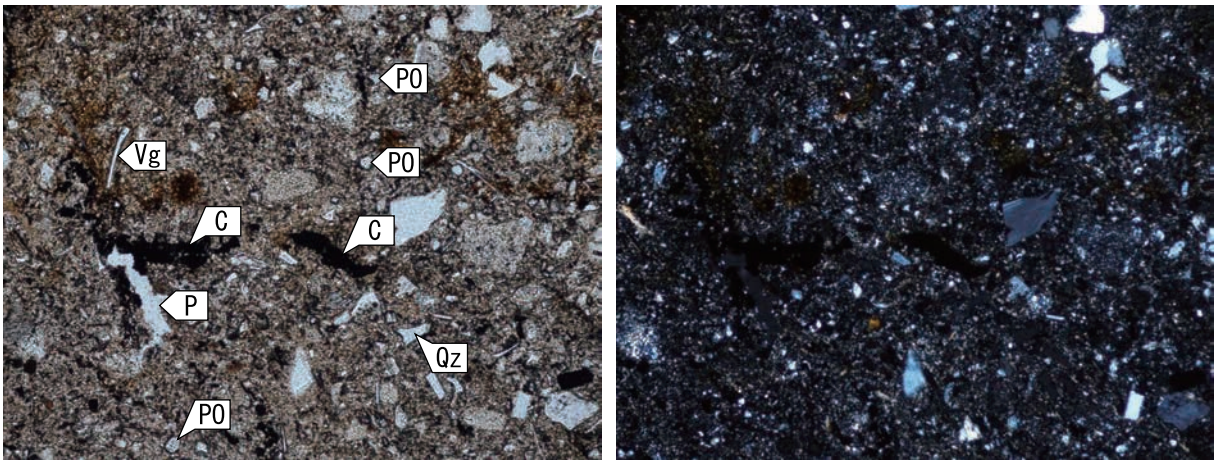
Qz:石英. Kf:カリ長石. Pl:斜長石. Tf:凝灰岩. Vg:火山ガラス.
IOC:酸化鉄結核. PO:植物珪酸体. C:炭質物. P:孔隙.
写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

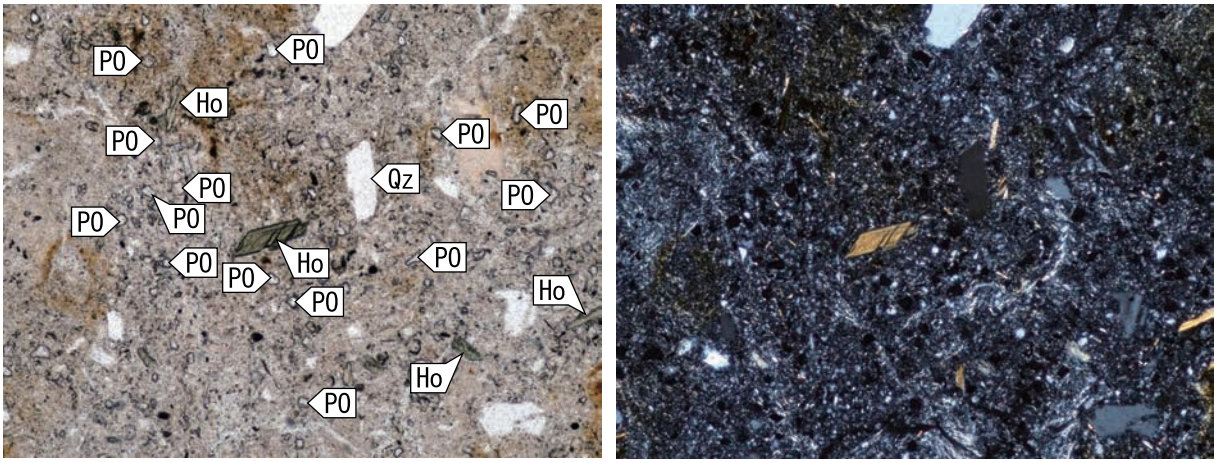
第11図　胎土薄片(3)




10. 試料番号10（土）




11. 試料番号11（土）




12. 試料番号12（土　SK606と634の間）

Qz：石英．Ho：角閃石．Vg：火山ガラス．PO：植物珪酸体．C：炭質物．P：孔隙．

写真左列は下方ポーラー、写真右列は直交ポーラー下。

0.5mm

第12図　胎土薄片(4)

# 第２節　池ノ下遺跡における樹種同定

一般社団法人 文化財科学研究センター

## １．はじめに

本報告では、遺跡より出土した木製品に対して、木材組織の特徴から樹種同定を行う。木製品の材料となる木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、木材構造から概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であるが、木製品では樹種による利用状況や流通を探る手がかりにもなる。

## ２．試料と方法

試料は、77 区 P220、P29 より出土した中世の柱材２点である。試料は結果第４表に記す。

方法は、試料からカミソリを用いて新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、生物顕微鏡（OPTIPHOTO-2：Nikon）によって 40～1000 倍で観察した。切片をマウントクイックアクエオス（Mount-Quick“Aqueous”：大道産業）で封入し、プレパラートを作製する。同定は、木材構造の特徴および現生標本との対比によって行った。

**第４表　池ノ下遺跡における樹種同定結果**

| 報告番号(処理No.) | 種別 | 器種 | 出土地区 | 出土遺構 | 時期 | 結果（学名／和名） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| W201(2017078-1) | 建築材 | 柱 | 77区 | SB309P220 | 中世前期 | *Chamaecyparis obtusa* Endl.　ヒノキ |
| ―　(2017078-2) | 建築材 | 柱 | 77区 | SB311P29 | 中世前期 | *Chamaecyparis*　ヒノキ属 |

## ３．結果

第４表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

１）ヒノキ　Chamaecyparis　obtuse Endl. ヒノキ科

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅はきわめて狭い。樹脂細胞が見られる。放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型で１分野に２個存在する。放射組織は単列の同性放射組織型で、１～15 細胞高である。

以上の特徴からヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ 40m、径 1.5m に達する。

２）ヒノキ属　Chamaecyparis　ヒノキ科

横断面、放射断面、接線断面共にヒノキ科の特徴を示し、分野壁孔は１分野に２個存在するが、分野壁孔の型が腐朽により不明瞭なものはヒノキ属とした。

## ４．所見

同定の結果、池ノ下遺跡の柱材はヒノキ１点、ヒノキ属１点であった。

ヒノキは木理通直、肌目緻密で強靭であり、耐朽・耐湿性も高い大きな材が取れる良材で、建築などに広く用いられる。なお、ヒノキは古くより建築用材に利用されており、また『日本書紀』ではヒノキ材が宮殿を造営するための用材として推奨されており、上流階級の邸宅などにも用いられてきた。また、

現存する法隆寺や唐招提寺などの大寺院がヒノキを用いて造営されている。ヒノキ属にはヒノキやサワラなどがあり、いずれの樹木も木理通直で耐湿性が高い良材で、加工し易い。また、ヒノキないしヒノキ属の木材は、律令期以降、瀬戸内から東海地方では、流通し最もよく用いられる材である。これらの樹木は大きな材がとれ木理通直で耐湿性に優れ、柱材として適材である。

同定された樹種はいずれも温帯に分布する樹木であった。いずれの樹木も適潤性であるが乾燥した環境にも耐え、尾根、急峻地または岩盤上にも生育し、ヒノキ属の中には渓流沿いを好んで生育する種もある。いずれの柱材も当時瀬戸内によく流通する木材であることから、素材や成品が流通によってもたらされたと考えられる。

**参考文献**

伊東隆夫・山田昌久（2012）木の考古学，雄山閣，p. 449.

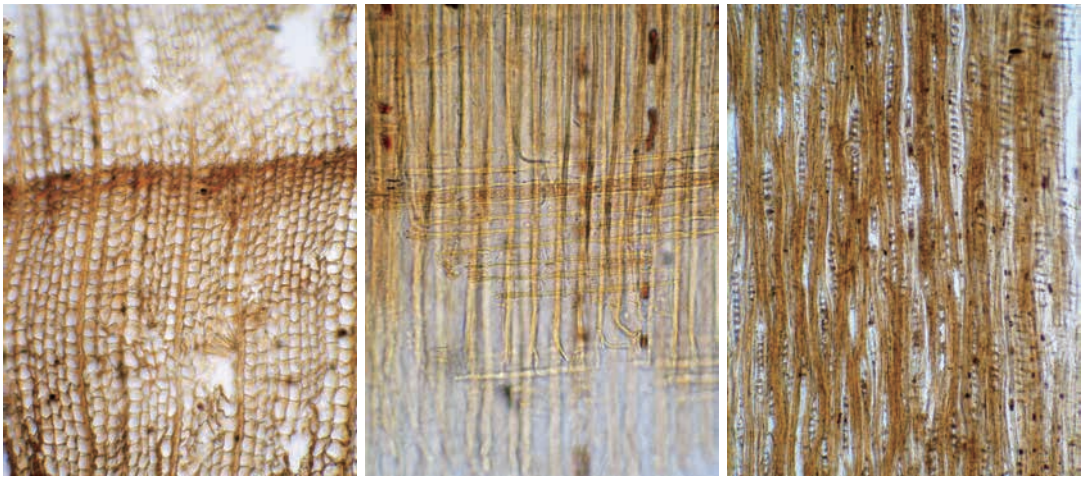
佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p. 20-48.

佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p. 49-100.

島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，p. 296.

横断面　0.1mm　放射断面　0.1mm　接線断面　0.1mm

ヒノキ　2017078-1(W201) 柱



横断面　0.1mm　放射断面　0.1mm　接線断面　0.1mm

ヒノキ属　2017078-2 柱

**第13図　池ノ下遺跡の木材**

# 第６章　調査の成果

## 第１節　弥生時代から古墳時代について

### １．弥生時代から古墳時代の遺構

今回の池ノ下遺跡の調査で弥生時代から古墳時代の遺構は弥生時代中期の遺構と弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけての大きく2時期の遺構が見つかった。ほかにも可能性がある遺構も存在するが、時期を確定できる遺物が存在していないため、ここでは時期が明らかなものについて検討する。

弥生時代中期の遺構は 70 区の溝 SD303 があり、遺物量は少ない。区画整理調査区との位置関係や断面形状、埋土からみて 55 区の中央部の溝 SD169 から続いていると考えられる。ほかにも区画整理調査区から続くと考えられる溝などが存在するが、遺物が出土していないため、明確ではない。遺物量が少ないあるいは出土しないのは、居住域から離れているためか、生産域である可能性が高い。

弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけての遺構は 75 区・76 区・77 区で検出した土坑群である。土坑群の詳細については、次項で検討する。

### ２．75区・76区・77区の土坑群

今回調査した池ノ下遺跡の調査のうち、75 区・76 区・77 区の土坑群から出土した土器を検討し、遺構の性格を明らかにしたい。

土坑群は76区の東半部のＡ区・Ｂ区が中心で密度が濃く、切りあった状況で検出しており、東方向の 75 区、西方向の 77 区に離れるにしたがって、密度が希薄くになり単独のものが多くなる。

これらの土坑から出土している土器の時期は古いものには SK715 の甕 2035 があり、弥生時代後期前半であるが、下層の河道に伴う可能性が高い。新しものには SK738 の甕 2045 があり、布留併行期に下る。しかしそのほとんどは後期後半に位置づけられる。

池ノ下遺跡の前回区画調査で発掘調査を行った当該時期の遺構はほとんど古墳時代初頭であり、今回報告した 75 区・76 区・77 区の土坑群は弥生時代後期後半であり、時期が異なる。したがって、粘土採掘に来た集団の集落は別遺跡もしくは別地点に位置していると考えられる。

前回の区画整理事業に伴う発掘調査でも北側に位置する 68 区で古墳時代中期の土坑群を調査しており、粘土採掘土坑の可能性を指摘している。調査を実施した地点では古墳時代中期も少ない傾向にある。

出土点数全 53 点で、器形別点数は甕 41 点、壺 8 点、鉢 2 点、高坏 2 点で、比率は甕が 77％と非常に高い。この粘土採掘土坑群の甕の比率が高いという特徴は西脇市津万遺跡群、加西市丸山ノ下遺跡、朝来市筒江浦石遺跡、丹波市板井寺ヶ谷遺跡等の遺跡と同様である。

甕の使用痕を観察すると、2014・2017・2019・2032は吹きこぼれが存在しており、2010・2013・2031・2032・2041 は内部にコゲが付着しており炊飯に使われた痕跡を残す。また、SK622 から出土した甕 2018 の内面の一部にケズリ滓が付着しており、土器作成から使用・廃棄まで短期間であった可能性が高い。

今回、76 区の土坑群の機能や性格の一端を知るために、土器および土坑群周辺の各土層から採取した堆積土のサンプルと土坑群出土土器の胎土分析を実施した。結果は第 5 章第 1 節に報告したとおりであり、堆積土のサンプルは鉱物・岩石組成や粒径組成、砕屑物の割合によっていくつかのパターンに分かれるものの、鉱物・岩石組成は当地域の特性が明らかになった。これらの堆積土のサンプルと土坑群出

土土器の胎土分析の結果を比較すると、一部の組成鉱物や粒径組成比率や砕屑物の割合にわずかな違いが認められる。しかし、ここで採取した堆積土は水簸したり、混和材を添加調合して土器素地を作ったと考えられる。その場合も混和材の採集地は鉱物・岩石組成の分析から池ノ下遺跡の近接域である。

以上、土器の出土状況や出土器種構成、土器に残された使用痕跡、胎土分析からこの土坑群は粘土を採掘するための土坑であることが検証できた。これはすでに別稿で地形や遺構の状況・木器の出土状況などから粘土採掘土坑であると検討された結果を追認したことになる。

今後、粘土採掘者の集落を検討し、行動領域を解明する必要がある。

# 第２節　古代から中世の遺構と遺物

## １．各調査区の概要

今回の調査では古代・中世の集落跡、水田遺構を検出し、各時期の遺物が出土している。以下、各区の遺構・遺物の概要に触れておく。

70 区からは、中世前期の掘立柱建物群・柵列などの遺構、須恵器椀・皿、輸入磁器などの遺物が出土した。

71 区からは中世前期の須恵器小皿・椀が出土しているが、その時期の遺構は明確ではない。

72 区では現地表に残る条里型地割 N23°Ｅに近い方位を取る水田畦畔痕跡が検出されている。

73 区・74 区では遺構・遺物とも明確ではない。

75 区では、古代の遺構・遺物が若干認められる。また、70区の中世前期の建物SB303～SB305・柵列SA303・SA304・SA306とほぼ同じ向き（もしくは直交する）の N17°Eにとる水田畦畔痕跡が検出されている。

76 区・77 区では古代～中世の建物跡・土坑・溝、土師器・須恵器が検出されている。

## ２．古代の遺構と遺物について

8 世紀を中心とした古代の集落跡は、77 区を中心とする部分にほぼ集まり、76 区では土坑・溝、規則性はないが、柱穴が検出されている。75 区ではピットが検出されている。

77 区からは、正方位に向きをとる大型の方形掘形をもつ建物跡が 2 棟（SB306・SB307）検出されている。

奈良時代の遺物としては、円面硯・円形硯・緑釉陶器・墨書土器や漆塗りのパレットに使用したと考えられる須恵器片が出土している。これらの大半は、76 区・77 区の洪水砂起因の土壌層から出土している。大宰府政庁周辺官衙跡に複数の出土例を見る円形硯を加え、これらの出土遺物から官衙的な性格をもつ建物群が77区を含め周辺に存在した可能性が考えられる。

75 区・76 区では集落跡は認められないが、奈良時代の遺物が出土していることに加え、75 区では建物柱穴の可能性がある SK516 が、76 区では 8 世紀代の土坑 SK699 が検出されている。

池ノ下遺跡では区画整備に伴う調査において、64 区及び 70 区の北側にある 55 区の東南端から建物跡等が検出されている。また、山裾に近い 61 区からは多量の遺物が出土しているが、大規模な建物跡などは見つかっていなかった。今回の調査成果から、律令期の遺構は、少なくとも 77 区周辺から 76 区・75 区の北側付近に広がっていたと考えられる。

調査地点の北側、山裾の現集落部分には正方位の条里型地割が残っている。周辺に官衙が存在した可能性が高く、今回の調査で検出された建物跡・遺物から77区周辺がその末端に当たる可能性が浮上した。

但し、8世紀代の建物と同じ正方位を取る水田遺構などは明確ではない。70区と71区の間にある67区のSD255、76区の西半部において、8世紀代の遺構が認められる部分では東西方向に掘削されない部分があることや、区画整備調査66区の柱穴列が正方位をとることなどから推して、完新世段丘上に広範囲に広がる池ノ下遺跡の中に、部分的に正方位の地割が残る可能性がある。

## ３．中世前期の遺構と遺物について

中世前期の遺物は 70 区・71 区、76 区・77 区から出土している。概ね 12 世紀から 14 世紀前半の時期幅をもつが、その多くは 13 世紀代である。

70 区～71 区では 12 世紀代～14 世紀代にかけて､76 区～77 区では 12 世紀中頃～13 世紀後半代の土器が顕著であり、14 世紀代は少ない。

中世前期の遺構としては集落跡が調査区の東西端、70区と77区から検出されている。

70 区では、調査区の西端にある掘立柱建物跡 SB304 の規模が大きく、根石を伴う柱通りのしっかりした建物群が検出されている。SB304 は床面積が 53.6 ㎡以上を測り、SB303・SB305 といった付属屋を伴うこと、柵列 SA301・SA303・SA304・SA306 による西側・南側との区画性も見受けられる。荘所などの機能をもった在地領主層の屋敷地が存在した可能性が考えられる。

これらの建物・柵列・溝の大半は、N17°Ｅ前後の方位を持ち、現地表に残る N23°Ｅの方位ではない。対して、後述するが、東端において検出された掘立柱建物跡・溝は N23°Ｅの方位に近い方位をとる。

N17°Eに方位をもつ遺構は、75区の畦畔痕跡がある。これらも、70区のSB304・SB305、柵列SA301やSA306とほぼ同じ方位を持ち、中世前期の可能性がある。

以上の点を勘案すると、中世前期に N17°E前後の方位の遺構は建物単体ではなく、生産域にも及んでおり、 N17°Ｅ前後の地割が 70 区～75 区にかけて広範囲に存在した可能性がある。

77 区で検出・復元された建物跡４棟は何れも規模が小さく、柱通りもしっかりしない建物が多いが、調査範囲が限定的であり、北側や東側・南側に広がる可能性が高く、名主や在地領主の屋敷地の一角であった可能性がある。これらの建物群と重複して 13 世紀前半代の亀山焼甕の埋甕が検出されており、集落の時期の一点を知ることができる。また、今回の出土遺物の中に、華南産の四耳壺が含まれている点は注目される。中世前期での華南産輸入陶器は、県下では在地領主や名主層クラスの屋敷地から出土することが多く、池ノ下遺跡においても古網干遺跡など周辺の中世の港湾からもたらされた可能性が高い。

77区の中世の掘立柱建物群は、軸方位をN10°E前後に取り、条里型地割N23°Eに取るものがなく、山裾で認められる正方位の地割の影響を受けた可能性が考えられる。

70 区と 71 区の間にある 67 区や、72 区・75 区では中世前期と考えられる水田畦畔痕跡と溝が見つかっており、中世には生産域になっていたものと考えられる。

## ４．中世前期の遺構と現地表に残る条里型地割について

中世前期の遺構の中で、現在の地表面に残る N23°Ｅ の条里型地割に近い方位を持つものとして、70 区の東端の掘立柱建物跡SB301・SB302・溝SD302及び西端の柵列 SA305が挙げられる。

また、72 区において検出した第１面の 溝 SD318 と水田畦畔の多くは N22°Ｅに方位をとり、現在の地表に残る条里型地割 N23°Eに近い。区画整備に伴う『池ノ下遺跡』で報告された掘立柱建物の多くは、軸方位を N23°E前後にとる中世前期の建物であり、70区の調査結果を勘案すると、N22°Eに方位をとる

72区の第1面 水田遺構の一部もまた、中世前期である可能性が高い。

72 区の水田遺構の一部は、現在の地表に残る条里型地割 N23°Ｅよりも更に東（N38°Ｅ）に振り、65 区の古墳時代後期以降の水田遺構の向きの中に近いものがある。明確なことは不明であるが、区画整備調査 65 区の掘立柱建物跡が平安時代であり、N42°Ｅとやや近い方向性をもつことから、72 区の第１面の水田畦畔の一部は古墳時代後期から古代の間の可能性が考えられる。

## 第３節　池ノ下遺跡の総括

今回の調査では、調査区の東西両端に集落跡が存在し、中央西半には粘土採掘坑、中央から東半には水田遺構というように、東西の集落跡の間に生産域を検出している。

池ノ下遺跡の地形分析を行った青木哲哉氏は（青木 2012)、遺跡は沖積低地の完新世段丘に位置しており、今回の調査区には３本の埋没旧河道があり、その間に埋没旧中州が存在するとしている。最も西側の埋没旧河道は 75・76 区間の現用水路周辺、中央の埋没旧河道は 74 区に、最も東側の旧河道は 70 区中央付近を通ると分析している。加えて 2017 年度の現地踏査によって 77 区は支流性扇状地の末端に位置すること、72 区は完新世段丘と沖積地の境目に位置する可能性があることを指摘している。

今回のバイパス改良工事に伴う調査において遺構を検出したベース面は、概ね、区画整備の調査においても検出している灰白シルトである。各調査区において出現した灰白シルトの出現標高は以下の通りである。西から①77 区では北端で 3.15m、南側で 2.85m。南西端では 2.75m、東端では 3m。②76 区では西側で 2.4m、東側でも2.5m。③75区が2.75m。④74区が2.6～2.65m。⑤73区が2.6～2.7m。⑥72区が2.7m。⑦71区が2.85～2.6m。⑧区画整備67区が2.6～2.9m。⑨70区が2.9～3mを測る。標高の若干高い77区から緩やかに下り、76区では全体的に低く、75区では若干高く、74区では低く、若干のアップダウンをもちながら、71区・67区・70区へと高くなることが判る。

ベースの状況に、扇状地・埋没旧河道・埋没旧中州の情報を重ねると、西端の 77 区は支流性扇状地末端、76区は埋没旧河道、75区西半は埋没旧河道、75区東半は埋没旧中州、74区は埋没旧河道、73区は埋没旧中州、72区は埋没旧中州から沖積地、71区・70区西半にかけては埋没旧中州、70区中央には埋没旧河道、70区東半は埋没旧中州上に立地していると考えられる。

8 世紀代の集落と中世の集落は西端の最も安定した支流性扇状地上にあり、埋没旧河道上と考えられる 76 区西半では各時期の遺構が希薄となる。

76区中央から75区西半は弥生時代末の粘土採掘坑が多数存在する。粘土採掘坑群は、支流性扇状地と埋没旧中州間にある埋没旧河道上の凹部の堆積土を掘削対象としたものと考えられる。

旧河道のある 74 区～71 区・67 区は弥生時代～中世にかけて主に水田域として使用されている。

70 区西半の埋没旧中州上と東半の埋没旧中州上は、中世前期に入って屋敷地として使用されており、西半部の屋敷地は中央付近の埋没旧河道上にまで広がっていたと考えられる。しかし、東半の屋敷地との間の大半は空閑地となり、屋敷境の区画や水田などに利用されたと考えられる。

（参考文献）青木哲哉 2012.3「第５章　第７節　池ノ下遺跡の地形環境」『池ノ下遺跡』
兵庫県文化財調査報告　第 435 冊　兵庫県教育委員会

別表1　土器一覧(1)

| 報告番号 | 図版 | 写真図版 | 種　別 | 器　種 | 調査番号 | 調査区 | 遺構 | 備考 | 法　量(cm) | | | | | | | 分析 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | 長 | 幅 | 厚 | 重量(g) | |
| 2001 | 第2図 | 63 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 70 | SD306 | | | 11.3+ | 9.0 | | | | | |
| 2002 | 第2図 | 63 | 弥生土器 | 甕 | 2018013 | 75 | SK503 | | (13.3) | 4.2+ | | | | | | |
| 2003 | 第2図 | 63 | 弥生土器 | 甕 | 2018013 | 75 | SK512 | | | 3.5+ | 3.7 | | | | | |
| 2004 | 第2図 | 63 | 弥生土器 | 甕 | 2018013 | 75 | SK510 | | | 14.5+ | 4.4 | | | | | |
| 2005 | 64 | 63 | 弥生土器 | 壺 | 2007107 | 76 | SK606 | | 10.9 | 28.9 | 5.0 | | | | | |
| 2006 | 64 | 63 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK606 | | 15.9 | 15.1+ | | | | | | |
| 2007 | 64 | 63 | 弥生土器 | 壺 | 2007107 | 76 | SK607 | | | 7.7+ | 5.0 | | | | | |
| 2008 | 64 | 63 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK607 | | 14.7 | 16.1+ | | | | | | |
| 2009 | 64 | 64 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK607 | | | 6.9+ | 5.2 | | | | | |
| 2010 | 64 | 64 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK612 | | 13.8 | 15.3+ | 17.5 | | | | | |
| 2011 | 64 | 64 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK612 | | | 12.3+ | 5.2 | | | | | |
| 2012 | 64 | 64 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK613 | | 13.7 | 16.9+ | | | | | | |
| 2013 | 64 | 64 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK614 | | | 4.1+ | 5.4 | | | | | |
| 2014 | 64 | 64 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK615 | | 14.7 | 17.6+ | | | | | | |
| 2015 | 64 | 65 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK618 | | 16.1 | 12.5+ | | | | | | |
| 2016 | 64 | 65 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK618 | | (16.8) | 8.1+ | | | | | | |
| 2017 | 64 | 65 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK618 | | 15.4 | 19.2+ | | | | | | 試料No.1 |
| 2018 | 64 | 65 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK622 | | 13.8 | 7.0+ | | | | | | |
| 2019 | 64 | 65 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK623 | | 14.3 | 20.7+ | | | | | | 試料No.2 |
| 2020 | 64 | 65 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK632 | | (11.8) | 10.5+ | | | | | | |
| 2021 | 65 | 67 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK644 | | 14.8 | 5.3+ | | | | | | |
| 2022 | 65 | 67 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK644 | | | 8.7+ | | | | | | |
| 2023 | 65 | 66 | 弥生土器 | 壺 | 2007107 | 76 | SK655 | | 12.6 | 12.1+ | | | | | | |
| 2024 | 65 | 67 | 弥生土器 | 壺 | 2007107 | 76 | SK655 | | (23.0) | 6.9+ | | | | | | |
| 2025 | 65 | 67 | 弥生土器 | 壺 | 2007107 | 76 | SK666 | | | 11.8+ | | | | | | |
| 2026 | 65 | 67 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK670 | | | 6.9+ | 4.8 | | | | | |
| 2027 | 65 | 67 | 弥生土器 | 鉢 | 2007107 | 76 | SK673 | | | 7.1+ | 7.8 | | | | | |
| 2028 | 65 | 66 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK680 | | 13.3 | 26.0+ | 4.7 | | | | | 試料No.3 |
| 2029 | 65 | 66 | 弥生土器 | 壺 | 2007107 | 76 | SK685 | | 9.2 | 19.9+ | 4.4 | | | | | 試料No.4 |
| 2030 | 65 | 66 | 弥生土器 | 壺 | 2007107 | 76 | SK687 | | 12.0 | 16.3+ | | | | | | |
| 2031 | 65 | 67 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK701 | | (14.4) | 20.9+ | | | | | | |
| 2032 | 66 | 68 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK707 | | 15.0 | 24.5+ | | | | | | |
| 2033 | 66 | 68 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK708 | | 13.4 | 11.8+ | | | | | | |
| 2034 | 66 | 68 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK715 | | | 4.2+ | 4.7 | | | | | |
| 2035 | 66 | 68 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK716 | | 14.8 | 6.0+ | | | | | | |
| 2036 | 66 | 66 | 弥生土器 | 壺 | 2007107 | 76 | SK720 | | (13.8) | 8.1+ | | | | | | 試料No.5 |
| 2037 | 66 | 68 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK725 | | (14.0) | 18.4+ | | | | | | |
| 2038 | 66 | 68 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK730 | | 17.0 | 9.9+ | | | | | | 試料No.6 |
| 2039 | 66 | 68 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK730 | | 15.6 | 11.8+ | | | | | | |
| 2040 | 66 | 69 | 弥生土器 | 鉢 | 2007107 | 76 | SK733 | | (10.1) | 3.8+ | | | | | | |
| 2041 | 66 | 69 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK734 | | | 9.7+ | 4.4 | | | | | |
| 2042 | 66 | 69 | 弥生土器 | 鉢 | 2007107 | 76 | SK734 | | (24.6) | 7.0+ | | | | | | |
| 2043 | 66 | 69 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK737 | | | 11.4+ | | | | | | 試料No.7 |
| 2044 | 66 | 69 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK738 | | | 5.7+ | 3.5 | | | | | |
| 2045 | 66 | 66 | 土師器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK743 | | (12.2) | 12.6 | 5.9 | | | | | |
| 2046 | 66 | 69 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | 包含層 | | (13.5) | 10.4+ | | | | | | |
| 2047 | 66 | 69 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | 南側側溝 | | | 3.8+ | | | 頸径 (12.1) | | | |
| 2048 | 66 | 69 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | 南側側溝 | | | 6.7+ | 5.6 | | | | | |
| 2049 | 66 | 69 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK652·628·629·657周辺 | | | 5.2+ | 4.8 | | | | | |
| 2050 | 66 | 69 | 弥生土器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK652·628·629·657周辺 | | | 5.4+ | 4.7 | | | | | |
| 2051 | 第3図 | 70 | 弥生土器 | 甕 | 2017078 | 77 | SK794 | | 12.7 | 5.8+ | | | | | | |
| 2052 | 第3図 | 70 | 弥生土器 | 甕 | 2017078 | 77 | SK794 | | | 5.1+ | 4.5 | | | | | |
| 2053 | 第3図 | 70 | 弥生土器 | 高坏 | 2017078 | 77 | SK794 | | (19.6) | 5.4+ | | | | | | |
| 2054 | 第3図 | 70 | 弥生土器 | 高坏 | 2017078 | 77 | SK794 | | | 3.1+ | | | | | | |
| 2055 | 第3図 | 70 | 弥生土器 | 壺 | 2017078 | 77 | SD330 | | (10.3) | 2.4+ | | | | | | |
| 2056 | 第3図 | 70 | 弥生土器 | 甕 | 2017078 | 77 | SD330 | | (14.7) | 3.7+ | | | | | | |
| 2057 | 第3図 | 70 | 弥生土器 | 甕 | 2017078 | 77 | SD330 | | (14.8) | 3.5+ | | | | | | |

別表1　土器一覧(2)

| 報告番号 | 図版 | 写真図版 | 種　別 | 器　種 | 調査番号 | 調査区 | 遺構 | 備考 | 法　量(cm) | | | | | | | 分析 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | 長 | 幅 | 厚 | 重量(g) | |
| 2058 | 第3図 | 70 | 弥生土器 | 甕 | 2017078 | 77 | SD330 | | | 2.7+ | (5.8) | | | | | |
| 2059 | 第3図 | 70 | 弥生土器 | 高坏 | 2017078 | 77 | SD330 | | (17.6) | 3.7+ | | | | | | |
| 2060 | 第3図 | 70 | 弥生土器 | 製塩土器 | 2017078 | 77 | SD330 | | | 2.0+ | (5.0) | | | | | |
| 2061 | 第3図 | 70 | 弥生土器 | 壺 | 2017078 | 77 | SD330 | | | 4.1+ | 14.9 | | | | | |
| 2101 | 67 | 71 | 土師器 | 小皿 | 2007107 | 70 | SB301P03 | | (7.8) | 1.2+ | | | | | | |
| 2102 | 67 | 71 | 須恵器 | 椀 | 2007107 | 70 | SA302P01 | | (15.7) | 3.5+ | | | | | | |
| 2103 | 67 | 71 | 須恵器 | 椀 | 2007107 | 70 | SB305P09 | | (16.5) | 2.6+ | | | | | | |
| 2104 | 67 | 72 | 土師質 | 羽口 | 2007107 | 70 | SB305P02 | | | | 孔径3.1 | 12.5+ | 10.1 | 腹径9.7 | | |
| 2105 | 67 | 71 | 土師器 | 小皿 | 2007107 | 70 | P7002 | | (6.7) | 1.2+ | | | | | | |
| 2106 | 67 | 71 | 土師器 | 小皿 | 2007107 | 70 | P7006 | | (7.7) | 1.4+ | | | | | | |
| 2107 | 67 | 71 | 土師器 | 小皿 | 2007107 | 70 | P7001 | | (8.3) | 1.5 | | | | | | |
| 2108 | 67 | 71 | 須恵器 | 椀 | 2007107 | 70 | P7005 | | (15.6) | 3.4+ | | | | | | |
| 2109 | 67 | 72 | 土師器 | 皿 | 2007107 | 70 | SK304 | | (13.7) | 2.6+ | | | | | | |
| 2110 | 67 | 72 | 土師器 | 小皿 | 2007107 | 70 | SK306 | | (8.7) | 2.0 | | | | | | |
| 2111 | 67 | 72 | 土師器 | 小皿 | 2007107 | 70 | SK307 | | (7.7) | 1.4+ | | | | | | |
| 2112 | 67 | 72 | 土師器 | 小皿 | 2007107 | 70 | SK301 | | 8.6 | 1.6 | 7.8 | | | | | |
| 2113 | 67 | 73 | 土師器 | 小皿 | 2007107 | 70 | SD315 | | (6.9) | 1.3+ | (4.8) | | | | | |
| 2114 | 67 | 73 | 土師器 | 小皿 | 2007107 | 70 | SD315 | | (8.2) | 1.6+ | (6.4) | | | | | |
| 2115 | 67 | 73 | 土師器 | 小皿 | 2007107 | 70 | SD315 | | (7.5) | 1.6+ | (5.0) | | | | | |
| 2116 | 67 | 73 | 土師器 | 皿 | 2007107 | 70 | SD315 | | (12.6) | 2.0+ | (7.9) | | | | | |
| 2117 | 67 | 73 | 土師器 | 皿 | 2007107 | 70 | SD315 | | (12.6) | 2.0+ | (9.7) | | | | | |
| 2118 | 67 | 73 | 土師器 | 皿 | 2007107 | 70 | SD315 | | (13.0) | 2.3+ | (9.7) | | | | | |
| 2119 | 67 | 73 | 土師質 | 土錘 | 2007107 | 70 | SD315 | | | | 孔径(0.4) | 4.3 | 1.6 | 1.5 | 9.8 | |
| 2120 | 67 | 73 | 土師質 | 三足脚付羽釜 | 2007107 | 70 | SD315 | | (14.9) | 6.1+ | | | | | | |
| 2121 | 67 | 74 | 土師質 | 三足脚付羽釜 | 2007107 | 70 | SD315 | | | 9.9+ | | | | | | |
| 2122 | 67 | 73 | 瓦器 | 椀 | 2007107 | 70 | SD315 | | (14.9) | 3.0+ | | | | | | |
| 2123 | 67 | 74 | 須恵器 | 椀 | 2007107 | 70 | SD315 | | (15.6) | 5.1+ | (5.3) | | | | | |
| 2124 | 67 | 74 | 須恵器 | 甕 | 2007107 | 70 | SD315 | | (22.6) | 4.2+ | | | | | | |
| 2125 | 67 | 74 | 白磁 | 碗 | 2007107 | 70 | SD315 | | (15.7) | 2.9+ | | | | | | |
| 2126 | 67 | 73 | 須恵器 | 椀 | 2007107 | 70 | SD312 | | 15.7 | 14.7 | 5.7 | | | | | |
| 2127 | 67 | 74 | 須恵器 | 椀 | 2007107 | 70 | SD312 | | 14.8 | 4.1+ | | | | | | |
| 2128 | 67 | 74 | 土師器 | 小皿 | 2007107 | 70 | SD316 | | (8.2) | 1.5+ | (5.2) | | | | | |
| 2129 | 67 | 74 | 土師器 | 小皿 | 2007107 | 70 | SD314 | | (7.8) | 1.5+ | (5.0) | | | | | |
| 2130 | 68 | 74 | 土師器 | 小皿 | 2007107 | 70 | 包含層 | | 8.4 | 1.5 | | | | | | |
| 2131 | 68 | 74 | 瓦器 | 椀 | 2007107 | 70 | 包含層 | | (4.7) | 3.8+ | | | | | | |
| 2132 | 68 | 74 | 須恵器 | 小皿 | 2007107 | 70 | 包含層 | | (7.1) | 2.0+ | (4.8) | | | | | |
| 2133 | 68 | 74 | 須恵器 | 捏鉢 | 2007107 | 70 | 壁 | | (27.7) | 4.5+ | | | | | | |
| 2134 | 68 | 74 | 白磁 | 皿 | 2007107 | 71 | 包含層 | | (9.8) | 2.9 | (6.0) | | | | | |
| 2135 | 68 | 74 | 瓦 | 平瓦 | 2017078 | 72 | 包含層 | | | | | 5.9+ | 7.0+ | 断面1.8 | | |
| 2136 | 68 | 76 | 須恵器 | 杯蓋 | 2018013 | 75 | SK516 | | | 2.3+ | | | つまみ径2.8 | | | |
| 2137 | 68 | 76 | 土師質 | 土錘 | 2018013 | 75 | 包含層 | | | | 孔径(0.3～0.4) | 4.8 | 1.2 | 1.0 | 6.0 | |
| 2138 | 68 | 76 | 須恵器 | 杯蓋 | 2018013 | 75 | 包含層 | | (19.7) | 1.6+ | | | | | | |
| 2139 | 68 | 76 | 須恵器 | 杯A | 2018013 | 75 | 包含層 | | (13.8) | 3.0 | (10.2) | | | | | |
| 2140 | 68 | 83 | 須恵器 | 杯Aか皿 | 2018013 | 75 | 包含層 | | | 0.7+ | (10.6) | | | | | |
| 2141 | 68 | 76 | 須恵器 | 杯B | 2018013 | 75 | 包含層 | | (16.8) | 4.7+ | | | | | | |
| 2142 | 68 | 76 | 須恵器 | 皿 | 2018013 | 75 | 包含層 | | (13.8) | 3.0 | (6.2) | | | | | |
| 2143 | 68 | 76 | 須恵器 | 捏鉢 | 2018013 | 75 | 包含層 | | (26.5) | 4.8+ | | | | | | |
| 2144 | 68 | 76 | 施釉陶器 | 椀 | 2018013 | 75 | SD324(古) | | | 1.4+ | (5.0) | | | | | |
| 2145 | 69 | 83 | 須恵器 | 杯B | 2007107 | 76 | SK650 | | | 2.1+ | (9.3) | | | | | |
| 2146 | 69 | 77 | 須恵器 | 杯B | 2007107 | 76 | SK681 | | | 2.9+ | (11.0) | | | | | |
| 2147 | 69 | 77 | 須恵器 | 皿 | 2007107 | 76 | SD329 | | (13.7) | 2.1+ | | | | | | |
| 2148 | 69 | 77 | 土師器 | 甕 | 2007107 | 76 | SK699 | | 15.7 | 11.0+ | | | | | | |
| 2149 | 69 | 77 | 土師質 | 羽口 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | | 5.5+ | 5.2+ | | | |
| 2150 | 69 | 77 | 土師質 | 土錘 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | 孔径(0.4) | 4.2 | 1.1 | 1.1 | 4.5 | |

別表1　土器一覧(3)

| 報告番号 | 図版 | 写真図版 | 種　別 | 器　種 | 調査番号 | 調査区 | 遺構 | 備考 | 法　量(cm) | | | | | | | 分析 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | 長 | 幅 | 厚 | 重量(g) | |
| 2151 | 69 | 77 | 須恵器 | 台付壺 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | 3.5+ | 脚(12.3) | | | | | |
| 2152 | 69 | 83 | 須恵器 | 不明 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | | 3.4+ | 2.1+ | 0.7 | | |
| 2153 | 69 | 83 | 須恵器 | 杯蓋 | 2007107 | 76 | 南側側溝 | | (13.6) | 1.7+ | | | | | | |
| 2154 | 69 | 78 | 須恵器 | 杯蓋 | 2007107 | 76 | 包含層 | | (19.9) | 2.3+ | | | | | | |
| 2155 | 69 | 77 | 須恵器 | 杯蓋 | 2007107 | 76 | 包含層 | | (14.9) | 2.1+ | | | | | | |
| 2156 | 69 | 77 | 須恵器 | 杯A | 2007107 | 76 | 包含層 | | (12.1) | 3.4 | | | | | | |
| 2157 | 69 | 77 | 須恵器 | 杯B | 2007107 | 76 | 包含層 | | | 3.3+ | (9.1) | | | | | |
| 2158 | 69 | 78 | 須恵器 | 皿 | 2007107 | 76 | 包含層 | 転用硯 | | 1.4+ | (10.1) | | | | | |
| 2159 | 69 | 78 | 須恵器 | 杯か皿 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | 0.8+ | | | | | | |
| 2160 | 69 | 82・83 | 須恵器 | 円面硯 | 2007107 | 76 | 包含層 | | (16.6) | 4.4+ | | | | | | |
| 2161 | 69 | 77 | 無釉陶器 | 壺 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | 7.7+ | (13.1) | | | | | |
| 2162 | 69 | 77 | 青磁 | 碗 | 2007107 | 76 | 包含層 | | (15.7) | 2.9+ | | | | | | |
| 2163 | 70 | 78 | 土製品 | 不明 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | 2.6+ | | | 1.8 | 5.6 | | |
| 2164 | 70 | 83 | 須恵器 | 杯？ | 2007107 | 76 | 包含層 | | | 0.5+ | | | | | | |
| 2165 | 70 | 78 | 須恵器 | 杯B蓋 | 2007107 | 76 | 包含層 | 転用硯 | (25.8) | 2.7+ | | | | | | |
| 2166 | 70 | 78 | 須恵器 | 杯蓋 | 2007107 | 76 | 包含層 | 転用硯 | (20.8) | 1.5+ | | | | | | |
| 2167 | 70 | 78 | 須恵器 | 杯A | 2007107 | 76 | 包含層 | | (14.8) | 3.1 | (11.5) | | | | | |
| 2168 | 70 | 78 | 須恵器 | 杯Bか壺 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | 1.5+ | (14.0) | | | | | |
| 2169 | 70 | 78 | 白磁 | 碗 | 2007107 | 76 | 包含層 | | (15.9) | 3.2+ | | | | | | |
| 2170 | 70 | 79 | 土師器 | 杯A | 2007107 | 76 | 包含層 | | (14.3) | 3.6+ | | | | | | |
| 2171 | 70 | 79 | 土師器 | 杯 | 2007107 | 76 | 包含層 | | (16.4) | 3.7+ | | | | | | |
| 2172 | 70 | 79 | 土師質 | 土錘 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | 孔径(0.5) | 5.2 | 1.6 | 1.7 | 12.4 | |
| 2173 | 70 | 79 | 土師器 | 鍋の把手 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | 3.4+ | | | | | | |
| 2174 | 70 | 79 | 須恵器 | 杯蓋 | 2007107 | 76 | 包含層 | | (12.9) | 2.0+ | | | | | | |
| 2175 | 70 | 79 | 須恵器 | 杯蓋 | 2007107 | 76 | 包含層 | | (14.4) | 1.5+ | | | | | | |
| 2176 | 70 | 79 | 須恵器 | 杯蓋 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | 1.6+ | | | | | | |
| 2177 | 70 | 79 | 須恵器 | 稜椀の蓋 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | 1.3+ | (8.8) | | | | | |
| 2178 | 70 | 79 | 須恵器 | 杯A | 2007107 | 76 | 包含層 | | (13.8) | 3.3 | (12.8) | | | | | |
| 2179 | 70 | 79 | 須恵器 | 杯A | 2007107 | 76 | 包含層 | | (16.4) | 3.6 | (13.0) | | | | | |
| 2180 | 70 | 79 | 須恵器 | 椀 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | 2.4+ | (5.5) | | | | | |
| 2181 | 71 | 80 | 土師器 | 皿 | 2007107 | 76 | 包含層 | | (15.8) | 2.4 | (13.4) | | | | | |
| 2182 | 71 | 80 | 土師器 | 杯A | 2007107 | 76 | 包含層 | | (15.7) | 3.5+ | (12.9) | | | | | |
| 2183 | 71 | 80 | 土師器 | 製塩土器 | 2007107 | 76 | 包含層 | | (11.4) | 6.5+ | (12.0) | | | | | |
| 2184 | 71 | 80 | 土師器 | イイダコ壺 | 2007107 | 76 | 包含層 | | (4.8) | 5.2+ | | 腹径(8.0) | | | | |
| 2185 | 71 | 80 | 土師質 | 土錘 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | 孔径(0.3) | 3.9 | 1.0 | 0.9 | 3.4 | |
| 2186 | 71 | 80 | 土師器 | 杯？ | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | | 縦3.1+ | 横3.7+ | 厚0.5 | | |
| 2187 | 71 | 80 | 瓦質土器 | 鍋 | 2007107 | 76 | 包含層 | | (30.4) | 8.1+ | | | | | | |
| 2188 | 71 | 80 | 瓦 | 平瓦 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | | 9.5+ | 8.2+ | 2.0 | | |
| 2189 | 71 | 81 | 土師器 | 杯蓋 | 2007107 | 76 | 包含層 | | (18.3) | 1.5+ | | | | | | |
| 2190 | 71 | 81 | 須恵器 | 杯蓋 | 2007107 | 76 | 包含層 | | (17.5) | 2.6+ | | | | | | |
| 2191 | 71 | 81 | 須恵器 | 杯A | 2007107 | 76 | 包含層 | | (16.1) | 3.7 | (11.9) | | | | | |
| 2192 | 71 | 81 | 須恵器 | 杯B | 2007107 | 76 | 包含層 | | (16.7) | 5.0+ | | | | | | |
| 2193 | 71 | 81 | 緑釉陶器 | 皿か鉢 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | 2.7+ | (8.7) | | | | | |
| 2194 | 71 | 82 | 須恵器 | 鉢 | 2007107 | 76 | 包含層 | | (43.6) | 10.9+ | | | | | | |
| 2195 | 71 | 82・83 | 須恵器 | 円形硯 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | 2.4+ | (13.9) | | | | | |
| 2196 | 71 | 82 | 土師質 | 竈 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | | 5.6+ | 8.3+ | | | |
| 2197 | 71 | 81 | 土師器 | 製塩土器 | 2007107 | 76 | 北側側溝 | | | 6.4+ | | | | | | |
| 2198 | 71 | 82 | 須恵器 | 蓋 | 2007107 | 76 | 南側側溝 | | (34.4) | 2.9+ | | | | | | |
| 2199 | 71 | 82 | 須恵器 | 台付皿 | 2007107 | 76 | 機械掘削 | | (14.0) | 2.02 | | | | | | |
| 2200 | 71 | 82 | 須恵器 | 杯B | 2007107 | 76 | 南側側溝 | | (12.0) | 3.8 | (8.8) | | | | | |
| 2201 | 71 | 82 | 須恵器 | 蓋 | 2007107 | 76 | 北側側溝 | | | 2.6 | | | 2.4 | | | |
| 2202 | 72 | 85 | 須恵器 | 皿 | 2017078 | 77 | SB306P05 | | (15.6) | 1.9+ | | | | | | |
| 2203 | 72 | 85 | 須恵器 | 杯B | 2017078 | 77 | SB306P139 | | (16.0) | 4.1+ | | | | | | |
| 2204 | 72 | 85 | 土師器 | 小皿 | 2017078 | 77 | SB308P229 | | (8.1) | 1.7 | | | | | | |
| 2205 | 72 | 84 | 土師器 | 皿 | 2017078 | 77 | SB308P229 | | (13.5) | 2.6 | 10.6 | | | | | |

別表1　土器一覧(4)

| 報告番号 | 図版 | 写真図版 | 種　別 | 器　種 | 調査番号 | 調査区 | 遺構 | 備考 | 法　量(cm) | | | | | | | 分析 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | 長 | 幅 | 厚 | 重量(g) | |
| 2206 | 72 | 87 | 須恵器 | 椀 | 2017078 | 77 | SB308P229 | | (14.0) | 3.5+ | | | | | | |
| 2207 | 72 | 85 | 土師器 | 小皿 | 2017078 | 77 | SB308P49 | | (8.6) | 1.3 | (7.5) | | | | | |
| 2208 | 72 | 85 | 土師器 | 小皿 | 2017078 | 77 | SB308P180 | | (8.7) | 2.0+ | | | | | | |
| 2209 | 72 | 85 | 土師器 | 皿 | 2017078 | 77 | SB308P179 | | (15.6) | 2.5+ | | | | | | |
| 2210 | 72 | 87 | 瓦器 | 椀 | 2017078 | 77 | SB308P179 | | (13.7) | 3.8+ | | | | | | |
| 2211 | 72 | 87 | 瓦 | 平瓦 | 2017078 | 77 | SB308P58 | | | | | 縦 7.9+ | 横 8.7+ | 2.6 | | |
| 2212 | 72 | 84 | 白磁 | 碗 | 2017078 | 77 | SB308P150 | | (17.1) | 6.7 | 6.3 | | | | | |
| 2213 | 72 | 85 | 土師質 | 土錘 | 2017078 | 77 | SB308P150 | | | | 孔径 (0.4) | 2.5+ | 1.1 | 1.0 | 3.0 | |
| 2214 | 72 | 87 | 灰釉陶器 | 四耳壺 | 2017078 | 77 | SB308P180 | | (9.1) | 5.7+ | | | | | | |
| 2215 | 72 | 84 | 土師器 | 小皿 | 2017078 | 77 | SB309P50 | | 8.3 | 1.2 | | | | | | |
| 2216 | 72 | 84 | 土師器 | 小皿 | 2017078 | 77 | SB309P62 | | (8.4) | 1.4 | | | | | | |
| 2217 | 72 | 86 | 土師器 | 皿 | 2017078 | 77 | SB309P62 | | (14.2) | 2.5+ | | | | | | |
| 2218 | 72 | 84 | 須恵器 | 椀 | 2017078 | 77 | SB309P218 | | (15.4) | 5.1+ | 6.8 | | | | | |
| 2219 | 72 | 86 | 土師器 | 小皿 | 2017078 | 77 | SB310P173 | | (8.3) | 1.5 | | | | | | |
| 2220 | 72 | 86 | 土師器 | 小皿 | 2017078 | 77 | SB308P180 | | (7.1) | 0.8 | (5.9) | | | | | |
| 2221 | 72 | 84 | 土師器 | 小皿 | 2017078 | 77 | P77059 | | 8.2 | 1.6 | 7.3 | | | | | |
| 2222 | 72 | 84 | 土師器 | 小皿 | 2017078 | 77 | P77070 | | 7.8 (長径 8.2) | 1.5 | | | | | | |
| 2223 | 72 | 84 | 土師器 | 皿 | 2017078 | 77 | P77254 | | 11.6 | 3.0 | 7.9 | | | | | |
| 2224 | 72 | 84 | 土師器 | 鍋 | 2017078 | 77 | SB310P182 | | (27.5) | 9.3+ | | | | | | |
| 2225 | 72 | 86 | 土師器 | 鍋 | 2017078 | 77 | P77155 | | (27.4) | 5.8+ | | | | | | |
| 2226 | 72 | 86 | 瓦質土器 | 羽釜 | 2017078 | 77 | P77155 | | (26.9) | 4.7+ | | | | | | |
| 2227 | 72 | 89 | 褐釉陶器 | 壺 | 2017078 | 77 | P77052 | | | 4.9+ | | | | | | |
| 2228 | 73 | 87 | 須恵器 | 甕 | 2017078 | 77 | SK793 | | (29.6) | 51.9+ | | | | | | |
| 2229 | 73 | 88 | 須恵器 | 杯蓋 | 2017078 | 77 | 包含層 | | (16.4) | 1.3+ | | | | | | |
| 2230 | 73 | 88 | 須恵器 | 稜椀の蓋 | 2017078 | 77 | 包含層 | | (18.2) | 3.0+ | | | | | | |
| 2231 | 73 | 88 | 須恵器 | 皿 | 2017078 | 77 | 包含層 | | (15.8) | 2.1+ | (13.3) | | | | | |
| 2232 | 73 | 88 | 須恵器 | 杯A | 2017078 | 77 | 包含層 | | (11.5) | 3.7 | (7.0) | | | | | |
| 2233 | 73 | 88 | 須恵器 | 稜椀 | 2017078 | 77 | 包含層 | | (16.2) | 4.0+ | | | | | | |
| 2234 | 73 | 88 | 須恵器 | 杯B | 2017078 | 77 | 包含層 | | (19.7) | 6.2+ | | | | | | |
| 2235 | 73 | 88 | 須恵器 | 杯B | 2017078 | 77 | 東壁付近 | | | 2.6+ | (12.1) | | | | | |
| 2236 | 73 | 88 | 須恵器 | 杯B | 2017078 | 77 | 包含層 | | | 1.9+ | (9.1) | | | | | |
| 2237 | 73 | 88 | 瓦 | 平瓦 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | | 4.7+ | 4.0+ | 断面1.9 | | |
| 2238 | 73 | 88 | 緑釉陶器 | 碗？ | 2017078 | 77 | 包含層 | | | 1.2+ | 6.3 | | | | | |
| 2239 | 74 | 89 | 土師器 | 小皿 | 2017078 | 77 | 包含層 | | (8.2) | 1.4+ | (5.7) | | | | | |
| 2240 | 74 | 89 | 土師器 | 鍋 | 2017078 | 77 | SD330 | | (22.0) | 15.0+ | | | | | | |
| 2241 | 74 | 89 | 瓦質土器 | 羽釜 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | 5.5+ | | | | | | |
| 2242 | 74 | 89 | 瓦質土器 | 羽釜 | 2017078 | 77 | 包含層 | | (16.5) | 6.4+ | | | | | | |
| 2243 | 74 | 89 | 瓦質土器 | 三足脚付羽釜 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | 9.7+ | | | | | | |
| 2244 | 74 | 89 | 土師質 | 土錘 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | 孔径 (0.3) | 4.3 | 1.0 | 1.0 | 4.4 | |
| 2245 | 74 | 89 | 土師質 | 土錘 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | 孔径 (0.3) | 5.9 | 1.1 | 1.1 | 7.3 | |
| 2246 | 74 | 89 | 灰釉陶器 | 四耳壺 | 2017078 | 77 | 包含層 | | (9.9) | 4.7+ | | | | | | |
| 2247 | 74 | 90 | 白磁 | 碗 | 2017078 | 77 | 包含層 | | (16.3) | 2.6+ | | | | | | |
| 2248 | 74 | 90 | 青磁 | 碗 | 2017078 | 77 | 包含層 | | (15.7) | 3.4+ | | | | | | |
| 2249 | 74 | 90 | 青磁 | 碗 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | 1.7+ | (5.6) | | | | | |
| 2250 | 74 | 90 | 青磁 | 碗 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | 3.4+ | (6.8) | | | | | |
| 2251 | — | 75 | 白磁 | 碗 | 2007107 | 70 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2252 | — | 75 | 白磁 | 碗 | 2007107 | 70 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2253 | — | 75 | 白磁 | 碗 | 2007107 | 70 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2254 | — | 75 | 白磁 | 碗 | 2007107 | 70 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2255 | — | 75 | 白磁 | 碗 | 2007107 | 70 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2256 | — | 75 | 白磁 | 碗 | 2007107 | 70 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2257 | — | 89 | 褐釉陶器 | 壺 | 2017078 | 77 | P77052 | | | | | | | | | |
| 2258 | — | 89 | 褐釉陶器 | 壺 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2259 | — | 89 | 褐釉陶器 | 壺 | 2017078 | 77 | P77052 | | | | | | | | | |

別表1　土器一覧(5)

| 報告番号 | 図版 | 写真図版 | 種　別 | 器　種 | 調査番号 | 調査区 | 遺構 | 備考 | 法　量(cm) | | | | | | | 分析 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | 長 | 幅 | 厚 | 重量(g) | |
| 2260 | — | 89 | 灰釉陶器 | 壺 | 2017078 | 77 | SB308P180か | | | | | | | | | |
| 2261 | — | 90 | 白磁 | 皿 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2262 | — | 90 | 白磁 | 碗 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2263 | — | 90 | 白磁 | 碗 | 2017078 | 77 | SB308P58 | | | | | | | | | |
| 2264 | — | 90 | 青磁 | 碗 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2265 | — | 90 | 白磁 | 碗 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2266 | — | 90 | 白磁 | 碗 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2267 | — | 90 | 白磁 | 碗 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2268 | — | 90 | 白磁 | 碗 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2269 | — | 90 | 白磁 | 碗 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2270 | — | 90 | 白磁 | 碗 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2271 | — | 90 | 白磁 | 碗 | 2017078 | 77 | 西側溝 | | | | | | | | | |
| 2272 | — | 90 | 白磁 | 碗 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2273 | — | 90 | 白磁 | 碗 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2274 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2275 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2276 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2277 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2278 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2279 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2280 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2281 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2282 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2283 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2284 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2285 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2286 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2287 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2288 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2289 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2290 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2291 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2017078 | 77 | SB306P102 | | | | | | | | | |
| 2292 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2018013 | 75 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2293 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2294 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2018013 | 75 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2295 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2018013 | 75 | 包含層 | | | | | | | | | |
| 2296 | — | 91 | 土師器 | 製塩土器 | 2018013 | 75 | 包含層 | | | | | | | | | |

## 別表2　石器一覧

| 報告番号 | 図版 | 写真図版 | 種　別 | 器　種 | 調査番号 | 調査区 | 遺構 | 備考 | 法　量(mm) | | | | | | | 分析 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | 長 | 幅 | 厚 | 重量(g) | |
| S201 | 75 | 92 | 打製石器 | ナイフ形石器（国府型） | 2017078 | 77 | SB306P136付近 | | | | | 36.9 | 18.2 | 8.3 | 6.8 | |
| S202 | 75 | 92 | 打製石器 | 石鏃（平基式） | 2007107 | 76 | SK624 | | | | | 20.2 | 20.0 | 2.2 | 1.0 | |
| S203 | 75 | 92 | 打製石器 | 石鏃（平基式） | 2007107 | 76 | SK655 | | | | | 18.0 | 15.5 | 3.2 | 0.7 | |
| S204 | 75 | 92 | 打製石器 | 石鏃（凹基式） | 2007107 | 76 | SK700 | | | | | 27.7 | 15.7 | 2.7 | 1.2 | |
| S205 | 75 | 92 | 打製石器 | 石鏃（平基式） | 2007107 | 76 | SK606 | | | | | 25.1 | 13.2 | 2.7 | 1.0 | |
| S206 | 75 | 92 | 磨製石器 | 砥石 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | | 104.7 | 89.4 | 31.6 | 344.0 | |
| S207 | 75 | 92 | 磨製石器 | 砥石 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | | 31.0 | 17.5 | 断面15.7<br>最大17.3 | 12.9 | |
| S208 | 75 | 92 | 磨製石器 | 砥石 | 2007107 | 70 | 包含層 | | | | | 54.6 | 38.7 | 15.8 | 50.1 | |
| S209 | 75 | 92 | 磨製石器 | 砥石 | 2017078 | 77 | 包含層 | | | | | 50.6 | 115.9 | 101.4 | 758.0 | |
| S210 | 75 | 92 | 磨製石器 | 砥石 | 2017078 | 77 | SB308P180 | | | | | 106.3 | 22.7 | 63.4 | 231.9 | |
| S211 | 75 | 92 | 磨製石器 | 敲石 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | | 156.2 | 33.6 | 28.3 | 241.9 | |
| S212 | 75 | 92 | 磨製石器 | 不明 | 2018013 | 75 | 包含層 | | | | | 56.6 | 36.5 | 4.2 | 14.9 | |
| S213 | — | 93 | 石製品 | 礎石 | 2007107 | 70 | SB305P01 | | | | | 217.2 | 206.4 | 102.9 | 6490.0 | |
| S214 | — | 93 | 石製品 | 礎石 | 2007107 | 70 | SB305P05 | | | | | 238.5 | 193.3 | 99.6 | 3950.0 | |

## 別表3　金属器一覧

| 報告番号 | 図版 | 写真図版 | 種　別 | 器　種 | 調査番号 | 調査区 | 遺構 | 備考 | 法　量(cm) | | | | | | | 分析 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | 長 | 幅 | 厚 | 重量(g) | |
| M201 | 76 | 93 | 鉄器 | 釘 | 2017078 | 77 | SK793 | | | | | 7.2+ | | 断幅0.5<br>断高0.4 | | |
| M202 | 76 | 93 | 鉄器 | 釘 | 2017078 | 77 | SB307P176 | | | | | 7.7+ | | 断幅0.7<br>断高0.7 | | |
| M203 | 76 | 93 | 鉄器 | 不明 | 2007107 | 70 | 包含層 | | | | | 7.9 | 3.3 | 断幅0.7<br>断高0.7 | | |
| M204 | 76 | 93 | 鉄器 | 刀子 | 2007107 | 70 | 包含層 | | | | | 5.1+ | 2.0 | 断幅2.0<br>断高0.3+ | | |
| M205 | 76 | 93 | 鉄器 | 不明 | 2017078 | 70 | SB301P06 | | | | | 9.6+ | 8.4+ | 断長9.5+<br>断厚0.4? | | |
| M206 | 76 | — | — | 鉄滓 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | | 3.1 | 4.8 | 断厚1.4 | 41.6 | |
| M207 | 76 | — | — | 鉄滓 | 2007107 | 76 | 包含層 | | | | | 5.3 | 5.4 | 断幅4.6<br>断厚2.2 | 75.7 | |
| M208 | 76 | — | — | 鉄滓 | 2007107 | 70 | 包含層 | | | | | 5.0 | 5.6 | 断幅5.4<br>断厚1.3 | 77.2 | |
| M209 | 76 | — | — | 鉄滓 | 2007107 | 70 | 包含層 | | | | | 2.6 | 3.3 | 断幅3.1<br>断厚1.0 | 14.9 | |
| M210 | 76 | — | — | 鉄滓 | 2007107 | 70 | 包含層 | | | | | 3.9 | 5.2 | 断幅4.6<br>断厚1.4 | 60.0 | |
| M211 | 76 | — | — | 鉄滓 | 2007107 | 70 | 包含層 | | | | | 4.5 | 3.7 | 断厚0.9 | 29.3 | |
| M212 | 76 | — | — | 椀形滓 | 2007107 | 70 | SA304P02 | | | | | 5.5 | 6.8 | 断厚1.4 | 53.3 | |
| M213 | 76 | — | — | 椀形滓 | 2007107 | 70 | SB305P09 | | | | | 9.4 | 8.2 | 断厚2.1 | 130.9 | |
| M214 | 76 | — | — | 椀形滓 | 2007107 | 70 | SB305P09 | | | | | 7.8 | 8.5 | 断幅8.3<br>断厚0.9 | 182.2 | |

## 別表4　木器一覧

| 報告番号 | 図版 | 写真図版 | 種　別 | 器　種 | 調査番号 | 調査区 | 遺構 | 備考 | 法　量(cm) | | | | | | | 分析 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | | 口径 | 器高 | 底径 | 長 | 幅 | 厚 | 重量(g) | |
| W201 | — | 93 | 木器 | 柱根 | 2017078 | 77 | SB309P220 | | 12.4 | | | 22.7 | | | | 処理No.<br>2017078-<br>1 |

# 図版

1

2

3

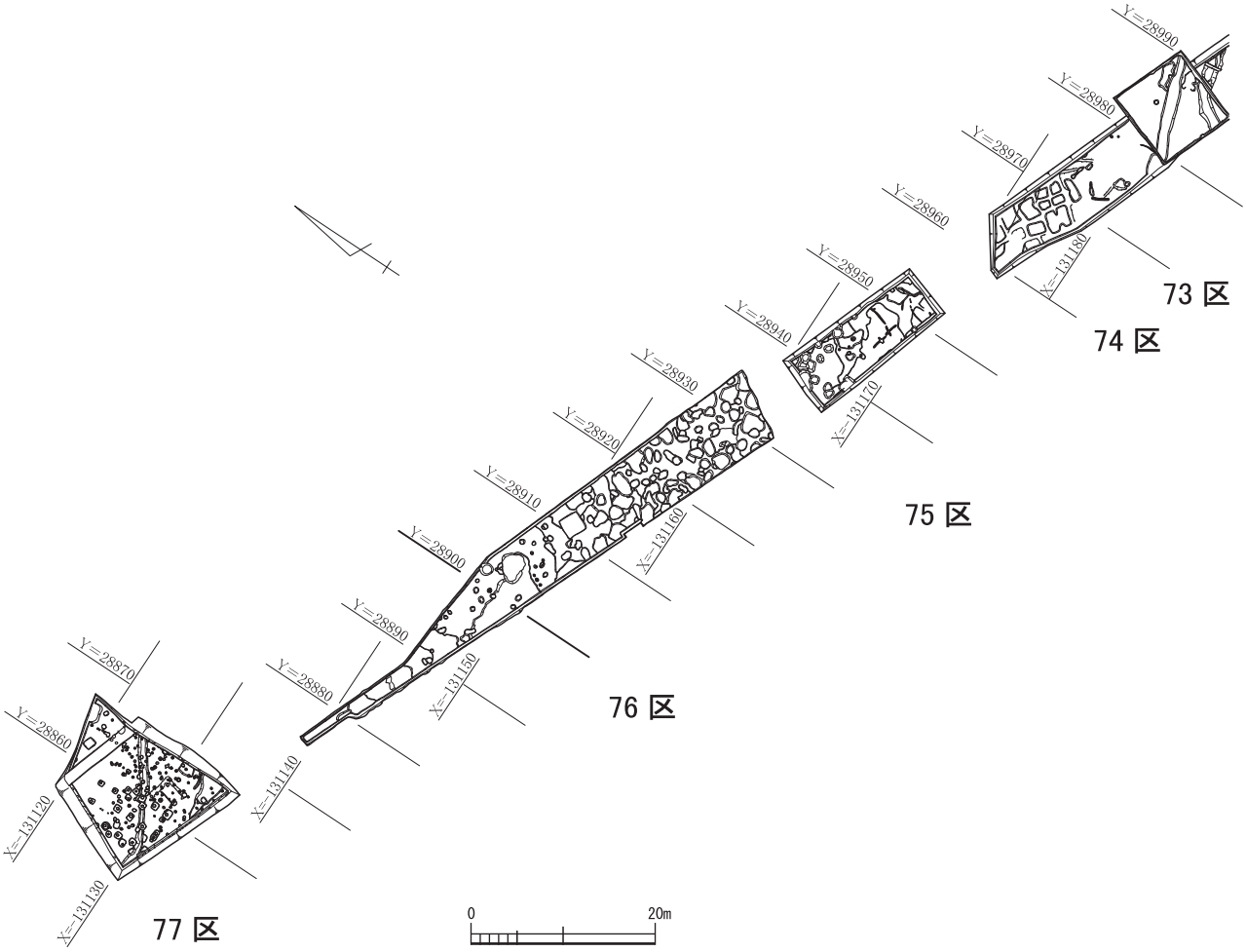
1 兵庫県の位置　2 姫路市の位置　3 池ノ下遺跡の位置（200,000 分の 1）

図版2　遺跡

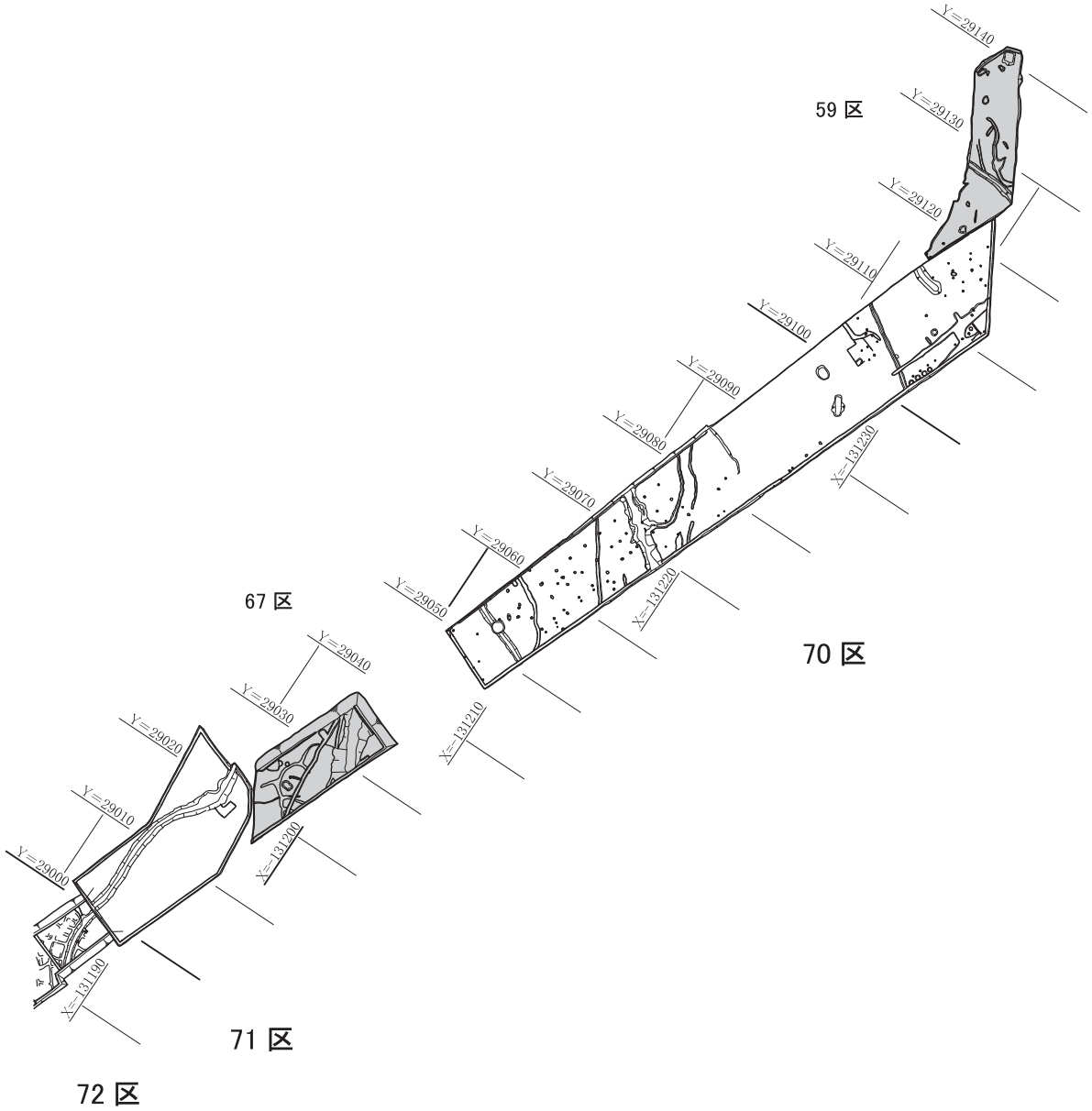
1　池ノ下遺跡
2　蒲田遺跡
3　山所群集墳
4　山所遺跡
5　山所廃寺
6　山所南遺跡
7　山崎城跡
8　稚児ヶ淵古墳群
9　村東遺跡
10　付城山群集墳
11　付城山遺跡
12　四ツ池遺跡
13　辻垣内遺跡
14　歌野橋遺跡
15　英賀城跡
16　城田付城構跡
17　今宿丁田遺跡
18　土山遺跡
19　町田遺跡
20　八反長遺跡
21　堂田遺跡
22　村前遺跡
23　法輪寺山遺跡
24　豆田遺跡
25　大淨口遺跡
26　中ノ町遺跡
27　大石橋遺跡
28　辻堂遺跡
29　鹿谷道遺跡
30　出手遺跡
31　横枕遺跡
32　東川遺跡
33　丁田遺跡
34　西久保遺跡
35　邨東遺跡
36　東久保遺跡
37　中地天神遺跡
38　権現遺跡
39　大町遺跡
40　大塚遺跡
41　石田遺跡
42　真福寺遺跡
43　構遺跡
44　南雲遺跡
45　今在家平塚遺跡
46　タテノ遺跡
47　坂川遺跡
48　栗木遺跡
49　石ヤ田遺跡
50　加茂遺跡
51　構石田遺跡
52　千代田遺跡
53　山崎遺跡
54　手柄山北丘遺跡
55　手柄山北丘頂上古墳
56　手柄山北丘群集墳
57　手柄山南丘遺跡
58　手柄山南丘群集墳
59　村淵遺跡
60　橋詰遺跡
61　黒表遺跡
62　小山遺跡
63　生矢神社裏遺跡
64　浜田遺跡
65　古屋敷遺跡
66　竹の前遺跡
67　長越遺跡
68　湯田遺跡
69　畑田遺跡
70　カスカエ遺跡
71　飯田カスカエ遺跡
72　善慶田遺跡
73　笹山田遺跡
74　大鳥遺跡
75　石ヶ坪遺跡
76　三宅遺跡

池ノ下遺跡周辺の主要遺跡（25,000 分の 1）

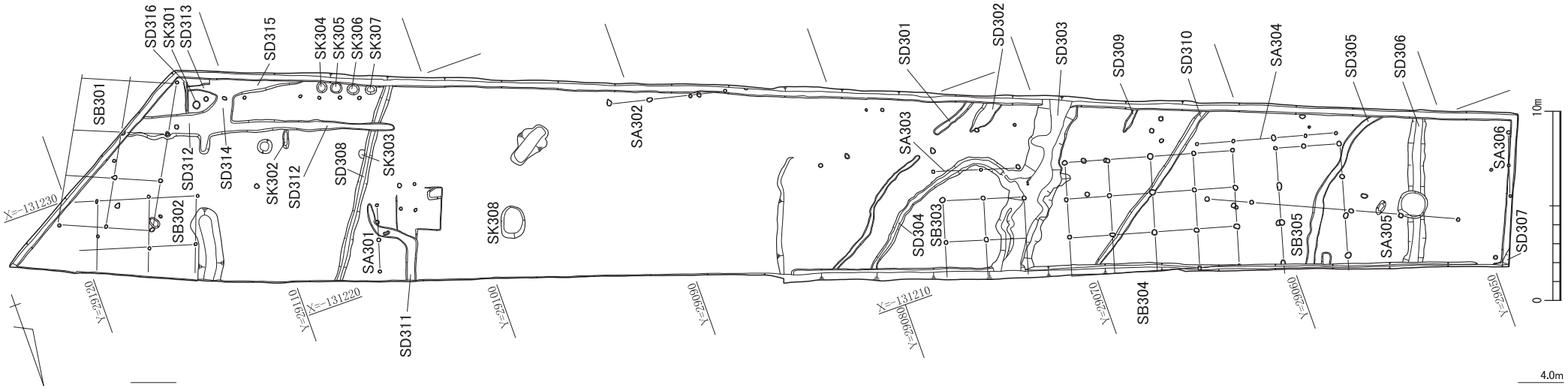
池ノ下遺跡　調査区位置図（1,500 分の 1）

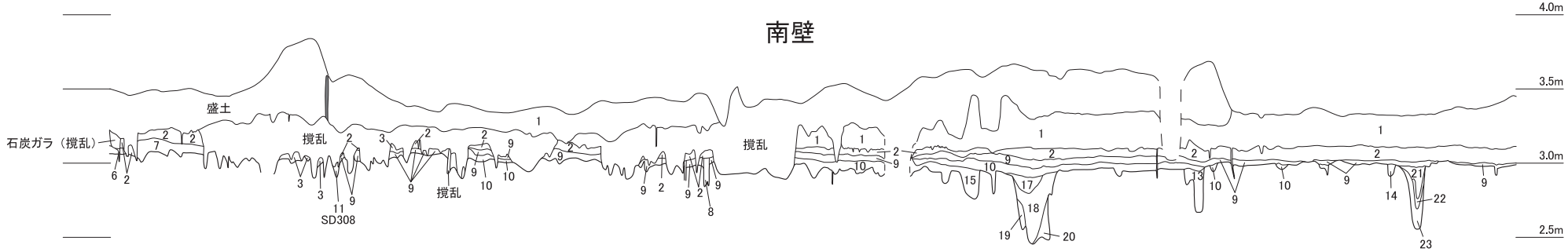

Y=28990
Y=28980
Y=28970
Y=28960
Y=28950
Y=28940
Y=28930
Y=28920
Y=28910
Y=28900
Y=28890
Y=28880
Y=28870
Y=28860
X=131120
X=131130
X=131140
X=131150
X=131160
X=131170
X=131180
73 区
74 区
75 区
76 区
77 区
0
20m

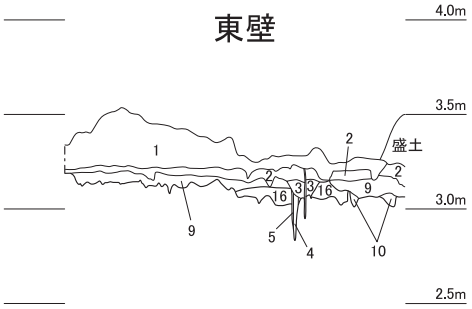
遺跡全体図 1

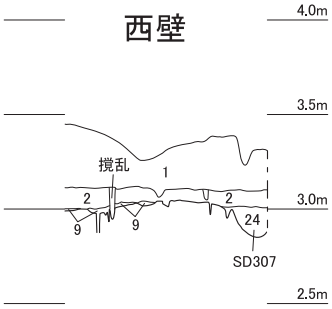

Y=29140
Y=29130
Y=29120
Y=29110
Y=29100
Y=29090
Y=29080
Y=29070
Y=29060
Y=29050
Y=29040
Y=29030
Y=29020
Y=29010
Y=29000
59 区
70 区
67 区
71 区
72 区
X=131230
X=131220
X=131210
X=131200
X=131190

遺跡全体図 2



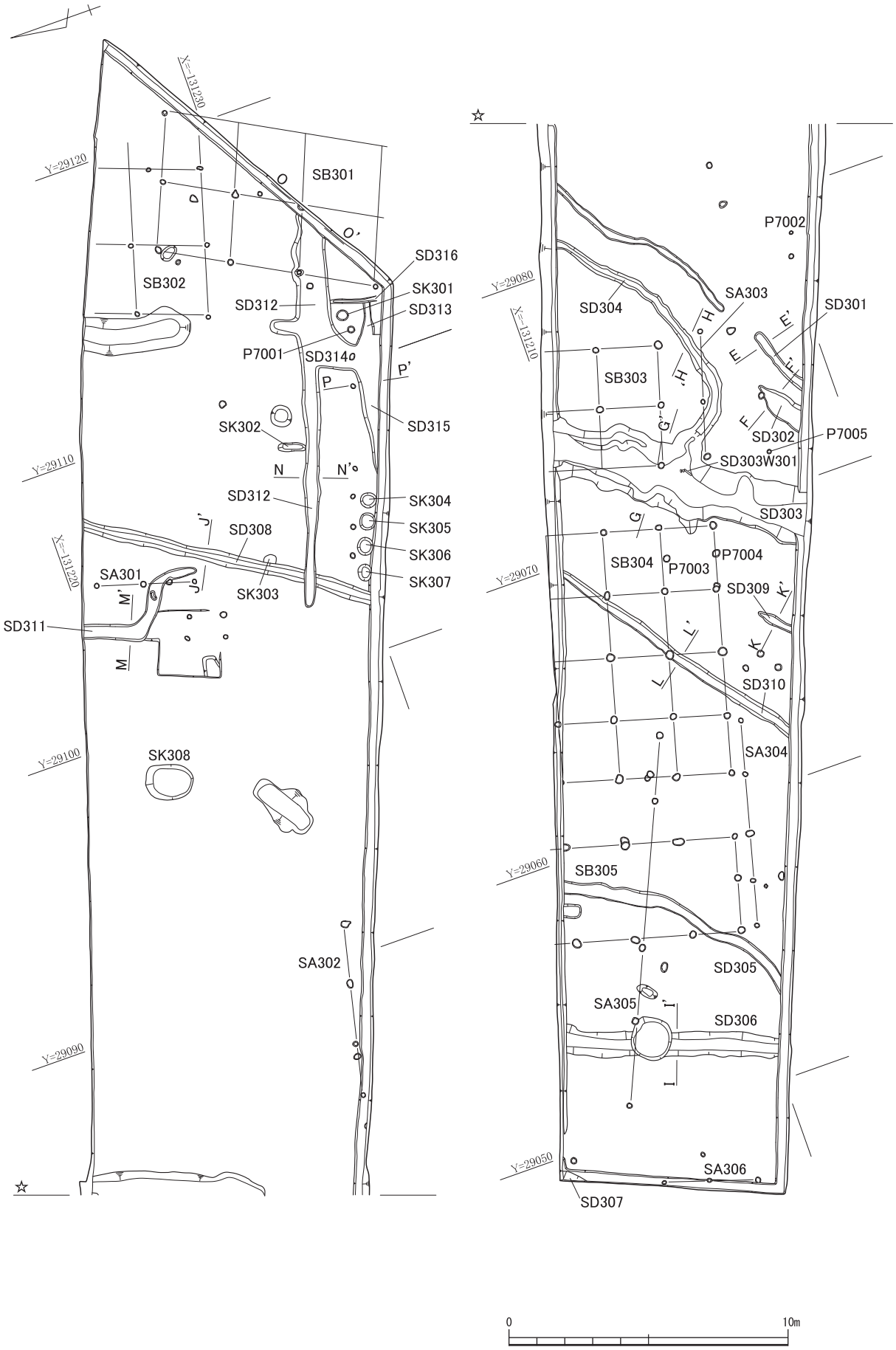




1. 耕土
2. 10YR6/6　明黄褐色　細砂～極細砂　酸化第二鉄を含む　床土
3. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂　SD312 埋土
4. 10YR5/1　褐灰色　シルト質極細砂　P121 埋土
5. 4 層に 2.5Y7/4　浅黄極細砂　ブロック僅かに混じる　P121 埋土
6. 10YR4/2　灰黄褐色　シルト質極細砂　SD316 埋土
7. 10YR5/2　灰黄褐色　シルト質極細砂　SD315 埋土
8. 10YR5/1　褐灰色　シルト質極細砂に
2.5Y7/3　浅黄色　極細砂ブロック僅かに混じる　P109 埋土
9. 10YR5/1　褐灰色　シルト質極細砂　マンガン含む
10. 10YR5/2　灰黄褐色　シルト質極細砂
11. 10YR5/2　灰黄褐色　極細砂　SD308 埋土
12. 10YR5/2　灰黄褐色　シルト質極細砂　SD309 埋土
13. 10YR5/2　灰黄褐色　シルト質極細砂　SD310 埋土
14. 10YR5/2　灰黄褐色　シルト質極細砂　SD305 埋土
15. 10YR4/2　灰黄褐色　シルト質極細砂　SD301・302 埋土及び被覆土
16. 5Y6/1　灰色　極細砂　土壌層ヵ
17. 10YR3/1　黒褐色　シルト質極細砂　SD303 埋土
18. 10YR4/2　灰黄褐色　シルト質極細砂　SD303 埋土
19. 10YR4/2　灰黄褐色　粗砂～シルト質極細砂　ラミナを形成している　SD303 埋土
20. 10YR3/2　黒褐色　小礫～中砂混じりシルト質極細砂　ラミナを形成している　SD303 埋土
21. 10YR5/2　灰黄褐色　シルト質極細砂　SD306 埋土
22. 10YR3/1　黒褐色　シルト質極細砂　SD306 埋土
23. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂　SD306 埋土
24. 10YR3/2　黒褐色　シルト質極細砂　SD307 埋土

1m
10m
0

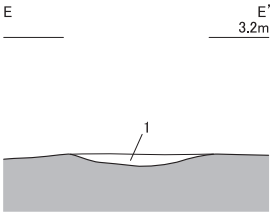
全体図・南壁・西壁・東壁土層断面図

図版 6　遺構　70 区


X=131230
Y=29120
SB301
SB302
SD316
SK301
SD312
SD313
P7001
SD314
SK302
SD315
Y=29110
SD312
SK304
SK305
SK306
SK307
SD308
X=131220
SA301
SK303
SD311
SK308
Y=29100
SA302
Y=29090
Y=29080
P7002
SD304
SA303
SD301
X=131210
SB303
SD302
P7005
SD303W301
SD303
SB304
P7003
P7004
Y=29070
SD309
SD310
SA304
Y=29060
SB305
SD305
SA305
SD306
Y=29050
SA306
SD307
0
10m

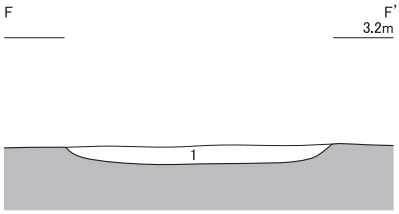
全体図

## SD301



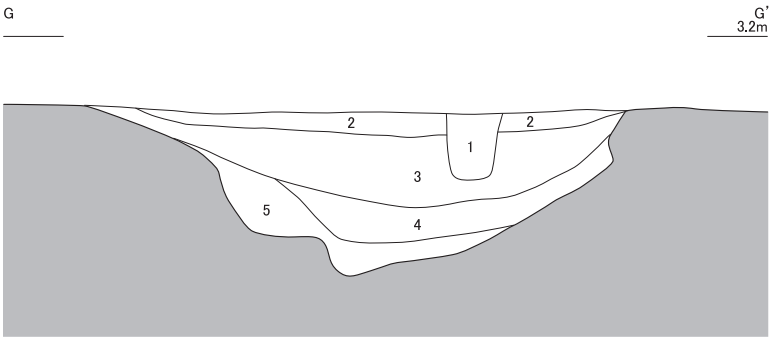

1. 10YR4/2　灰黄褐色　シルト質極細砂

## SD302




1. 2.5Y4/1　灰色　シルト質極細砂

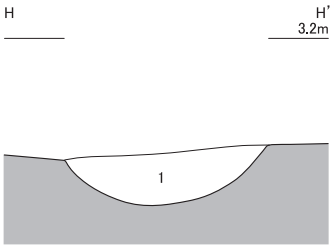
## SD303




1. 10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト質極細砂　SB303P04
2. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂
3. 10YR4/2　灰黄褐色　シルト質極細砂
4. 10YR4/2　灰黄褐色　粗砂～シルト質極細砂　ラミナ
5. 10YR3/2　黒褐色　小礫～中砂混じりシルト質極細砂　ラミナ

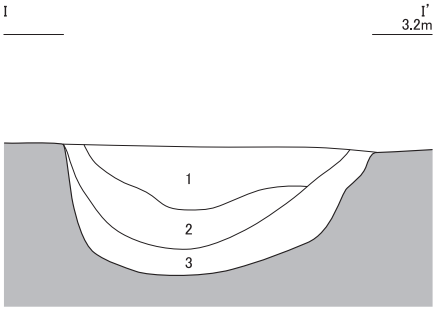
0　1m

## SD304



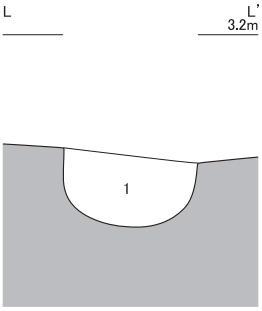

1. 10YR4/2　灰黄褐色　シルト質極細砂

## SD306



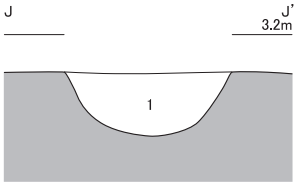

1. 10YR5/2　灰黄褐色　シルト質極細砂
2. 10YR3/1　黒褐色　極細砂
3. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂

## SD310



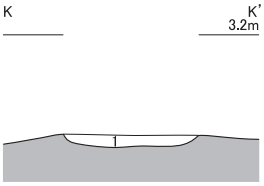

1. 10YR3/2　黒褐色　シルト質極細砂

## SD308



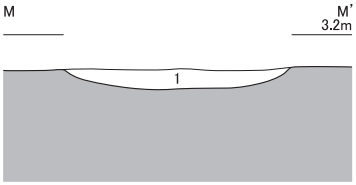

1. 10YR5/2　灰黄褐色　極細砂

## SD309



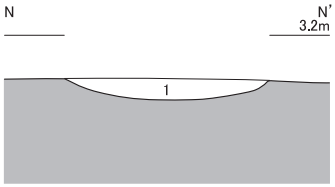

1. 10YR5/2　灰黄褐色　シルト質極細砂

## SD311



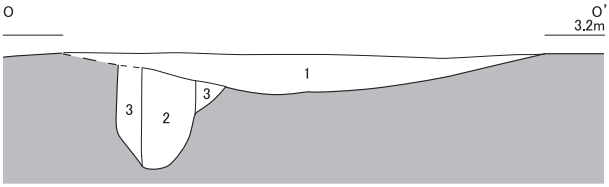

1. 10YR4/2　灰黄褐色　シルト質極細砂

## SD312



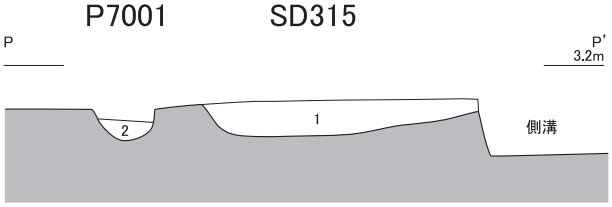

1. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂

## SB301 P07　SD312




1. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂
2. 10YR5/1　褐灰色　シルト質極細砂
3. 1に2.5Y7/4　浅黄色　極細砂ブロックわずかに混じる

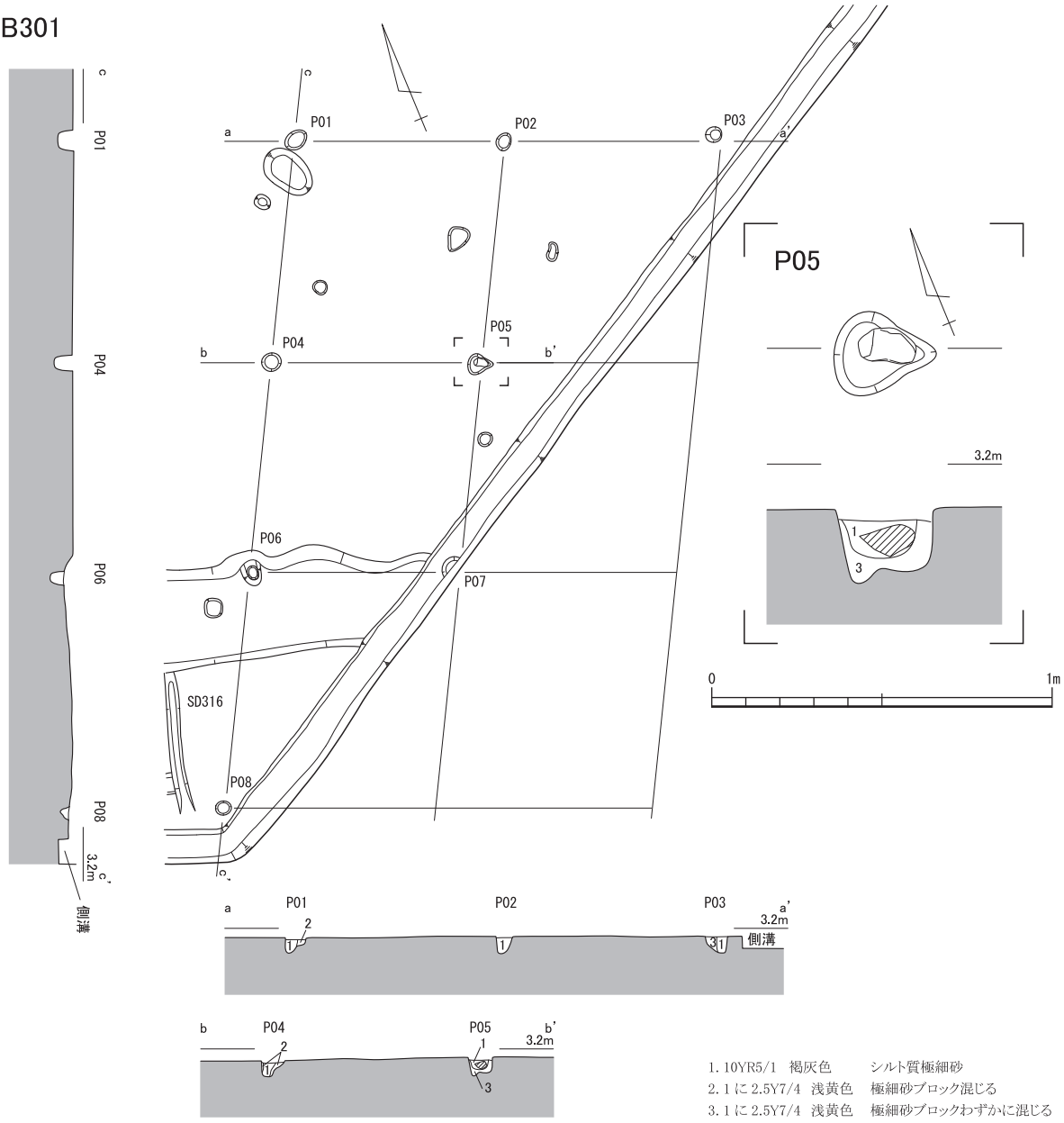
## P7001　SD315




1. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂
2. 10YR5/1　褐灰色　シルト質極細砂

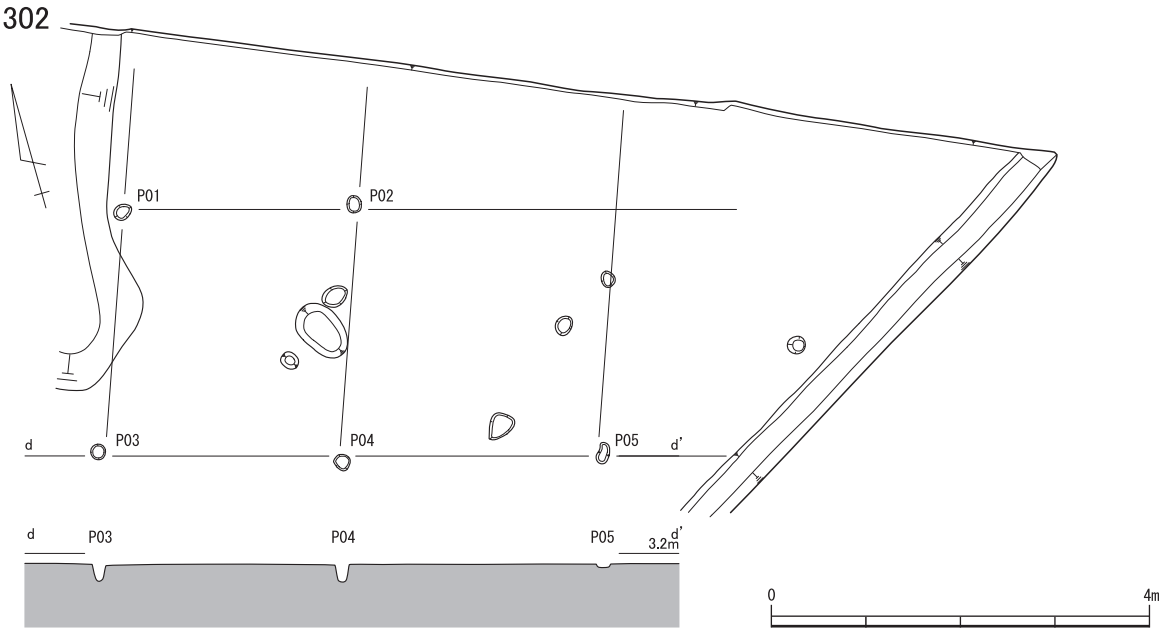
0　1m

SB301

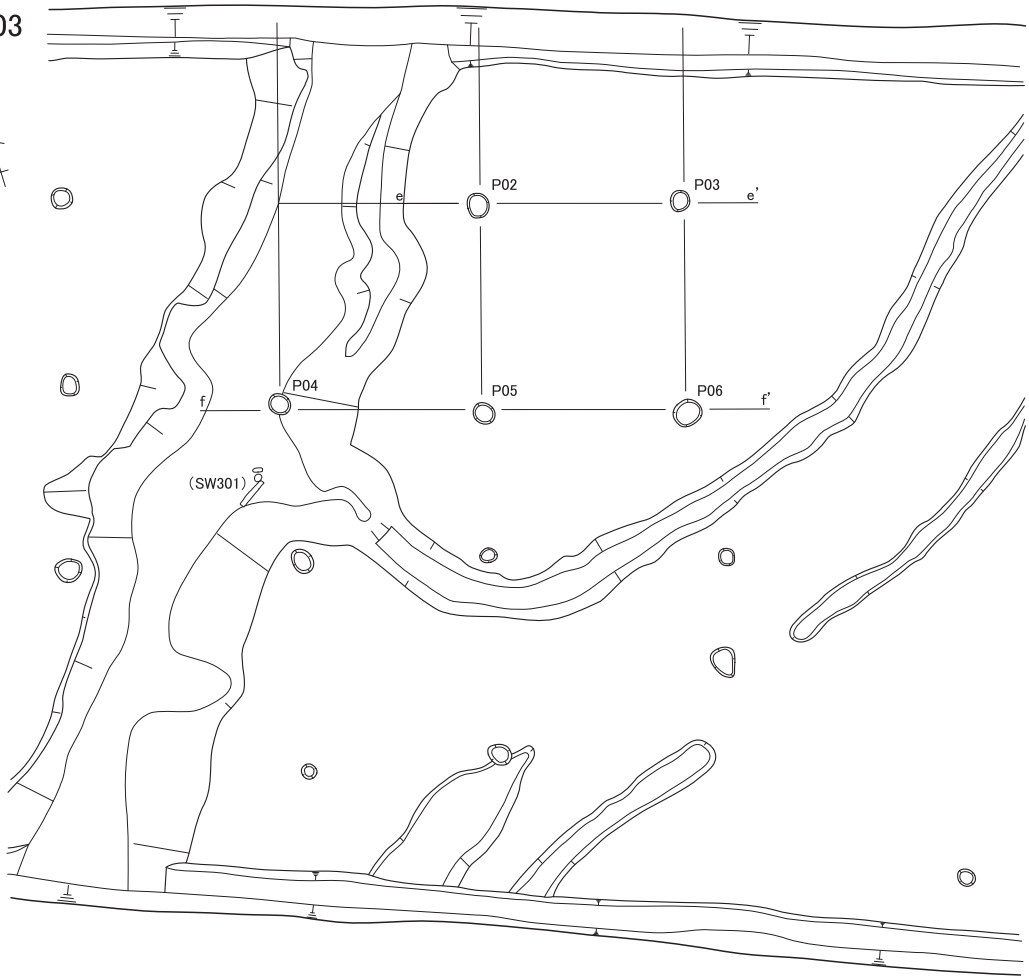


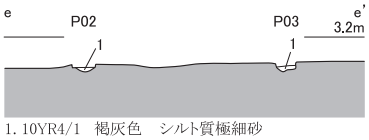

1. 10YR5/1 褐灰色 シルト質極細砂
2. 1に2.5Y7/4 浅黄色 極細砂ブロック混じる
3. 1に2.5Y7/4 浅黄色 極細砂ブロックわずかに混じる

SB302

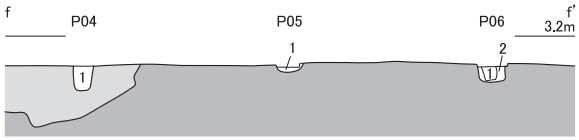


## SB303




1. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂

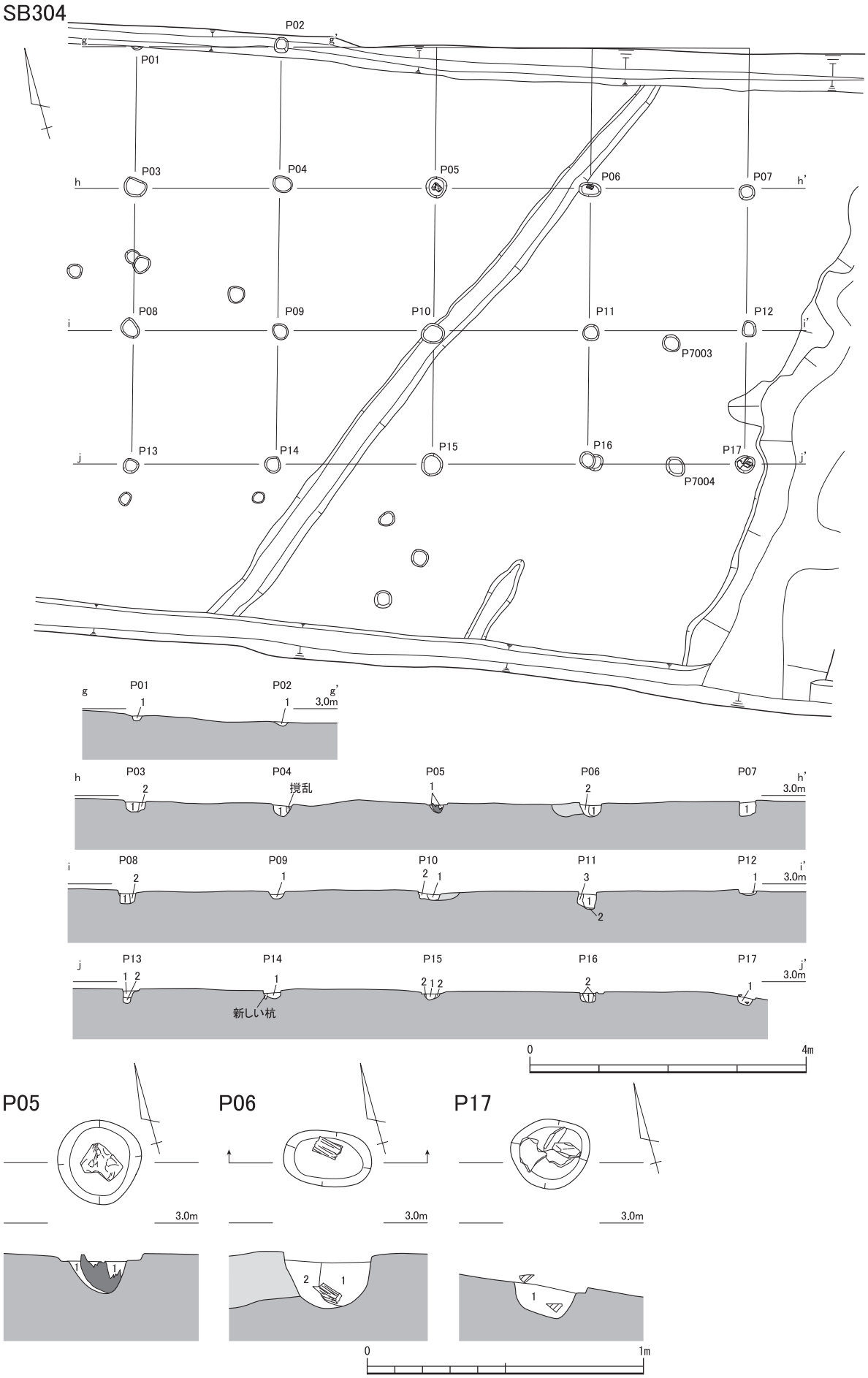



P04
1. 10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト質極細砂

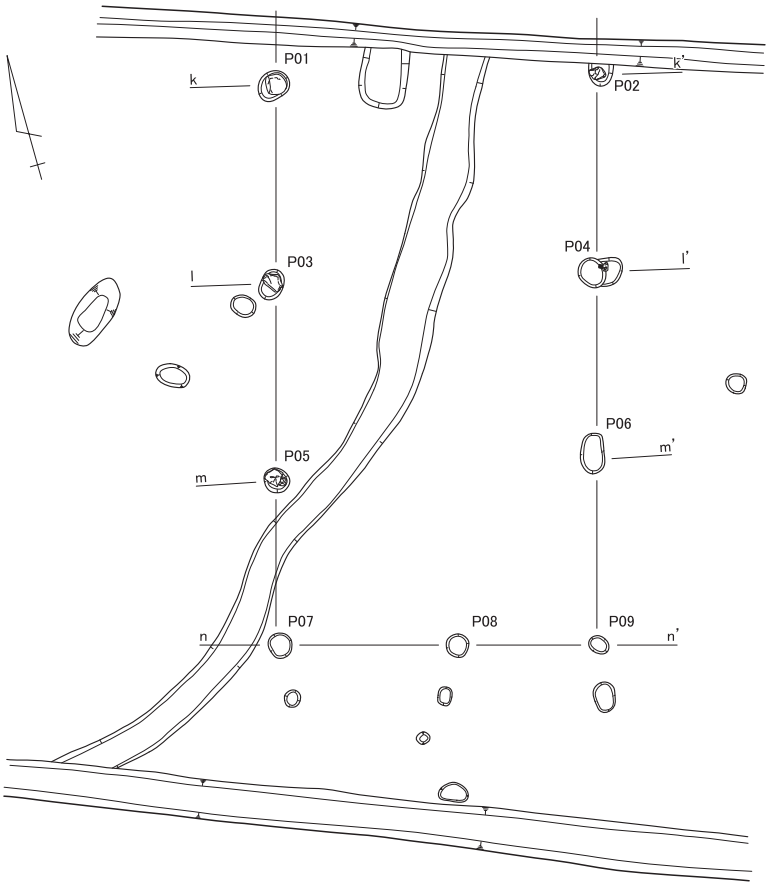
P05・P06
1. 10YR5/1　褐灰色　シルト質極細砂
2. 2.5Y7/3　浅黄色　極細砂に褐灰色シルト質極細砂ブロック混じる

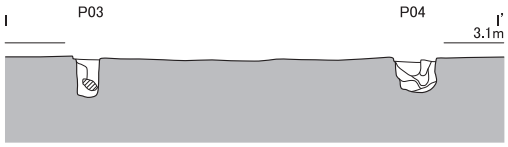
## SB304

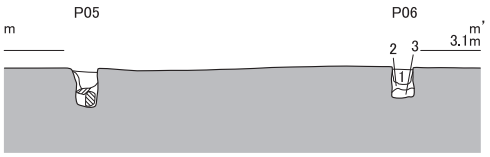
P01・02
1. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂
P03
1. 10YR5/1　褐灰色　シルト質極細砂
2. 2.5Y7/3　浅黄色　極細砂ブロックと1のブロック混じる
P04・05
1. 10YR5/1　褐灰色　シルト質極細砂
P06・07
1. 10YR5/1　褐灰色　シルト質極細砂
2. 5Y6/1　灰色　極細砂ブロックと褐灰色シルト質極細砂混じる
P08
1. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂にわずかに浅黄色極細砂ブロック混じる
2. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂
P09
1. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂に灰色極細砂ブロック混じる
P10
1. 10YR5/2　灰黄褐色　極細砂
2. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂　炭混じる
P11
1. 10YR5/1　褐灰色　シルト質極細砂
2. 10YR3/1　黒褐色　シルト質極細砂　炭混じる
3. 5Y6/1　灰色　極細砂に褐灰色シルト質極細砂ブロック混じる
P12
1. 10YR5/1　褐灰色　シルト質極細砂に灰色極細砂ブロック混じる
P13
1. 10YR5/1　褐灰色　シルト質極細砂
2. 2.5Y7/3　浅黄色　極細砂～細砂
P14・15
1. 10YR5/1　褐灰色　シルト質極細砂　炭混じる
2. 10YR5/1　褐灰色　シルト質極細砂に浅黄色極細砂ブロック混じる
P16・17
1. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂
2. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂に灰色極細砂ブロック混じる


SB304
P01
P02
P03
P04
P05
P06
P07
P08
P09
P10
P11
P12
P13
P14
P15
P16
P17
P7003
P7004
g
g'
h
h'
i
i'
j
j'
3.0m
搅乱
新しい杭
0
4m
P05
P06
P17
1m

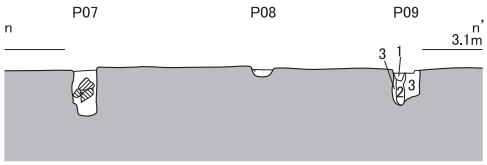
SB305





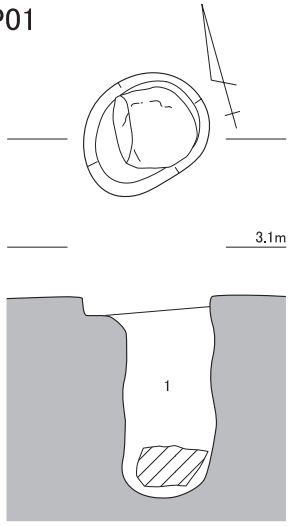




P06
1. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂
2. 5Y6/1　　灰色　　極細砂
3. 1 のブロックと 2 のブロック混じる



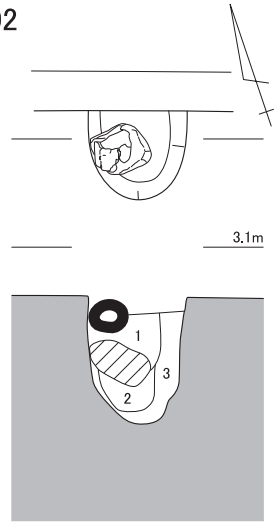

P09
1. 10YR3/1　黒褐色　シルト質極細砂　炭多量に含む
2. 10YR5/1　褐灰色　シルト質極細砂　炭含む
3. 2.5Y7/3　浅黄色　極細砂に褐灰色シルト質極細砂ブロック混じる

## P01



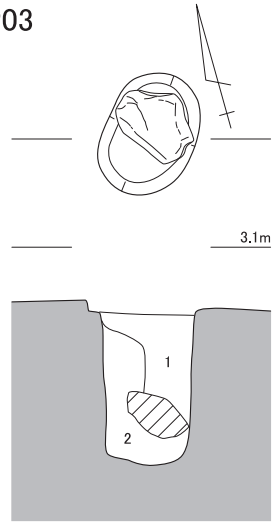

1. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂
炭と浅黄色極細砂ブロックわずかに含む

## P02



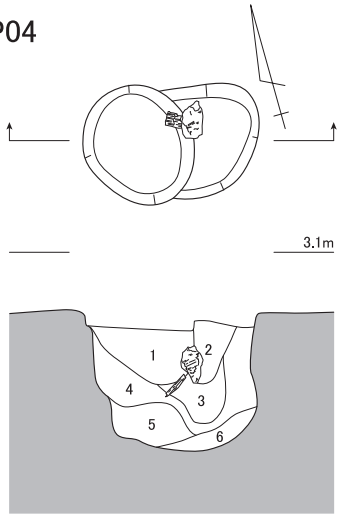

1. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂　羽口あり
2. 1に浅黄色極細砂ブロックわずかに含む
3. 2.5Y7/3　浅黄色　極細砂に褐灰色シルト質極細砂ブロック含む

## P03



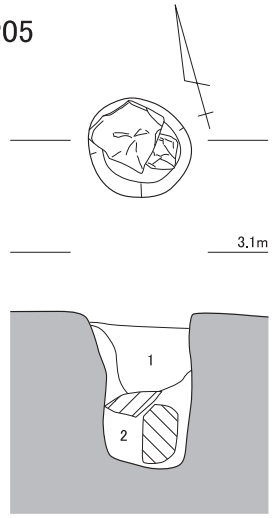

1. 10YR5/1　褐灰色　シルト質極細砂
2. 2.5Y7/3　浅黄色　極細砂に1のブロック混じる

## P04



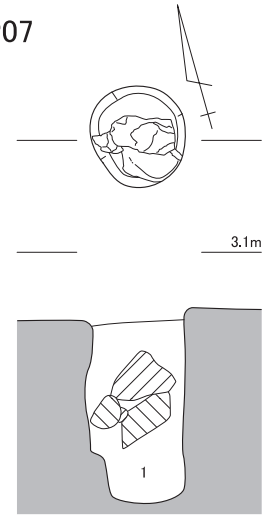

1. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂
2. 10YR5/1　褐灰色　シルト質極細砂　炭わずかに含む
3. 5Y6/1　灰色　極細砂ブロック
4. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂ブロックに灰色極細砂ブロック混じる
5. 10YR7/1　灰白色　極細砂
6. 1と同じ

## P05



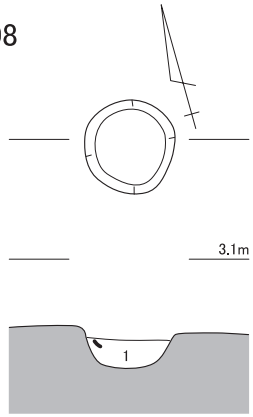

1. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂
2. 1のブロックと灰色極細砂ブロック混じる

## P07

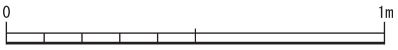



1. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂

## P08

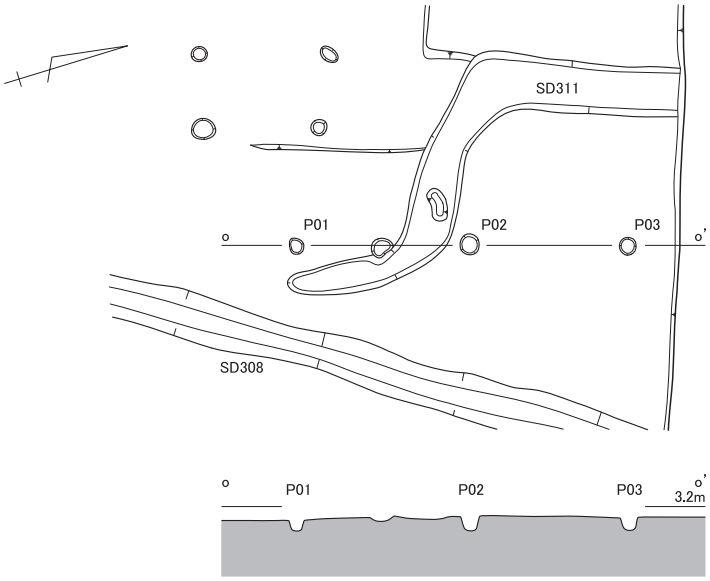



1. 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂に炭と浅黄色極細砂ブロック
わずかに含む

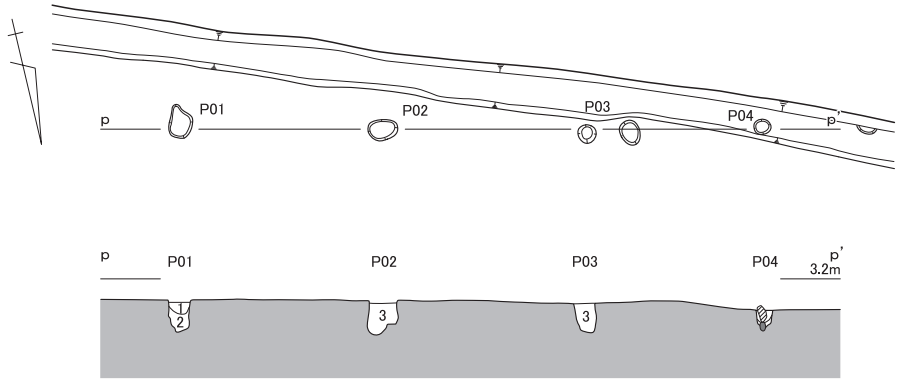



SB305　柱穴

## SA301

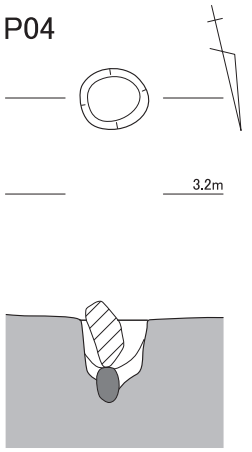



## SA302



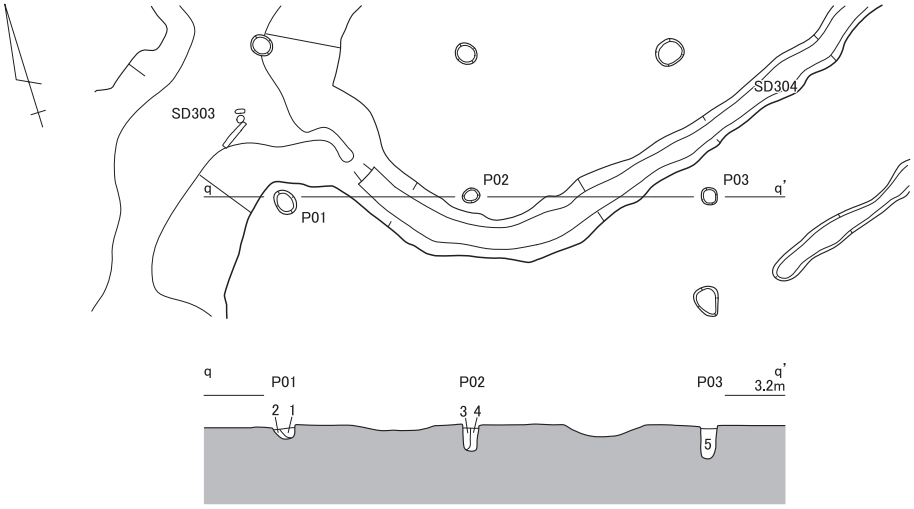

1. 10YR5/1　褐灰色　　シルト質極細砂に浅黄色の極細砂ブロックわずかに混じる
2. 10YR5/1　褐灰色　　シルト質極細砂に浅黄色の極細砂ブロック多量に混じる
3. 10YR5/1　褐灰色　　シルト質極細砂に浅黄色の極細砂ブロック混じる

## P04




0　50cm

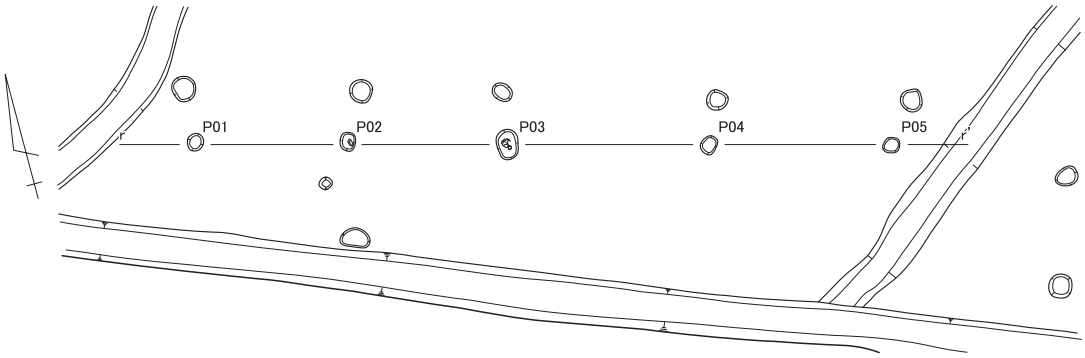
## SA303

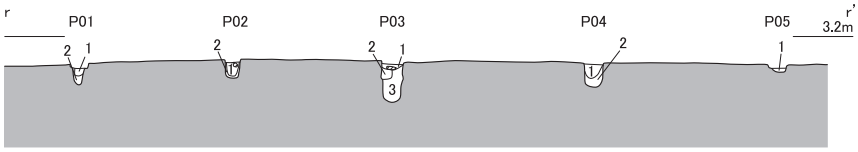



1. 10YR5/1　褐灰色　　シルト質極細砂
2. 2.5Y7/3　浅黄色　　極細砂に褐灰色シルト質極細砂混じる
3. 10YR5/2　灰黄褐色　シルト質極細砂
4. 2.5Y7/3　浅黄色　　極細砂
5. 10YR5/1　褐灰色　　シルト質極細砂ブロックと浅黄色極細砂ブロック混じる

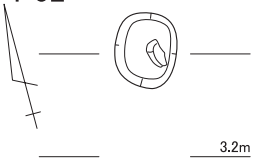
0　4m

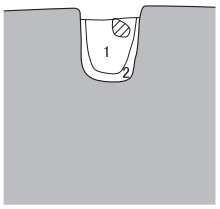
## SA304



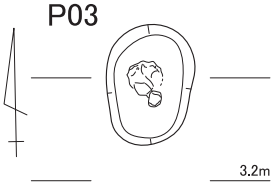



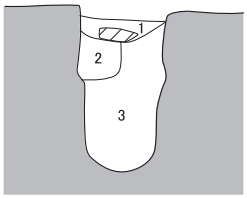
### P02



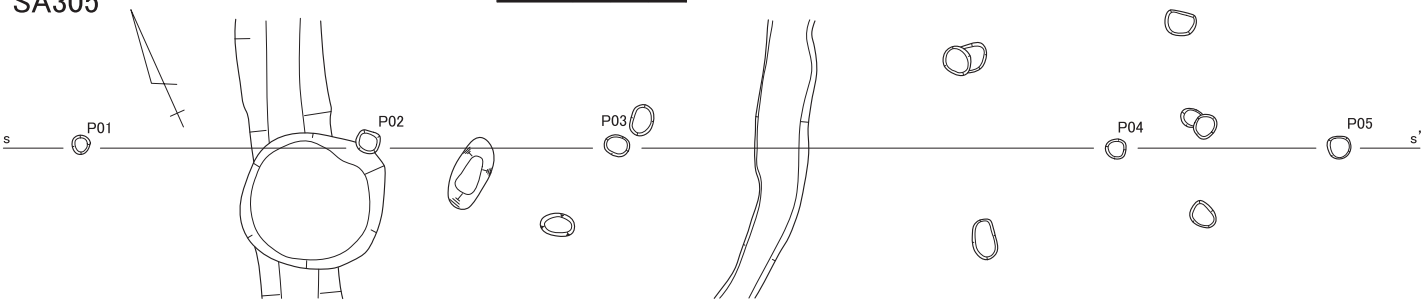
### P03

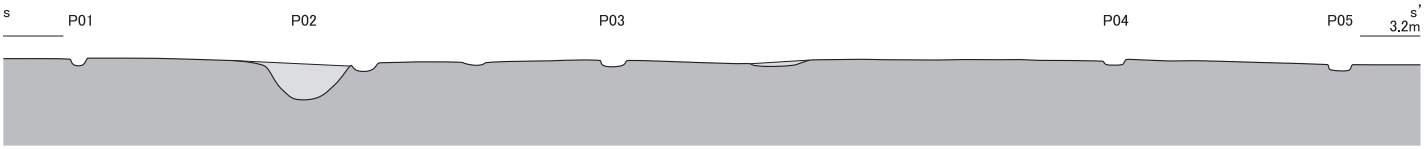


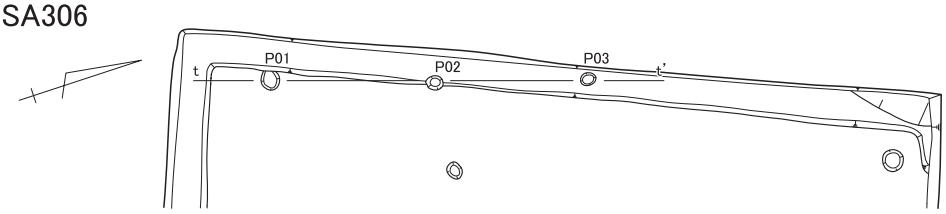
P01
1. 10YR4/1　褐灰色　　シルト質極細砂
2. 10YR6/2　灰黄褐色　シルト質極細砂ブロック混じり褐灰色シルト質極細砂
P02
1. 10YR4/1　褐灰色　　シルト質極細砂　鉄滓含む
2. 10YR6/2　灰黄褐色　シルト質極細砂ブロック混じり褐灰色シルト質極細砂
P03
1. 10YR4/1　褐灰色　　シルト質極細砂　鉄滓・炭含む
2. 10YR4/1　褐灰色　　シルト質極細砂　炭含む
3. 10YR4/1　褐灰色　　シルト質極細砂ブロックと灰色シルト質極細砂ブロック混じる
P04
1. 10YR4/1　褐灰色　　シルト質極細砂
2. 10YR6/2　灰黄褐色　シルト質極細砂ブロック混じり褐灰色シルト質極細砂
P05
1. 10YR4/1　褐灰色　　シルト質極細砂

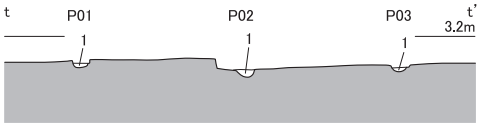
## SA305



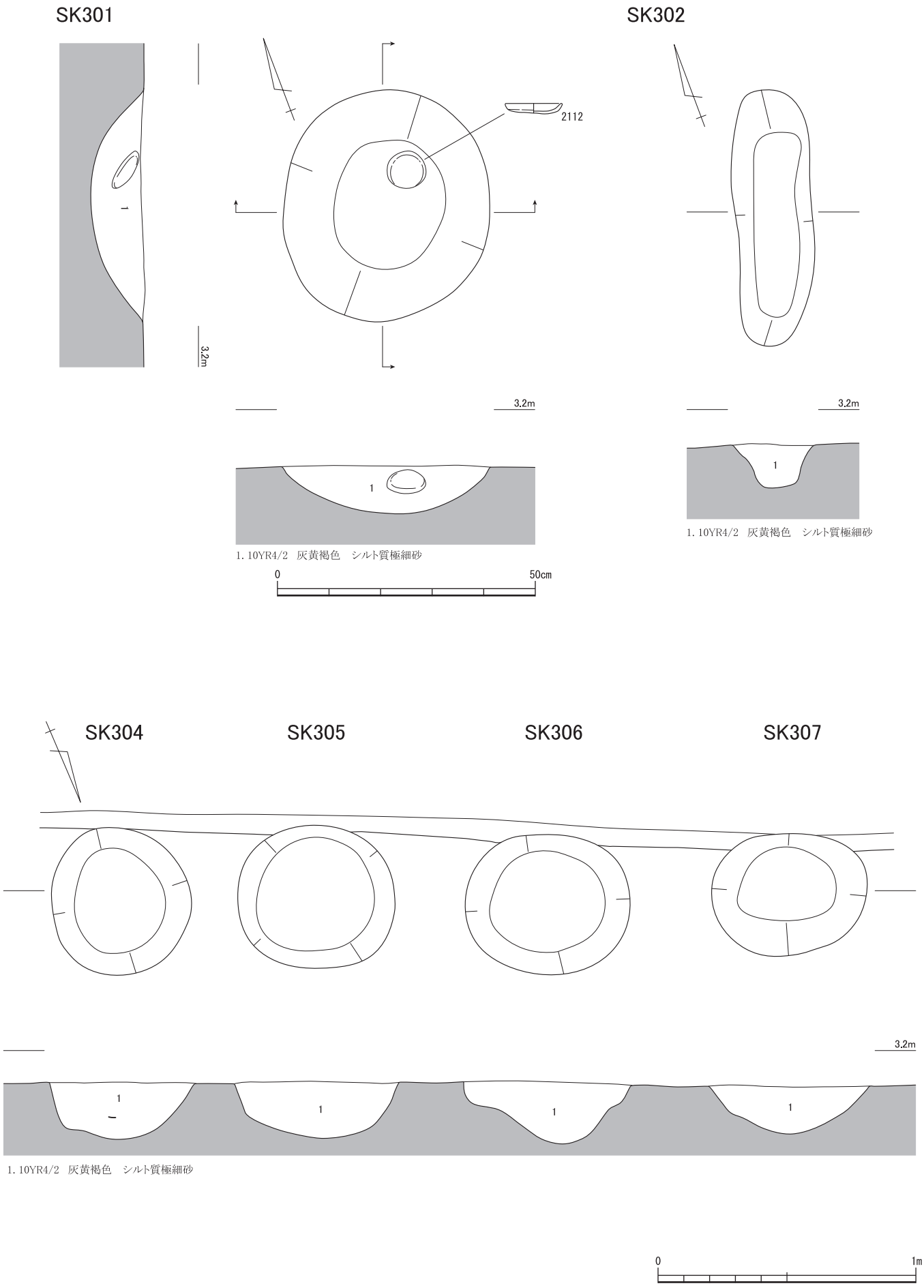




## SA306

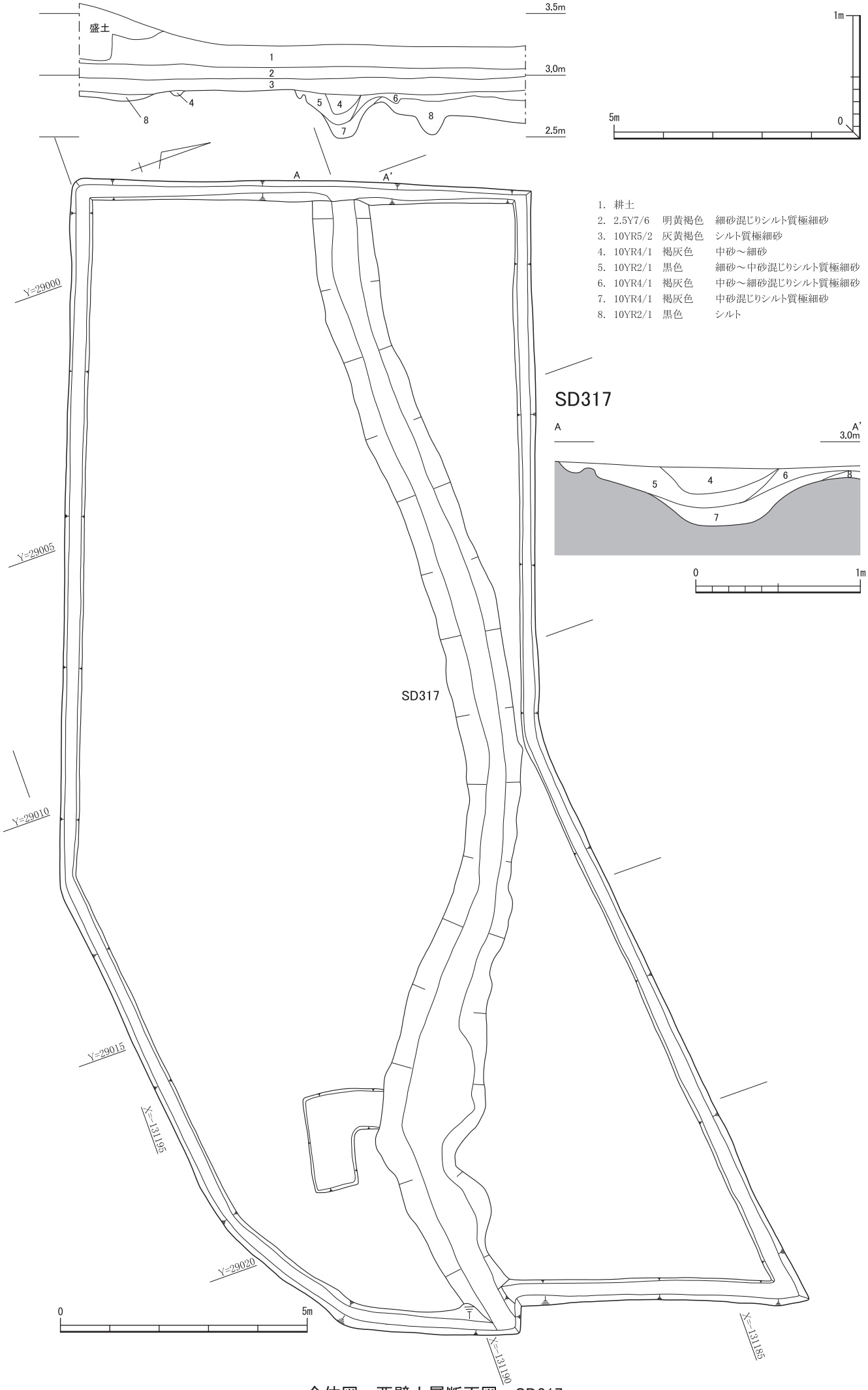


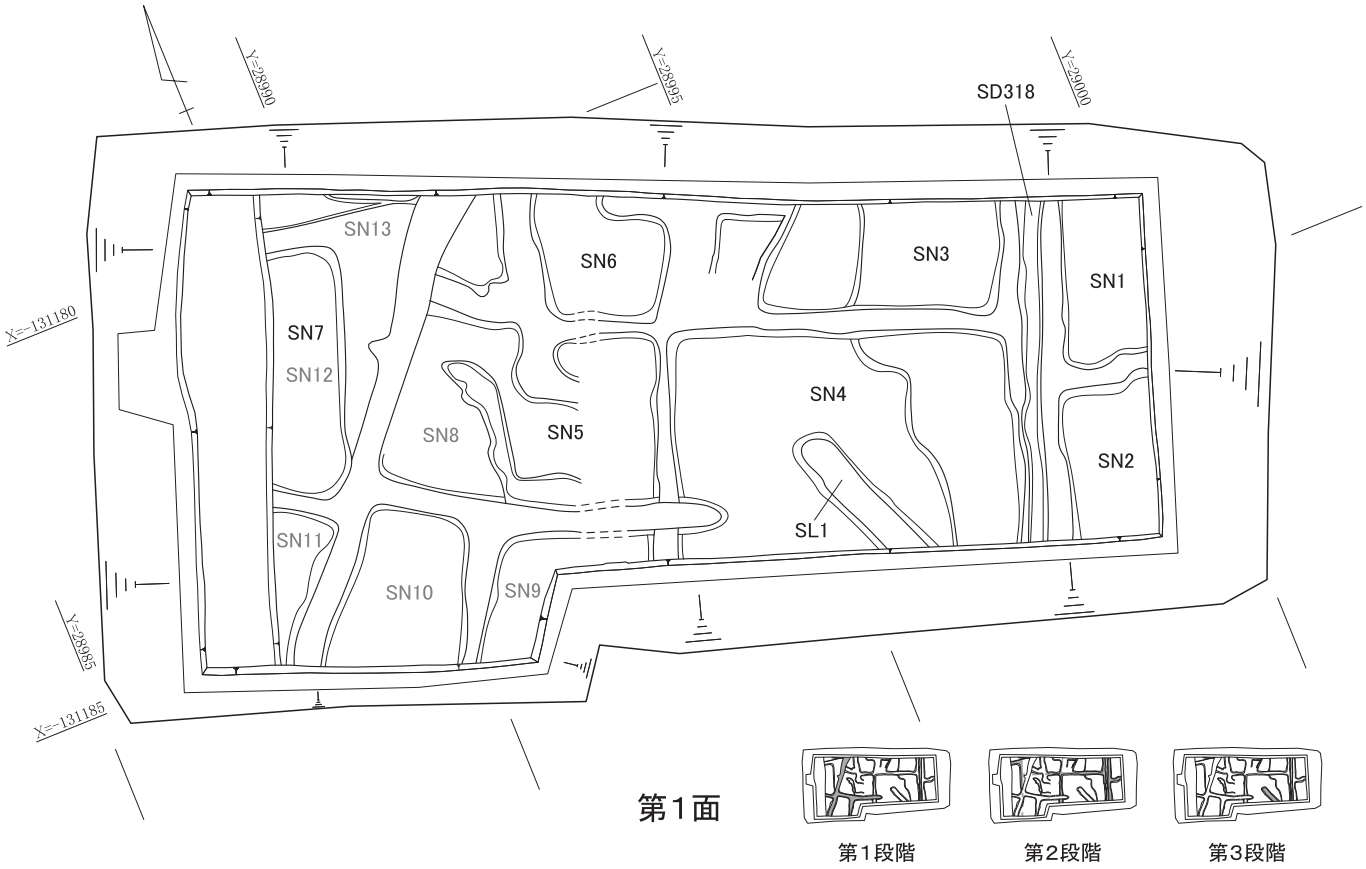

P01
1. 10YR5/1　褐灰色　　シルト質極細砂　炭わずかに含む
P02
1. 10YR5/1　褐灰色　　シルト質極細砂に灰色極細砂混じる
P03
1. 10YR5/1　褐灰色　　シルト質極細砂

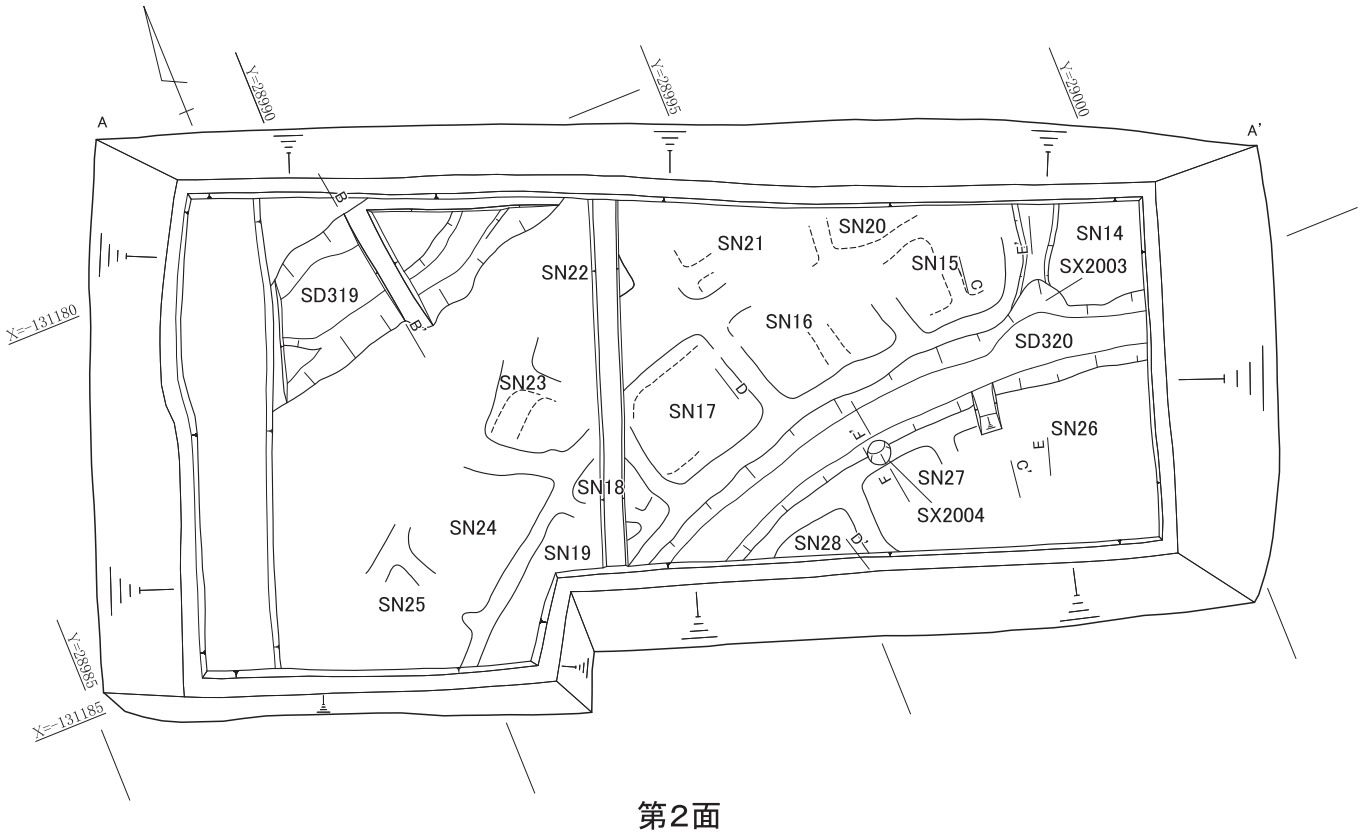



SK301・SK302・SK304・SK305・SK306・SK307



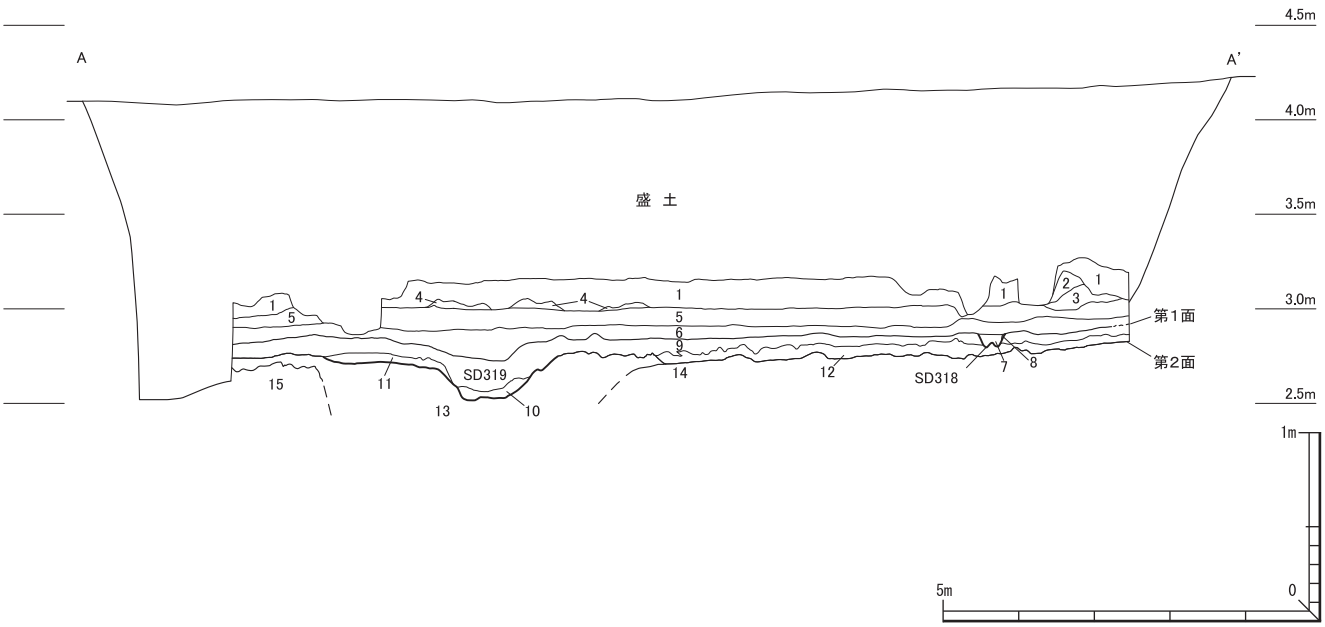

全体図・西壁土層断面図・SD317


Y=-28990
Y=-28995
Y=-29000
X=-131180
X=-131185
SD318
SN13
SN6
SN3
SN1
SN7
SN12
SN4
SN8
SN5
SN2
SL1
SN11
SN10
SN9
第1面
第1段階
第2段階
第3段階


Y=-28990
Y=-28995
Y=-29000
X=-131180
X=-131185
A
A'
SD319
SN22
SN21
SN20
SN15
SN14
SX2003
SN16
SD320
SN23
SN17
SN26
SN27
SX2004
SN18
SN24
SN19
SN28
SN25
第2面
0
5m

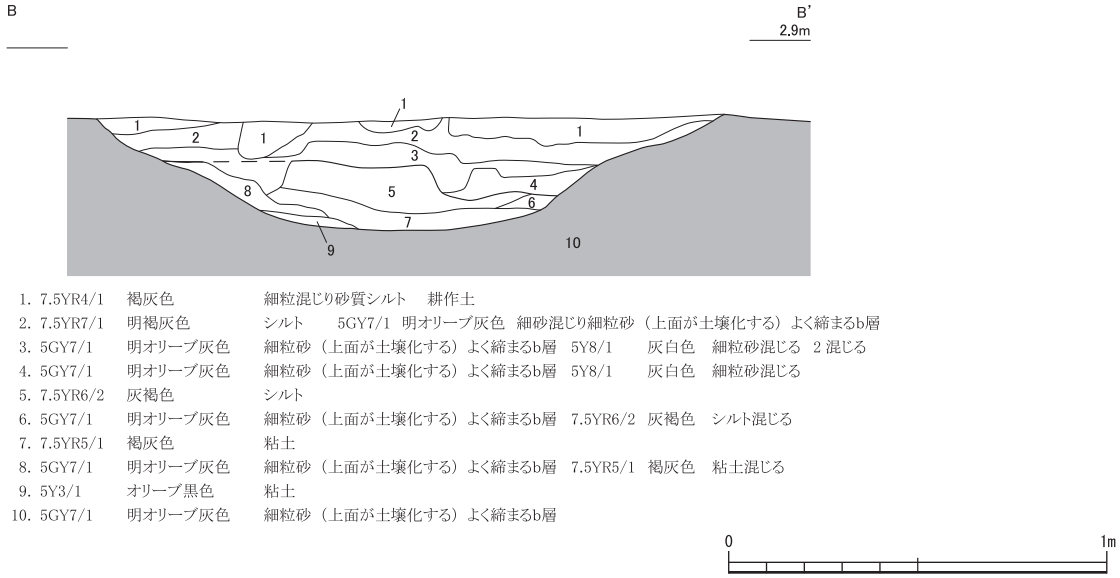
全体図 第1面・第2面

## 北壁




| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 旧耕作土 | 5B4/1 | 暗青灰色 | 砂質シルト（2.5Y6/6 明黄褐色微粒砂ブロックを少量含む<br>下位に淘汰の悪い 5B5/1 青灰色砂質シルトが部分的に堆積する） |
| 2. 旧畦畔 | 2.5Y7/2 | 灰黄色 | 砂質シルト（1と4のブロックを含む） |
| 3. 旧畦畔 | 2.5Y7/2 | 灰黄色 | 砂質シルト（4のブロック、 1は少量を含む） |
| 4. | 2.5Y7/3 | 浅黄色 | 砂質シルト |
| 5. 耕作土 | 2.5Y7/2 | 灰黄色 | 砂質シルト（ラベル第 1 層） |
| 6. 耕作土 | 10YR6/2 | 灰黄褐色 | 砂質シルト（細～中粒砂を含む ラベル第2層） |
| 7. 溝 318 | 5Y4/1 | 黄灰色 | シルト（細粒砂混じり） |
| 8. 溝 318 | 5PB7/1 | 明青灰色 | シルト |
| 9. 耕作土 | 7.5YR4/1 | 褐灰色 | シルト（10YR7/1 微粒砂を部分的に含む ラベル第3層） |
| 10. 溝 319 | 7.5YR6/2 | 灰褐色 | シルト（溝 319-5） |
| 11. 溝 319 | 5GY6/1 | オリーブ灰色 | 砂質シルト |
| 12. 耕作土 | 5Y2/1 | 黒色 | 砂質シルト（N7/0 灰白色粘土多く含む 淘汰は悪いが砂粒含み攪拌する） |
| 13. 旧河道 | 5GY7/1 | 明オリーブ灰色 | 砂質シルト（7.5YR5/1 褐灰色粘土混じる 溝 319-8） |
| 14. 地山 | 5Y2/1 | 黒色 | 細～中粒砂 締りあり（径約 10mmの 2.5YR6/6 明黄褐色粘土砂混りブロックを含む） |
| 15. 地山 | 2.5YR6/6 | 明黄褐色 | 粘土 粘性あり（N7/0 灰白色粘土多く含む 上位は砂粒含み暗色化する 5Y2/1 黒色砂質シルト） |

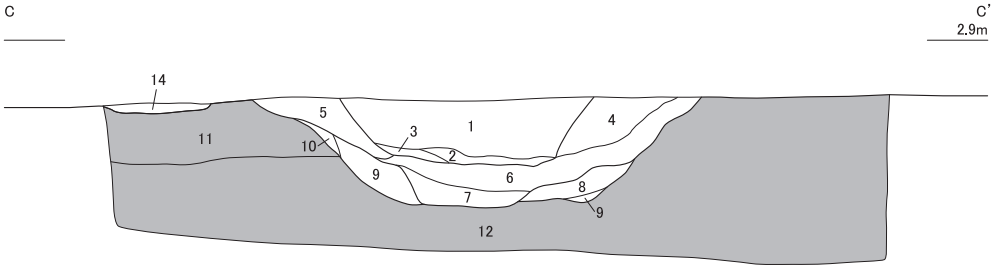
## SD319



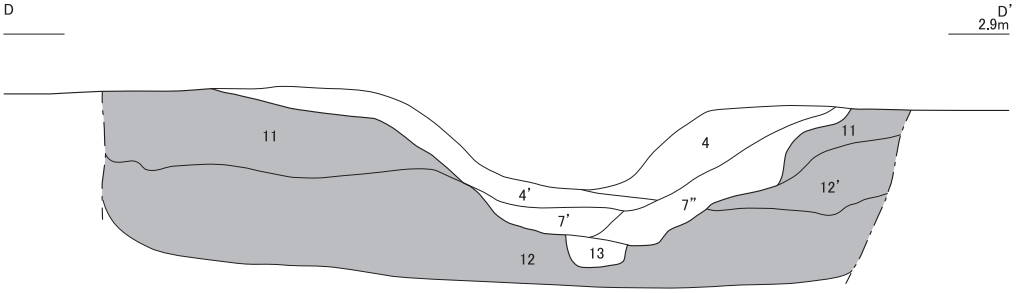

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 7.5YR4/1 | 褐灰色 | 細粒混じり砂質シルト 耕作土 | |
| 2. 7.5YR7/1 | 明褐灰色 | シルト 5GY7/1 明オリーブ灰色 細砂混じり細粒砂（上面が土壌化する）よく締まるb層 | |
| 3. 5GY7/1 | 明オリーブ灰色 | 細粒砂（上面が土壌化する）よく締まるb層 5Y8/1 灰白色 細粒砂混じる 2 混じる | |
| 4. 5GY7/1 | 明オリーブ灰色 | 細粒砂（上面が土壌化する）よく締まるb層 5Y8/1 灰白色 細粒砂混じる | |
| 5. 7.5YR6/2 | 灰褐色 | シルト | |
| 6. 5GY7/1 | 明オリーブ灰色 | 細粒砂（上面が土壌化する）よく締まるb層 7.5YR6/2 灰褐色 シルト混じる | |
| 7. 7.5YR5/1 | 褐灰色 | 粘土 | |
| 8. 5GY7/1 | 明オリーブ灰色 | 細粒砂（上面が土壌化する）よく締まるb層 7.5YR5/1 褐灰色 粘土混じる | |
| 9. 5Y3/1 | オリーブ黒色 | 粘土 | |
| 10. 5GY7/1 | 明オリーブ灰色 | 細粒砂（上面が土壌化する）よく締まるb層 | |

北壁土層断面図・SD319

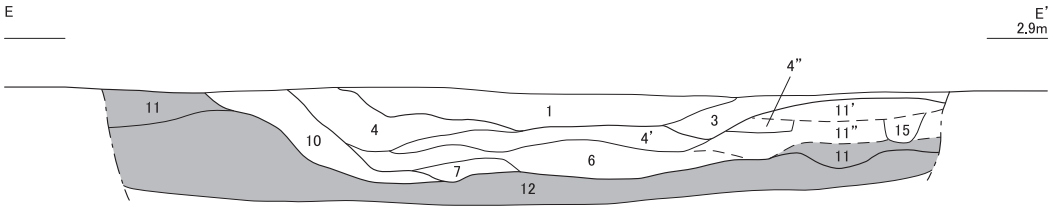
## SD320 東



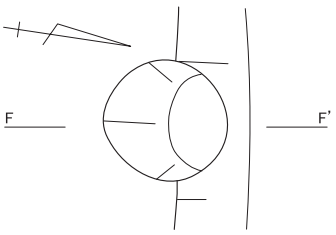

## SD320 西

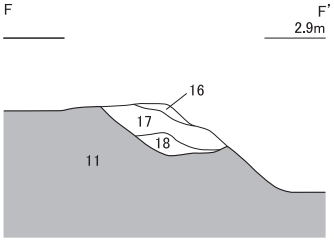



## SX2003・SD320

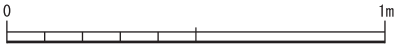


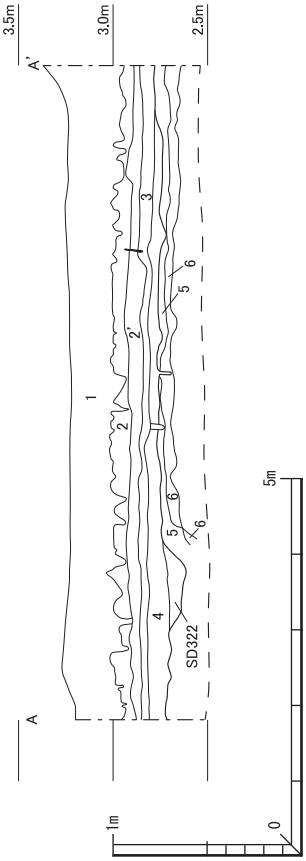

## SX2004

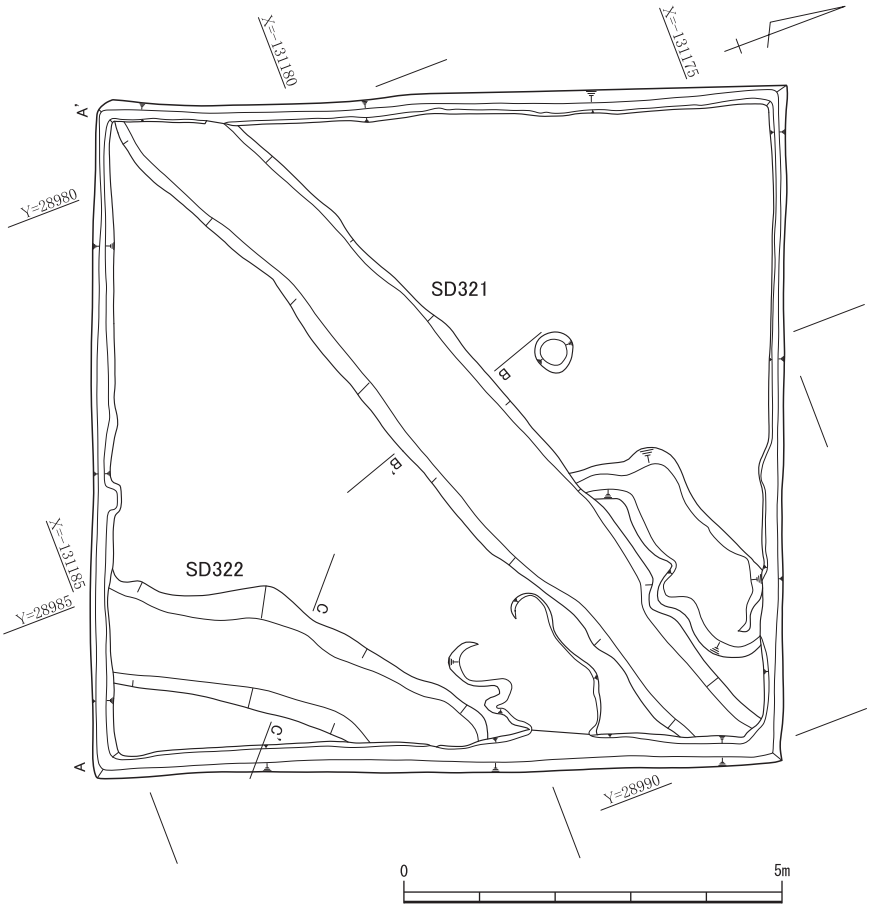



| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. | 10YR3/2 | 黒褐色 | 砂質シルト（細粒）と10YR6/6 褐灰色 砂質シルト（細粒）の互層 |
| 2. | 5GY7/1 | 明オリーブ灰色 | 細粒砂（10YR3/2 黒褐灰色 砂質シルトを少し含む） |
| 3. | 10YR3/2 | 黒褐色 | 砂質シルト（5GY7/1 明オリーブ灰色 中粒砂を少し含む） |
| 4. | 10YR3/2 | 黒褐色 | 砂質シルト よく締まる 粘性少ない |
| 4' | 10YR3/2 | 黒褐色 | 砂質シルトと2の互層 5Y6/1 灰色 中粒砂 よく締まる 粘性少ない |
| 4" | 10YR3/2 | 黒褐色 | 砂質シルト よく締まる 粘性少ない ブロック含む |
| 5. | 5GY | オリーブ灰色 | 中粒砂（10YR3/2 黒褐色 砂質シルト極少し含む） やや締まる 粘性なし |
| 6. | 10YR2/2 | 黒褐色 | 砂質シルトa層と10YR5/1 褐灰色 極細粒砂の互層 |
| 7. | 10YR5/1 | 褐灰色 | 細粒砂（10YR2/2 黒褐色 砂質シルト少し含む） |
| 7' | 10YR2/2 | 黒褐色 | 砂質シルトa層と10YR5/1 褐灰色 極細粒砂の互層 φ0.5 ～ 1mm のレキ含む |
| 7" | 10YR5/1 | 褐灰色 | 細粒砂（10YR2/2 黒褐色 砂質シルト少し含む） |
| 8. | 10YR2/3 | 黒褐色 | 砂質シルト（10YR5/1 褐灰色 細粒砂を多く含む） |
| 9. | 5Y5/2 | 灰オリーブ色 | 細粒砂 よく締まる 粘性なし |
| 10. | 10YR2/3 | 黒褐色 | 砂質シルト（10YR5/1 褐灰色 細粒砂少し含む） |
| 11. | 5GY7/1 | 明オリーブ灰色 | 細粒砂（上面が土壌化する） よく締まる |
| 11' | 10YR3/2 | 黒褐色 | 砂質シルト よく締まる 粘性少ない 11のブロック含む |
| 11" | 5GY7/1 | 明オリーブ灰色 | 細粒砂（上面が土壌化する） よく締まる |
| 12. | 2.5Y6/1 | 黄灰色 | 中粒砂（上面が黄色化している 5Y6/4 オリーブ黄色） 締まり弱い |
| 13. | 10YR5/4 | 褐灰色 | シルト 締まりなし 粘性あり（10YR2/1 黒色 シルトブロック混じり 腐植土） |
| 14. | 7.5YR4/1 | 褐灰色 | 細粒混じり砂質シルト 耕作土 |
| 15. | 5YR3/1 | 黒褐色 | シルト質中粒砂 |
| 16. | 5GY7/1 | 明オリーブ灰色 | 細粒砂（上面が土壌化する） よく締まる |
| 17. | 10YR3/2 | 黒褐色 | 砂質シルト よく締まる 粘性少ない 6と11少し混じる |
| 18. | 10YR2/2 | 黒褐色 | 砂質シルトa層と10YR5/1 褐灰色 極細粒砂の互層 4と11少し混じる |

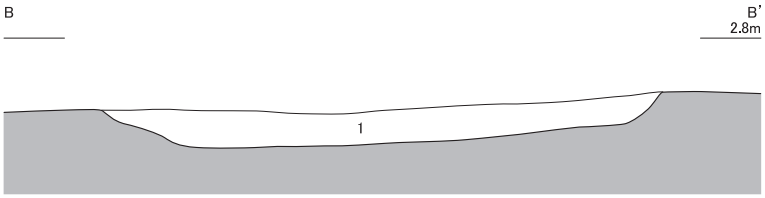




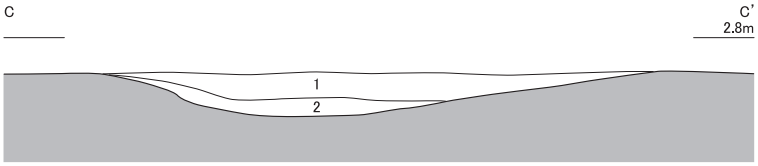

1. 耕土
2. 10YR7/2 にぶい黄橙色 極細砂 床土
2' 2.5Y7/6 明黄褐色 細砂混じりシルト質極細砂 床土
3. 10YR5/2 灰黄褐色 シルト質極細砂
4. 10YR4/1 褐灰色 シルト質極細砂
5. 10YR6/2 灰黄褐色 中砂～細砂 砂層
6. 10YR3/2 黒褐色 中砂～細砂混じりシルト質極細砂 土壌化層

## SD321




1. 10YR2/3 黒褐色 シルト質極細砂 $Fe_2O_3$

## SD322

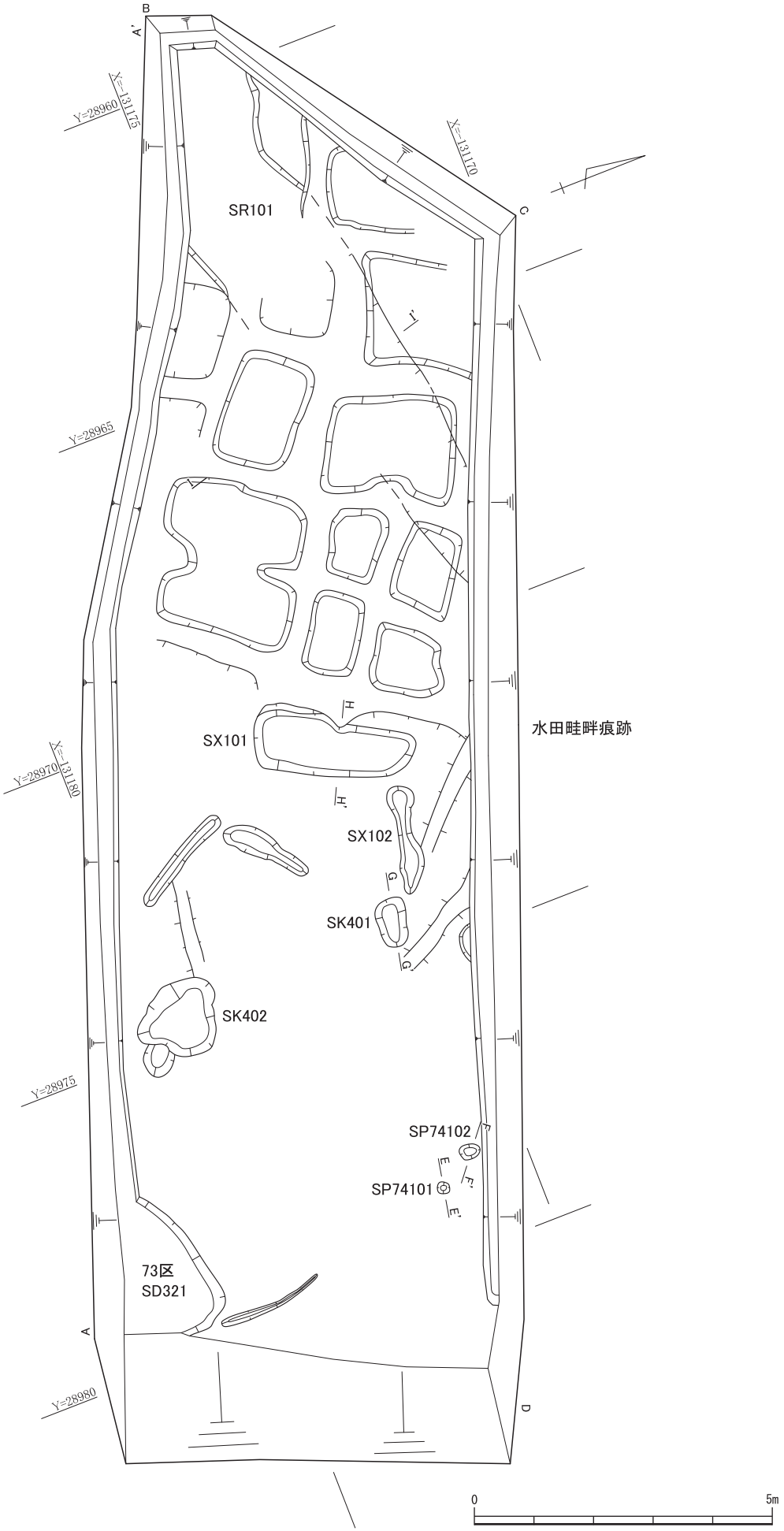



1. 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質極細砂
2. 10YR4/1 褐灰色 中砂～粗砂

0 1m

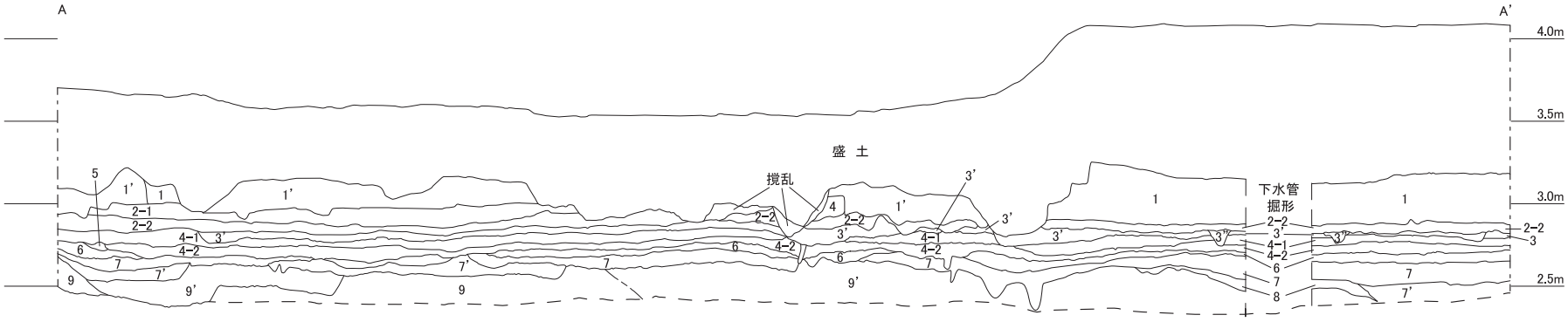
全体図・西壁土層断面図・SD321・SD322

図版22 遺構 74区




全体図

# 南壁

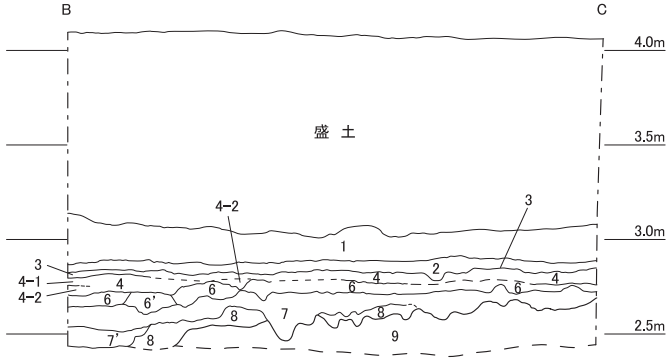


| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1. 5Y4/1 | 灰色 | 砂質シルト | | 現代耕土 | Ⅰ層 |
| 1'. 5Y4/1 | 灰色 | 砂質シルト | 有機物を多く含む。汚れる | 現代耕土 | Ⅰ層 |
| 2-1. 5Y5/1 | 灰色 | 極細砂混じりシルト | 径2㎜内外の細礫、Mg、Fe を含む | 旧耕土（近世） | Ⅱ層 |
| 2-2. 5Y5/1 | 灰色 | 砂質シルト | 径2㎜内外の細礫、Fe を含む | 耕土化 床土 | |
| 3. 2.5Y5/1 | 黄灰色 | 細砂混じり砂質シルト | | | Ⅲ層 |
| 3'. 2.5Y5/1 | 黄灰色 | 極細砂混じりシルト | 粘性あり 細礫を含む | | |
| 3". 5Y5/1 | 灰色 | 極細砂混じりシルト | | | |
| 4-1. 2.5Y5/1 | 黄灰色 | シルト質粘土 | 細礫まばらに含む 4層上半 | | Ⅲ～Ⅳ層 |
| 4-2. 5Y4/1 | 灰色 | 粘土質シルト | 4-1 より暗調 4層下半 | 耕土化 | Ⅳ層 |
| 5. 5YR4/2 ～ 7.5YR4/2 | | 極細砂質細砂 | | | |
| 6. 5Y4/1 | 灰色 | 極細砂混じりシルト | 細礫、粗砂混じり褐色ブロック含む | | Ⅴ層 |
| 7. 2.5Y3/1 | 黒褐色 | シルト | 粗砂～細礫多く含む 5層ブロック状に混入 | 耕土化 | Ⅵ層 |
| 7'. 2.5Y3/1 | 黒褐色 | シルト | （SR101 最上層） | | Ⅶ層 |
| 8. 5Y4/1 | 灰色 | シルト混じり極細砂 | | | |
| 9. 2.5Y3/1 | 黒褐色 | シルト | （SR101 埋土） | | Ⅷ層 |
| 9'. 2.5Y4/1 | 黄灰色 | シルト混じり細砂～中砂 | 径 1 ㎜内外の細礫を含む ベース及び SD321 埋土 | | Ⅷ層 |

南壁土層断面図

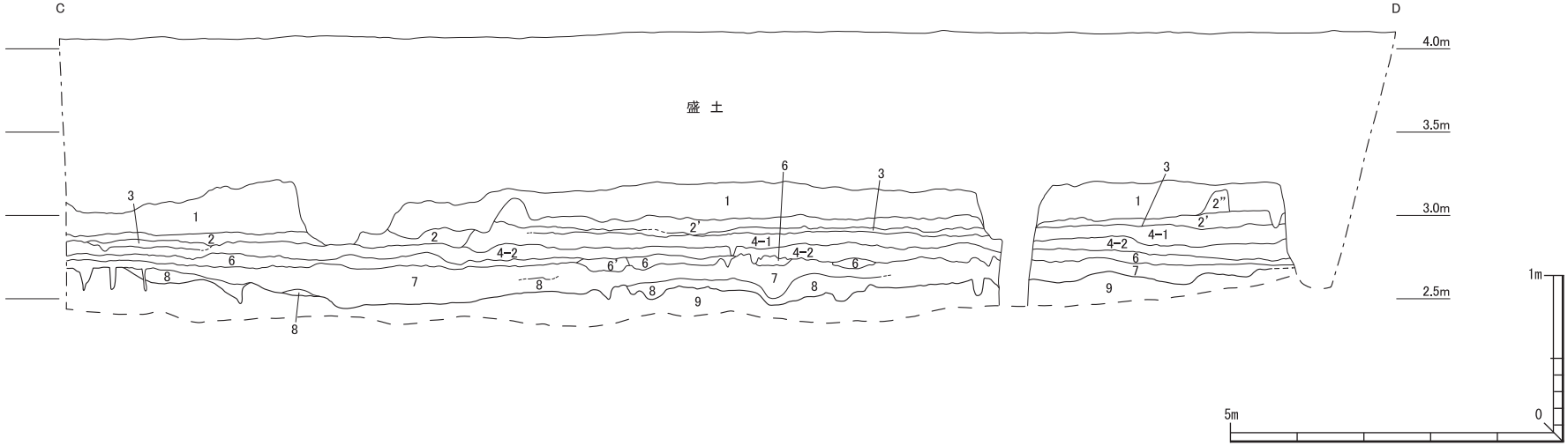
図版23 遺構74図

## 西壁



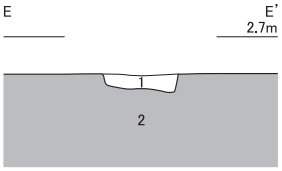

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1. 7.5YR4/1 | 褐灰色 | シルト混じり細砂 | 現耕土 | Ⅰ層 |
| 2. 10YR5/1 ～ 5/2 | 褐灰色～灰黄褐色 | 極細砂質細砂 | | Ⅱ層 |
| 2' 10YR5/1 ～ 5/2 | 褐灰色～灰黄褐色 | 極細砂混じり粗砂 | φ1cm前後の角礫含む 2よりも粗い 南壁2-2対応か | Ⅱ層 |
| 2" 5YR6/1 | 褐灰色 | 細砂質極細砂 | φ3 ～ 5mmの礫含む Fe含む 南壁2-1対応か この部分は畦畔か | Ⅲ層 |
| 3. 10YR4/4 ～ 2.5Y4/4 | 褐色～オリーブ褐色 | シルト | 2mm前後の細礫含む 粘性あり 鉄分集積 ※4-1と同質 酸化鉄の差 | Ⅲ層 |
| 4. 10YR4/1 | 褐灰色 | シルト質極細砂 | 中世の水田土壌か | Ⅳ層 |
| 4-1. 10YR4/1 | 褐灰色 | シルト | 2mm前後の細礫含む 4層上半 | Ⅲ～Ⅳ層 |
| 4-2. 10YR4/1 | 褐灰色 | 極細砂質シルト | 4-1より暗調 細礫を含まない 4層下半 | Ⅳ層 |
| 6. 2.5YR4/1 ～ 5YR4/1 | 赤灰色～褐灰色 | 細砂混じりシルト質極細砂 | 水田土壌 | Ⅴ層 |
| 6' 7.5YR2/1 | 黒色 | シルト混じり極細砂 | 7層ブロック入る 畦畔か | |
| 7. 5YR2/1 | 黒褐色 | 細砂・極細砂混じりシルト | 水田土壌層か 古墳時代中期頃の水田壌か（これまでの調査から推定） | Ⅵ層 |
| 7' 2.5YR1.7/1 | 赤黒色 | 極細砂を若干含む粘土 | 7層のもととなった堆積（腐植質） SR101最下層 | Ⅶ層 |
| 8. 7.5YR4/1 | 褐灰色 | 極細砂混じりシルト | 若干土壌化 旧土壌の根による撹拌か（SR101埋土） | |
| 9. 10YR5/6 | 黄褐色 | 粘土～シルト混じり細砂 | （ベース） Fe多く含む | Ⅷ層 |

## 北壁



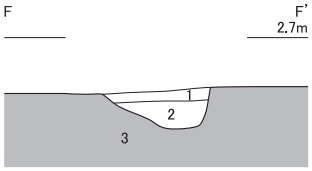

北壁・西壁土層断面図

## P74101



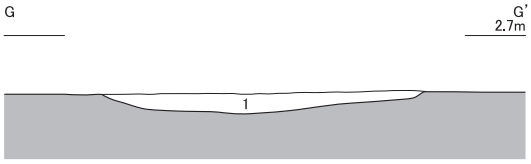

1. 10YR4/2　灰黄褐色　シルト質砂　細砂～中粒シルト
2. 2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト

## P74102



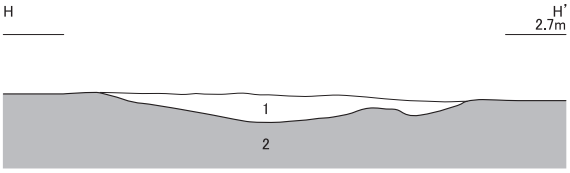

1. 10YR3/1　黒褐色　　砂質シルト　細砂～粗粒シルト
2. 10YR3/1　黒褐色　　シルト
3. 2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　粗粒シルト～中粒シルト

## SK401

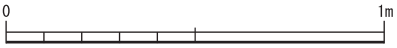



1. 10YR3/1　黒褐色　　シルト

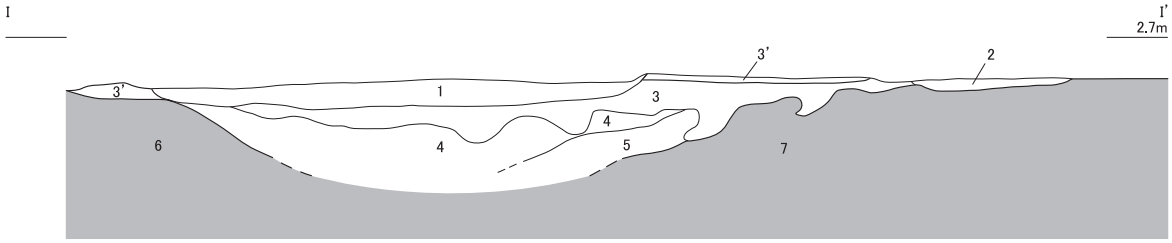
## SX101



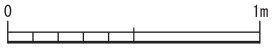

1. 10YR3/1　黒褐色　　シルト　2層のブロック土混じる
2. 2.5Y4/2　暗灰黄色　シルト　粗粒シルト～中粒シルト

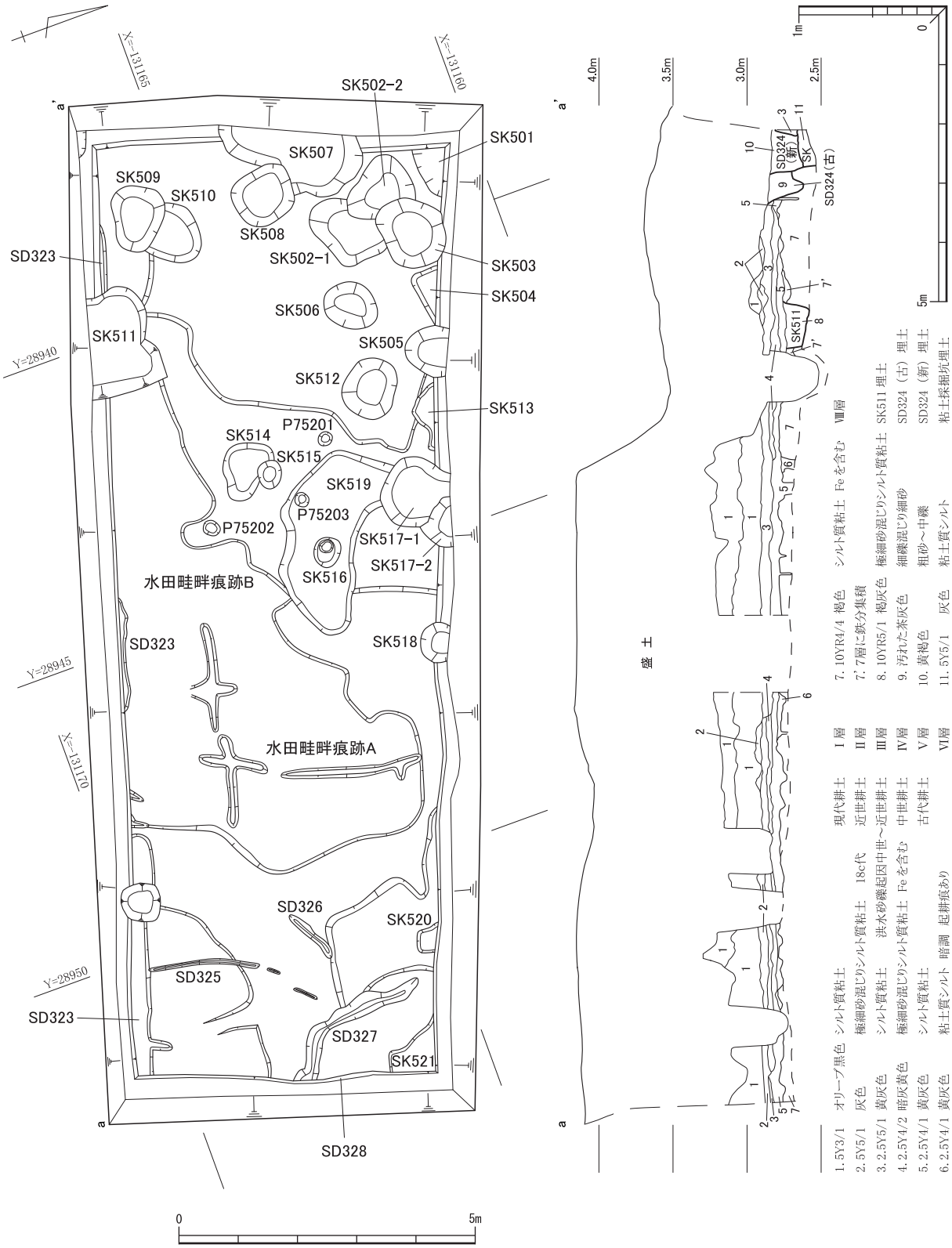



## SR101

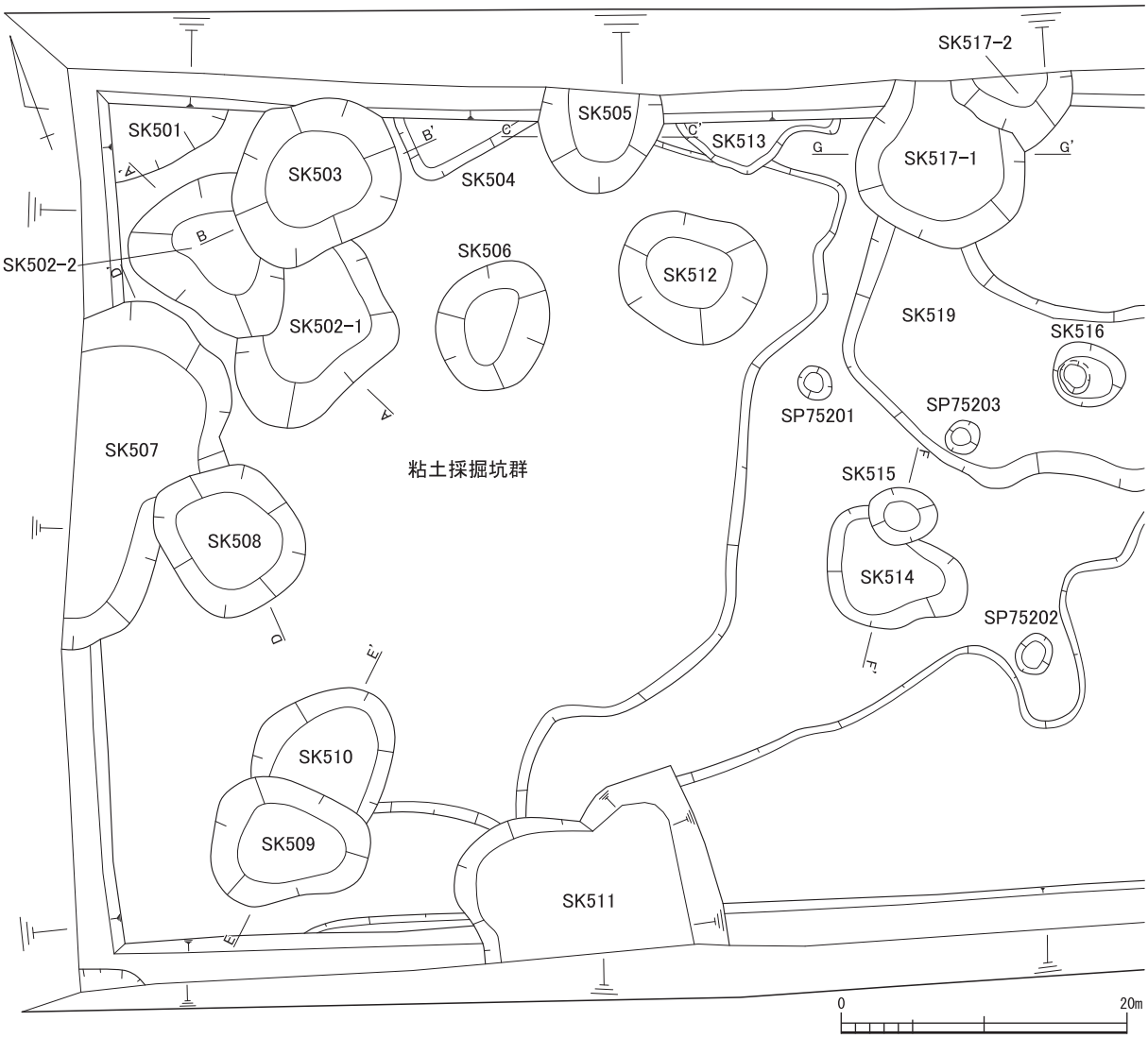



| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1. 2.5Y3/1 ～ 10YR3/1 | 黒褐色 | 細砂～細礫をごく少量含む　粘土 | a | 腐植質 |
| 2. 2.5Y3/1 | 黒褐色 | 粘土 | a　西壁7'対応か | 腐植質 |
| 3. 10YR2/1 | 黒色 | 粘土　有機物含む | SR101 埋土 | 腐植質 |
| 3'. 2.5Y2/1 | 黒色 | シルト質極細砂　Fe 含む | 畦畔の下半部 | |
| 4. 5Y5/1 ～ 5Y4/1 | 灰色 | 細砂混じり粘土～シルト　3層の粘土ブロック含む　マトリックスは粘土 | | |
| 5. 5Y4/1 | 灰色 | 粘土ブロック混じり細砂～中砂　3層の粘土ブロック含む　マトリックスは細砂～中砂 | | |
| 6. 2.5Y5/2 | 暗灰黄色 | 粘土混じり中砂　マトリックスは中砂　Fe 含む | | |
| 7. 7.5Y5/1 | 灰色 | 極細砂混じりシルト～粘土　Fe 含む　粘性あり　ベース　北壁9層対応 | | |

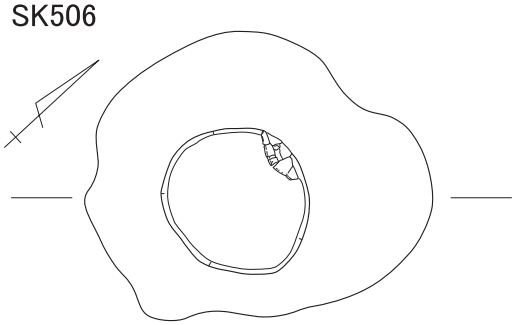


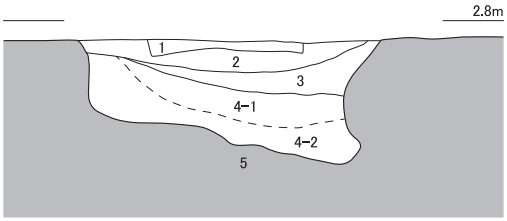

SK502-2
SK501
SK507
SK509
SK510
SK508
SD323
SK502-1
SK503
SK504
SK506
SK511
SK505
SK512
SK513
P75201
SK514
SK515
SK519
P75203
P75202
SK517-1
SK517-2
SK516
水田畦畔痕跡B
SK518
SD323
水田畦畔痕跡A
SD326
SK520
SD325
SD323
SD327
SK521
SD328
X=131165
X=131160
X=131170
Y=28940
Y=28945
Y=28950
a
a'
0
5m
4.0m
3.5m
3.0m
2.5m
1m
盛土
SD324(新)
SD324(古)
SK
SK511
1. 5Y3/1 オリーブ黒色 シルト質粘土 現代耕土 I層
2. 5Y5/1 灰色 極細砂混じりシルト質粘土 18c代 近世耕土 II層
3. 2.5Y5/1 黄灰色 シルト質粘土 洪水砂礫起因中世～近世耕土 III層
4. 2.5Y4/2 暗灰黄色 極細砂混じりシルト質粘土 Feを含む 中世耕土 IV層
5. 2.5Y4/1 黄灰色 シルト質粘土 古代耕土 V層
6. 2.5Y4/1 黄灰色 粘土質シルト 暗調 起耕痕あり VI層
7. 10YR4/4 褐色 シルト質粘土 Feを含む VIII層
7'. 7層に鉄分集積
8. 10YR5/1 褐灰色 極細砂混じりシルト質粘土 SK511 埋土
9. 汚れた茶灰色 細礫混じり細砂 SD324（古）埋土
10. 黄褐色 粗砂～中礫 SD324（新）埋土
11. 5Y5/1 灰色 粘土質シルト 粘土採掘坑埋土

全体図・南壁土層断面図



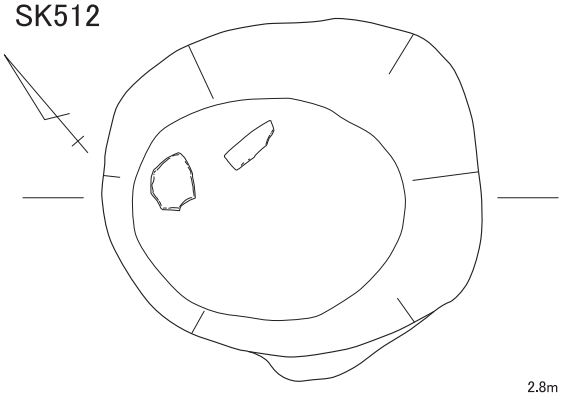

## SK506

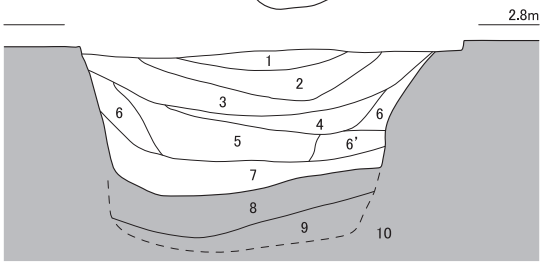





1. 10YR5/1　褐灰色　極細砂　植物による撹乱をうける　5Y6/1 シルトブロック入る
2. 2.5Y3/1　黒褐色　シルト質粘土　有機物・炭化物入る　a
3. 5Y5/1　灰色　シルト混じり極細砂　b
4-1. 2.5Y6/1 ～ 10YR6/1　黄灰色～褐灰色　シルト混じり極細砂
4-2. 褐灰色　細砂混じりシルト～粘土（自然堆積）5YR3/1 極細砂混じり腐植質シルト・10YR4/4 ～ 4/6 シルトブロック含む　Fe 含む
5. 10YR6/1　褐灰色　シルト混じり極細砂～細砂　上面に Fe 集積するベース

## SK512



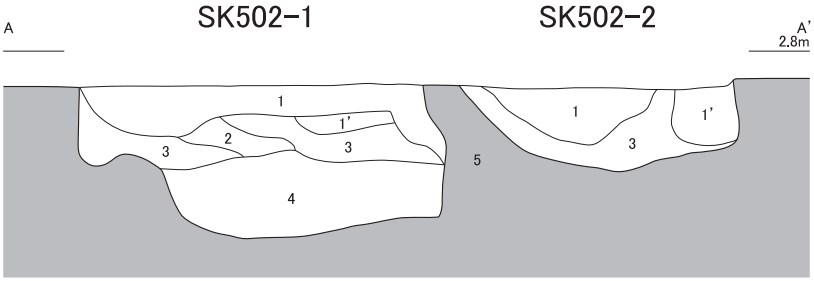



1. 10YR5/1　褐灰色　極細砂　植物による撹乱をうける　5Y6/1 シルトブロック入る
2. 2.5Y3/1　黒褐色　シルト質粘土　有機物・炭化物入る　a
3. 5Y5/1 ～ 4/1　灰色　極細砂混じり粘土質シルト　a'
4. 5Y5/1　灰色　シルト混じり極細砂　b　2・3 層の母層
（1～4：自然堆積）
5. 多数のシルト・粘土ブロックが混じる　5YR3/1 極細砂混じりシルト・10YR4/4 ～ 4/6 シルト・ベースのブロック　6 層 7 層 9 層が含まれる
6. 2.5Y6/1 ～ 10YR6/1　黄灰色～褐灰色　シルト混じり極細砂
6'. 2.5Y6/1　黄灰色　極細砂混じりシルト
7. 10YR6/1　褐灰色　細砂混じりシルト～粘土（自然堆積）5YR3/1 極細砂混じり腐植質シルト・10YR4/4 ～ 4/6 シルトブロック含む　Fe 含む
8. 2.5Y7/1 ～ 7/2 灰白色～灰黄色　細砂混じりシルト　Fe 含む　黄褐色土ブロック一部混入
9. 10YR6/2 ～ 7.5YR6/2　灰黄褐色～灰褐色 中砂質細砂
10. 10YR6/1　褐灰色　シルト混じり極細砂～細砂　上面に Fe 集積するベース

0　1m

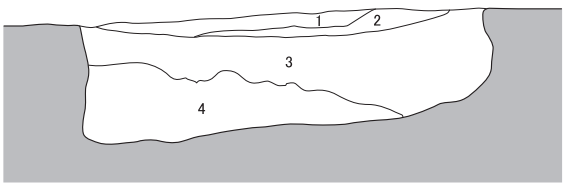
粘土採掘坑Ⅰ　SK506・SK512

## SK502-1 SK502-2



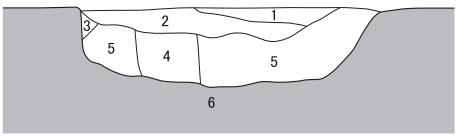

1. N5/0+7.5Y5/3 灰色＋灰オリーブ
   ベース土（シルト混じり極細砂）ブロック主・
   黒褐色極細砂混じりシルトブロックごく少量含む
1'. 1 層と同じ　褐灰色ブロック少し含む
2. 5 層ベース土ブロック
3. 5YR3/1　黒褐色　極細砂混じりシルトブロック主
   （腐植質）
4. 1 層と同じ　ベース土ブロック主・
   黒褐色シルト少し間に入る
5. N5/0+7.5Y6/3 灰色＋オリーブ黄色
   細砂混じりシルト～粘土

## SK503



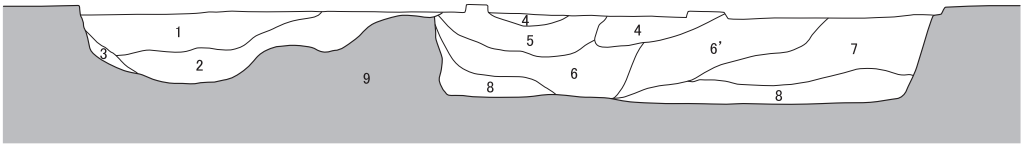

1. SK506 の 2 層・SK512 の 2 層
2. SK506 の 3 層・SK512 の 4 層
3. SK507 の 6 層と同じ　遺構上面の Fe 斑入る
4. SK507 の 7 層に近い　主にベース土ブロックによって埋められる

## SK505



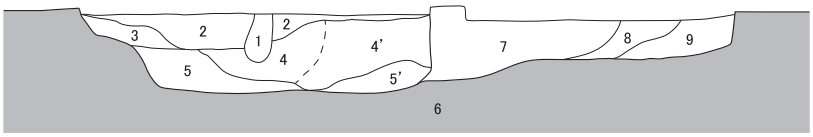

1. 2.5Y4/1　黄灰色　極細砂混じりシルト
2. SX206 の 2 層
3. 5Y5/1　灰色　極細砂混じりシルト
4. 5Y5/1　灰色　極細砂混じり粘土質シルト　ブロックで混じる　土器含む
5. 5Y5/1　灰色　極細砂混じりシルト　5Y6/1 灰色ブロック土混じる
6. 2.5Y6/1　黄灰色　シルト混じり極極細砂

## SK508 SK507



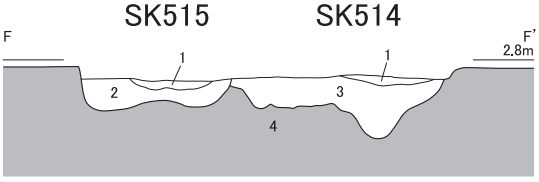

1. 2.5Y3/1 ～ 4/1　黒褐色～黄灰色　シルト質粘土 a と 9 層（ベース土）がブロックで入る　9 層主
2. 2.5Y3/1　黒褐色　シルト a がブロックで入り、少量の 9 層ブロックが混じる
3. 9 層のブロック
4. 10YR4/1　褐灰色　細砂混じり極細砂～細砂混じり粘土（近世旧耕土に近い）よく汚れる　自然堆積もしくは耕土化・6 層多く含む
5. 1 層と同様　ブロック土で構成
6. 2 層と同様
6'. 黒褐色シルトと 3 層が半々のブロック土で構成
7. 9 層を主としたブロック土で構成　上半は 4 層によって撹乱される
8. 9 層と黒褐色シルトによって構成　9 層主　間に黒褐色シルトが網目状に入る
9. 10Y　灰白色　シルト質粘土（ベース）Fe 斑入る

## SK509 SK510



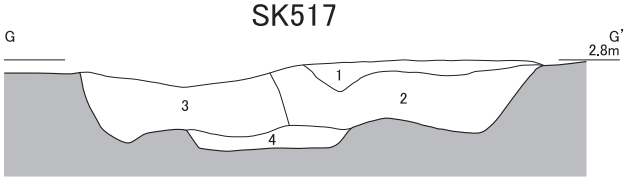

1. 2.5Y4/1　黄灰色 粘土（すき溝ヵ）粘性に富む
2. 5YR4/1　褐灰色 シルト質粘土　中層に Fe
3. 7.5YR5/1 褐灰色 シルト混じり粘土
4. 6 層・5YR4/1 極細砂・7.5YR3/1 シルトブロックで構成
   1/3 ずつ入る
4'. 褐色土ブロック多
5. 6 層 +10YR4/2 灰黄褐色 極細砂混じりシルトブロックで
   構成　主に 10YR4/2 灰褐色
5'. 5Y6/1　灰色　極細砂～細砂　6 層ブロックで占める
6. 5Y6/1　灰色　粘土質シルト　ベース土　Fe 集積
7. ブロック土で構成　6 層・10YR4/2 灰黄褐色極細砂・
   7.5YR3/1 黒褐色シルト～粘土 a で構成　灰黄褐色 1/2
8. ブロック土で構成　6 層の小ブロック +10YR4/2 灰黄褐色
   極細砂灰黄褐色が主
9. ブロック土で構成　6 層 +10YR4/2 灰黄褐色極細砂＋
   7.5YR3/1 黒褐色シルト　6 層が主

## SK515 SK514



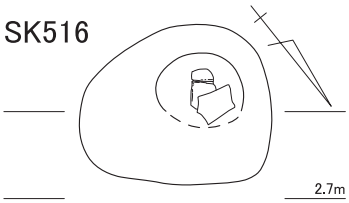

1. SK512 の 2 層対応
2. SK512 の 3 層対応
3. SK512 の 4 層ブロックと 10YR4/1 褐灰色　極細砂混じりシルトのブロックで構成
4. ベース

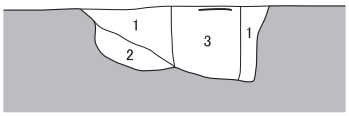
## SK517



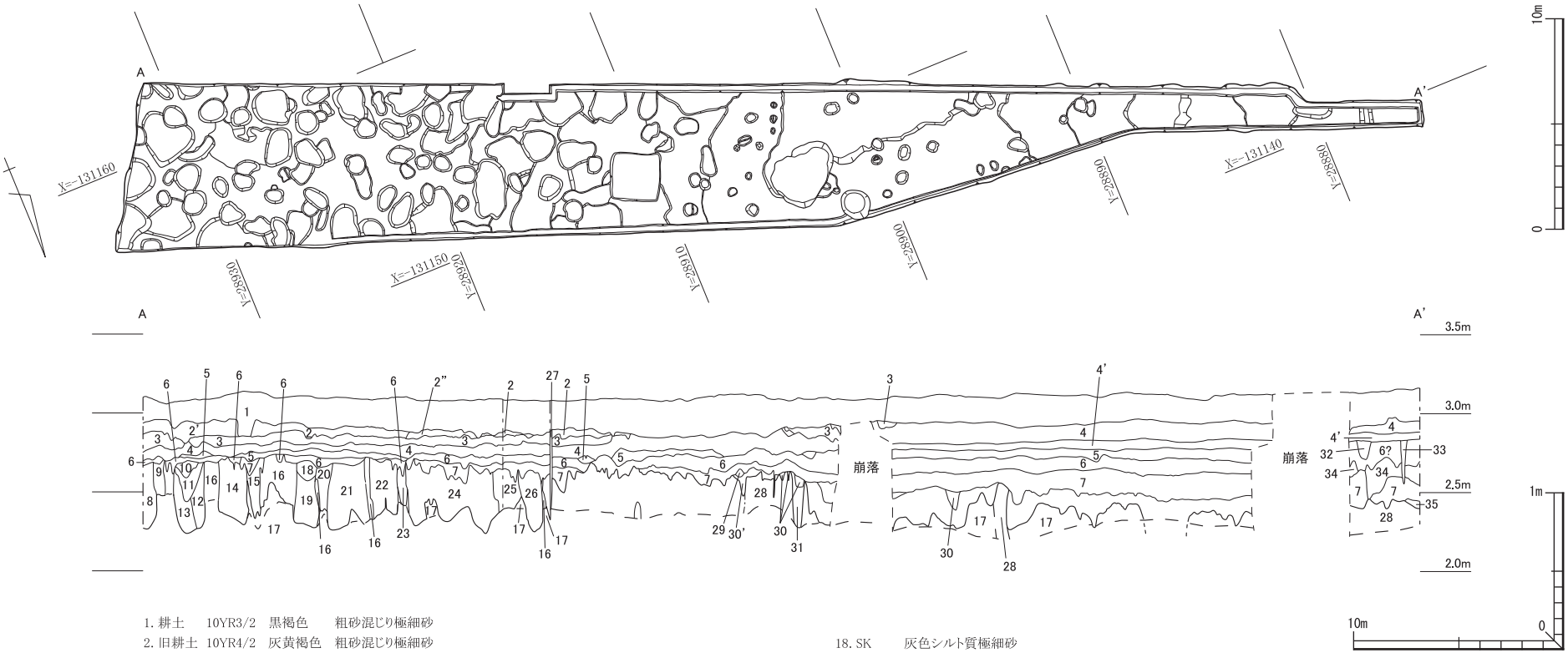

1. 2.5YR4/1　褐灰色　シルト　若干グライ化　古代水田土壌
2. ベース土ブロック土 +2.5Y4/1　極細砂混じりシルト質粘土で SK503 の 3 層対応
3. ベース土ブロック土多　SK503 の 4 層対応
4. 5Y6/1　汚れた灰色　極細砂質シルト　グライ化する
5. ベース土 +10YR5/1　極細砂混じりシルト質粘土

## SK516



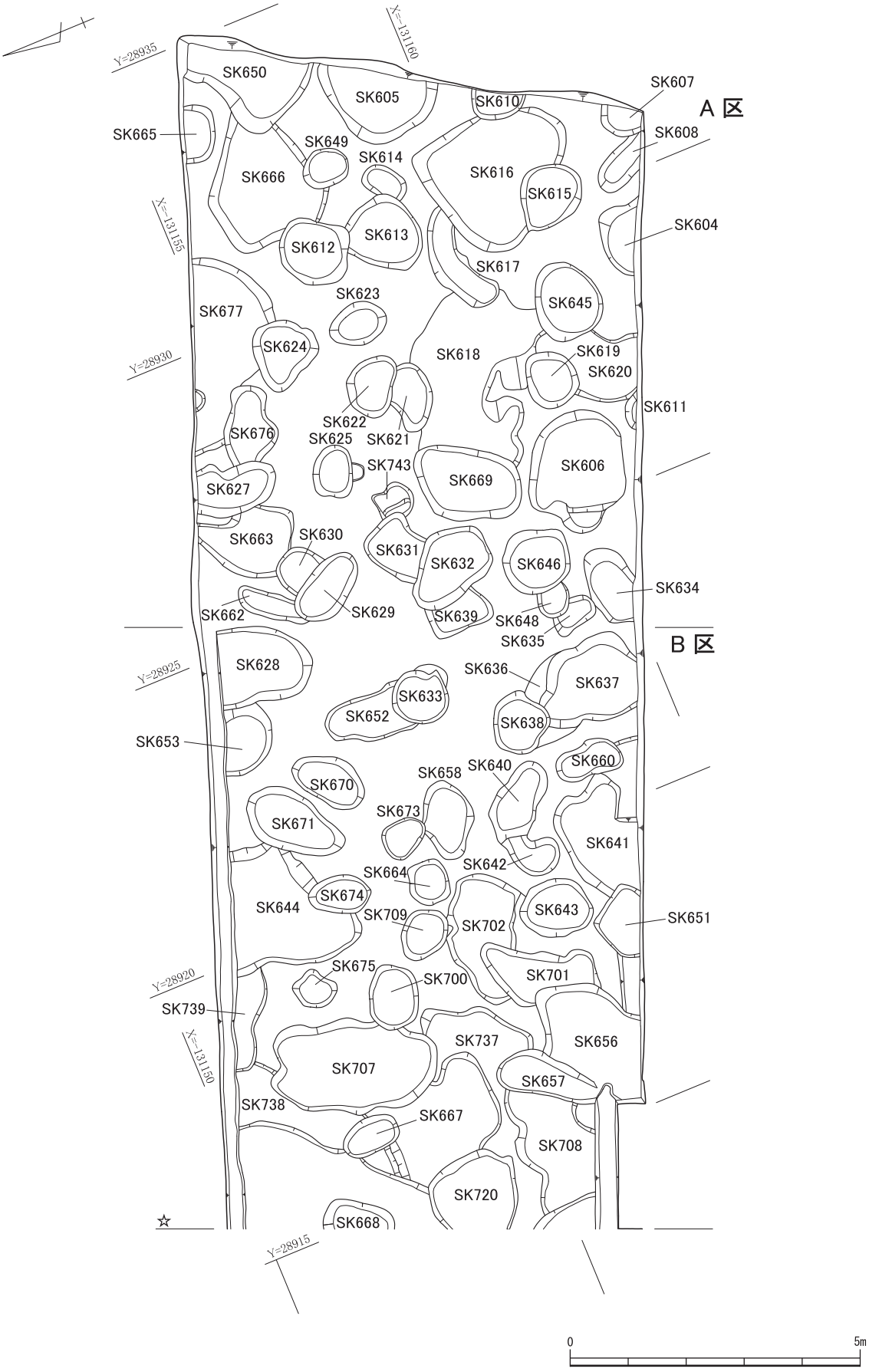




1. 5Y4/1　灰色　極細砂混じり粘土質シルト　鉄分を含む
2. 5Y4/1　灰色　極細砂混じり粘土質シルト
   黄褐色（Fe）土ブロックで混じる
   灰色土ブロックで混じる
3. 5Y4/1　灰色　極細砂混じり粘土質シルト　土器含む

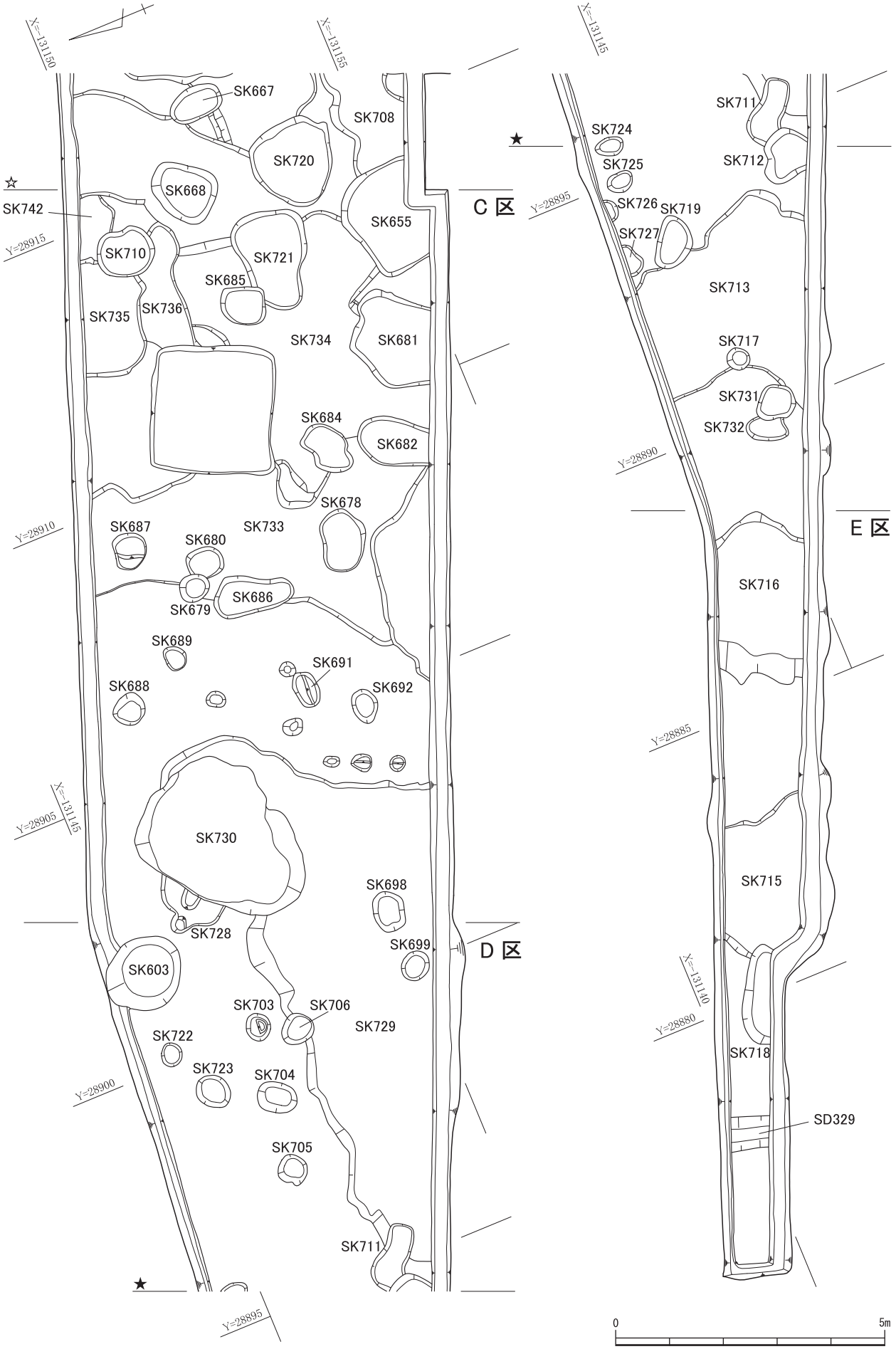



1. 耕土　10YR3/2　黒褐色　粗砂混じり極細砂
2. 旧耕土　10YR4/2　灰黄褐色　粗砂混じり極細砂
2'. 旧耕土　10YR3/2　黒褐色　粗砂混じり極細砂（ブロック状に床土が混じり、ごみ含む）
2". 2と3が混ざったような層
3. 床土　10YR6/2　灰黄褐色　粗砂混じり極細砂　鉄分・マンガン含む
4. 床土　3と同じ　粘質シルト少し混じる
4'.　10YR6/1　褐灰色　粗砂混じり粘質シルト　マンガン含む
5. 床土　3と同じ　粘質シルト多く混じる
6.　10YR4/2　灰黄褐色　粗砂、小礫混じり粘質シルト　マンガン含む
7.　10YR4/1　褐灰色　粘質シルト　マンガン含む
8. SK607　黄色極細砂主体で暗灰色シルト質極細砂と黒色シルト質極細砂の細かいブロック
9. SK608　黒色シルト質極細砂、暗灰色シルト質極細砂、灰色シルト質極細砂、黄色極細砂のブロック混合
10. SK604　灰色シルト質極細砂
11. SK604　暗灰色シルト質極細砂～黒色シルト質極細砂
12. SK604　灰色シルト質極細砂ブロック主体で黄色極細砂、黒色シルト質極細砂の細かいブロック混入
13. SK604　黒色シルト質極細砂、暗灰色シルト質極細砂、灰色シルト質極細砂、黄色極細砂の細かいブロック混入
14. SK620　黒色シルト質極細砂、暗灰色シルト質極細砂、灰色シルト質極細砂、黄色極細砂の細かいブロック混合
15. SK611 下層　灰色シルト質極細砂主体で黄色極細砂と細かい黒色シルト質極細砂ブロック混入
16.　2.5Y6/1　黄灰色　粘土（採掘対象層）
17. 10YR7/1　灰白色　極細砂～灰黄色極細砂～シルト
18. SK　灰色シルト質極細砂
19. SK　黒色シルト質極細砂、暗灰色シルト質極細砂ブロックが主で灰色シルト質極細砂、黄色極細砂ブロック混入
20. SK　灰色シルト質極細砂、暗灰色シルト質極細砂、黒色シルト質極細砂のブロックに黄色極細砂ブロック少量混入
21. SK　灰色シルト質極細砂ブロック主体で黄色極細砂ブロック混じる　中央下部（点線範囲）に暗灰色シルト質極細砂、黒色シルト質極細砂ブロックが集中する　複数土坑が存在する可能性あり
22. SK　黒色シルト質極細砂、暗灰色シルト質極細砂ブロックが多く、そこに灰色シルト質極細砂、黄色極細砂ブロック混じる
23. SK　灰色シルト質極細砂ブロック主体で黒色シルト質極細砂、黄色極細砂の細かいブロック混入
24. 複数の SK　暗灰色シルト質極細砂、黒色シルト質極細砂ブロックが多く、灰色シルト質極細砂、黄色極細砂ブロック混じる
25. SK　灰色シルト質極細砂主体で黄色極細砂と少量の黒色シルト質極細砂ブロック混じる
26. SK　灰色シルト質極細砂、黒色シルト質極細砂、黄色極細砂ブロックに少量の暗灰色シルト質極細砂ブロック混じる
27. 撹乱
28.　2.5Y5/2　暗灰黄色　極細砂～細砂
29.　2.5Y5/2　暗灰黄色　粘質シルト
30.　10YR4/1　褐灰色　粘質シルト
31. SK　28と灰色シルト質極細砂、黄色極細砂ブロック混合
32. SD 埋土 10YR4/1　褐灰色　粗砂混じりシルト
33. Pit 埋土 10YR3/1　黒褐色　粗砂混じりシルト
34.　10YR3/2　黒褐色　粗砂混じり粘質シルト
35.　10YR5/2　灰黄褐色　細砂～極細砂

全体図・南壁土層断面図

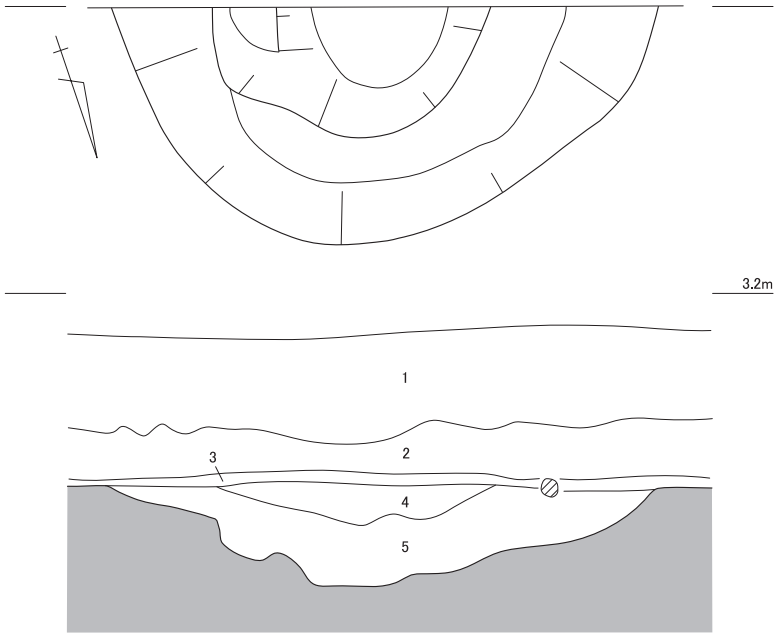

A区
B区
Y=28935
Y=28930
Y=28925
Y=28920
Y=28915
X=131160
X=131155
X=131150
SK650
SK605
SK610
SK607
SK608
SK665
SK649
SK614
SK666
SK616
SK615
SK604
SK612
SK613
SK617
SK623
SK645
SK677
SK624
SK618
SK619
SK620
SK611
SK622
SK676
SK625
SK621
SK743
SK669
SK606
SK627
SK663
SK630
SK631
SK632
SK646
SK634
SK662
SK629
SK639
SK648
SK635
SK628
SK636
SK637
SK633
SK652
SK638
SK653
SK660
SK658
SK640
SK670
SK673
SK671
SK641
SK664
SK642
SK674
SK644
SK709
SK702
SK643
SK651
SK675
SK700
SK701
SK739
SK737
SK656
SK707
SK657
SK738
SK667
SK708
SK720
SK668
0
5m

全体図 1


X=131150
X=131155
X=131145
SK667
SK708
SK720
SK668
SK742
SK655
C区
Y=28915
SK710
SK721
SK685
SK735
SK736
SK734
SK681
SK684
SK682
SK678
Y=28910
SK687
SK680
SK733
SK686
SK679
SK689
SK691
SK688
SK692
Y=28905
X=131145
SK730
SK698
SK728
SK699
D区
SK603
SK703
SK706
SK729
SK722
SK723
SK704
Y=28900
SK705
SK711
Y=28895
SK711
SK724
SK712
SK725
SK726
SK719
SK727
SK713
SK717
SK731
SK732
Y=28890
E区
SK716
Y=28885
SK715
X=131140
Y=28880
SK718
SD329
0
5m

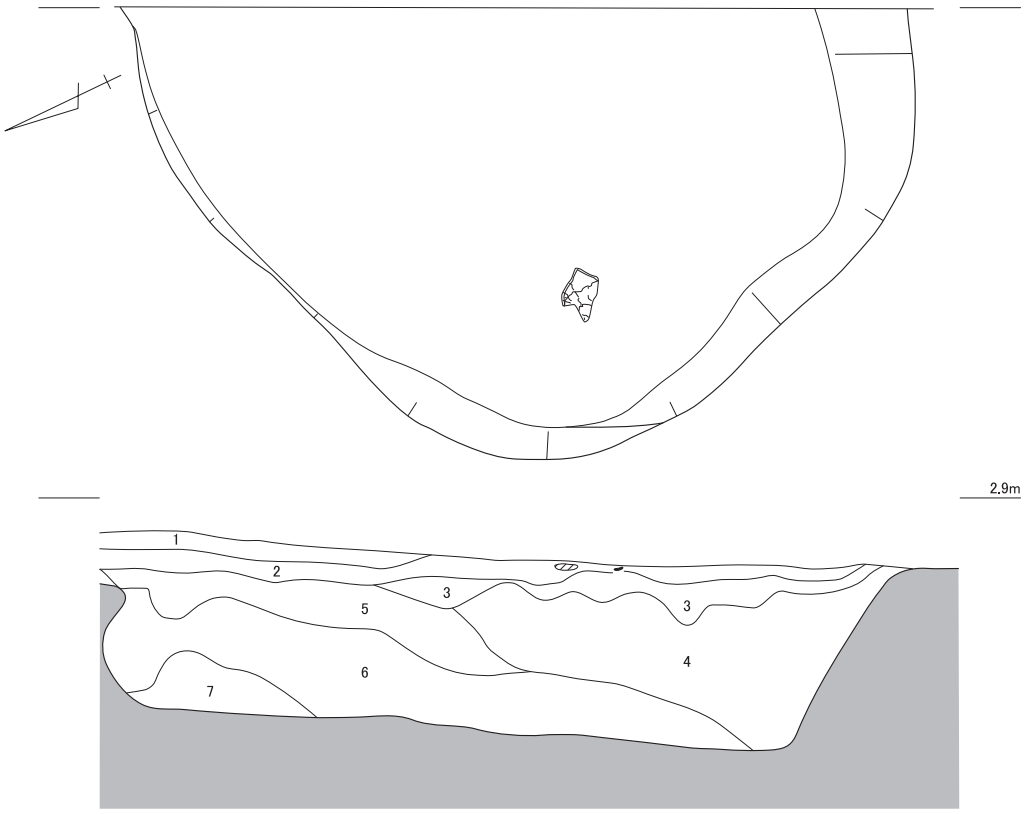
全体図 2

## SK604

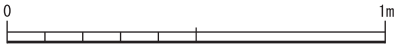



1. 耕土
2. 床土
3. 10YR5/2　灰黄褐色　シルト
4. 10YR4/2　灰黄褐色　粘質シルト
5. 10YR4/1　褐灰色　　粘質シルトに黒褐色粘質シルトブロック混じる

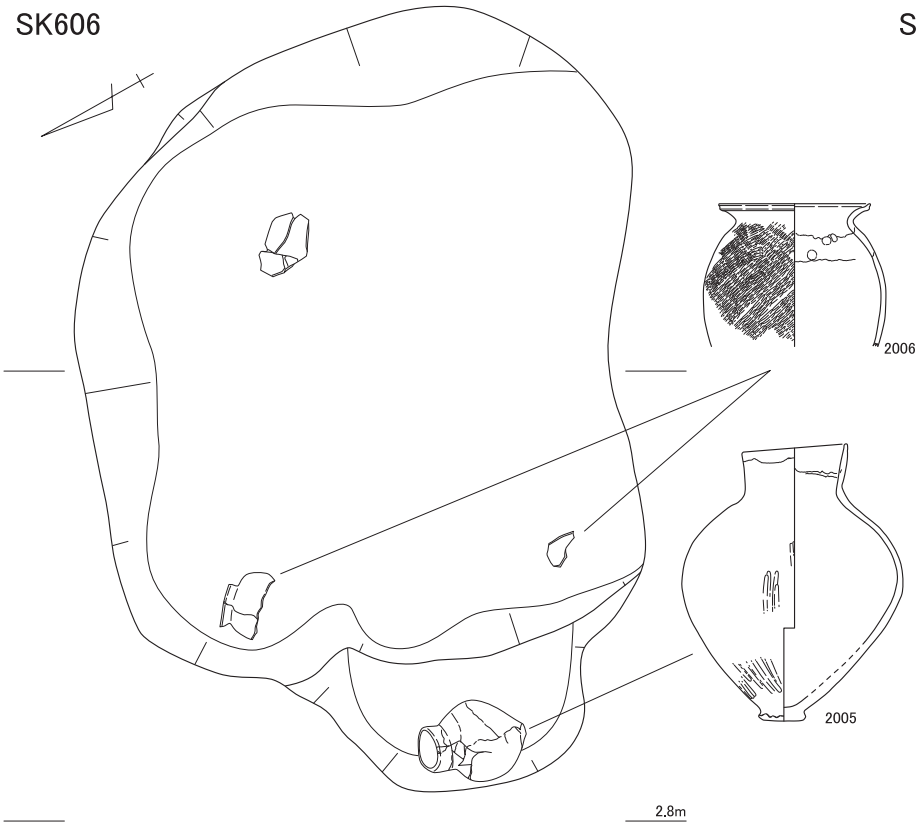
## SK605

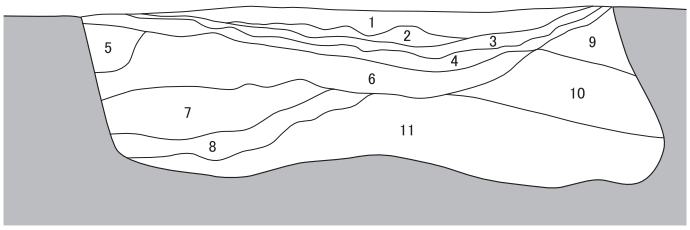



1. 10YR6/1　褐灰色　細砂混じり粘質シルト
2. 10YR5/1　褐灰色　粘質シルト　Mn 含む
3. 10YR4/1　褐灰色　粘質シルト
4. 10YR6/1　褐灰色　粘質シルトに明黄褐色シルト含む
5. 10YR4/1　褐灰色　粘質シルトに灰白色粘質シルトブロック
6. 10YR4/1　褐灰色　灰白色粘質シルトブロックが細かい
7. 10YR5/1　褐灰色　粘質シルトに黒褐色粘質シルトブロックを少量含む



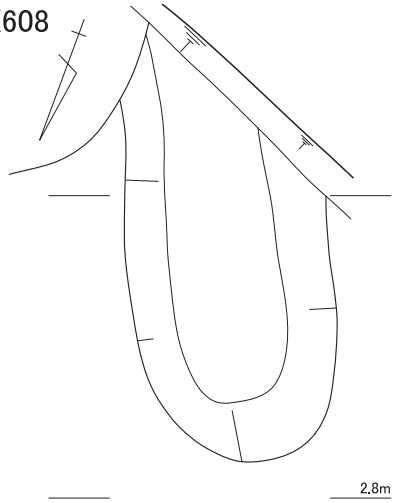
## SK606

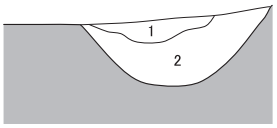



1. 10YR4/2　灰黄褐色　粘質シルト
2. 10YR5/2　灰黄褐色　粘質シルトににぶい黄橙色粘質シルト少量混じる
3. 10YR3/1　黒褐色　粘質シルト
4. 10YR5/1　褐灰色　粘質シルト
5. 10YR5/1　褐灰色　粘質シルト
6. 5YR6/1　褐灰色　粘質シルトに灰黄褐色粘質シルトブロックと黒褐色粘質シルト混じる
7. 10YR5/2　灰黄褐色　粘質シルトと黒褐色粘質シルトと褐灰色粘質シルトの3種類のブロック混じる
8. 10YR6/1　褐灰色　粘質シルトに黒褐色粘質シルト少量含む
9. 10YR5/1　褐灰色　粘質シルトににぶい黄橙色粘質シルト少量混じる
10. 10YR5/2　灰黄褐色　粘質シルトに灰黄褐色粘質シルトブロック混じる
11. 10YR6/1　褐灰色　粘質シルトに黒褐色粘質シルト少量含む

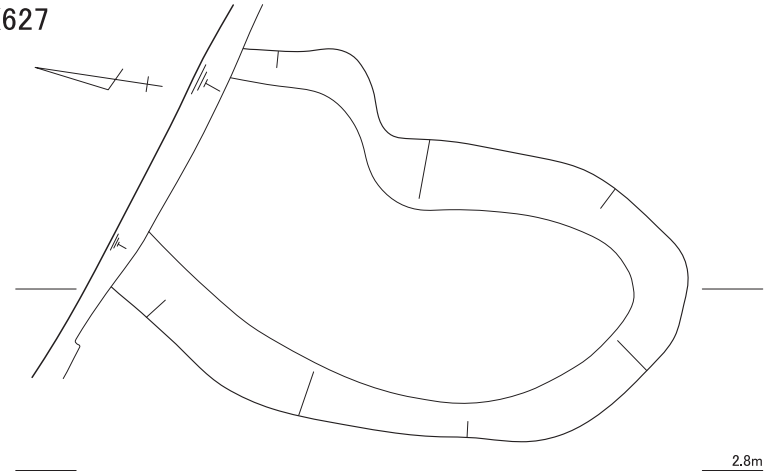
## SK608

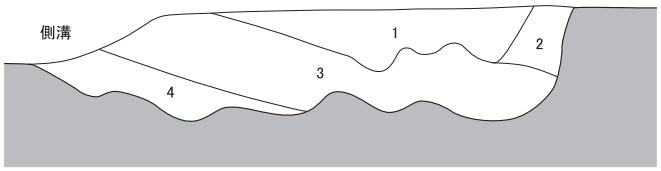



1. 10YR5/2　灰黄褐色　粘質シルト
2. 10YR6/4　にぶい黄橙色　粘質シルトに黒褐色粘質シルト混じる

## SK627

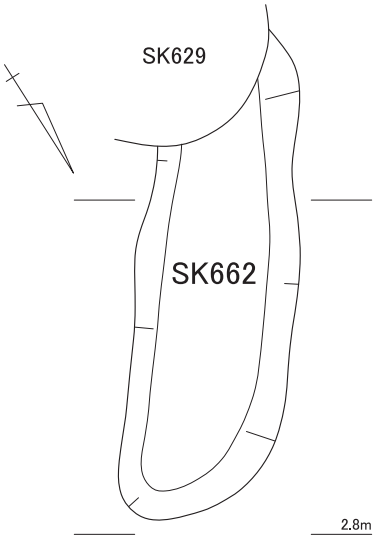


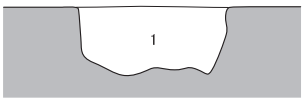




1. 灰色シルト質極細砂
2. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂混入
3. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂の細かいブロックに大きなブロック(5 ～ 10 ㎝ )を含む、 黄色極細砂混入
4. 3と同じだが黄色極細砂ブロックが細かくなる(5 ㎝以下 )

## SK629

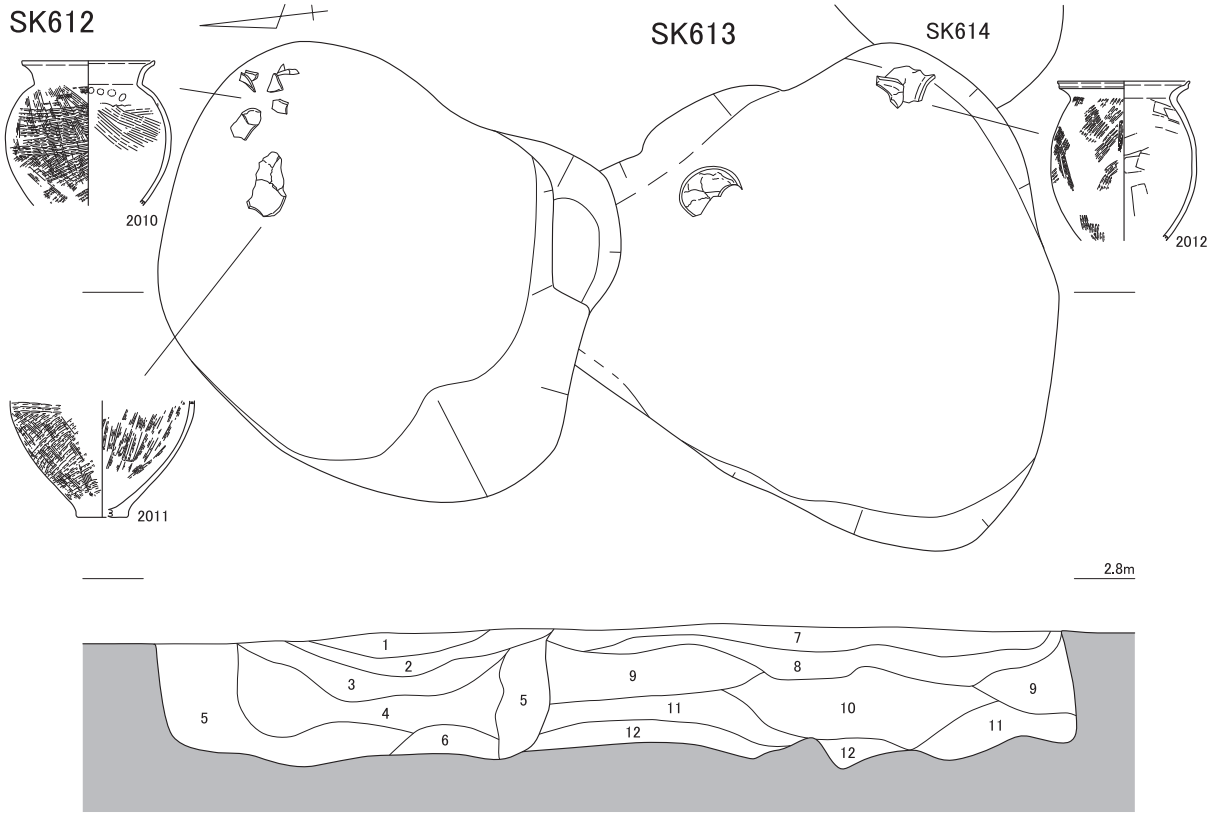
## SK662



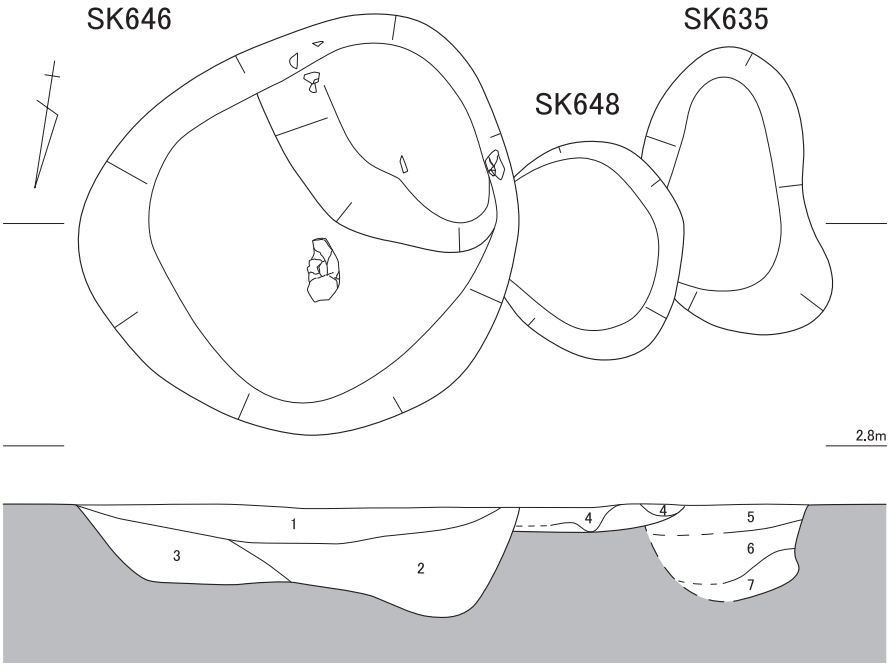

1. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の細かいブロックの混合

0　1m



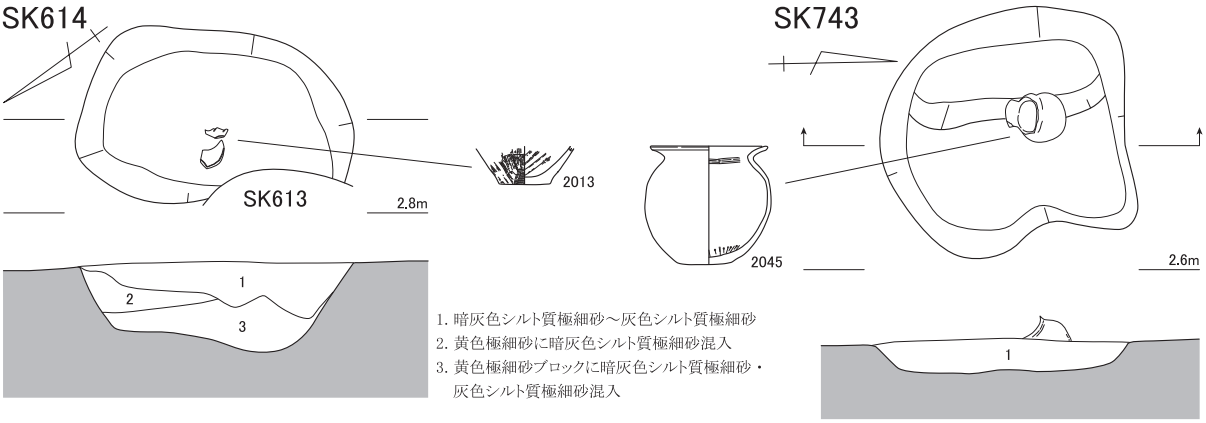

SK612
1. 10YR4/2　灰黄褐色　シルト
2. 10YR3/2　黒褐色　粘質シルト
3. 10YR5/2　灰黄褐色　粘質シルト
4. 10YR5/2　灰黄褐色　粘質シルトに灰白色粘質シルトブロック混じる
5. 10YR5/2　灰黄褐色　粘質シルトに灰白色粘質シルトと黒褐色粘質シルトブロック混じる
6. 10YR5/1　褐灰色　粘質シルトに灰白色粘質シルトブロックと黒褐色粘質シルトブロック混じる

SK613
7. 10YR5/2　灰黄褐色　粘質シルト
8. 10YR6/1　褐灰色　粘質シルト
9. 10YR5/2　灰黄褐色　シルトに灰黄褐色シルトと灰白色シルトブロック含む
10. 10YR3/1　黒褐色　粘質シルトブロックと灰白色粘質シルトブロックの混合
11. 10と色は同じで各々のブロックが細かい
12. 10YR6/1　褐灰色　粘質シルト



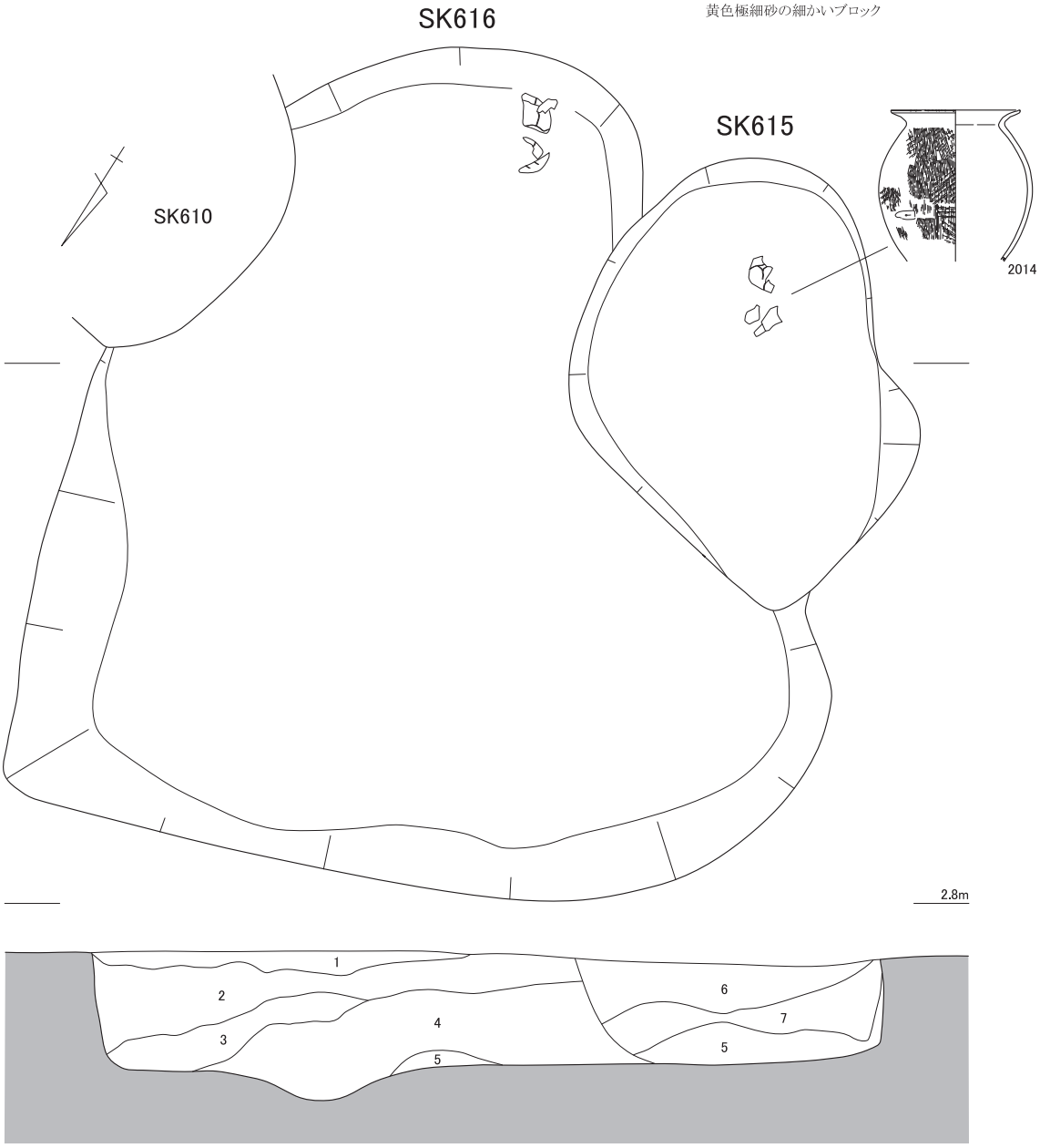

1. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂ブロックと黒色シルト質極細砂ブロック混入
2. 灰色シルト質極細砂ブロック・黄色極細砂ブロックの混合に少量の黒色シルト質極細砂ブロック混じる
3. 灰色シルト質極細砂ブロックに少量の黄色極細砂・黒色シルト質極細砂ブロック混入
4. 灰色シルト質極細砂ブロックに少量の黄色極細砂混入
5. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂のブロック
6. 暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂ブロックの混合
7. 黒色シルト質極細砂ブロックに少量の黄色極細砂ブロック

0　1m




1. 暗灰色シルト質極細砂～灰色シルト質極細砂
2. 黄色極細砂に暗灰色シルト質極細砂混入
3. 黄色極細砂ブロックに暗灰色シルト質極細砂・灰色シルト質極細砂混入

1. 灰色シルト質極細砂が主体で黒色シルト質極細砂と黄色極細砂の細かいブロック

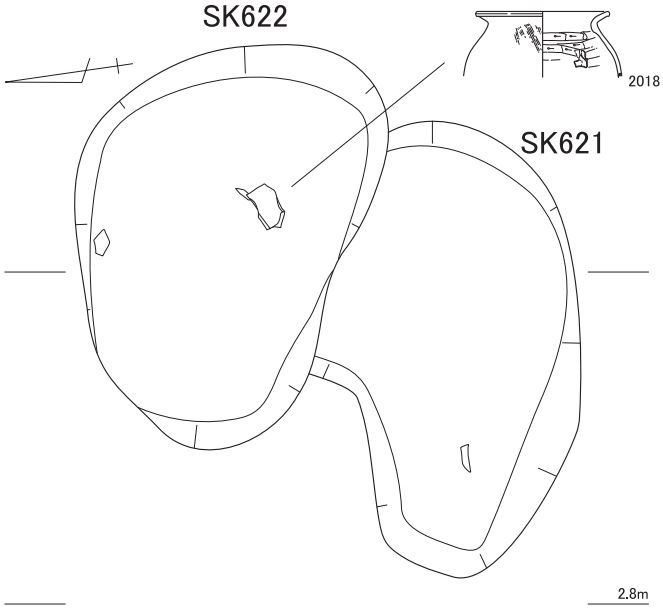


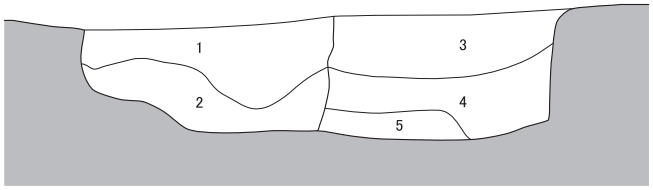

1. 灰色シルト質極細砂主体で暗灰色シルト質極細砂、 黄色極細砂とごく少量の黒色シルト質極細砂ブロック
2. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂が同じぐらいで、 黒色シルト質極細砂ブロック混入
3. 暗灰色シルト質極細砂に細かい黄色極細砂ブロック・黒色シルト質極細砂ブロック含む
4. 黄色極細砂ブロック主体で暗灰色シルト質極細砂ブロック・黒色シルト質極細砂ブロック混入
5. 灰黄色極細砂
6. 黄色極細砂ブロック主体で灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂ブロック含む、 黒色シルト質極細砂少量
7. 暗灰色シルト質極細砂ブロックと黄色極細砂ブロックが主体で黒色シルト質極細砂ブロック少量含む

0 1m

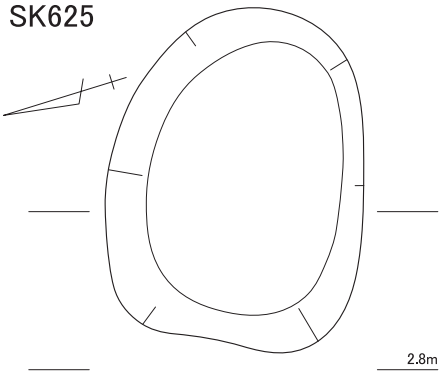
SK669
SK621
SK618
SK619
SK620
SK645
SK617
2.7m
1. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂ブロックと極少量の細かい黒色シルト質極細砂ブロック
2. 黒色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の細かいブロック混合
3. 黄色極細砂に極少量の灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂ブロック混入
4. 黄色極細砂・暗灰色シルト質極細砂・灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂ブロック混合
5. 暗灰色シルト質極細砂ブロックが多く、黄色極細砂・灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂ブロック混合
6. 黄色極細砂
1. 灰色シルト質極細砂が主体で黄色極細砂と黒色シルト質極細砂の細かいブロック混入
2. 暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・黄色極細砂の細かいブロック混合
3. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の細かいブロック混合
4. 灰色シルト質極細砂・黄色極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂の細かいブロック混合
2016
2015
2017
0
1m

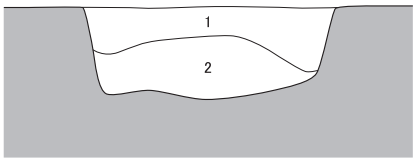
SK618・SK669



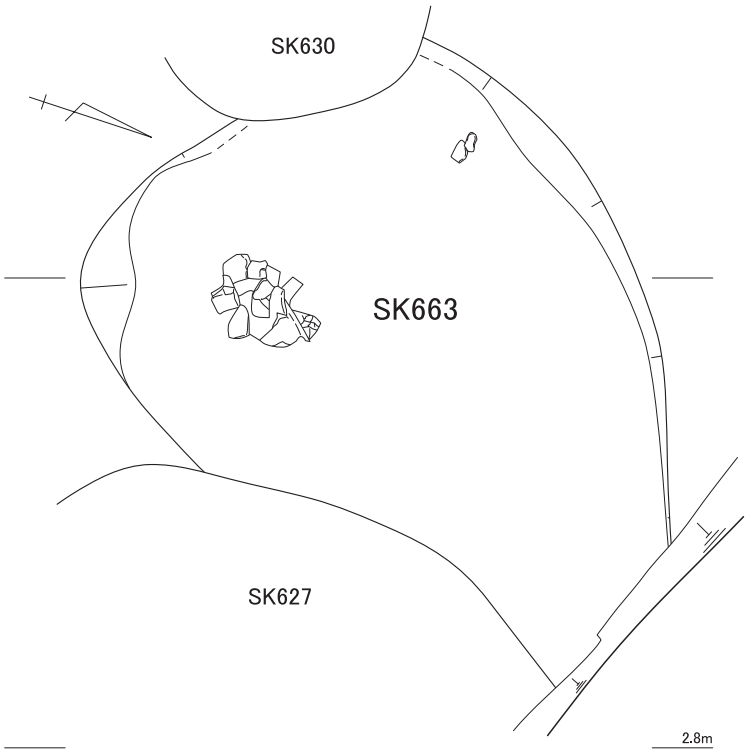



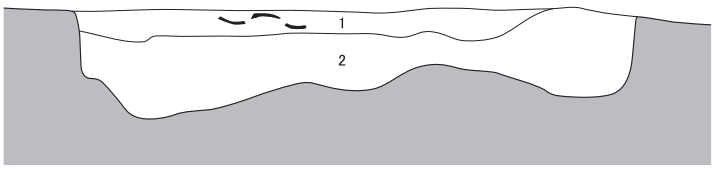

1. 灰色シルト質極細砂
2. 黄色極細砂ブロックが主で灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂の細かいブロック混入
3. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂ブロック混入
4. 灰色シルト質極細砂ブロックが主で黒色シルト質極細砂ブロック及び黄色極細砂ブロック混入
5. 2に細かい黒色シルト質極細砂ブロックが加わったもの




1. 暗灰色シルト質極細砂主体で黄色極細砂少量混入
2. 暗灰色シルト質極細砂・灰色シルト質極細砂・黄色極細砂ブロック混合

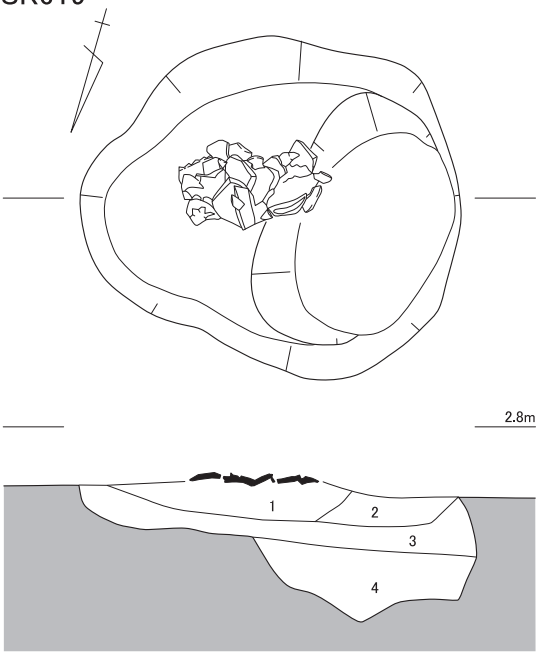



1. 黄色極細砂・灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂ブロックの混合
2. 黄色極細砂・灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂ブロックが混じり、暗灰色シルト質極細砂が多い

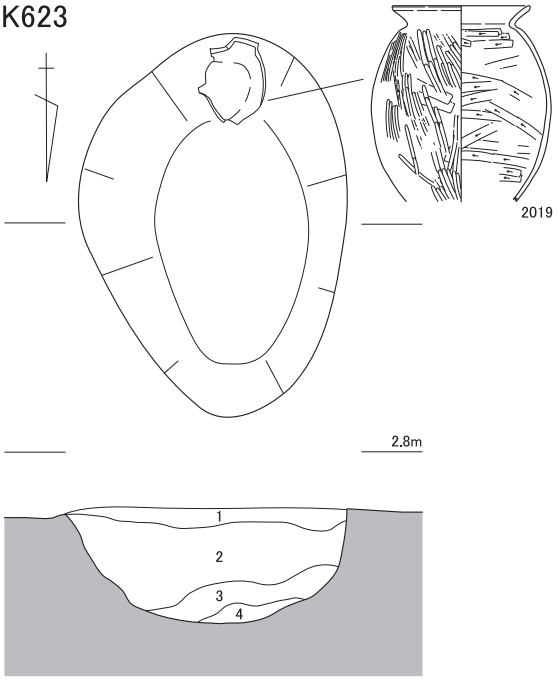
SK621・SK622・SK625・SK663

## SK619



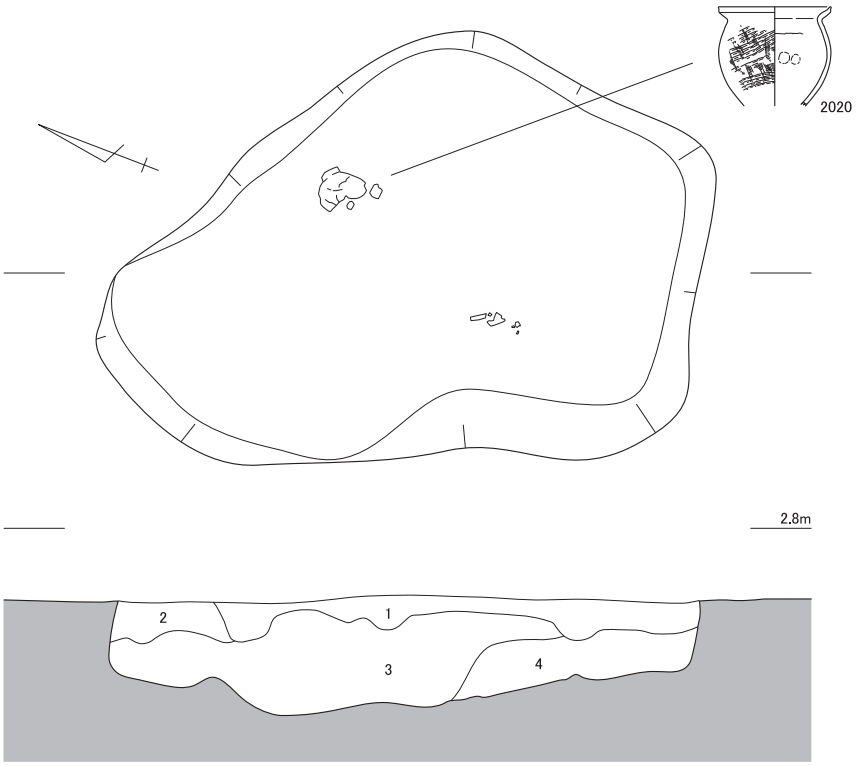

1. 灰色シルト質極細砂
2. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂・暗灰色シルト質極細砂ブロック混入
3. 細かい灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・黄色極細砂のブロック混合
4. 黄色極細砂ブロックに径2㎝程度の黒色シルト質極細砂ブロック・灰色シルト質極細砂ブロック混合

## SK623

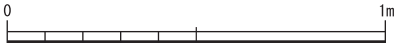


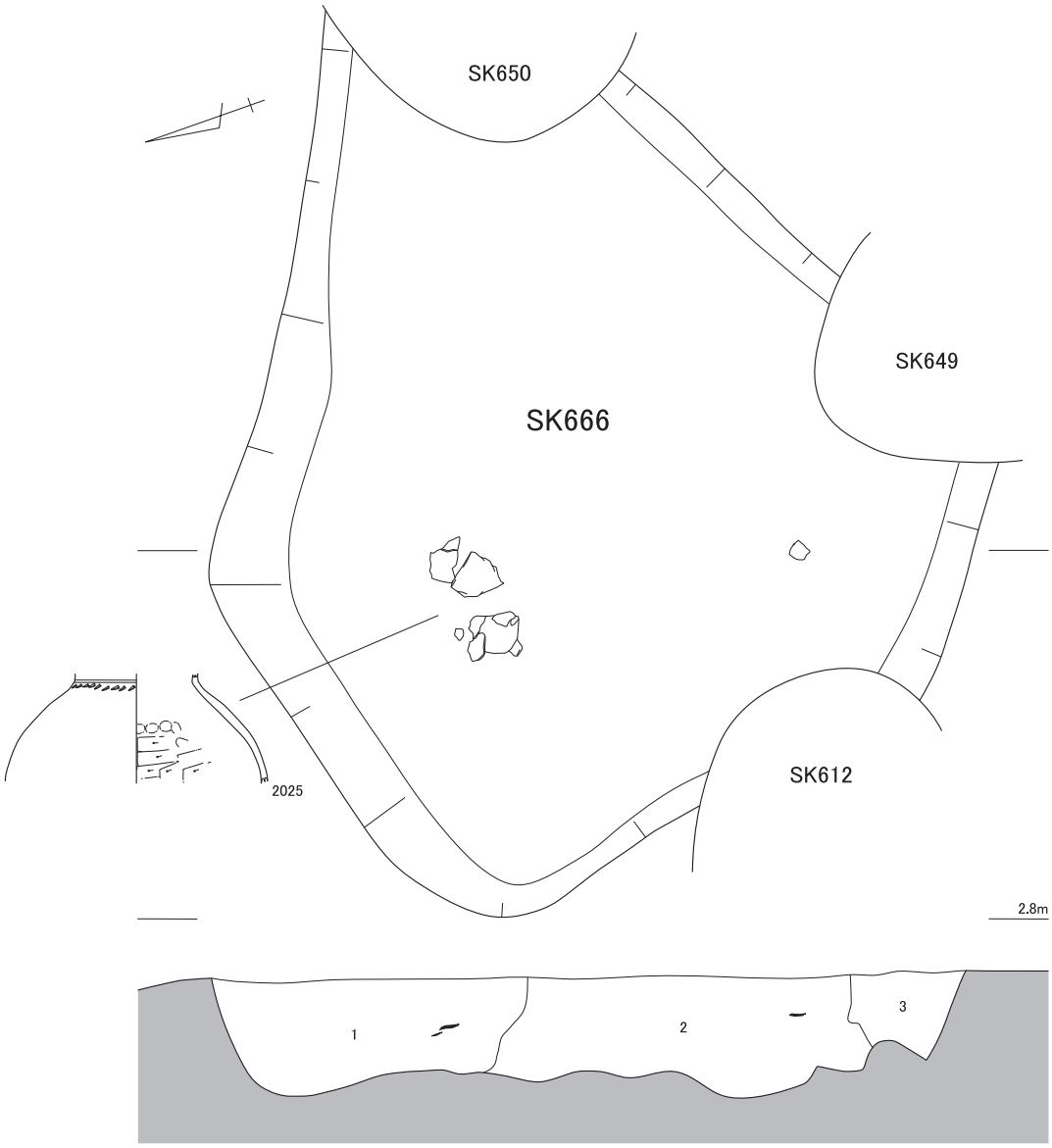

1. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の混合
2. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂ブロックと少量の黒色シルト質極細砂ブロック混じる
3. 黒色シルト質極細砂に極少量の灰黄色極細砂
4. 灰黄色極細砂

## SK632

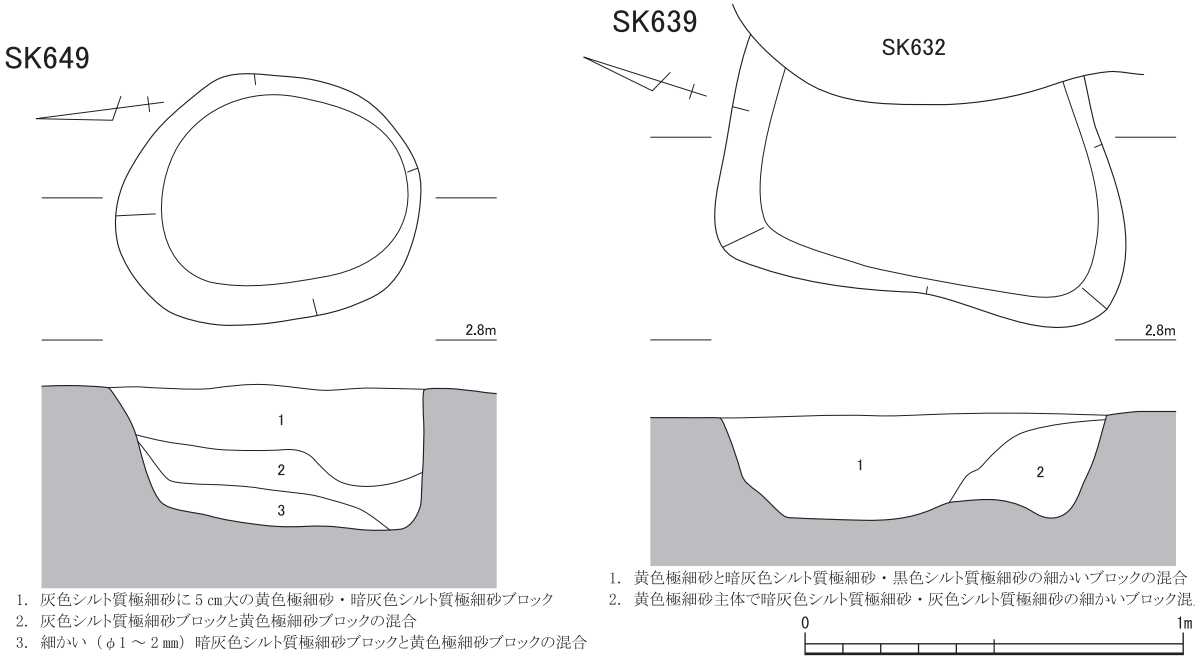



1. 灰色シルト質極細砂～暗灰色シルト質極細砂
2. 黄色極細砂ブロックが主体で、灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂の細かいブロック混入
3. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・黄色極細砂の細かいブロック（φ5㎝以下）の混合
4. 黄色極細砂・黒色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂ブロックの混合





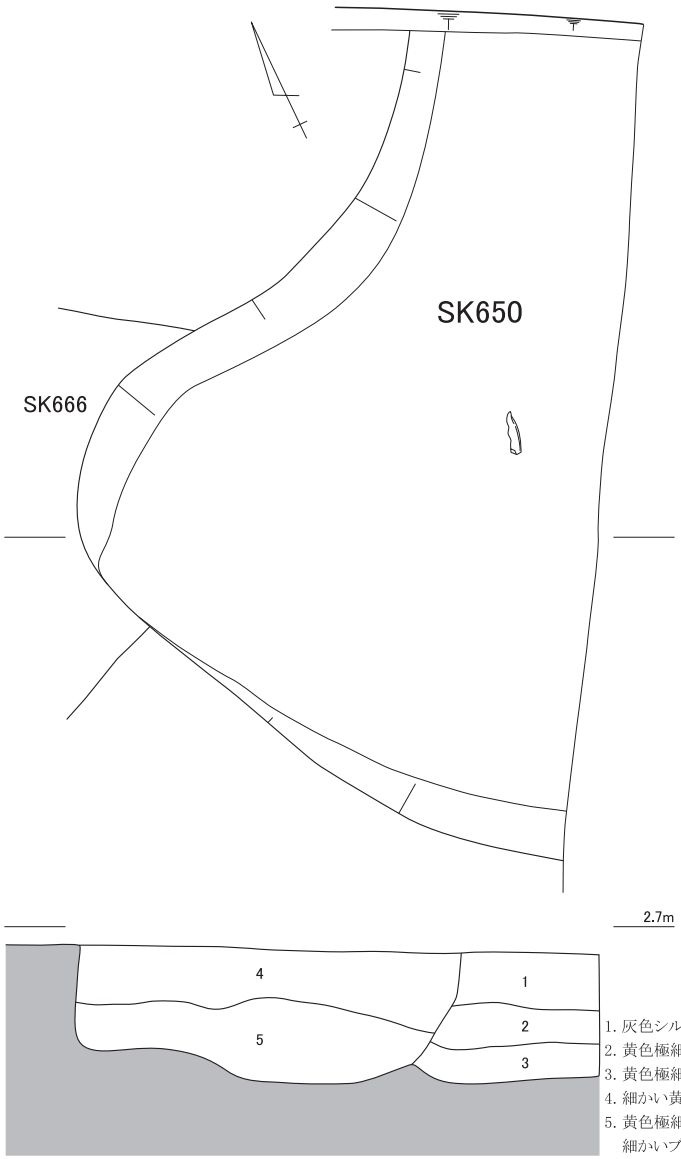

1. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂の大きなブロックと極少量の黒色シルト質極細砂ブロック
2. 暗灰色シルト質極細砂・灰色シルト質極細砂・黄色極細砂・黒色シルト質極細砂の細かいブロックの混合
3. 黄色極細砂主体で暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂の細かいブロック



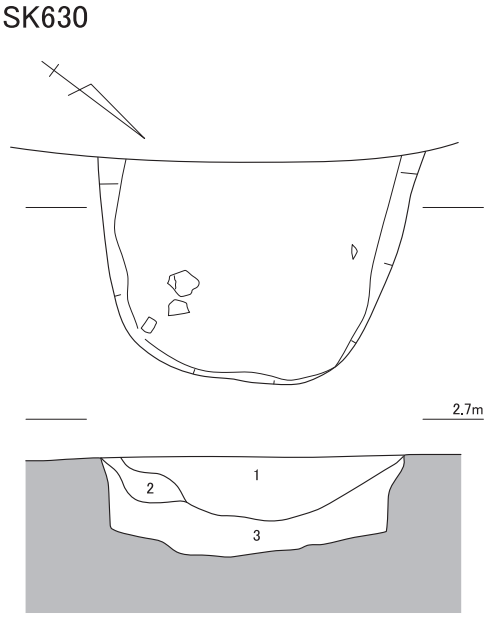

1. 灰色シルト質極細砂に5㎝大の黄色極細砂・暗灰色シルト質極細砂ブロック
2. 灰色シルト質極細砂ブロックと黄色極細砂ブロックの混合
3. 細かい（φ1～2㎜）暗灰色シルト質極細砂ブロックと黄色極細砂ブロックの混合

1. 黄色極細砂と暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂の細かいブロックの混合
2. 黄色極細砂主体で暗灰色シルト質極細砂・灰色シルト質極細砂の細かいブロック混入

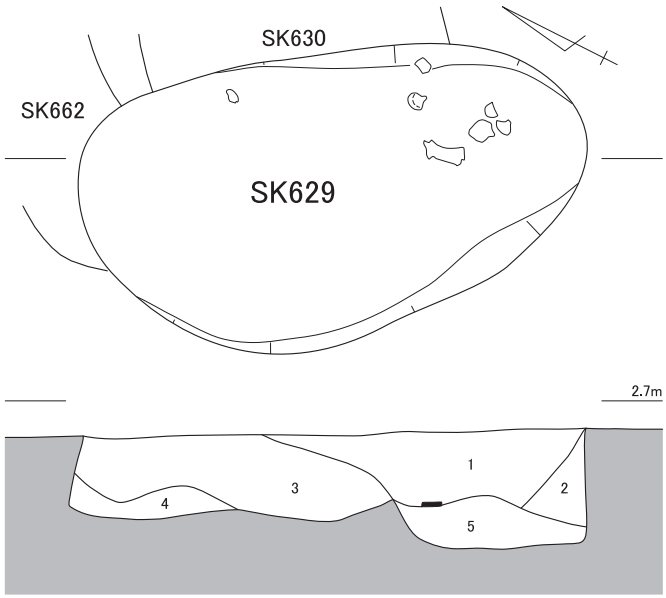
SK666・SK649・SK639




1. 灰色シルト質極細砂
2. 黄色極細砂に暗灰色シルト質極細砂ブロック少量混入
3. 黄色極細砂に灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂ブロック少量混入
4. 細かい黄色極細砂ブロックと灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂ブロックの混合
5. 黄色極細砂・灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂の細かいブロックの混合



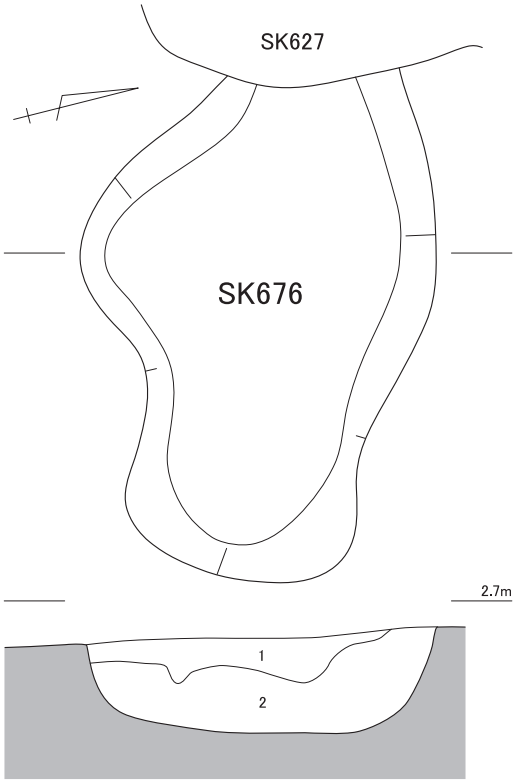

1. 灰色シルト質極細砂
2. 灰色シルト質極細砂に縞状に黒色シルト質極細砂混入
3. 灰色シルト質極細砂・黄色極細砂のブロック混合に黒色シルト質極細砂ブロック混じる



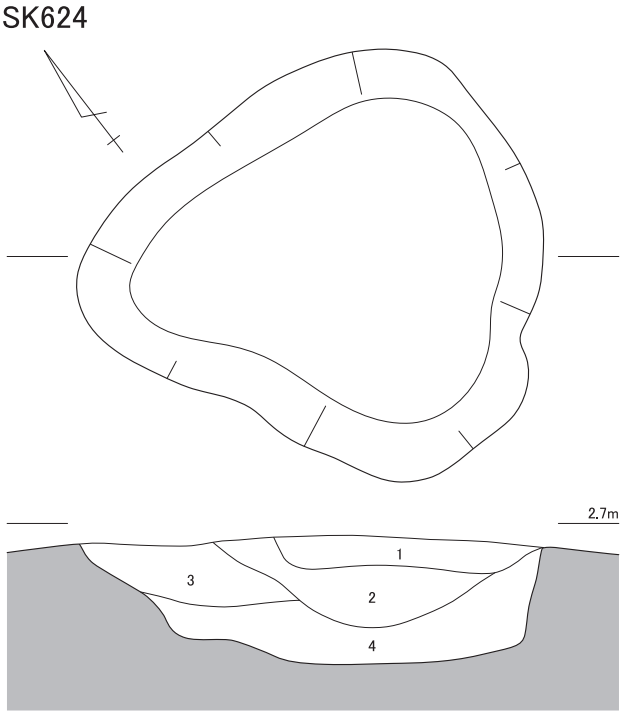

1. 暗灰色シルト質極細砂～灰色シルト質極細砂
2. 灰色シルト質極細砂に暗灰色シルト質極細砂と黄色極細砂の細かいブロック、粗砂混入
3. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂のブロックに黒色シルト質極細砂の細かいブロック（φ2㎝程度）混入
4. 黄色極細砂と暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂のブロック混合
5. 4と同じ

0 1m

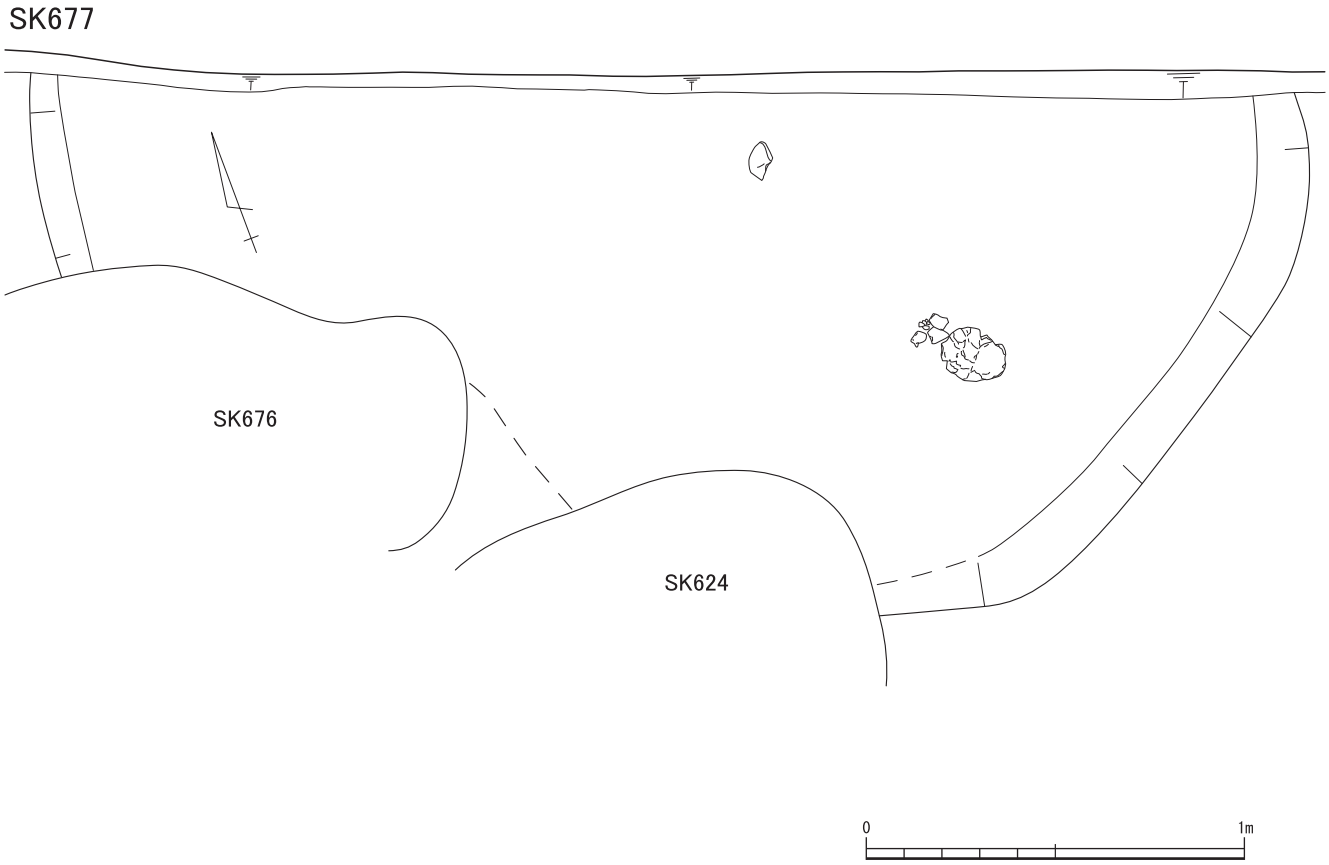
SK650・SK630・SK629



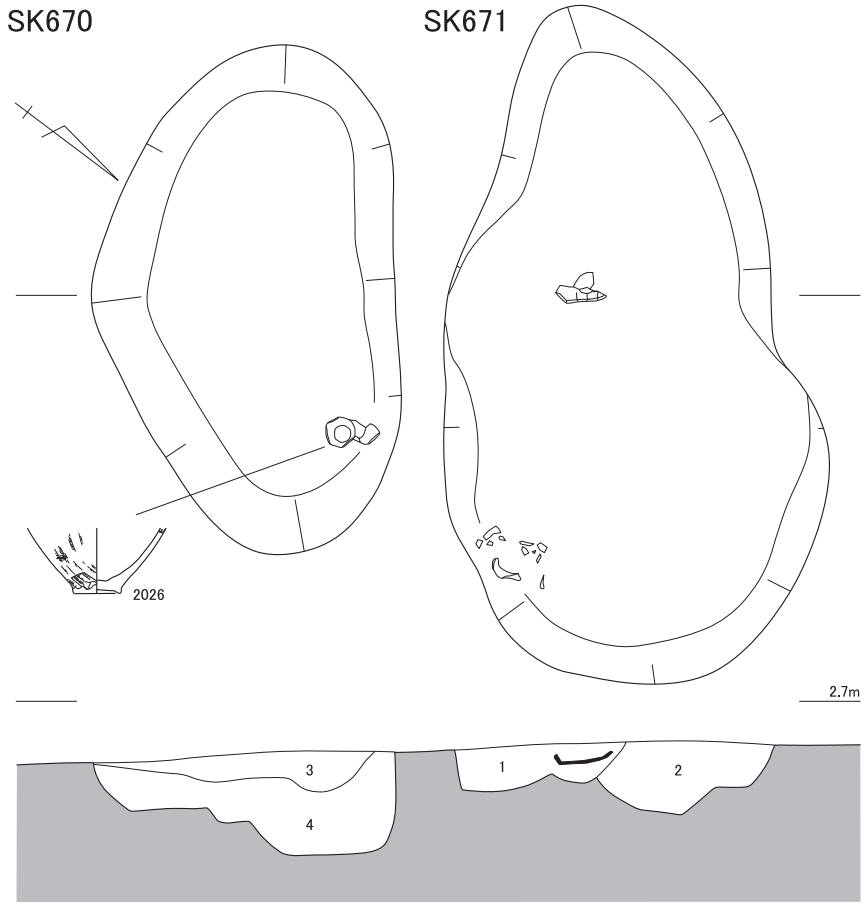

1. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂ブロック少量混じる
2. 灰色シルト質極細砂 > 黒色シルト質極細砂 > 暗灰色シルト質極細砂 > 黄色極細砂ブロックの混合



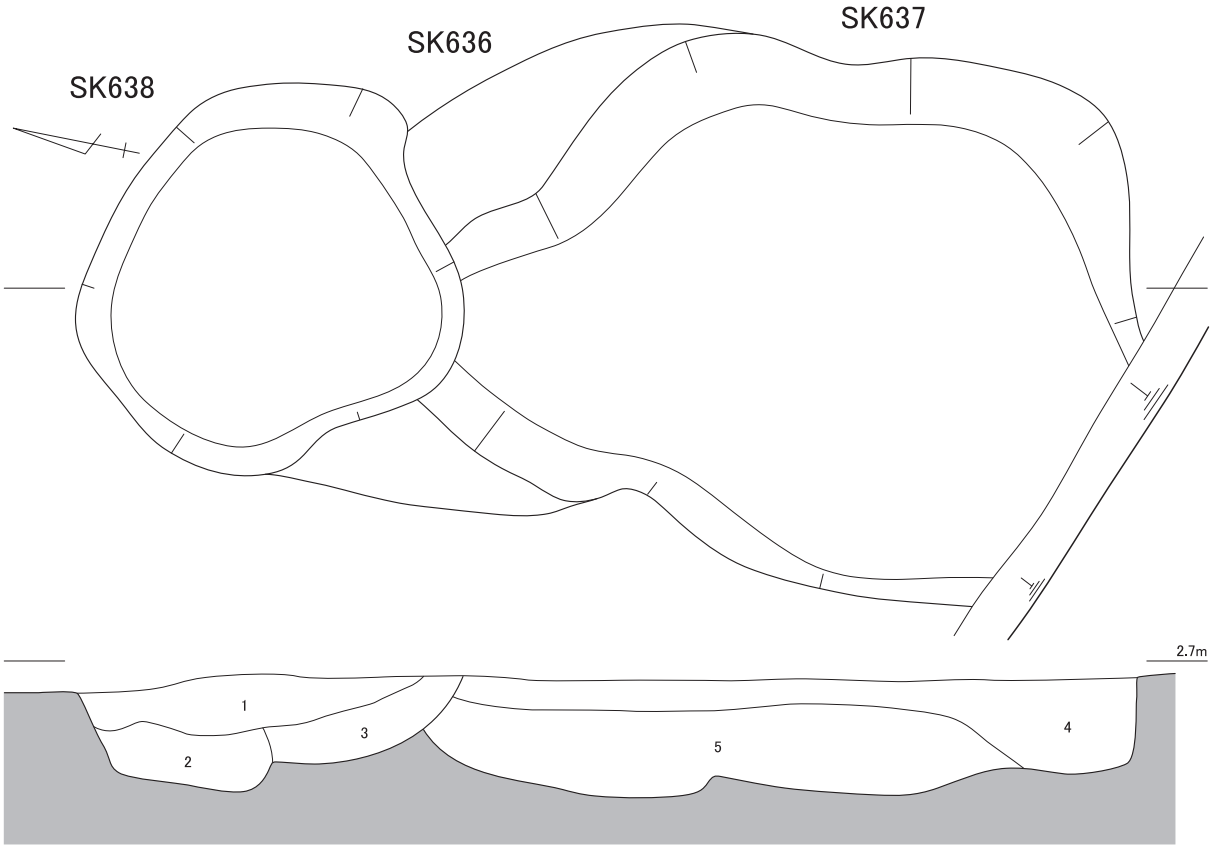

1. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の混合
2. 黄色極細砂に灰色シルト質極細砂混じる
3. 黄色極細砂と暗灰色シルト質極細砂のブロック混合
4. 灰黄色極細砂に暗灰色シルト質極細砂の細かいブロック混入




SK676・SK624・SK677



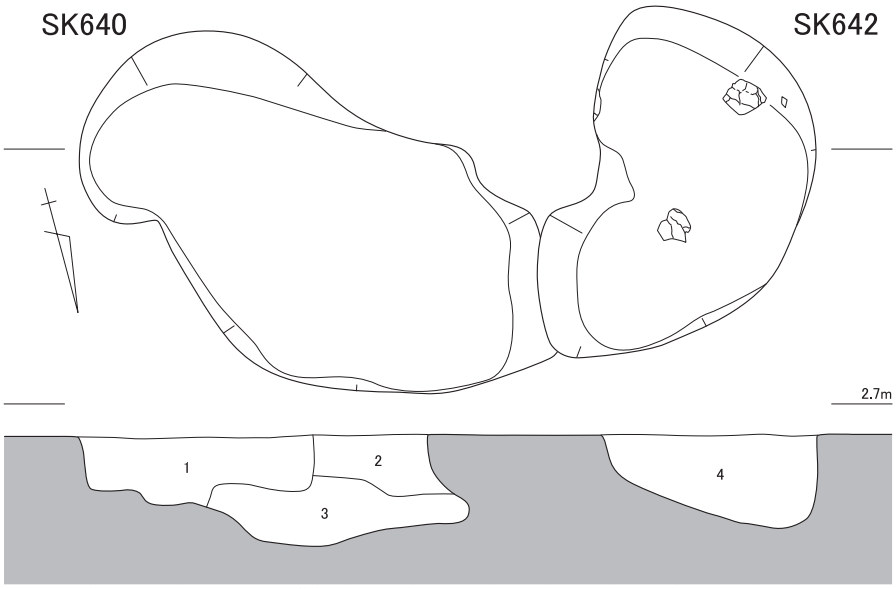

1. 灰色シルト質極細砂に極少量の暗灰色シルト質極細砂と黄色極細砂
2. 暗灰色シルト質極細砂に灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の細かいブロック混入
3. 灰色シルト質極細砂
4. 暗灰色シルト質極細砂



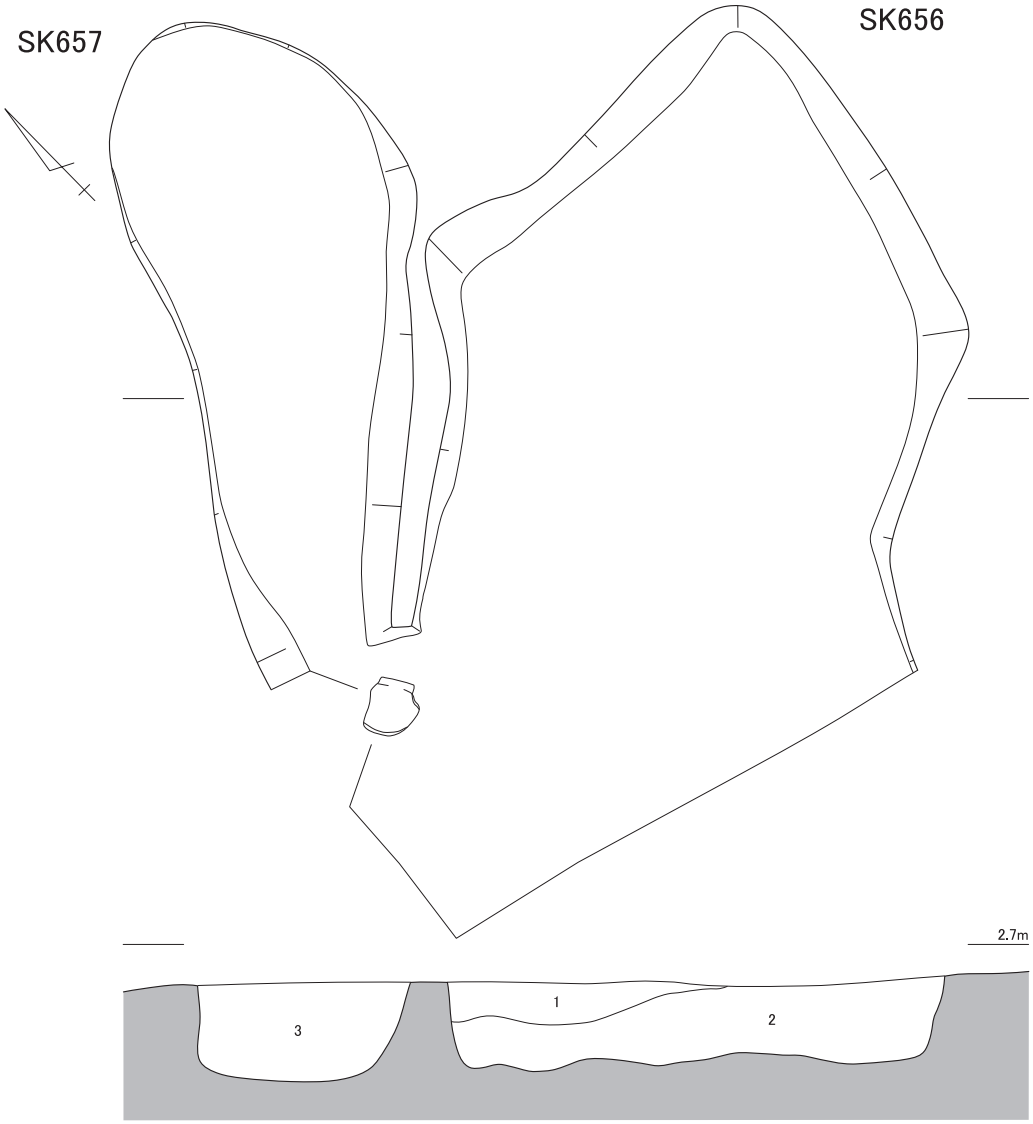

1. 灰色シルト質極細砂
2. 細かい暗灰色シルト質極細砂及び黄色極細砂ブロック混合
3. 暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・黄色極細砂の細かいブロック
4. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂のブロック混合
5. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂・黒色シルト質極細砂ブロック混じる

0 1m

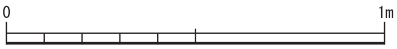
SK670・SK671・SK636・SK637・SK638



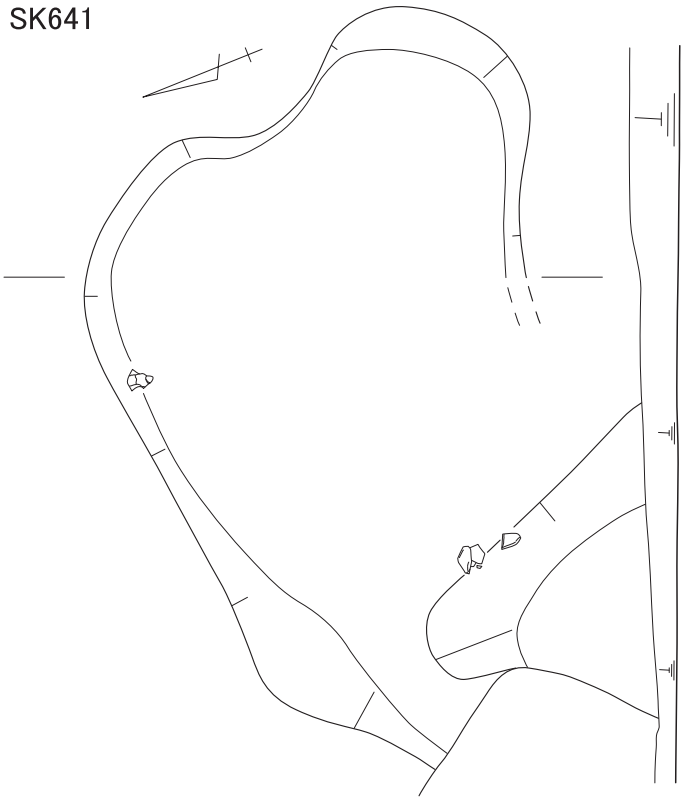

1. 上面に灰色シルト質極細砂のうすい層、 黄色極細砂と灰色シルト質極細砂のブロックに細かい黒色シルト質極細砂ブロック
2. 黄色極細砂に細かい灰色シルト質極細砂ブロック
3. 黒色シルト質極細砂主体で細かい黄色極細砂・暗灰色シルト質極細砂ブロック混入
4. 暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の細かいブロック混入

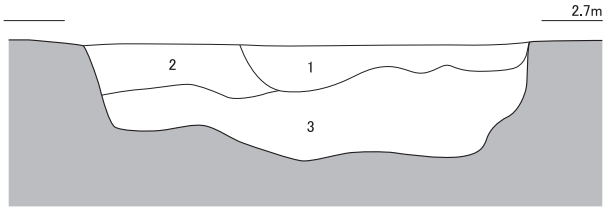



1. 灰色シルト質極細砂に暗灰色シルト質極細砂ブロック
2. 黄色極細砂に暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂の細かいブロック
3. 暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂・黒色シルト質極細砂ブロックの混合



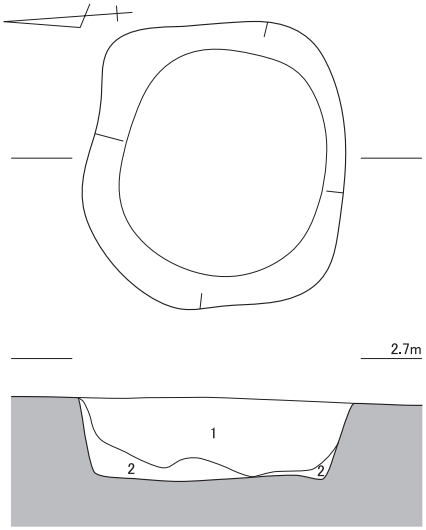
## SK641





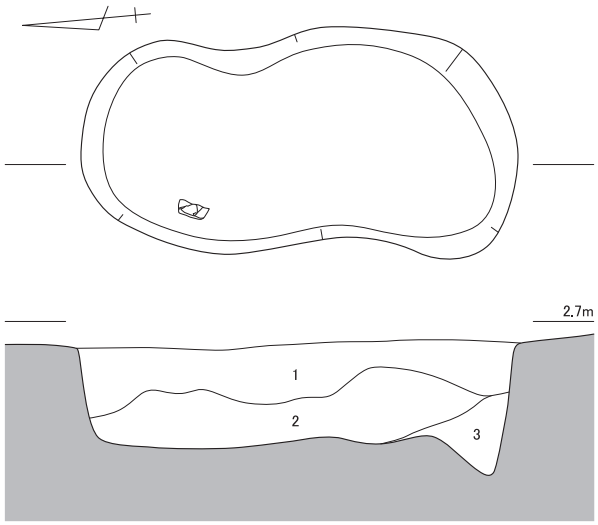

1. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂の細かいブロック少量混入
2. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂・暗灰色シルト質極細砂のブロック混合
3. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・黄色極細砂のブロック混合

## SK664




1. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂ブロック少量混入
2. 灰色シルト質極細砂・淡黄色極細砂の細かいブロックの混合

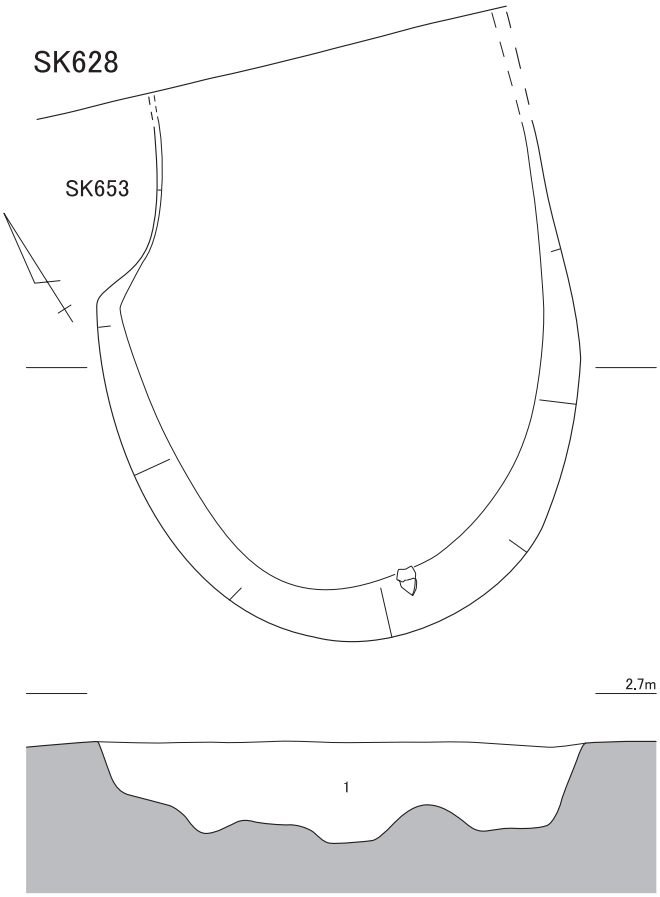
## SK660



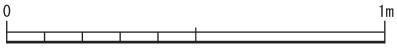

1. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の混合
2. 黄色極細砂が主体で暗灰色シルト質極細砂ブロック混入
3. 黄色極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂の細かいブロックの混合

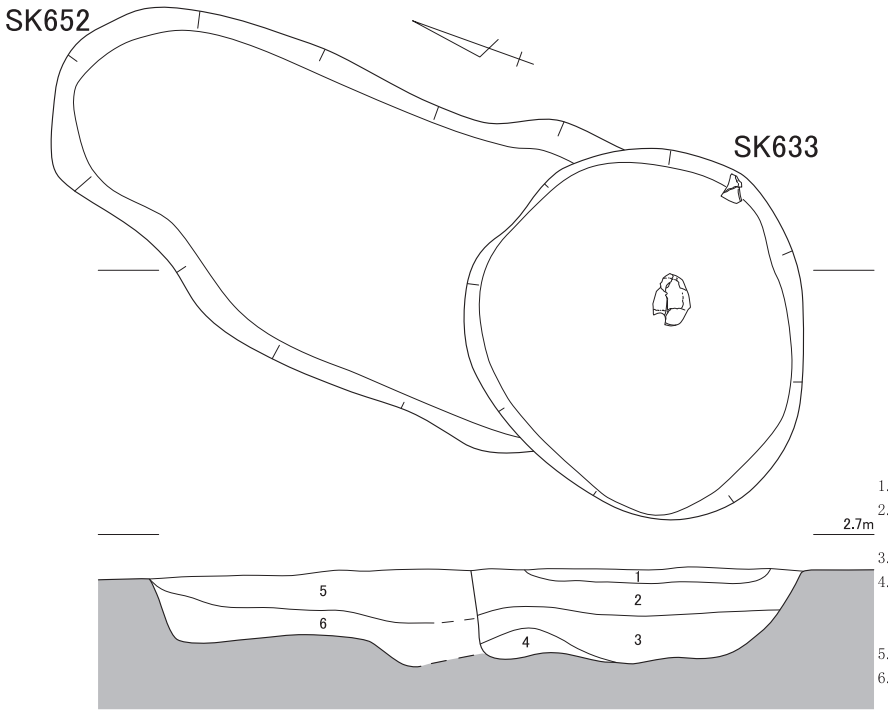
## SK628

SK653

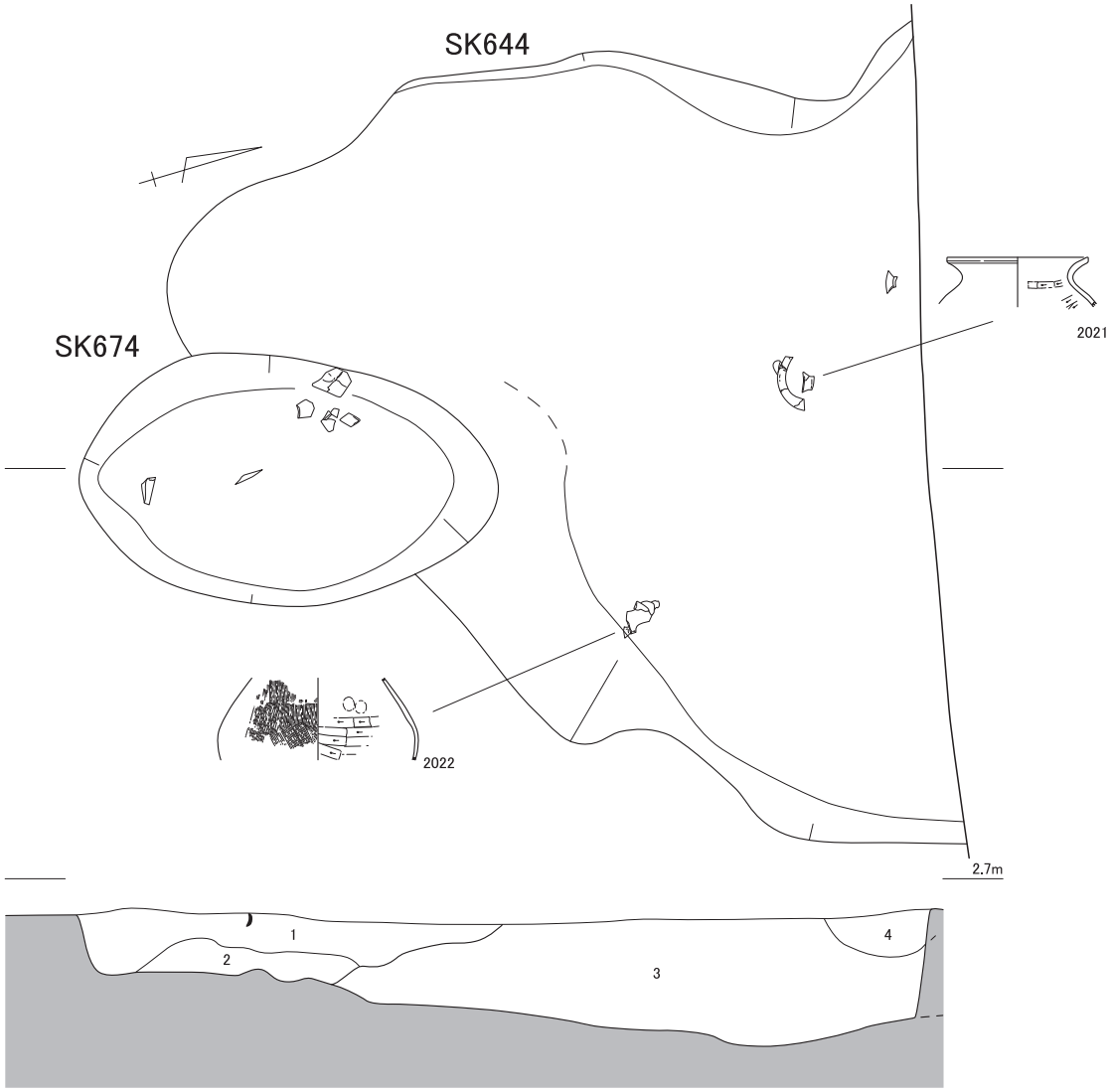



1. 黄色極細砂ブロックに灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂の細かいブロック混入





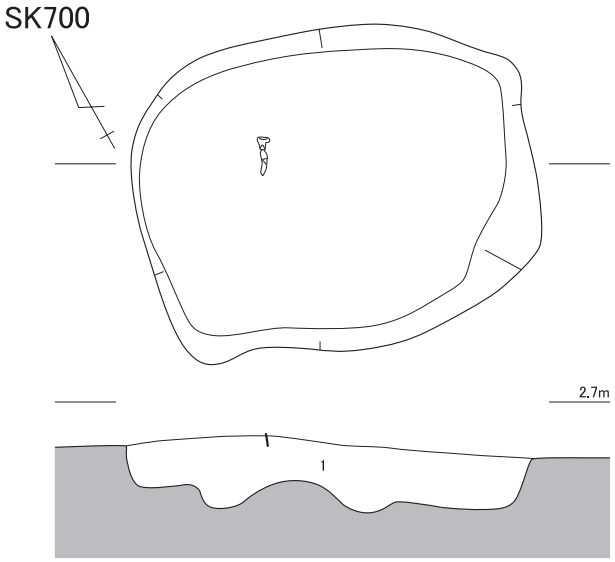

1. 灰色シルト質極細砂～暗灰色シルト質極細砂
2. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂の細かいブロック少量混入
3. 2に黒色シルト質極細砂の細かいブロック混入
4. 灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の細かいブロックの混合に微量の黒色シルト質極細砂ブロック混入
5. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂ブロック混入
6. 灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・黄色極細砂のブロック混合



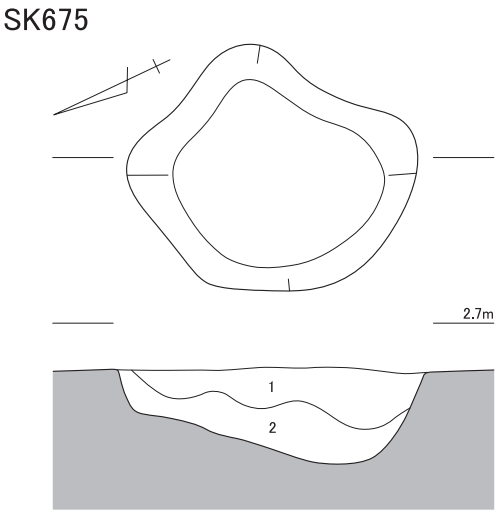

1. 灰色シルト質極細砂～暗灰色シルト質極細砂に灰黄色極細砂の細かいブロック混入
2. 暗灰色極細砂質シルトのブロックに灰黄色極細砂ブロック・黒色シルト質極細砂ブロック若干混入
3. 暗灰色シルト質極細砂・灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の細かいブロック混合
4. 暗灰色シルト質極細砂

0 1m

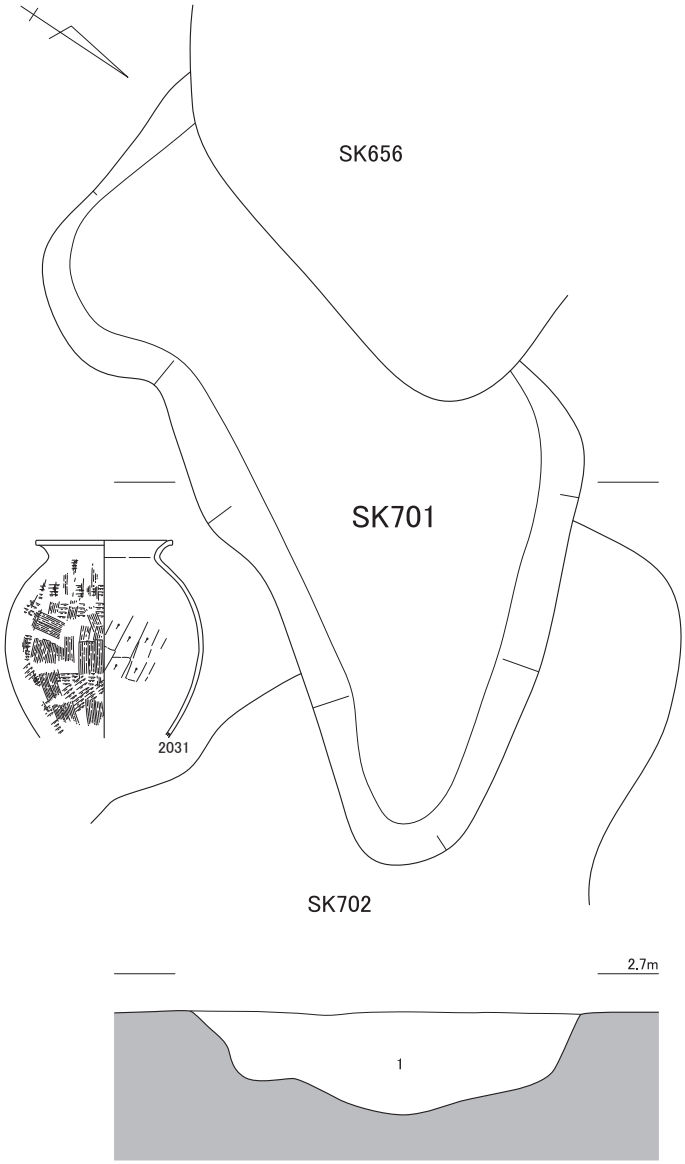
SK652・SK633・SK644・SK674



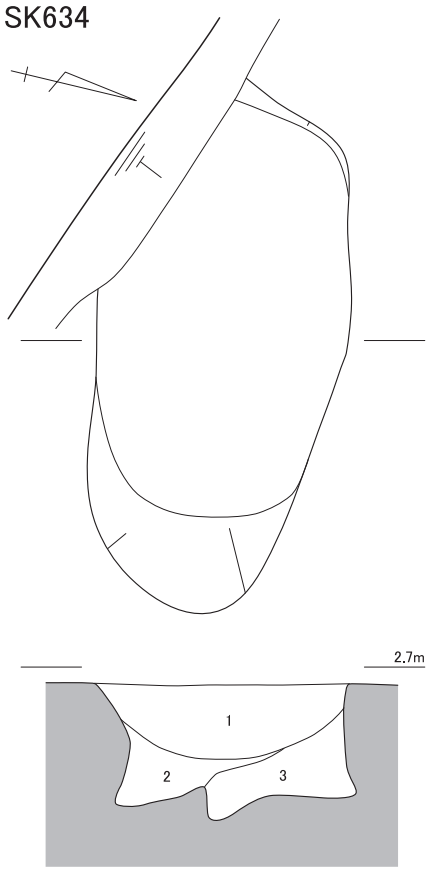

1. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の細かいブロックの混合



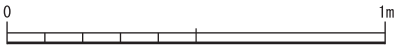

1. 灰色シルト質極細砂に暗灰色シルト質極細砂ブロック混入、鉄分付着
2. 暗灰色シルト質極細砂・灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・黄色極細砂ブロックの混合



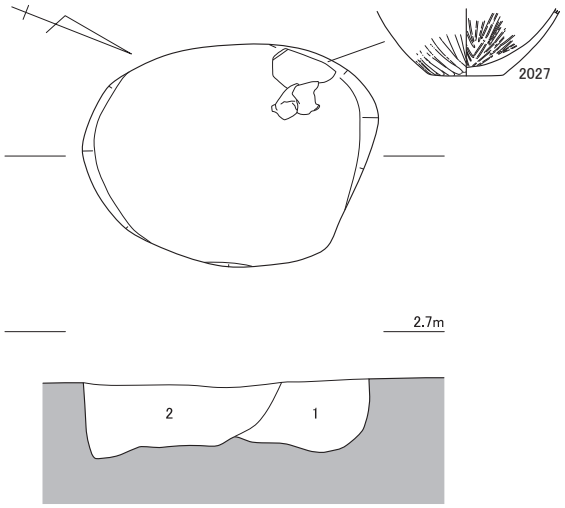

1. 暗灰色シルト質極細砂・灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の細かいブロックの混合




1. 灰色シルト質極細砂（堆積層）
2. 黒色シルト質極細砂ブロック（大）・灰色シルト質極細砂ブロックに少量の黄色極細砂
3. 黒色シルト質極細砂ブロック・暗灰色シルト質極細砂ブロックに黄色極細砂ブロック混入

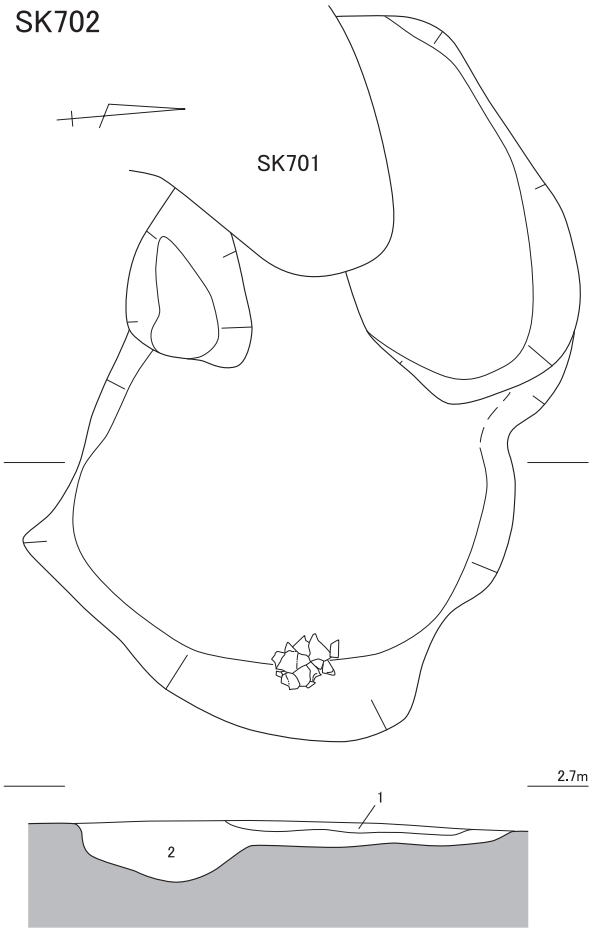


## SK673



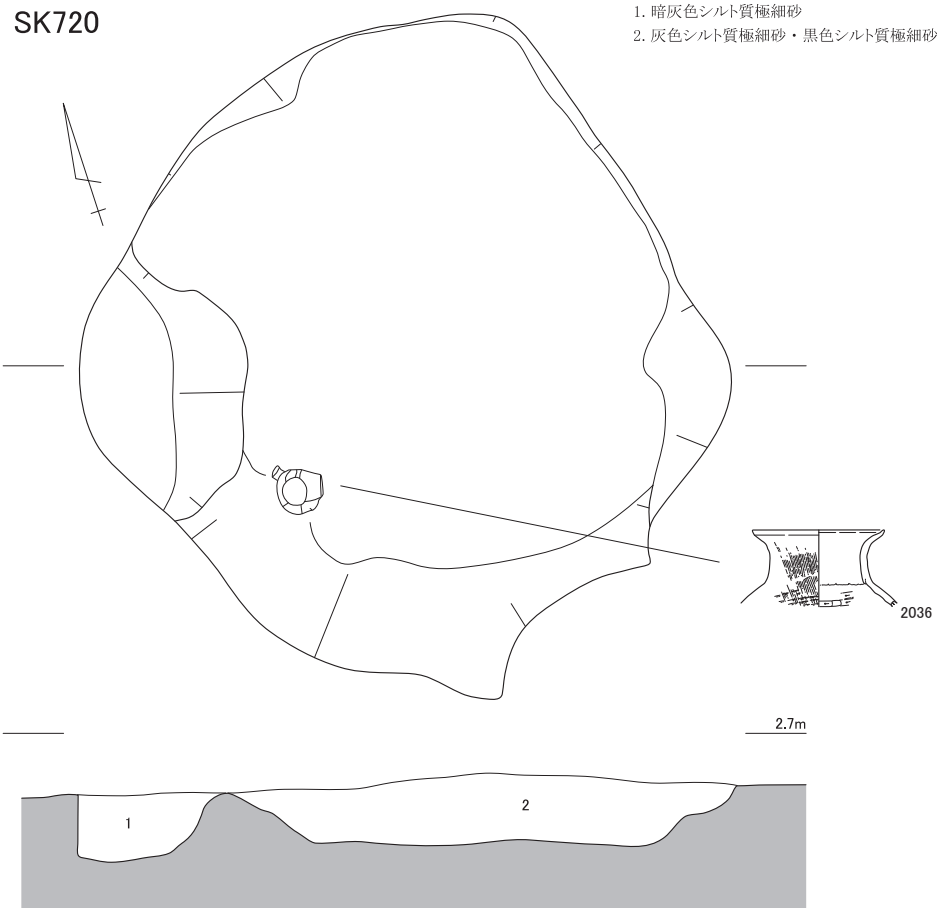

1. 灰黄色極細砂に灰色シルト質極細砂ブロック
2. 灰色シルト質極細砂に灰黄色極細砂・暗灰色シルト質極細砂のブロック混入

## SK702



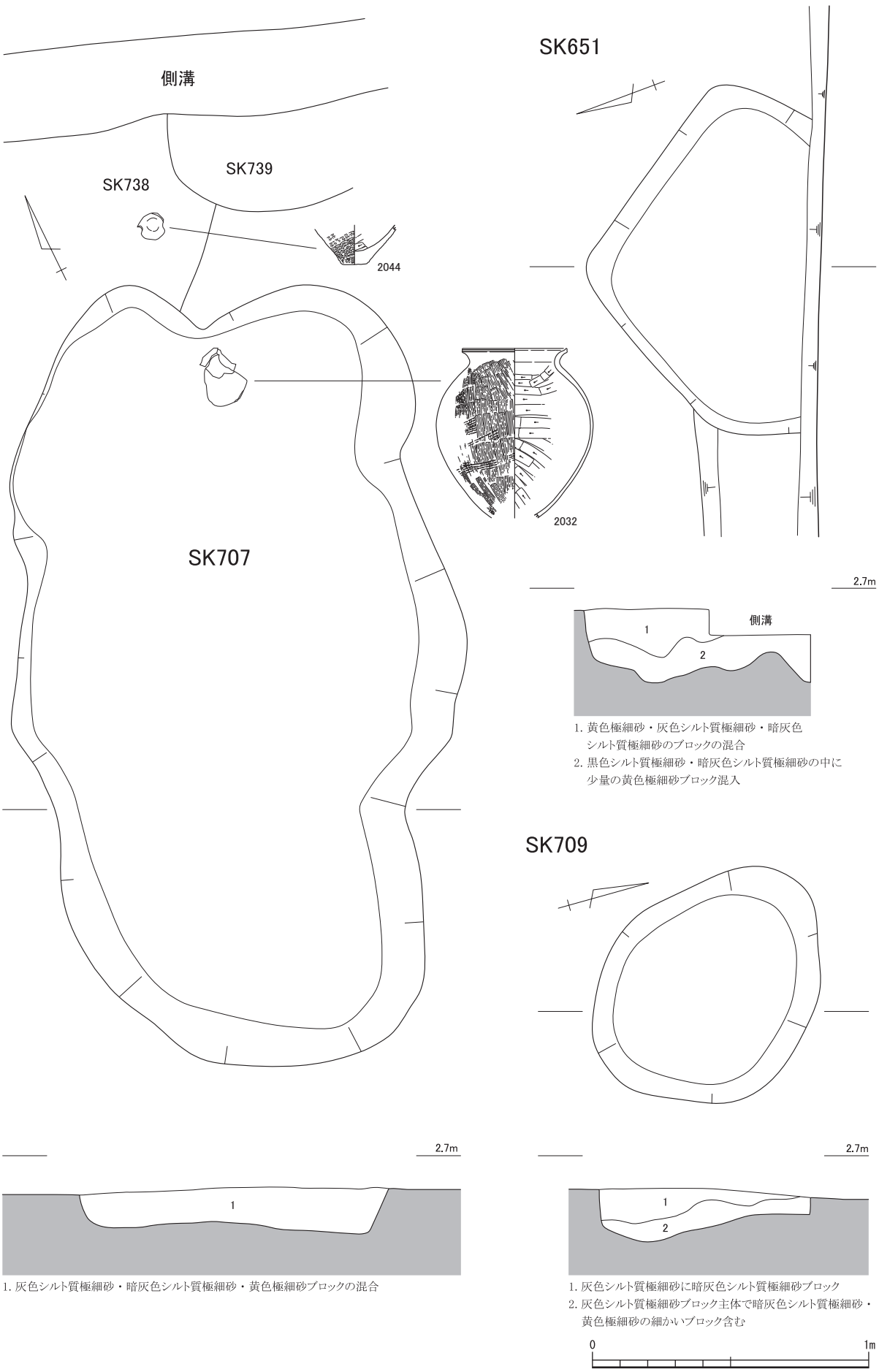

1. 暗灰色シルト質極細砂
2. 灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・灰黄色極細砂ブロックの混合

## SK720



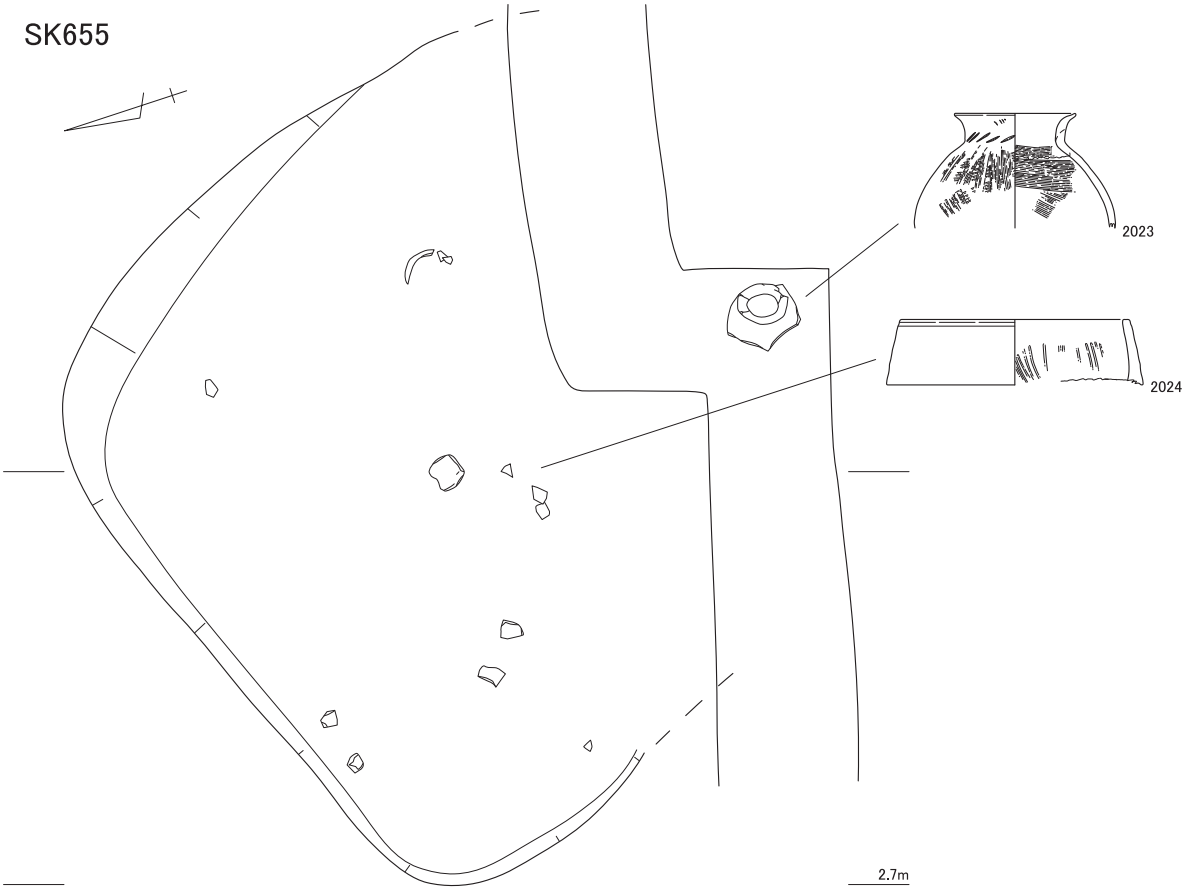

1. 灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・黄色極細砂ブロックの混合
2. 灰色シルト質極細砂ブロック主体で暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂ブロック混入

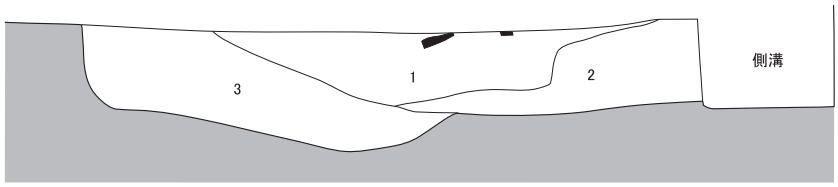
0 1m




SK707・SK651・SK709

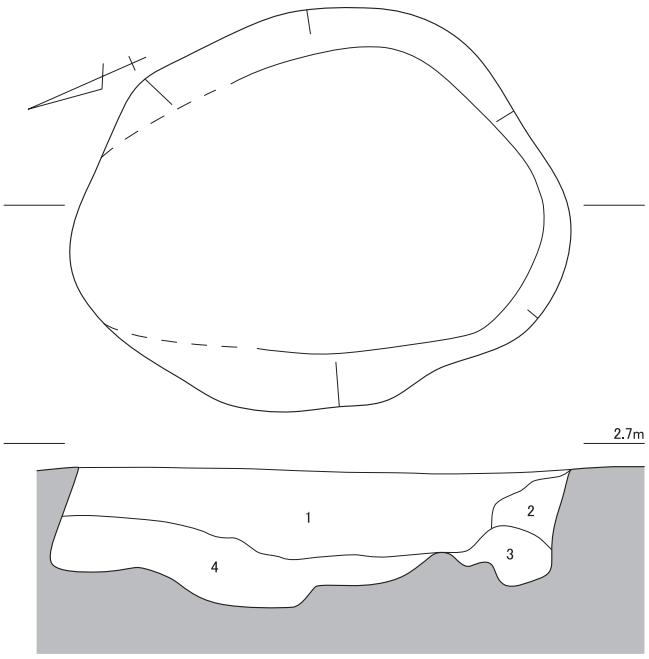
## SK655



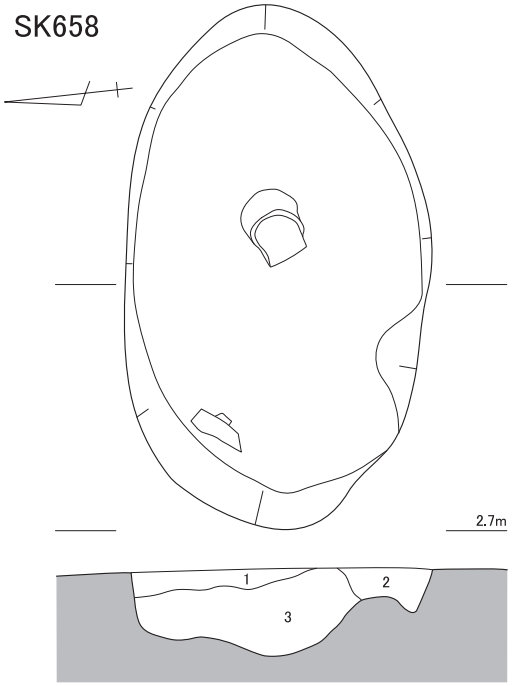

1. 灰色シルト質極細砂～暗灰色シルト質極細砂
2. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂及び黒色シルト質極細砂ブロックの混合
3. 2とほぼ同じで黒色シルト質極細砂ブロック極少量混入

## SK643




1. 灰色シルト質極細砂主体で黄色極細砂のブロック混入
2. 黄色極細砂に灰色シルト質極細砂ブロック混入
3. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂・黒色シルト質極細砂ブロック少量混入
4. 黒色シルト質極細砂ブロックと黄色極細砂ブロック・灰色シルト質極細砂ブロックの混合

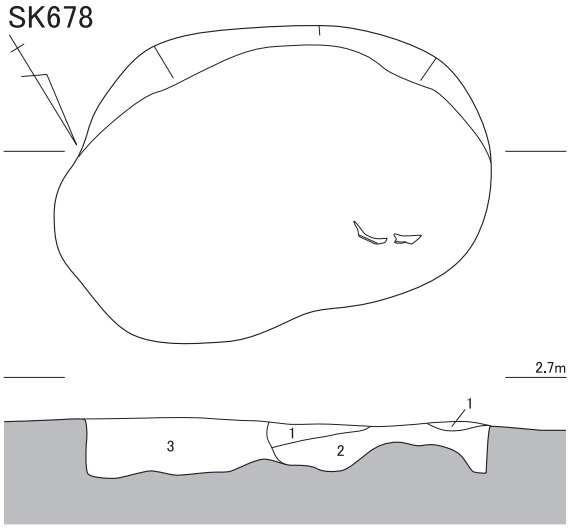
## SK658




1. 灰色シルト質極細砂に黄色極細砂少量混入
2. 1とほぼ同じ黄色極細砂の量が多い
3. 黄色極細砂・灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂の細かいブロックの混合

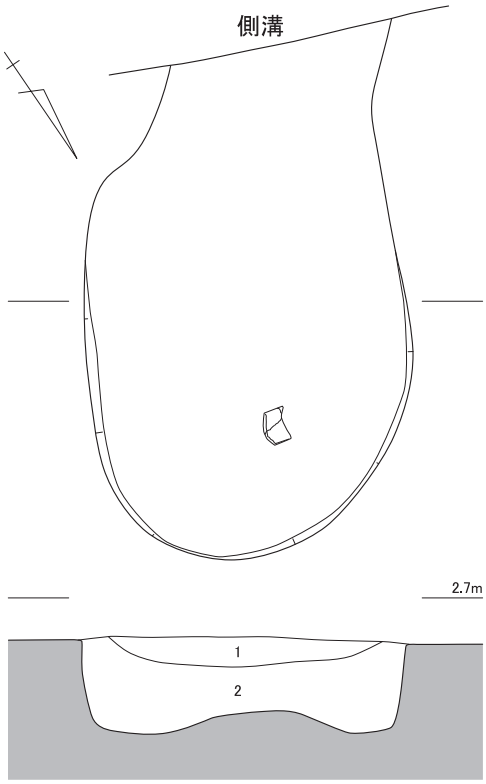
0 1m

## SK678



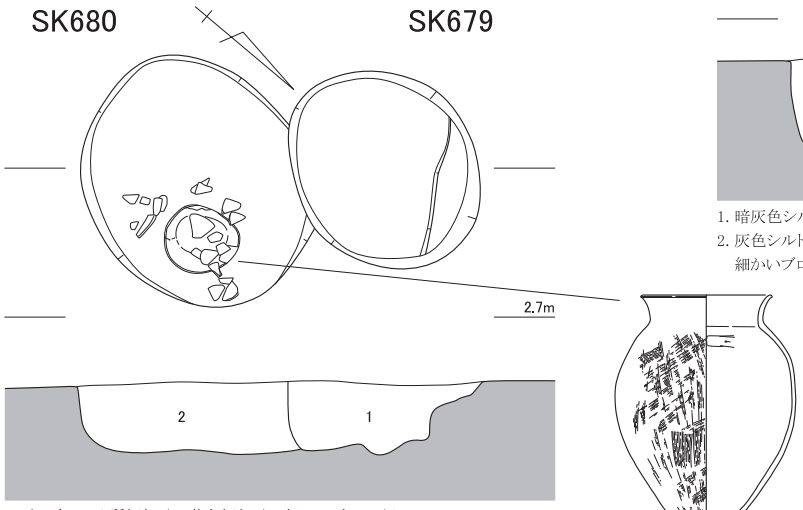

1. 暗灰色シルト質極細砂
2. 暗灰色シルト質極細砂～黒色シルト質極細砂ブロックに黄色極細砂ブロック少量混じる
3. 灰色シルト質極細砂主体で暗灰色シルト質極細砂ブロック・黒色シルト質極細砂ブロック混入

## SK682

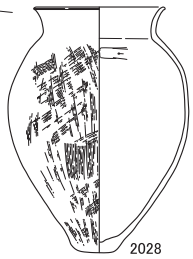


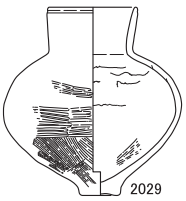

1. 暗灰色シルト質極細砂
2. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂の細かいブロックの混合

## SK680 SK679

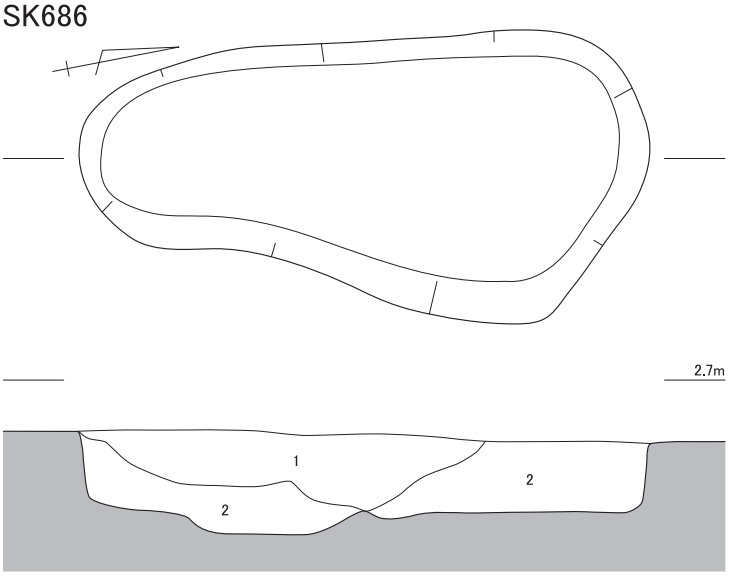



1. 暗灰色シルト質極細砂に黄色極細砂の細かいブロック混入
2. 暗灰色シルト質極細砂に黒色シルト質極細砂混入



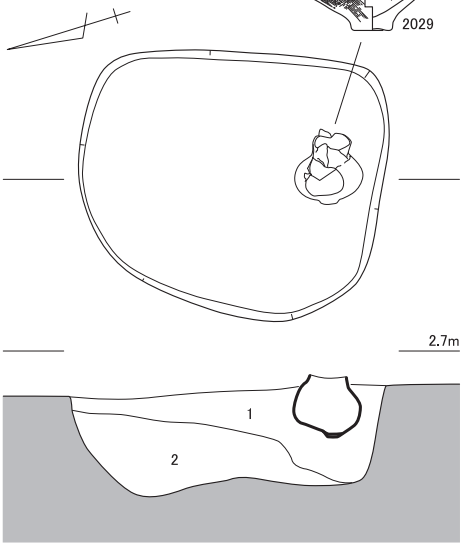




## SK686




1. 灰色シルト質極細砂
2. 灰色シルト質極細砂・黄色極細砂・暗灰色シルト質極細砂のブロックの混合

## SK685

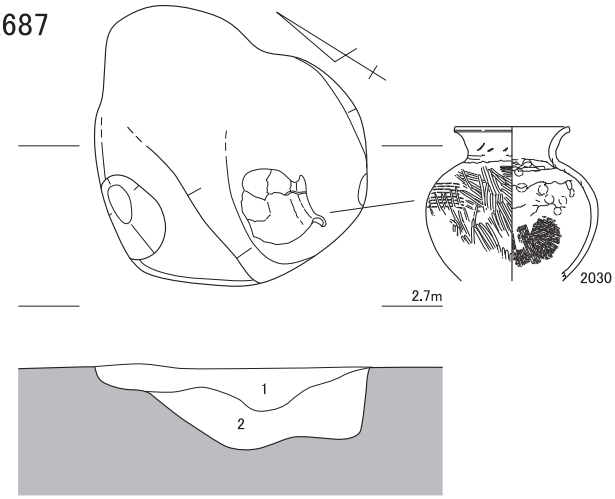



1. 灰色シルト質極細砂に暗灰色シルト質極細砂と黄色極細砂ブロック混入
2. 黄色極細砂ブロック＞暗灰色シルト質極細砂ブロック＞黒色シルト質極細砂ブロックの混合

0 1m

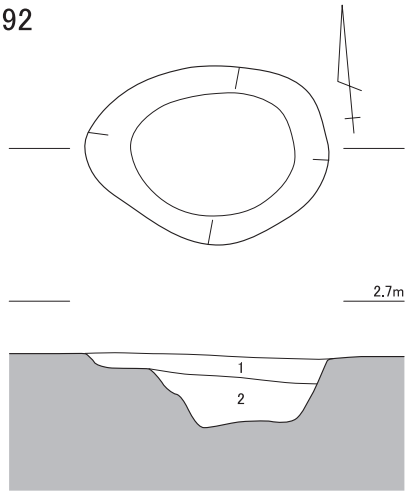
SK678・SK679・SK680・SK682・SK685・SK686

## SK687



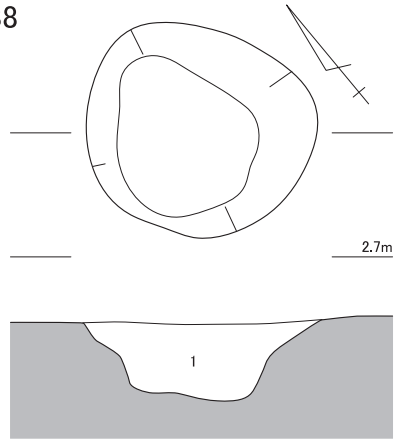

1. 灰色シルト質極細砂
2. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂に細かい黄色極細砂ブロック混じる（下層）

## SK692



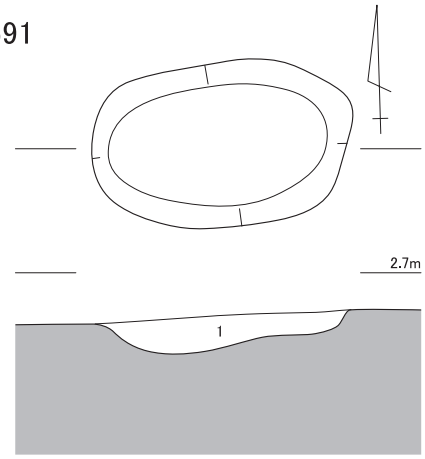

1. 暗灰色シルト質極細砂
2. 暗灰色シルト質極細砂・灰色シルト質極細砂・黄色極細砂のブロックの混合

## SK688



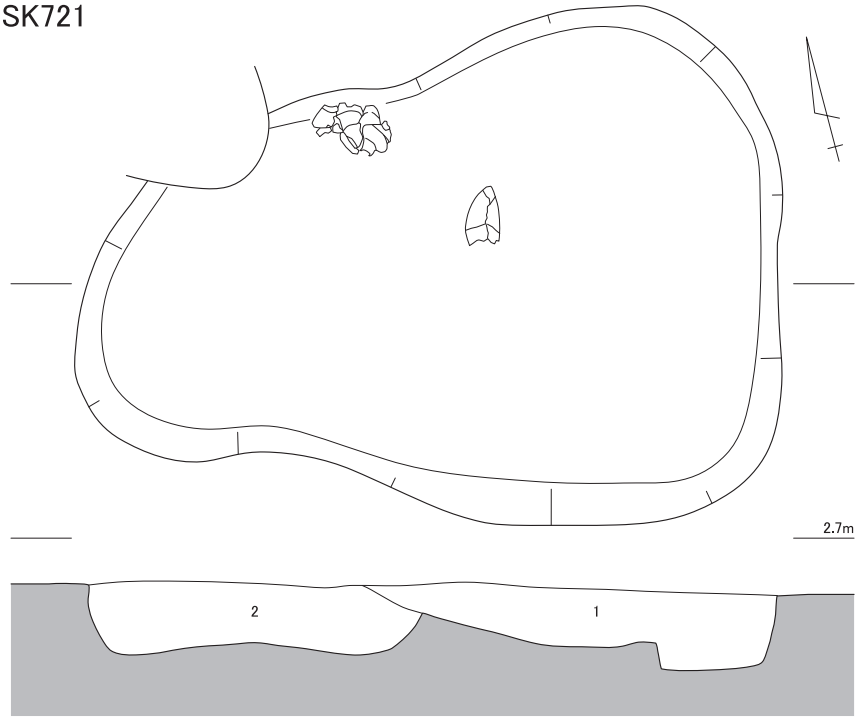

1. 暗灰色シルト質極細砂に粗砂及び黄色極細砂ブロック混入

## SK691




1. 暗灰色シルト質極細砂

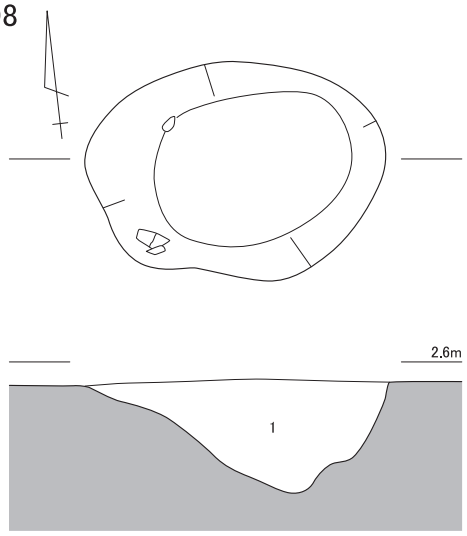
## SK721




1. 暗灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・黄色極細砂のブロック
2. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂・黄色極細砂のブロック

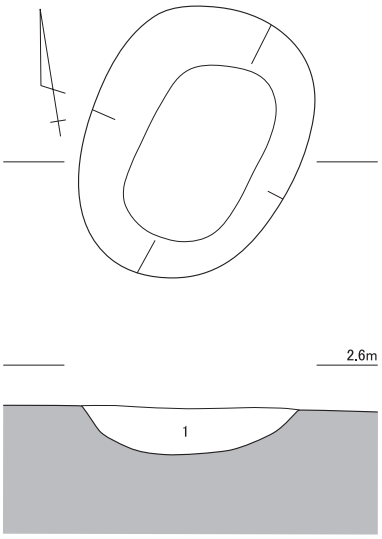
0 1m

SK698



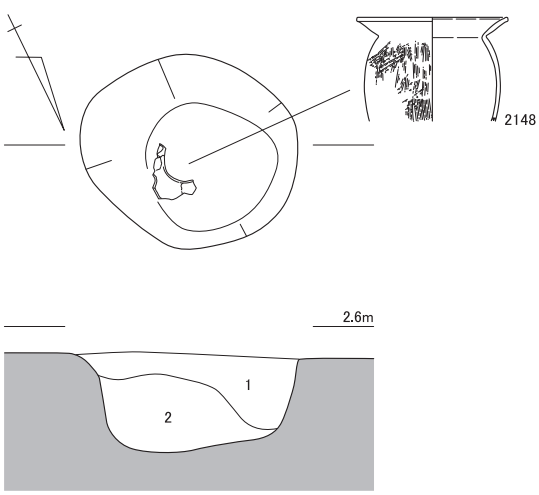

1. 灰色シルト質極細砂～暗灰色シルト質極細砂

SK704



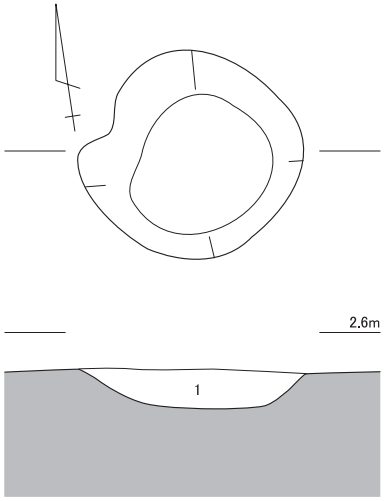

1. 暗灰色シルト質極細砂

SK699



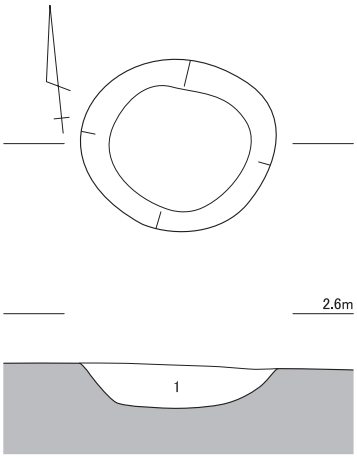

1. 暗灰色シルト質極細砂
2. 暗灰色シルト質極細砂と黄色極細砂のブロック（下層？）
土器は黄色極細砂のブロック層

SK705



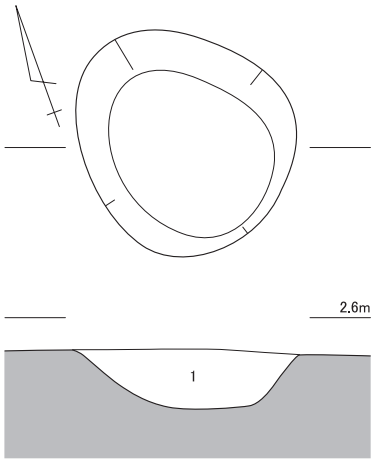

1. 暗灰色シルト質極細砂

SK703

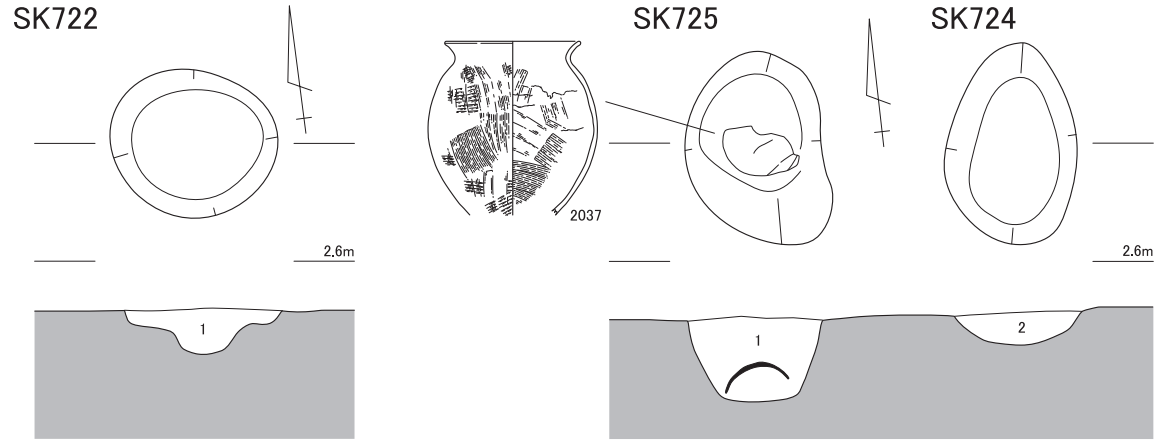



1. 暗灰色シルト質極細砂

SK706

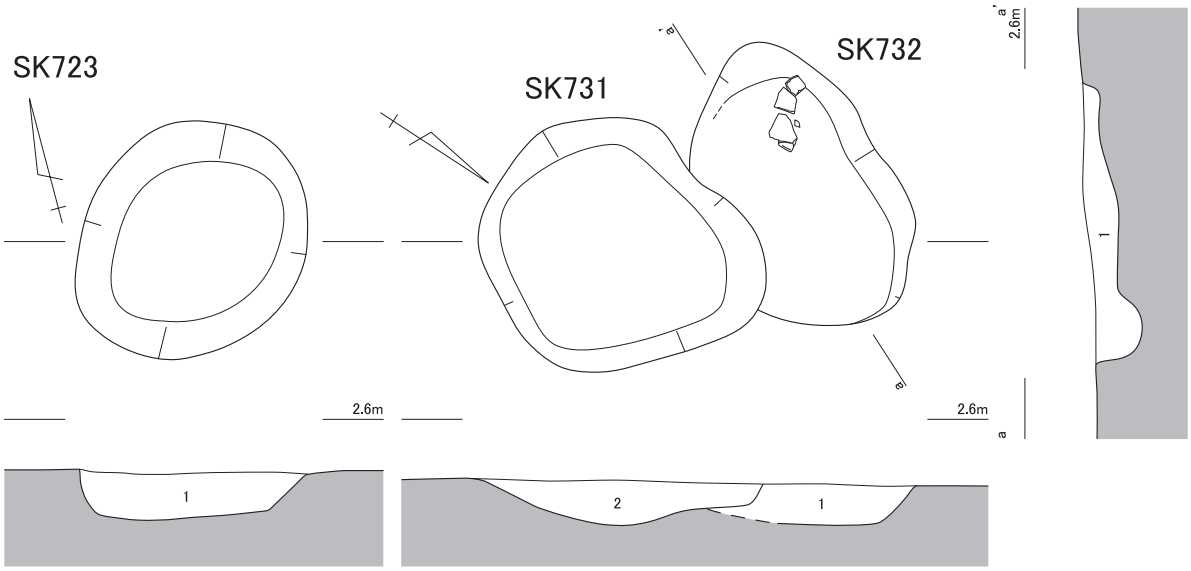



1. 暗灰色シルト質極細砂




1. 暗灰色シルト質極細砂

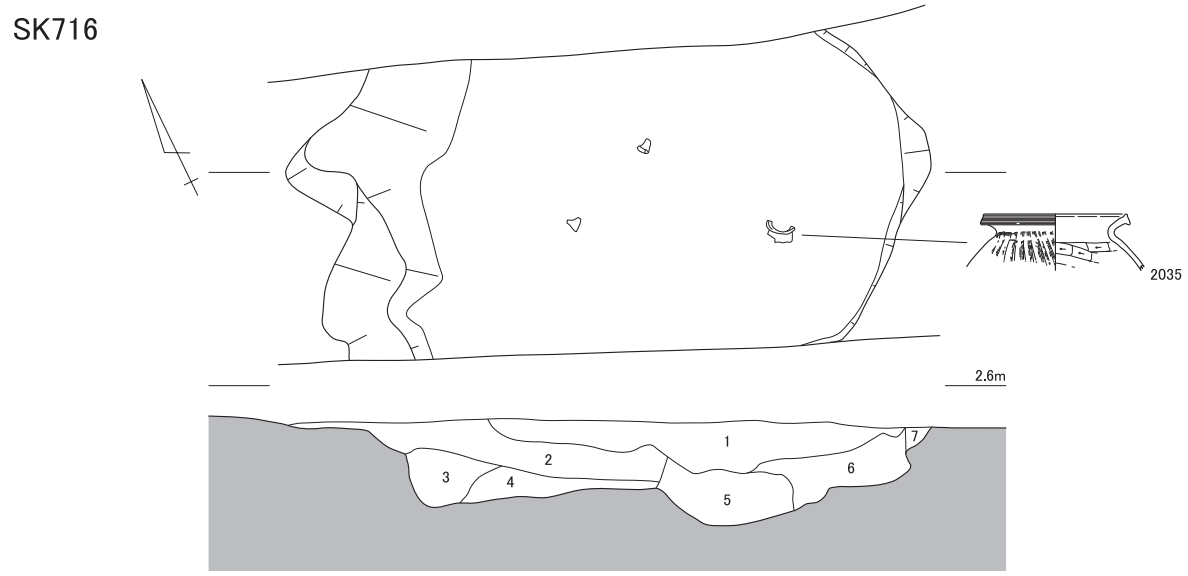
1. 暗灰色シルト質極細砂　上半には灰色シルト質極細砂のブロック混入
2. 暗灰色シルト質極細砂　粗砂を含む




1. 暗灰色シルト質極細砂

1. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂に黄色極細砂ブロック
2. 暗灰色シルト質極細砂

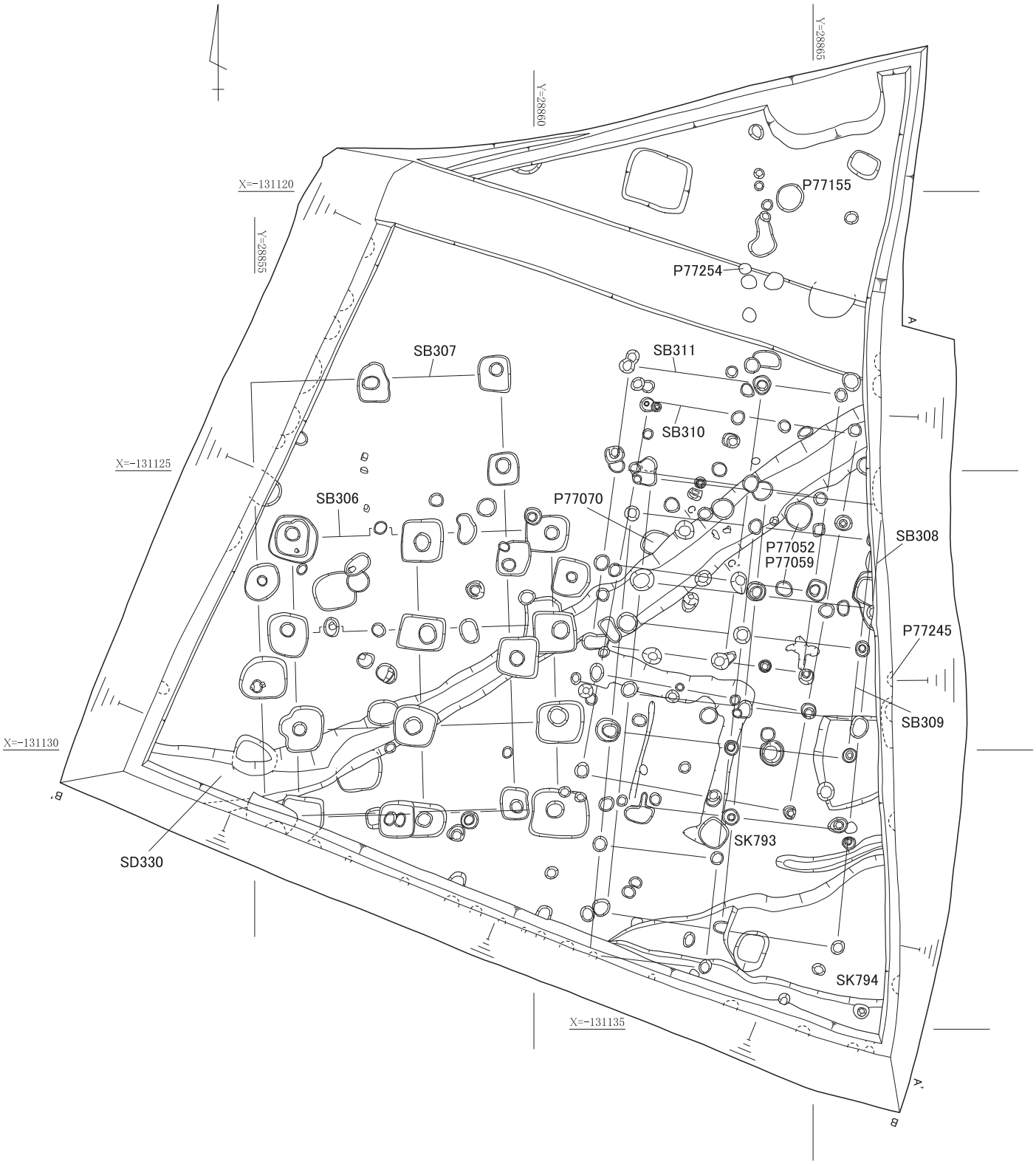
0　1m




1. 暗灰色シルト質極細砂
2. 黄色極細砂ブロック主体で灰色シルト質極細砂ブロック混入
3. 黄色極細砂ブロック主体で灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂ブロック混入
4. 灰色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂の細かいブロックに黄色極細砂ブロック混入
5. 灰色シルト質極細砂・黒色シルト質極細砂・黄色極細砂ブロックの混合
6. 暗灰色シルト質極細砂・灰色シルト質極細砂に黄色極細砂ブロック混入
7. 黄色極細砂・黒色シルト質極細砂・暗灰色シルト質極細砂の細かいブロックの混合

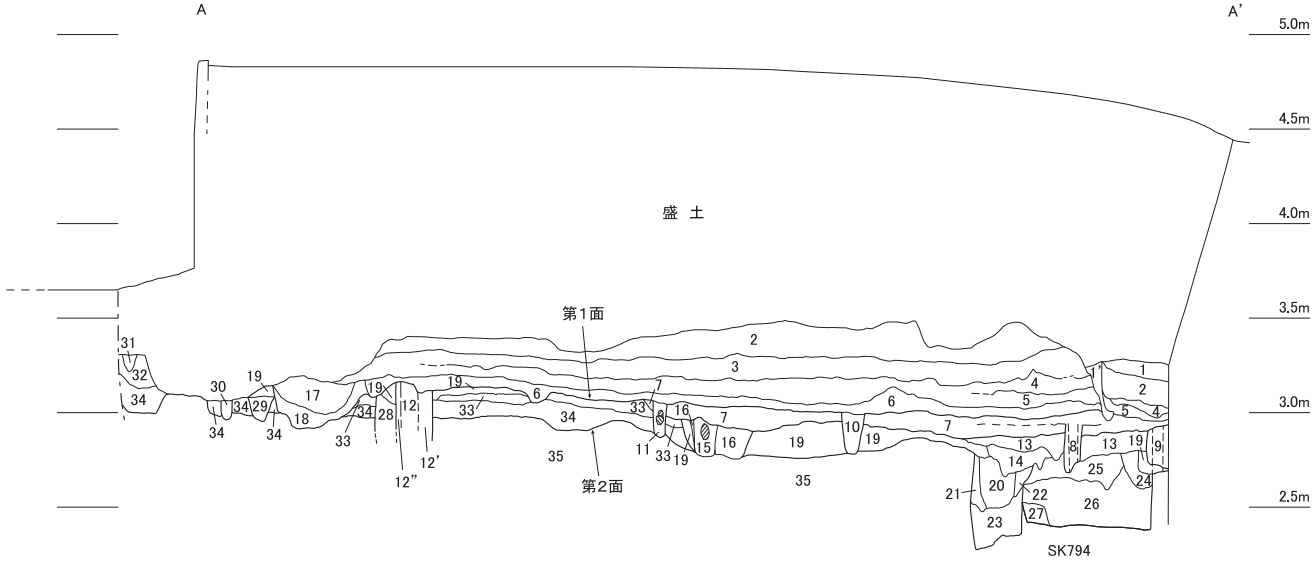
0　2m

図版54 遺構 77区




0 5m

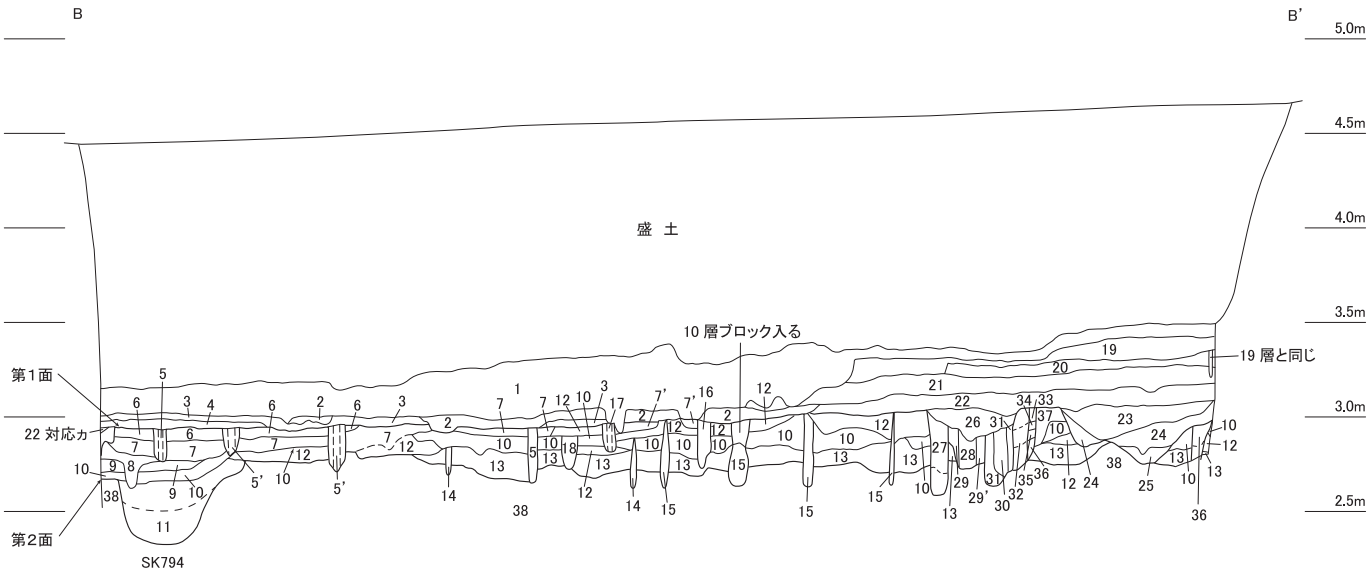
全体図



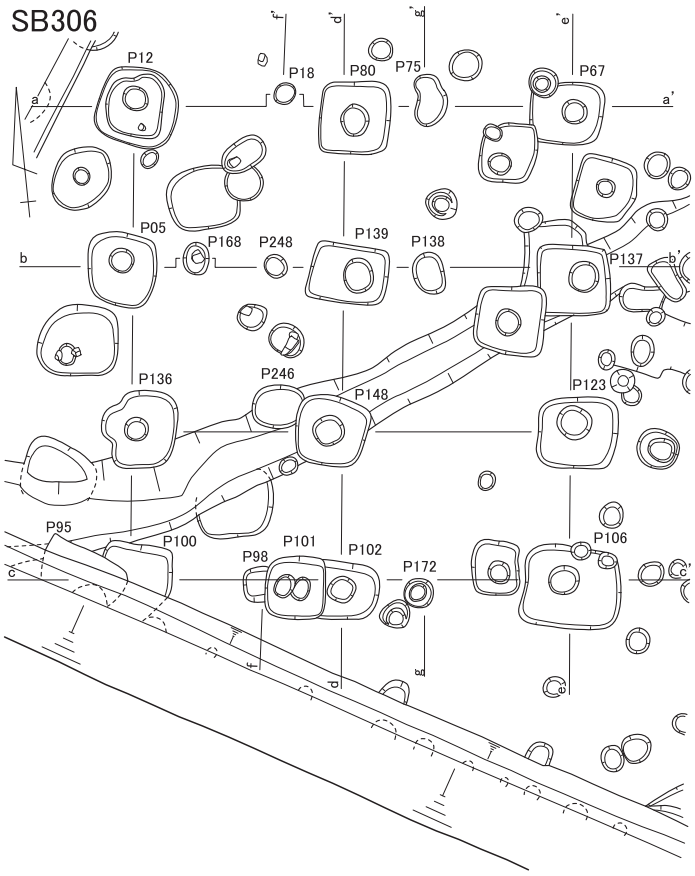

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 攪乱土 | | | |
| 1'. 10YR4/1 | 褐灰色 | 細砂混じり極細砂質シルト 1層がブロックで入る 汚れる | |
| 2. 7.5YR3/1 | 黒褐色 | 極細砂 よく汚れる | 旧耕土（近現代 74・75区Ⅰ層） |
| 3. 5YR5/1 | 褐灰色 | 細砂質極細砂 | 近世耕作土（74・75区Ⅱ層） |
| 4. 7.5YR5/1 | 褐灰色 | 細砂質極細砂 径1cm内外礫含む | 中世耕作土（74・75区Ⅲ層） |
| 5. 7.5YR4/1 ～ 5/1 | 褐灰色 | シルト質極細砂 マンガン含む | 中世耕作土（74・75区Ⅲ層） |
| 6. 5YR5/1 | 褐灰色 | 細砂混じり極細砂～シルト マンガン含む・やや暗調 洪水砂礫起因 | 平安時代後期（74・75区Ⅳ層） |
| 7. 2.5YR4/1 ～ 5YR4/1 | 赤灰色～褐灰色 | 粗砂混じり極細砂質シルト 径1～2cm亜角礫中位に多く含む | |
| | | 土壌化する 洪水砂礫起因 | 奈良時代（74・75区Ⅴ層） |
| 8. 7.5YR4/1 | 褐灰色 | 極細砂混じりシルト 掘形埋土やや暗調 | 柱穴埋土 |
| 9. 7.5YR4/1 | 褐灰色 | シルト質極細砂 柱痕部に35層ブロック入る | 柱穴埋土 |
| 10. 2.5YR3/1 | 暗赤灰色 | 粗砂・細礫混じり極細砂 須恵器片含む | 柱穴埋土 |
| 11. 2.5YR3/1 | 暗赤灰色 | 粗砂混じり極細砂 | |
| 12. 5YR3/1 ～ 7.5YR3/1 | 黒褐色 | 細砂～粗砂若干含む粘質シルト 35層ブロック入る | SB308 柱 |
| 12'. 5YR4/1 | 褐灰色 | 粗砂混じり極細砂 | SB308 掘形 |
| 12". 2.5YR3/1 | 暗赤灰色 | 粗砂混じり極細砂 | SB308 掘形 |
| 13. 2.5Y4/1 ～ 10YR4/1 | 黄灰色～褐灰色 | 細砂混じり極細砂質シルト 腐植質、径5mm内外角礫まばらに含む | |
| 14. 2.5YR2/1 | 赤黒色 | 粘質シルト 炭化物・土器含む | 粘土採掘坑 SK794 最上層 |
| 15. 10R4/1 | 暗赤灰色 | 極細砂混じり粗砂 | 柱穴 P77245 埋土 |
| 16. 10R3/1 | 暗赤灰色 | 極細砂を若干含む粗砂 | |
| 17. 10R2/1 | 赤黒色 | シルト混じり細砂 土器を多量に含む | SD330 埋土 |
| 18. 7.5YR4/1 | 褐灰色 | 粗砂～細礫 | SD330 埋土 |
| 19. 2.5Y4/3 | オリーブ褐色 | 粗砂・細礫混じり極細砂 シルト混じる 鉄分多し | 洪水砂礫 弥生時代末ヵ |
| 20. 5YR4/1 | 褐灰色 | 極細砂質シルト 19層がブロックで入る | 粘土採掘坑 SK794 埋土 |
| 21. 5R6/1 | 赤灰色 | 粘質シルト 35層ブロック密に入る | 粘土採掘坑 SK794 埋土 |
| 22. 10R2/1 | 赤黒色 | 粗砂混じり極細砂質シルト 19層砂礫若干含む | 粘土採掘坑 SK794 埋土 |
| 23. 10R2/1 | 赤黒色 | 極細砂混じりシルトブロックと35層ブロックで構成 26層とほぼ同じ | 粘土採掘坑 SK794 埋土 |
| 24. 2.5YR3/1 | 暗赤灰色 | 極細砂質シルト 土器含む | 粘土採掘坑 SK794 埋土 |
| 25. 7.5YR4/1 | 褐灰色 | 極細砂と35層ブロックで構成 19層砂礫と鉄分含む | 粘土採掘坑 SK794 埋土 |
| 26. 5YR3/2 | 暗赤褐色 | 極細砂質シルト 25層よりも暗赤褐色極細砂混じりシルト分多し | 粘土採掘坑 SK794 埋土 |
| 27. 5YR4/1 ～ 7.5YR4/1 | 褐灰色 | 粘土質シルト 35層ブロックと半々に混じりあう | 粘土採掘坑 SK794 埋土 |
| 28. 5YR5/1 | 褐灰色 | シルト混じり細砂 淡色調・汚れる | |
| 29. 7.5YR5/2 ～ 10YR5/2 | 灰褐色～灰黄褐色 | 極細砂混じり細砂 | |
| 30. 5YR5/2 | 黒褐色 | 極細砂混じり細砂 | |
| 31. 5YR3/2 | 暗赤褐色 | シルト混じり粗砂 | |
| 32. 5YR4/1 | 褐灰色 | 極細砂混じり細砂 マンガン集積・灰色調 | |
| 33. 10YR4/2 | 灰黄褐色 | 極細砂 | |
| 34. 7.5YR3/1 | 黒褐色 | 細砂混じり粘土～シルト 旧地表・土壌化・サンクラックが入る | ベース（74・75区Ⅶ層） |
| 35. N6/0 | 灰色 | 極細砂混じりシルト Mn・Fe斑入る | ベース（74・75区Ⅷ層） |

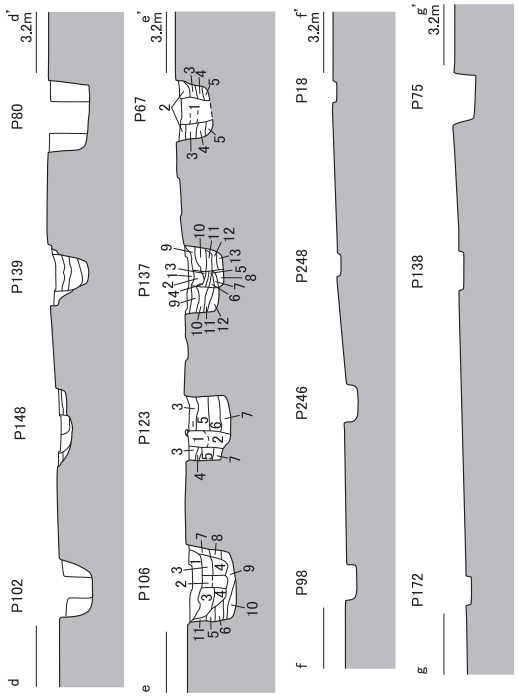
東壁土層断面図

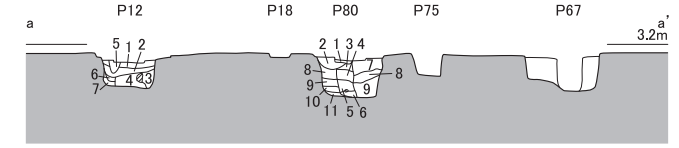
# 南壁土層断面図

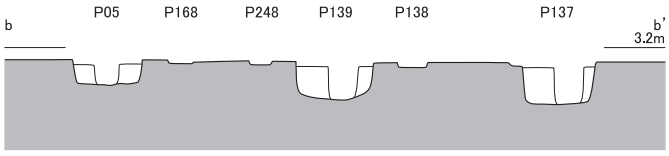


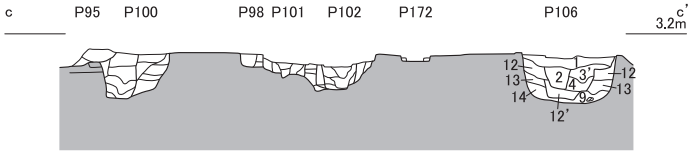

1. 10YR4/1 褐灰色 中砂混じり極細砂質シルト a 層若干腐植質 近現代の旧耕土
2. 2.5Y5/1 黄灰色 細砂混じり極細砂 a' 層 旧耕土ヵ
3. 5Y5/1 灰色 シルト混じり細砂 a' 層 旧耕土
4. 5Y6/1 灰色 細砂混じり極細砂 鉄分含む a 層細礫含む 旧耕土
5. 10YR3/1 黒褐色 シルト SB309 柱穴埋土
7.5YR4/1 褐灰色 細礫混じりシルト 柱穴埋土 掘形
5'. 5YR2/1 黒褐色 細砂～中砂混じりシルト 柱痕
10YR4/1 褐灰色 細砂～中砂混じりシルト 5よりも有機物多い 掘形
6. 10YR4/1 褐灰色 粗砂混じり極細砂質シルト a 層 φ1 cm内外 亜円、亜角礫含む 若干グライ化
7. 2.5Y4/1 ～ 10YR4/1 黄灰色～褐灰色 細砂混じり極細砂質シルト 腐植質 φ5mm 内外の角礫まばらに含む
6 より層は密になる 鉄分含む
7'. 7.5Y5/1 灰色 シルト混じり細砂 土壌化乏しく 10 層に近い φ5mm ～ 1 cmの亜角礫
8. 5YR3/2 暗赤褐色 シルト質粘土 a 層
9. 2.5Y4/1 ～ 5Y4/1 黄灰色～灰色 極細砂若干含む粘土質シルト
10. 2.5Y4/3 オリーブ褐色 粗砂・細礫混じり極細砂 黄褐色洪水砂礫（シルト混じる） 鉄分多
11. 上半 5YR5/1 褐灰色 極細砂を若干含むシルト～粘質シルト 11 層ブロック多い 粘土採掘坑 SK794
下半 5YR4/1 ～ 7.5YR5/1・2.5YR3/1 シルトブロック含む
12. 10YR5/1 ～ 6/1 褐灰色 極細砂 鉄分入る 直上に洪水砂礫層（10 層）が土壌化して7層 ＋酸化鉄
13. 7.5YR3/1 黒褐色 細砂混じり粘土～シルト a 層 サンクラックの入る層
14. 7.5YR5/1 褐灰色 粗砂混じりシルト 灰色調 杭ヵ
15. 2.5Y5/1 黄灰色 粗砂混じりシルト～粘土 灰色調
16. 2.5YR5/1 赤灰色 シルト・極細砂を含む粗砂
17. 2.5Y5/1 黄灰色 極細砂混じり細砂 粗砂～細礫含む 柱痕部分に中礫含む
18. 10YR4/1 褐灰色 細砂混じり細砂質極細砂
19. 7.5YR7/1 ～ 4/1 明褐灰色～褐灰色 極細砂混じりシルト a 層
20. 7.5YR5/2 ～ 10YR5/2 灰褐色～灰黄褐色 極細砂 鉄分含む a' 層
21. 7.5YR5/1 褐灰色 細礫～中礫含む極細砂 Mn 含む 洪水砂礫
22. 2.5YR4/1 ～ 5YR4/1 赤灰色～褐灰色 φ1 ～ 2 cm内外の亜角礫多く含む a 層 洪水砂礫土壌化する 6 層と同一ヵ 奈良時代の包含層
23. 10R2/1 赤黒色 シルト混じり細砂 土器多量に含む SD330 埋土
24. 5YR5/1 褐灰色 中砂～粗砂 上半シルト混じる SD330 埋土
25. 2.5Y4/3 オリーブ褐色 粗砂・細礫混じり極細砂 10 層に近似 SD330 埋土
26. 7.5YR4/1 褐灰色 極細砂混じり粗砂 φ1 cm内外の洪水砂礫多く含む 23 層より暗調
27. 5YR3/1 黒褐色 極細砂混じり粗砂 φ5mm ～ 3 cm内外黄褐色礫多く含む 下半 2.5Y3/1 腐植質極細砂混じりシルト
28. 27 層の上半と同じ
29. 7.5YR5/1 褐灰色 シルト混じり粗砂
29'. 5YR4/1 褐灰色 シルト混じり粗砂
30. 7.5YR3/1 黒褐色 シルト混じり粗砂
31. 5YR4/1 褐灰色 中砂混じりシルト
32. 7.5YR4/1 褐灰色 極細砂質シルト 上半φ2mm 内外礫多い 中層シルト 下半φ3 ～ 5mm 礫 SB307 柱穴埋土
33. 7.5YR4/4 褐色 極細砂混じりシルト 鉄分含む
34. 5YR2/3 極暗赤褐色 細砂混じり極細砂 黄褐色礫含む
35. 10YR5/6 黄褐色 中砂 黄褐色砂礫
36. 7.5YR4/2 灰褐色 中砂混じりシルト
37. 5YR4/1 ～ 2.5YR4/1 褐灰色～赤灰色 細礫混じりシルト 粘性あり a 層
38. N6/0 灰色 極細砂混じりシルト Mn・Fe 斑入る ベース




P12
1. 10YR4/1　褐灰色　細砂混じりシルト
2. 7.5YR4/1　褐灰色　極細砂混じり細砂
3. 7.5YR3/1　黒褐色　シルト混じり中・粗砂
～中粗砂混じりシルト・ベースのシルトブロック含む
4. 7.5YR5/1　褐灰色　中砂混じりシルト　ベースのシルトブロック
5. 7.5YR4/1　褐灰色　粗砂混じり極細砂　砂礫含む
6. 7.5YR4/1　褐灰色　細砂質極細砂　ベースシルトブロック多く含む
7. 7.5YR5/1　褐灰色　シルト

P80
1. 7.5YR4/1　褐灰色　細砂混じり細礫
2. 7.5YR4/1　褐灰色　極細砂混じり細砂～中砂　やや明調
3. 7.5YR4/1
～ 10YR4/1　褐灰色　中砂～粗砂混じり極細砂質シルト
4. 7.5YR4/1　褐灰色　中砂～粗砂混じりシルト　腐植質
灰白色　シルトブロック入る
5. 5YR10/1　褐灰色　粗砂・細礫混じりシルト
6. 5YR4/1　褐灰色　中砂混じり腐植質シルト
7. 7.5YR4/1　褐灰色　中砂混じり極細砂
8. 5YR3/1　黒褐色
～ 4/1　～褐灰色　中砂混じりシルト　φ1 cm内外角礫多く含む
9. 5YR4/1　褐灰色　細礫・中砂混じり極細砂シルト
10. 2.5YR4/1　赤灰色　中砂混じり腐植質シルト
11. 2.5YR4/1　赤灰色　灰白色シルト＋腐植質シルトブロック混じり粘質シルト

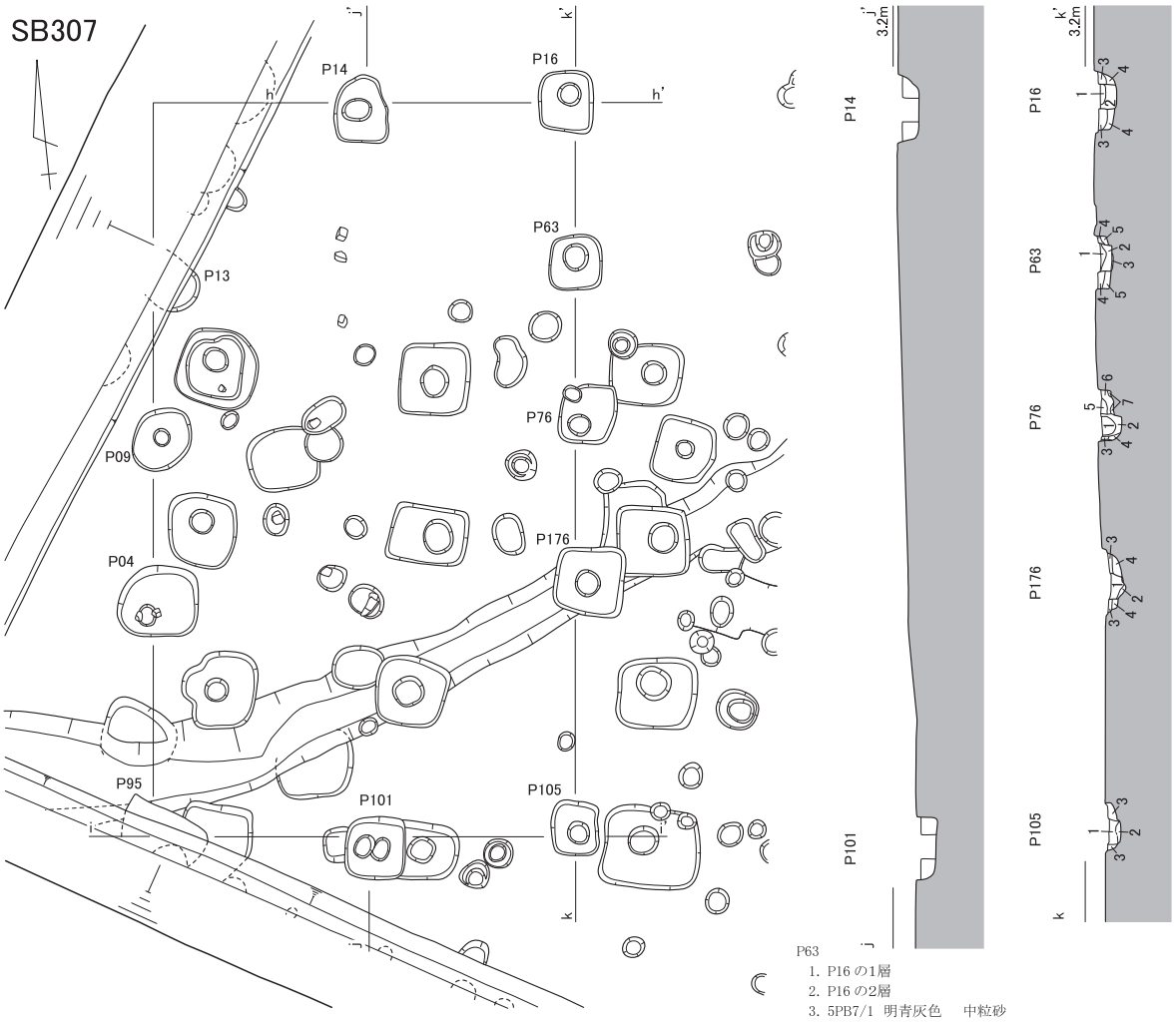
P106
1. 10Y7/1　灰白色　粘土　ベースブロックで構成
2. 2.5YR4/1　赤灰色　粗砂混じり腐植質シルト（上半）
細礫混じり腐植質シルト（下半）
3. 5YR4/1　褐灰色
～ 3/1　～黒褐色 シルト混じり細砂～中砂
3'. 3 に比べ、灰白色シルトブロックが密に入る
4. 5YR4/1　褐灰色　細砂～中砂混じりシルト　やや腐植質
5. 5YR4/1　褐灰色　粗砂混じりシルト　黄褐色洪水砂礫含む
6. 5YR4/1　褐灰色　細礫混じりシルト
7. 3 層と同じ
8. 4 層と同じ
9. 2.5YR4/1　赤灰色　腐植質細砂混じりシルト　黄褐色砂礫ブロックを含む
10. 5YR4/1　褐灰色　黄褐色砂礫ブロック混じり腐植質シルト
11. 5YR4/1　褐灰色　極細砂混じり細砂
12. 2.5YR3/1　暗赤灰色
～ 5YR3/1　～黒褐色 細砂混じりシルト質極細砂
13. 2.5YR2/1　赤黒色　細礫混じり腐植質シルト
14. 5YR3/1　黒褐色　細砂混じりシルト質シルト

P123
1. 10YR4/1　褐灰色　極細砂混じり細砂
2. 10YR3/1　黒褐色　中砂～粗砂混じりシルト
黄灰色シルトブロック混じる
3. 7.5YR4/1　褐灰色　シルト混じり極細砂
4. 7.5YR4/1　褐灰色　極細砂質シルト　細砂混じる
5. 2.5YR4/1　赤灰色　中砂・粗砂混じりシルト　ベースブロック多く入る
6. 2.5YR4/1　赤灰色　腐植質シルト　黄褐色洪水砂礫・細砂混じる
7. 5YR4/1　褐灰色　細砂混じりシルト　φ5mm 内外礫含む

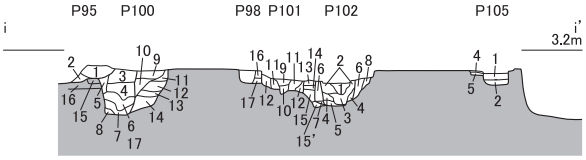
P137
1. 7.5YR4/1　褐灰色　シルト混じり極細砂質細砂
2. 7.5YR4/1　褐灰色
～ 4/2　～灰褐色 黄褐色洪水砂礫混じりシルト
3. 2.5YR2/1　赤黒色　腐植質シルトブロック
4. 5YR3/1　黒褐色　シルト質極細砂
5. 10YR4/6　褐色　極細砂質シルト　ベースブロック
6. 10YR3/2　黒褐色　極細砂質シルト
7. 10R3/1　暗赤灰色 ベースブロック
8. 2.5YR4/1　赤灰色　極細砂混じり腐植質シルト
9. 2.5YR4/1　赤灰色　細砂混じり極細砂　黄褐色洪水砂礫混じりシルト
腐植質シルトブロック
10. 10R4/1　暗赤灰色 極細砂混じり中・粗砂　腐植質シルブロック多い
11. N6/0　灰色　極細砂質シルト　ベースブロック
12. 10R2/1　赤黒色　腐植質シルト
13. 7.5YR4/1　褐灰色　腐植質シルト混じり粗砂
ベース＋腐植質シルトブロック（8 層と近似）

P67
1. 5YR5/6　明赤褐色 細礫混じりシルト
2. 2.5YR5/1　赤灰色
～ 5YR5/1　～褐灰色 灰白色シルト混じりシルト質極細砂
3. 2.5YR4/1　赤灰色　細礫混じりシルト
4. 5YR4/1　褐灰色　灰白色シルトブロックが密に入るシルト
5. 5YR5/1　褐灰色　腐植質シルト混じり粗砂

0　4m



P14・P16
1. 5PB5/1　青灰色　砂質シルト
2. 5PB4/1　暗青灰色　砂質シルト（5P7/1 明紫灰色シルト多く混じる）
3. 2.5Y6/1　黄灰色　砂質シルト（10YR4/4 褐色砂質シルトブロックを含む　粘性あり）
4. 2.5Y5/6　黄褐色　細～粗砂（5PB6/1 青灰色粗砂、10YR3/2 黒褐色粘質シルトを含む）
5. 5PB6/1　青灰色　粗砂（2.5Y5/6 黄褐色細～粗砂、10Y3/2 黒褐色粘質シルト少し含む）




P95・P100
1. 2.5YR3/1　暗赤灰色　極細砂混じり中～粗砂
上半黄褐色洪水砂礫（南壁 10 層）多く含む
2. 2.5YR4/1　赤灰色　シルト分混じる粗砂
3. 7.5YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂　φ3～5㎜礫・中～粗砂含む
4. 7.5YR4/1　褐灰色　中・粗砂混じりシルト
5. 7.5YR3/1　黒褐色　細礫混じりシルト
6. 7.5YR4/1 ～ 3/1　褐灰色～黒褐色　中砂粒を若干含むシルト
7. 5YR4/1　褐灰色　細礫をまばらに含むシルト
8. 2.5YR3/1 ～ 2/1　暗赤灰色　シルト
9. 5YR4/1　褐灰色　やや赤色調　黄褐色洪水砂礫を含む極細砂質シルト
10. 5YR4/1 ～ 3/1　褐灰色～黒褐色　黄褐色洪水砂礫を含む極細砂質シルト
11. 7.5YR5/1　褐灰色　粗砂混じりシルト
12. 16 層のブロックを多く含む粗砂混じりシルト
13. 16 層のブロックで構成されるシルト
14. 16 層・17 層のブロックで構成されるシルト
15. 7.5YR4/1　褐灰色　中～粗砂　洪水砂礫
16. 10YR3/1　暗赤灰色　シルト混じり極細砂　サンクラックの入る地表（南壁 13 層）
17. 2.5Y6/6　明黄褐色　シルト　鉄分多い　ベース（南壁 38 層）

P98・P101・P102
1. 5YR4/1 ～ 3/1　褐灰色～黒褐色　シルト混じり中砂
2. 5YR3/1　黒褐色　細砂混じりシルト　腐植シルトブロック入る
3. 5YR4/1　褐灰色　シルト混じり細砂　腐植シルトブロック入る
4. 5YR4/1 ～ 2.5YR4/1 褐灰色～黄灰色　中砂～細礫混じりシルト
5. 5YR4/1　褐灰色　極細砂混じりシルト　黄色シルトブロック・腐植シルトブロック入る
6. 2.5YR4/1　黄灰色　細砂混じりシルト　土器入る
7. 5YR4/1　褐灰色　粗砂混じりシルト　腐植質シルトブロック入る
8. 5YR4/1　褐灰色　細砂～中砂混じり腐植質シルト
9. 10YR5/1 ～ 4/1　褐灰色　シルト混じり細砂　灰色調
10. 10YR5/1 ～ 4/1　褐灰色　中砂混じりシルト
11. 7.5YR4/1　褐灰色　粗砂・細礫混じり極細砂
12. 5YR5/1　褐灰色　中砂・粗砂混じり腐植質シルト
13. 5YR4/1　褐灰色　極細砂混じりシルト　Fe・Mn斑含む
14. 2.5YR4/1　赤灰色　粗砂～細礫多く含む極細砂
15. 2.5YR3/1 ～ 4/1　暗赤灰色～赤灰色　細砂質極細砂　褐色シルトブロック密に含む
15'. 腐植シルト多い
16. 7.5YR4/1 ～ 10YR4/1　褐灰色　シルト質極細砂
17. 7.5YR4/1　褐灰色　シルト混じり細砂～粗砂

P63
1. P16 の1層
2. P16 の2層
3. 5PB7/1　明青灰色　中粒砂
4. P16 の3層
5. P16 の4層

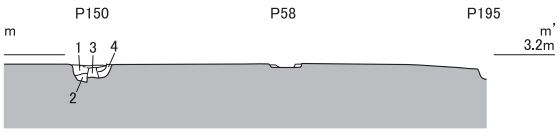
P76
1. P16 の1層 +5P7/1 明紫灰色シルト多く含む
2. P16 の2層
3. 5P7/1　明紫灰色　中粒砂～シルト（ややバサッとしている）
4. 5P7/1　明紫灰色　細粒～シルト（ややかたい）
(2.5Y6/6 明黄褐色シルト少し含む)
5. P16 の4層
6. 2.5Y6/6 明黄褐色　粘質シルト
(5P7/1 明紫灰色シルト多く含む)
7. P63 の3層

P176
1. P76 の1層
2. P16 の2層
3. P16 の3層
4. P16 の4層

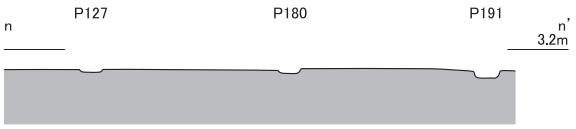
P105
1. 2.5YR4/1　赤灰色　極細砂・細砂混じりシルト
2. 2.5YR3/1　暗赤灰色　シルト質極細砂
3. 2.5YR4/1　赤灰色　シルト混じり中砂
4. 2.5YR3/1　暗赤灰色　シルト混じり細砂質極細砂
5. 5YR3/1　黒褐色　細砂混じり極細砂質シルト

0　4m

SB308




| | | |
|---|---|---|
| 1. 10YR4/1 ～ 10YR3/1 | 褐灰色～黒褐色 | 中砂～粗砂混じりシルト 粘性多 |
| 2. 10YR4/1 | 褐灰色 | 中砂～粗砂 極細砂質シルト φ1 ～ 2 ㎜の角礫多く含む |
| 3. 10YR4/1 | 褐灰色 | 極細砂～細砂多く含むシルト 灰白色粘土ブロック入る |
| 4. 10YR4/1 | 褐灰色 | 極細砂混じりシルト～粘土 N7/ 灰白色粘土ブロック多 |

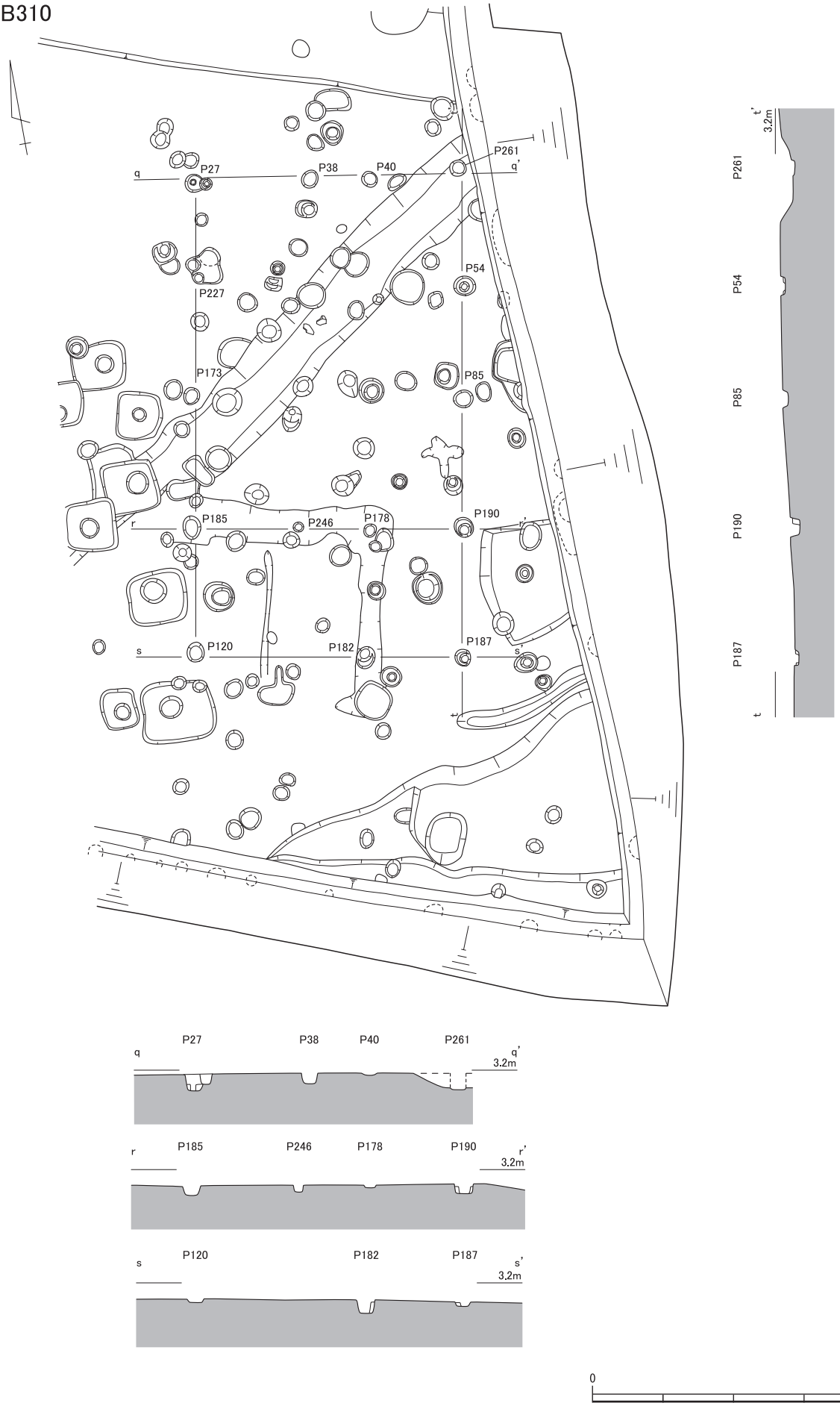


SB309

P62
P50
P130
P61
P83
P122
P181
P218
P111
P135
P220
p
p'
o
o'
3.2m
0
4m

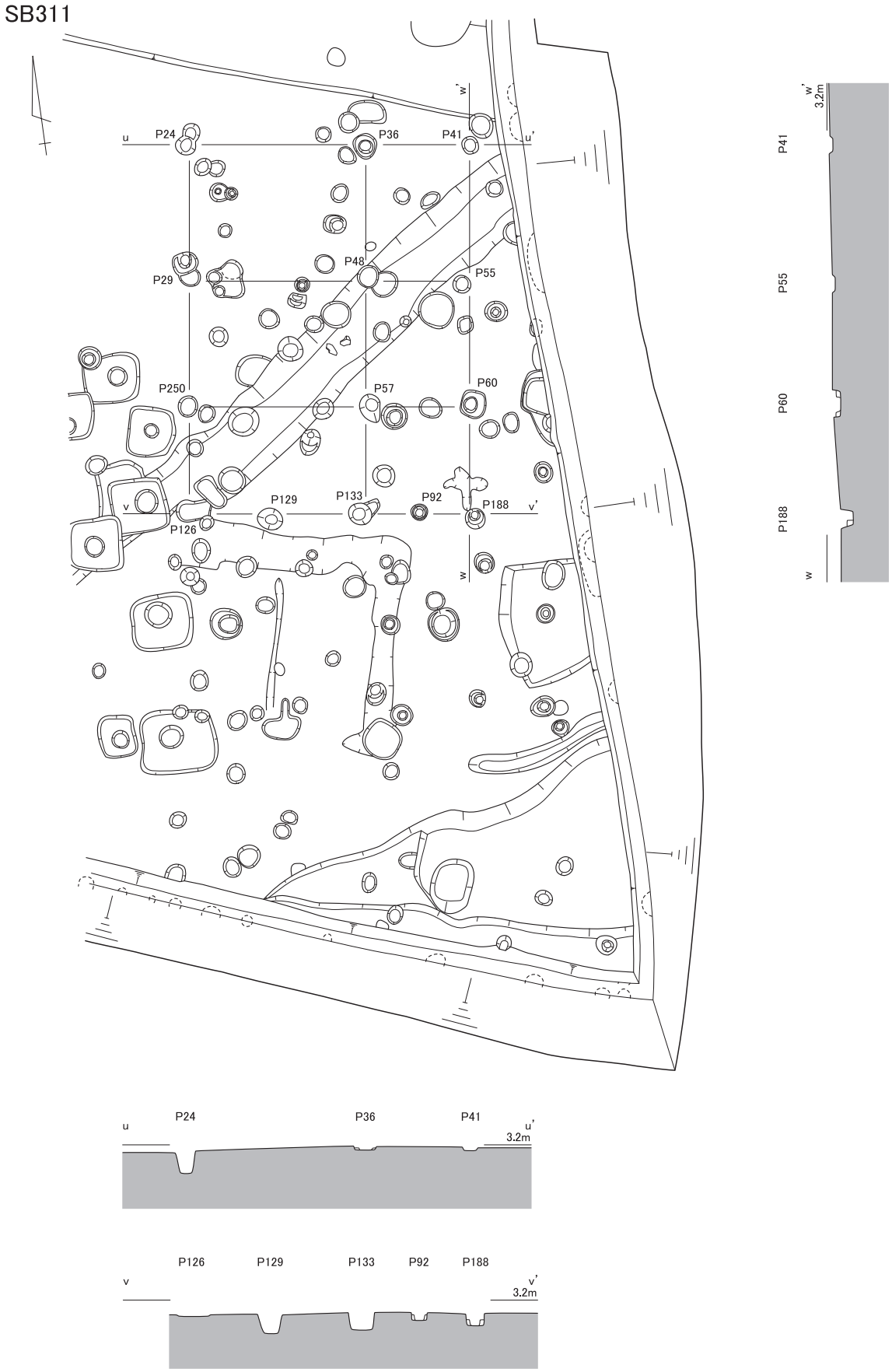
SB309

SB310


P27
P38
P40
P261
P227
P54
P173
P85
P185
P246
P178
P190
P120
P182
P187
q
q'
r
r'
s
s'
t
t'
3.2m
0
4m

SB310

SB311



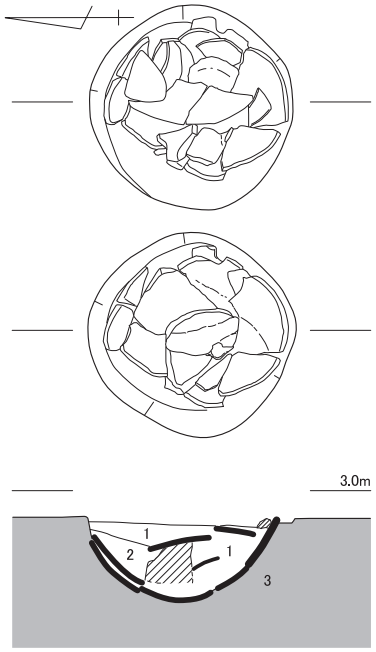




0 4m

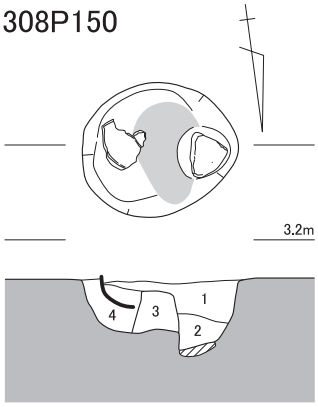
SB311

## SK793



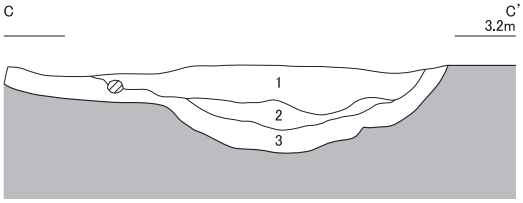

1. 10YR4/1　黄灰色　極細砂混じりシルト　2 層より暗調
2. 10YR4/1　黄灰色　φ1 ～ 2 ㎜の礫混じる　シルト　粘性あり
(3 層のブロック入る)
3. 10YR5/6　黄褐色　極細砂質シルト　φ1 ～ 2 ㎜の礫含む
鉄分多　第1面ベース

## SB308P150




1. 10YR4/1 ～ 10YR3/1　褐灰色～黒褐色　中砂～粗砂混じりシルト　粘性多
2. 10YR4/1　褐灰色　中砂～粗砂　極細砂質シルト
φ1～2mmの角礫多く含む
3. 10YR4/1　褐灰色　極細砂～細砂多く含むシルト
灰白色粘土ブロック入る
4. 10YR4/1　褐灰色　極細砂混じりシルト～粘土
灰白色粘土ブロック（アミかけ部分）多

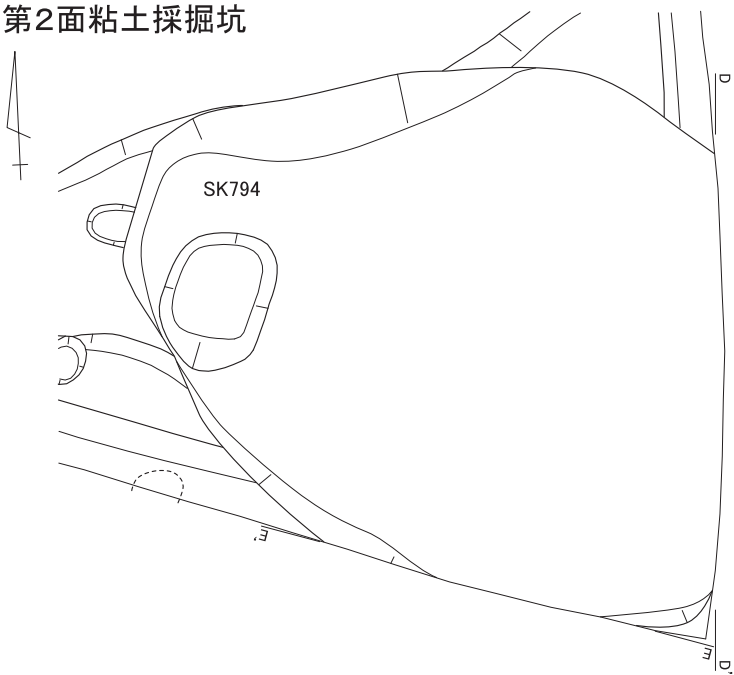
## SD330

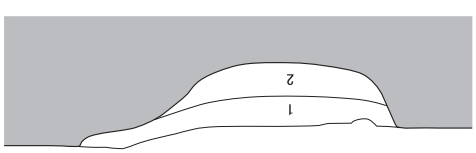



1. 10YR3/2 黒褐色　砂質シルト　明黄褐色粗砂ブロックと明褐灰色粗砂ブロックを多く含む
2. 10YR2/2 黒褐色　シルト
3. 2.5Y6/2　黄灰色　砂質シルト　明黄褐色粗砂ブロックと明褐灰色粗砂ブロックを多く含む

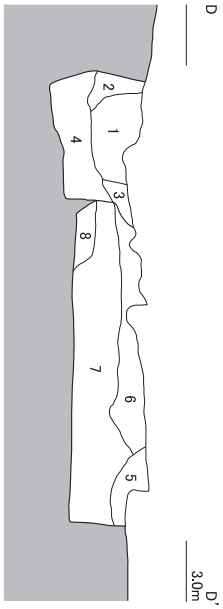
0　1m

## 第2面粘土採掘坑



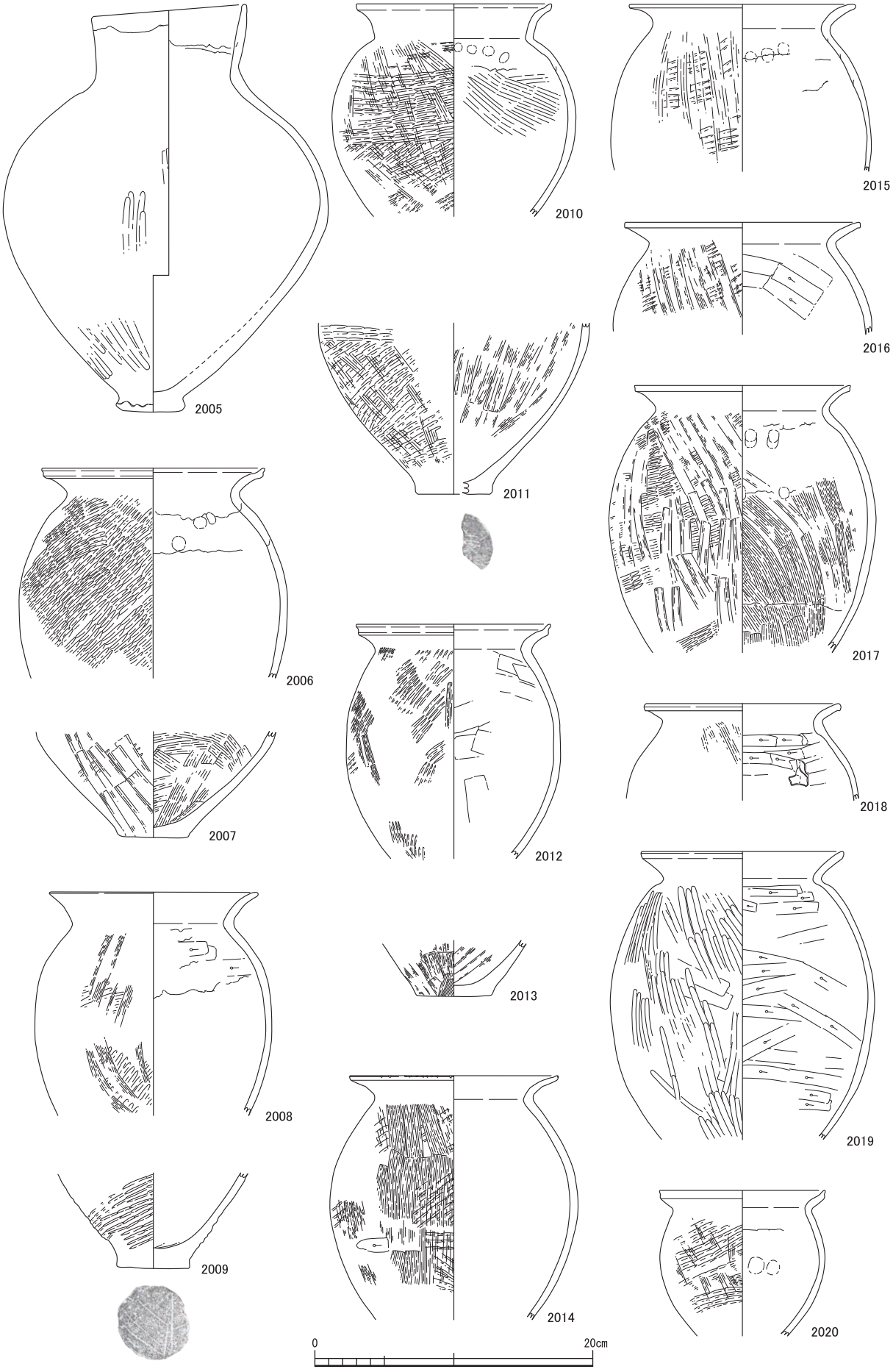

1. 5YR5/1　褐灰色　極細砂を若干含むシルト～粘質シルト　南壁 11 層のブロックが多い
2. 5YR4/1 ～ 7.5YR5/1　褐灰色　極細砂を若干含むシルト～粘質シルト



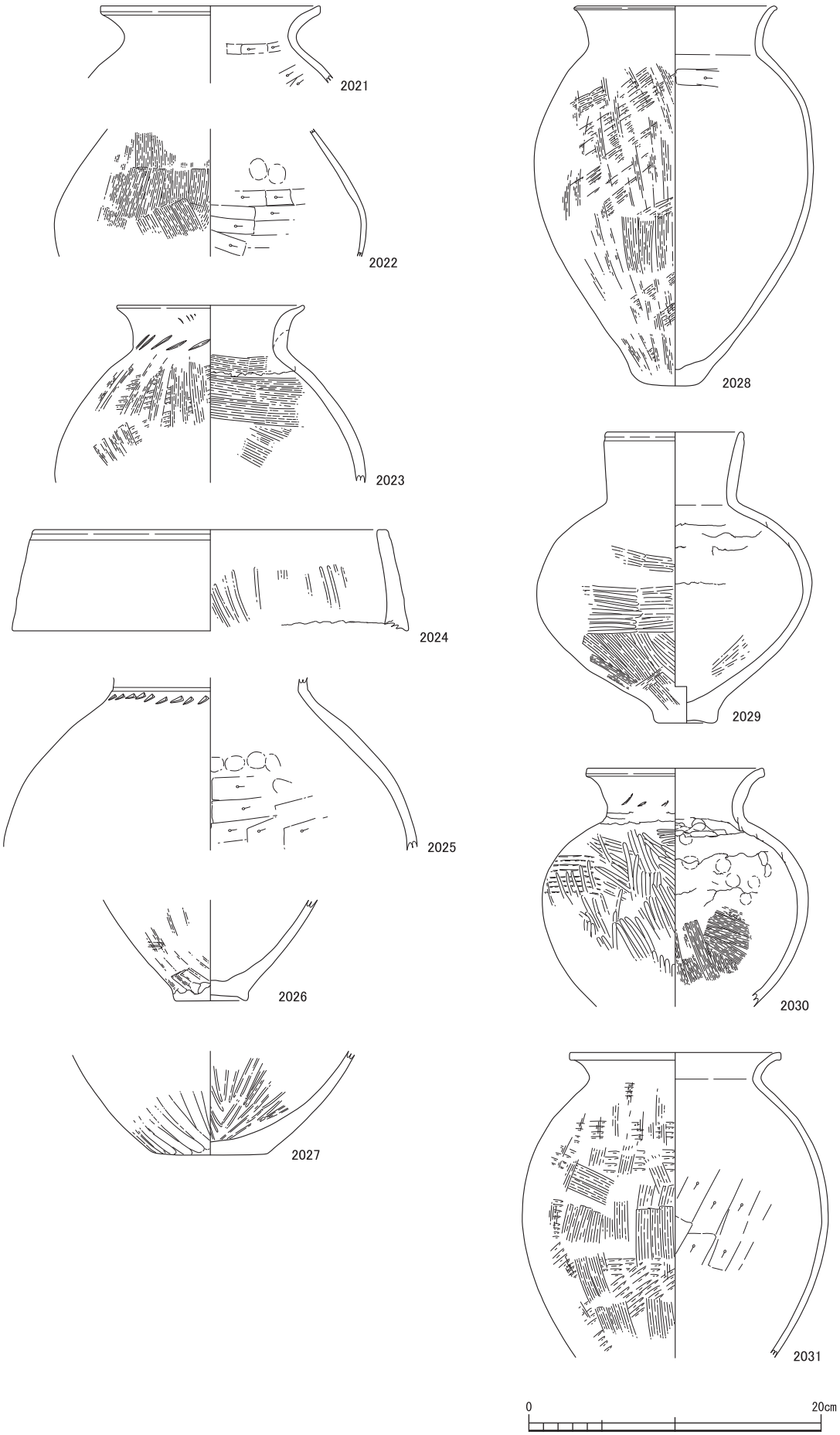

1. 5YR4/1　褐灰色　極細砂質シルト　東壁 9 層がブロックで入る
2. 5R6/1　赤灰色　粘質シルト　東壁 35 層ブロック密に入る
3. 10R2/1　赤黒色　粗砂混じり極細砂質シルト　東壁 19 層砂礫若干含む
4. 10R2/1　赤黒色　極細砂混じりシルトブロックと東壁 35 層ブロックで構成　東壁 26 層とほぼ同じ
5. 2.5YR3/1　暗赤灰色　極細砂質シルト　土器含む
6. 7.5YR4/1　褐灰色　極細砂　東壁 35 層ブロックで構成　東壁 19 層砂礫と鉄分含む
7. 5YR3/2　暗赤褐色　極細砂質シルト　東壁 25 層よりも暗赤褐色極細砂混じりシルト分多し
8. 5YR4/1 ～ 7.5YR4/1　褐灰色　粘土質シルト　東壁 35 層ブロックと半々に混じりあう

0　2m

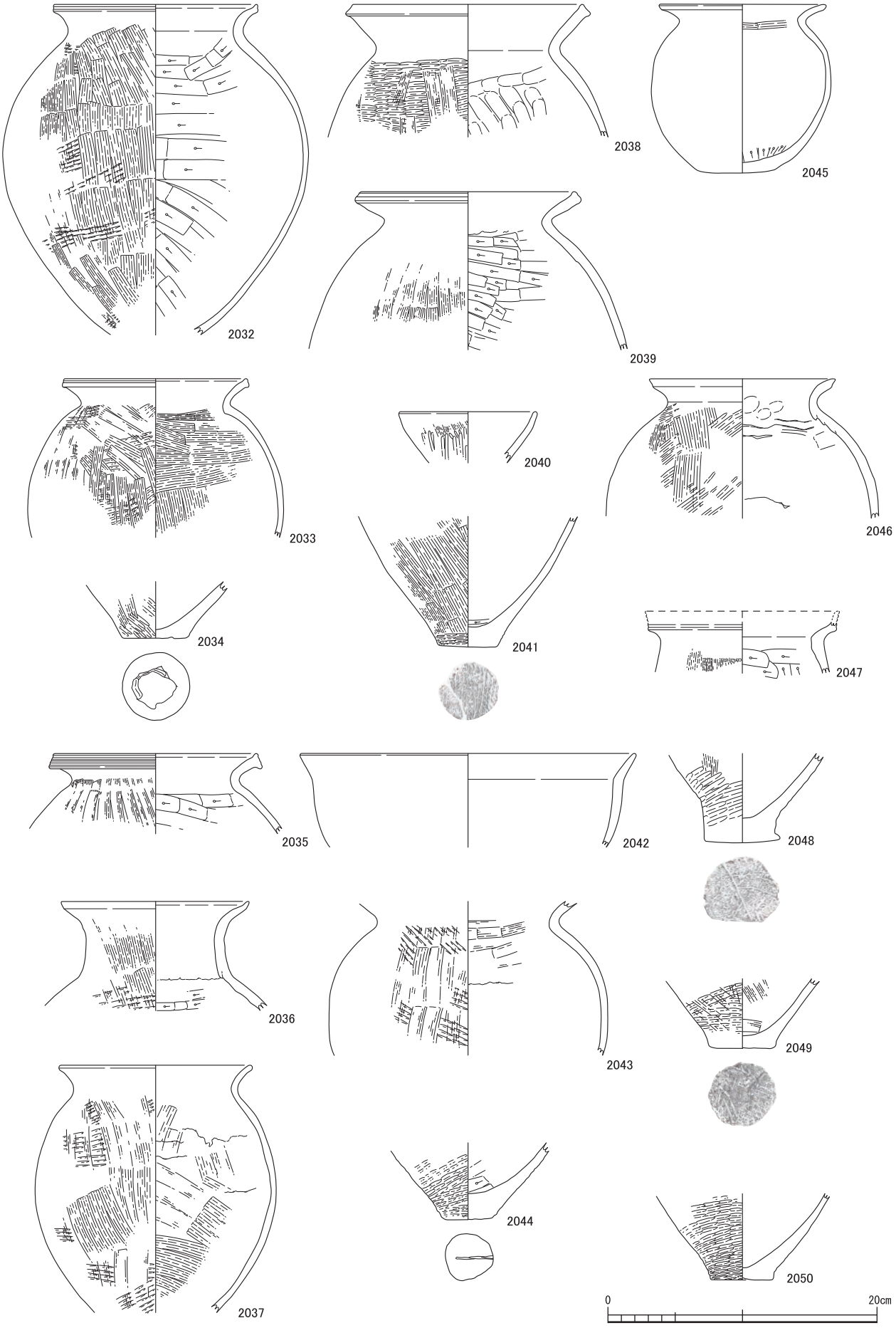
SK793・SB308P150・SD330・第 2 面粘土採掘坑


2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
0
20cm

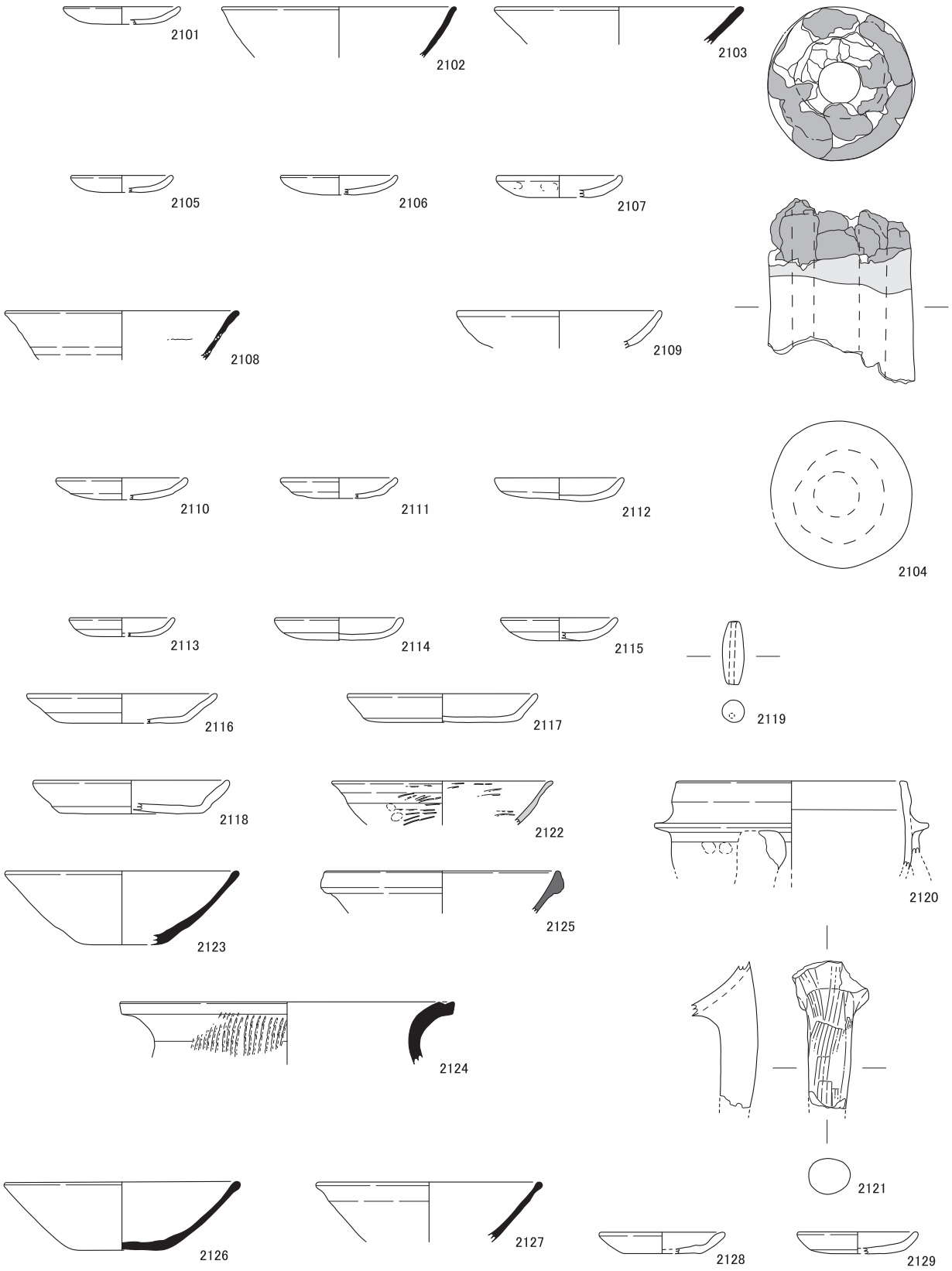
土器 2005～2020



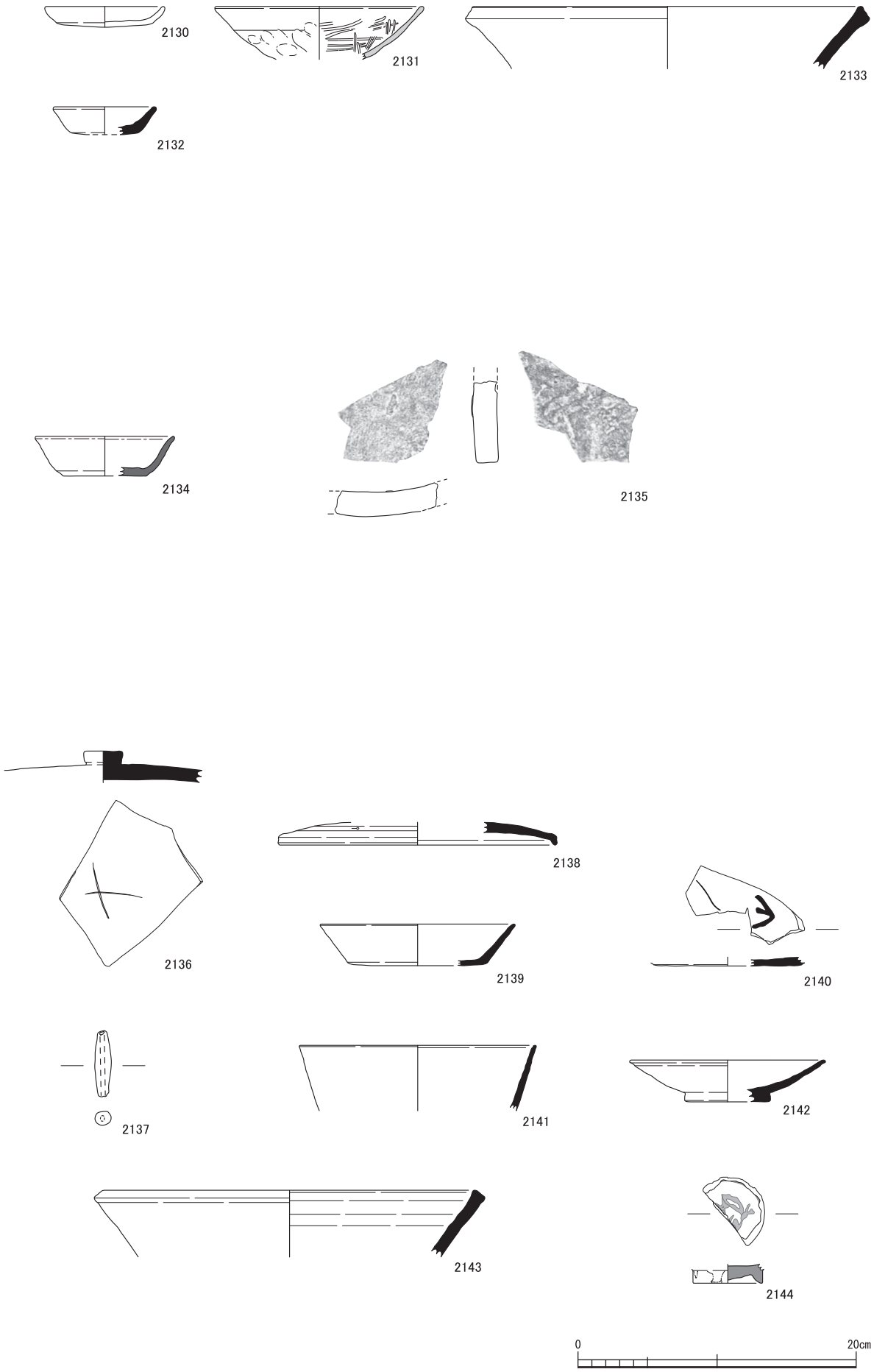

土器 2021～2031


2032
2033
2034
2035
2036
2037
2038
2039
2040
2041
2042
2043
2044
2045
2046
2047
2048
2049
2050
0
20cm

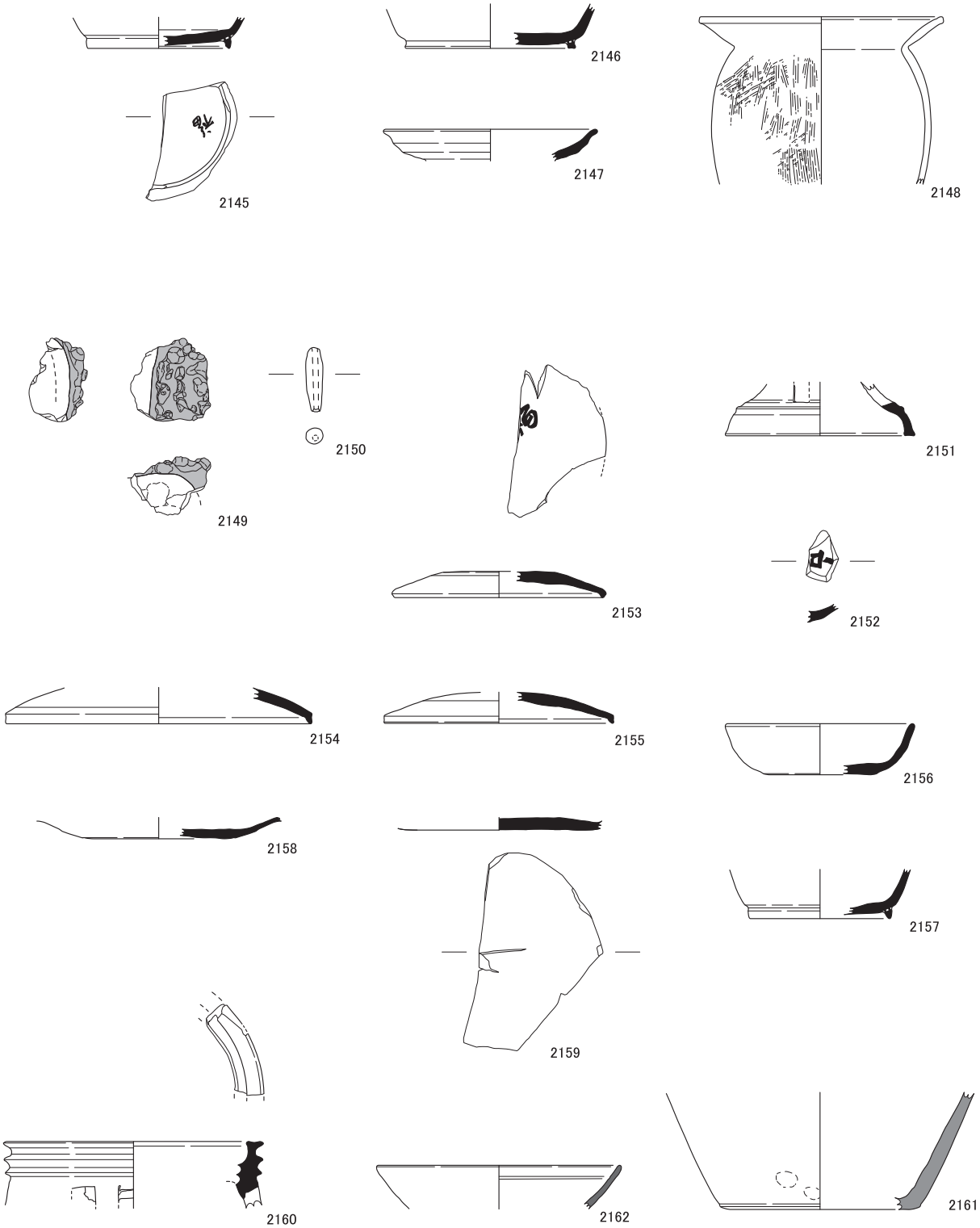
土器 2032～2050


2101
2102
2103
2105
2106
2107
2108
2109
2110
2111
2112
2104
2113
2114
2115
2116
2117
2119
2118
2122
2120
2123
2125
2124
2121
2126
2127
2128
2129
0
20cm

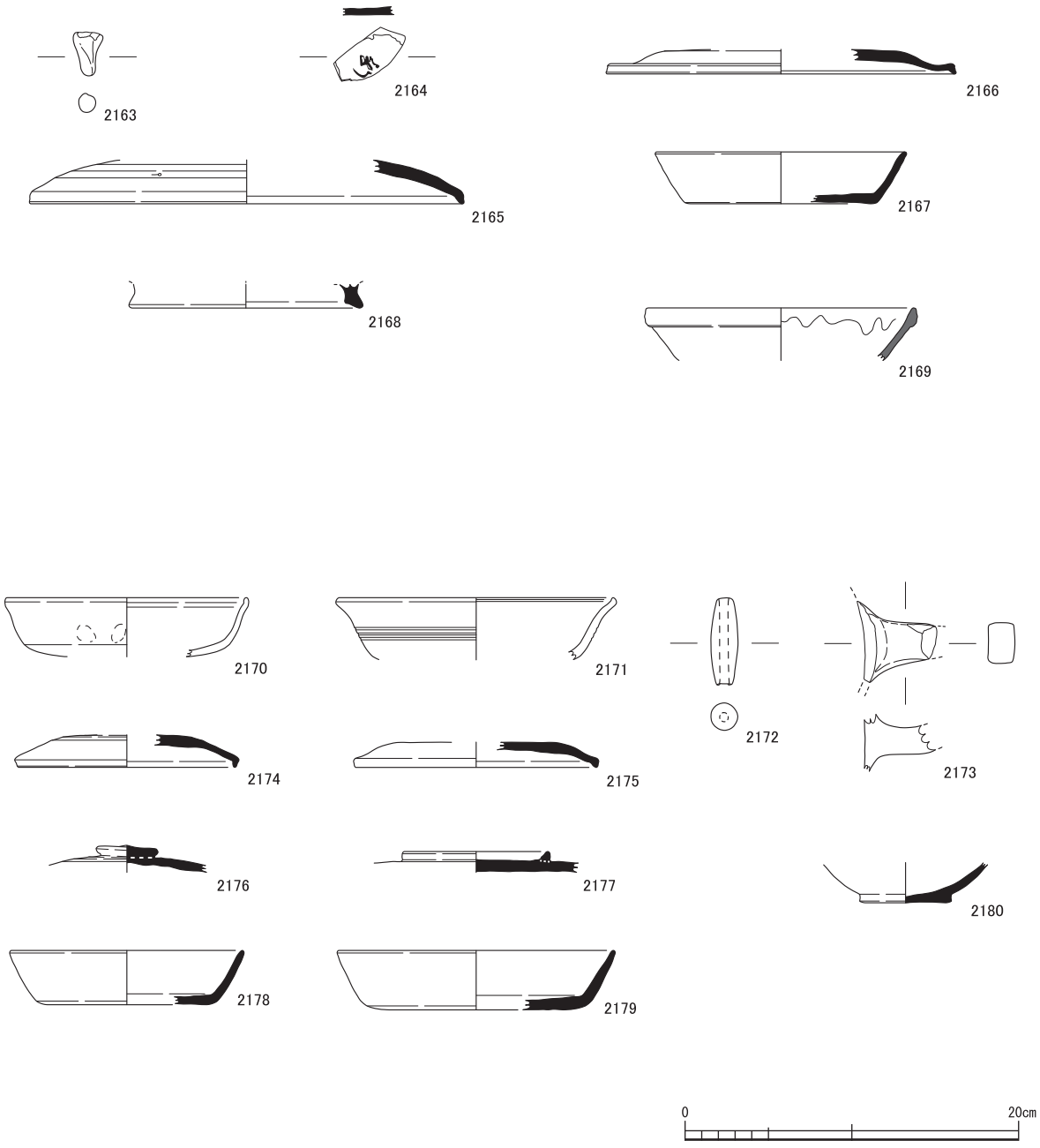
土器 2101～2129


2130
2131
2133
2132
2134
2135
2136
2138
2139
2140
2137
2141
2142
2143
2144
0
20cm

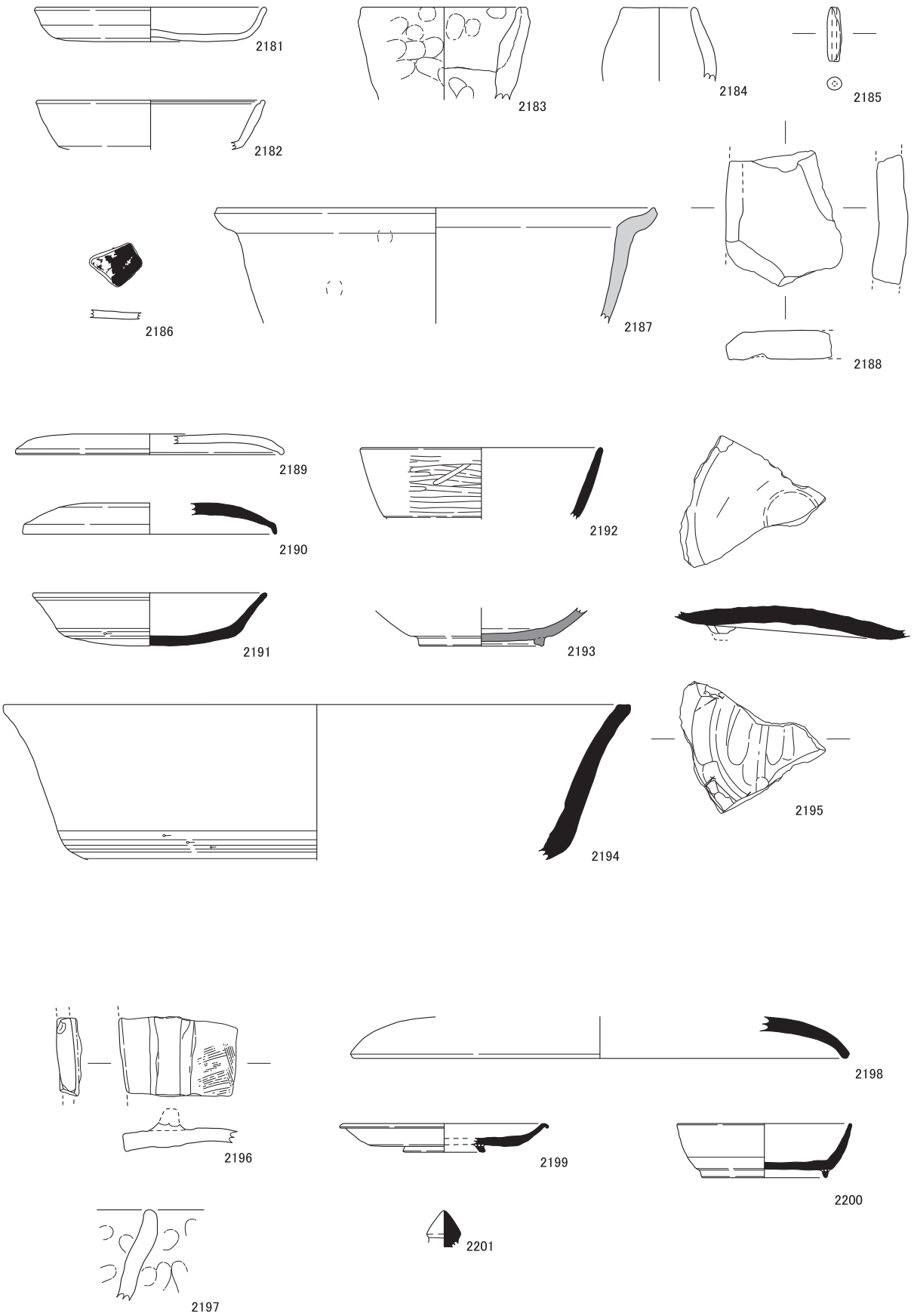
土器 2130～2144


2145
2146
2147
2148
2149
2150
2151
2152
2153
2154
2155
2156
2157
2158
2159
2160
2161
2162
0
20cm

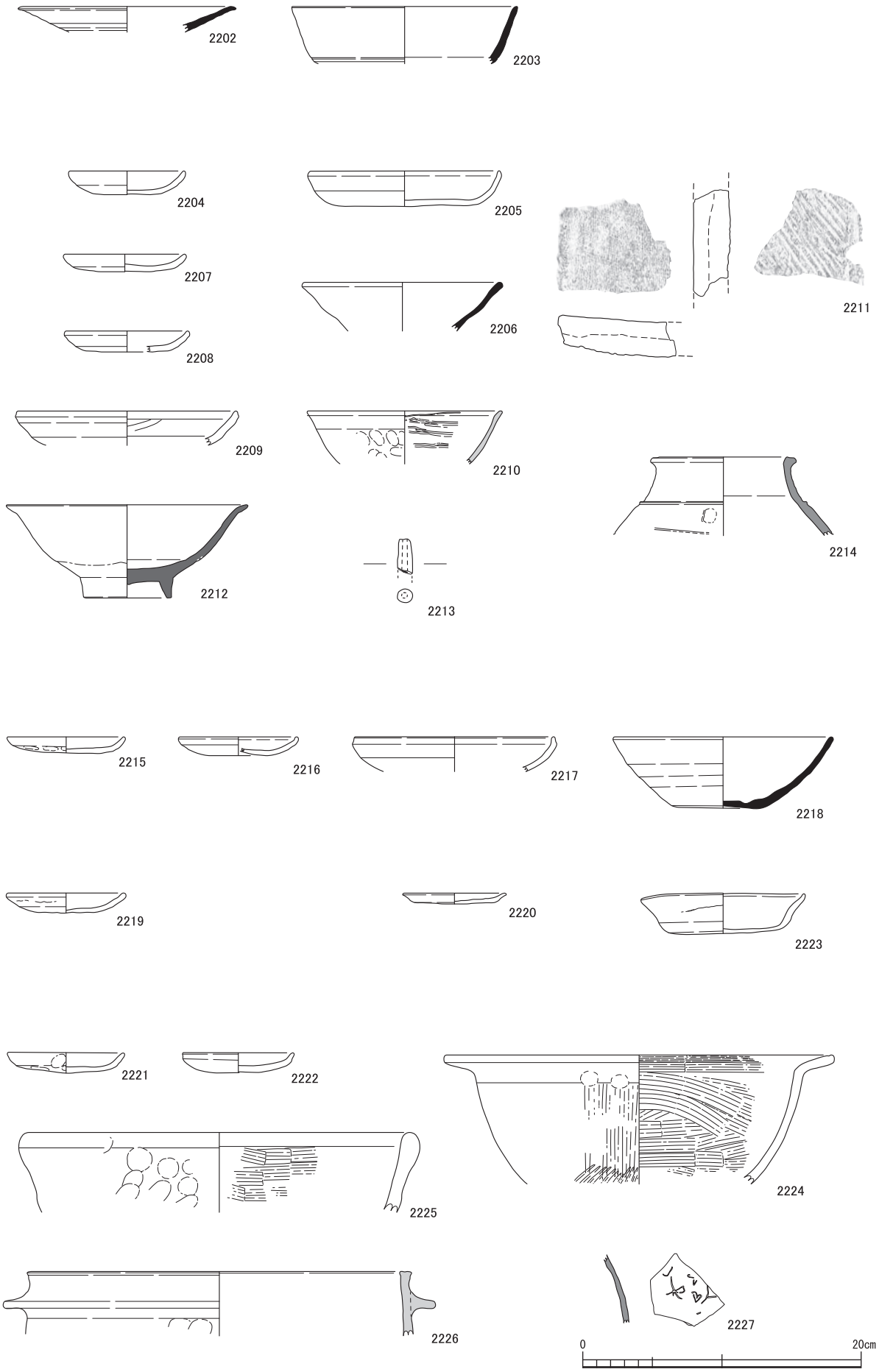
土器 2145～2162


2163
2164
2166
2165
2167
2168
2169
2170
2171
2172
2173
2174
2175
2176
2177
2180
2178
2179
0
20cm

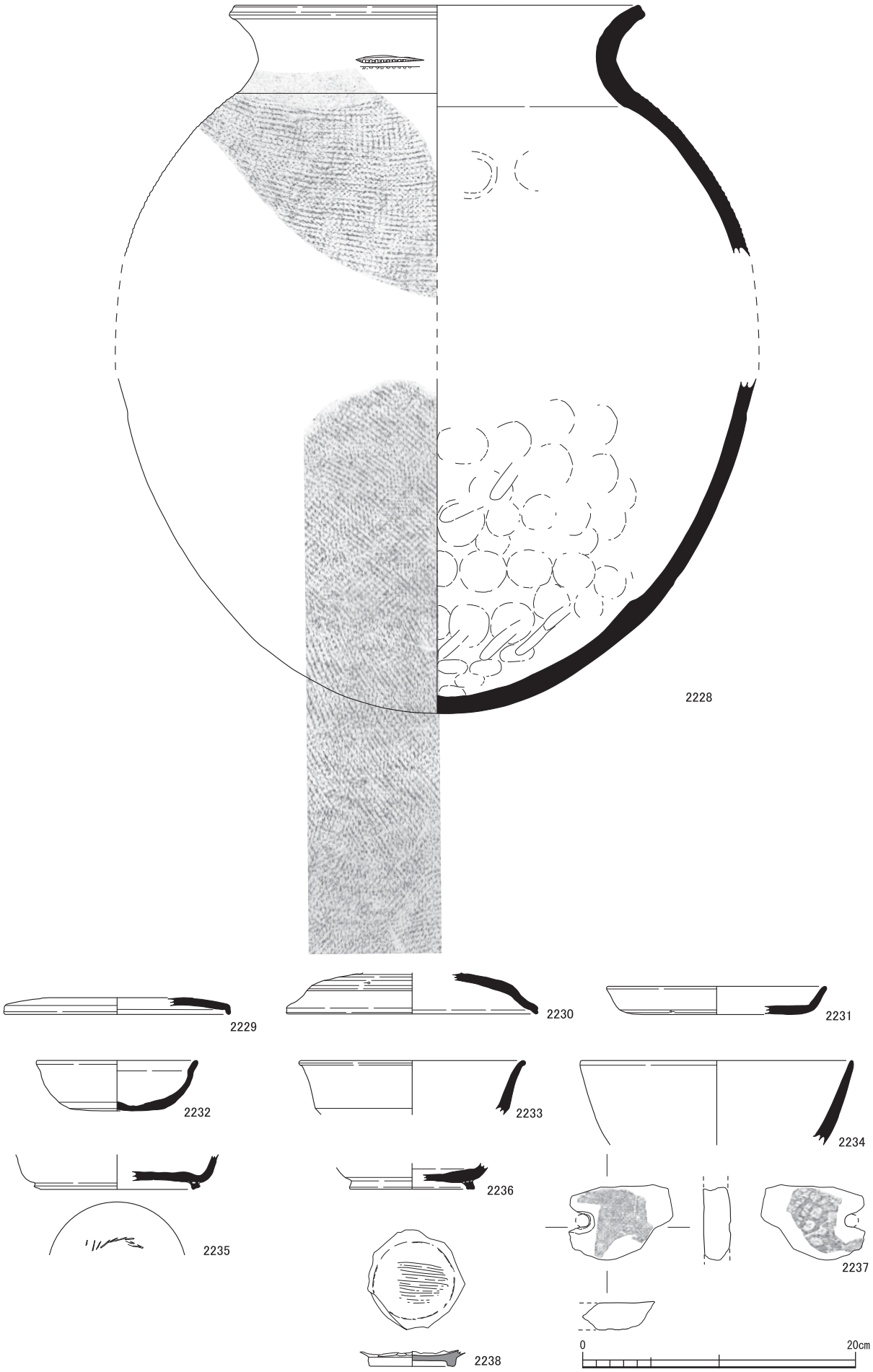
土器 2163～2180


2181
2182
2183
2184
2185
2186
2187
2188
2189
2190
2191
2192
2193
2194
2195
2196
2197
2198
2199
2200
2201
0
20cm

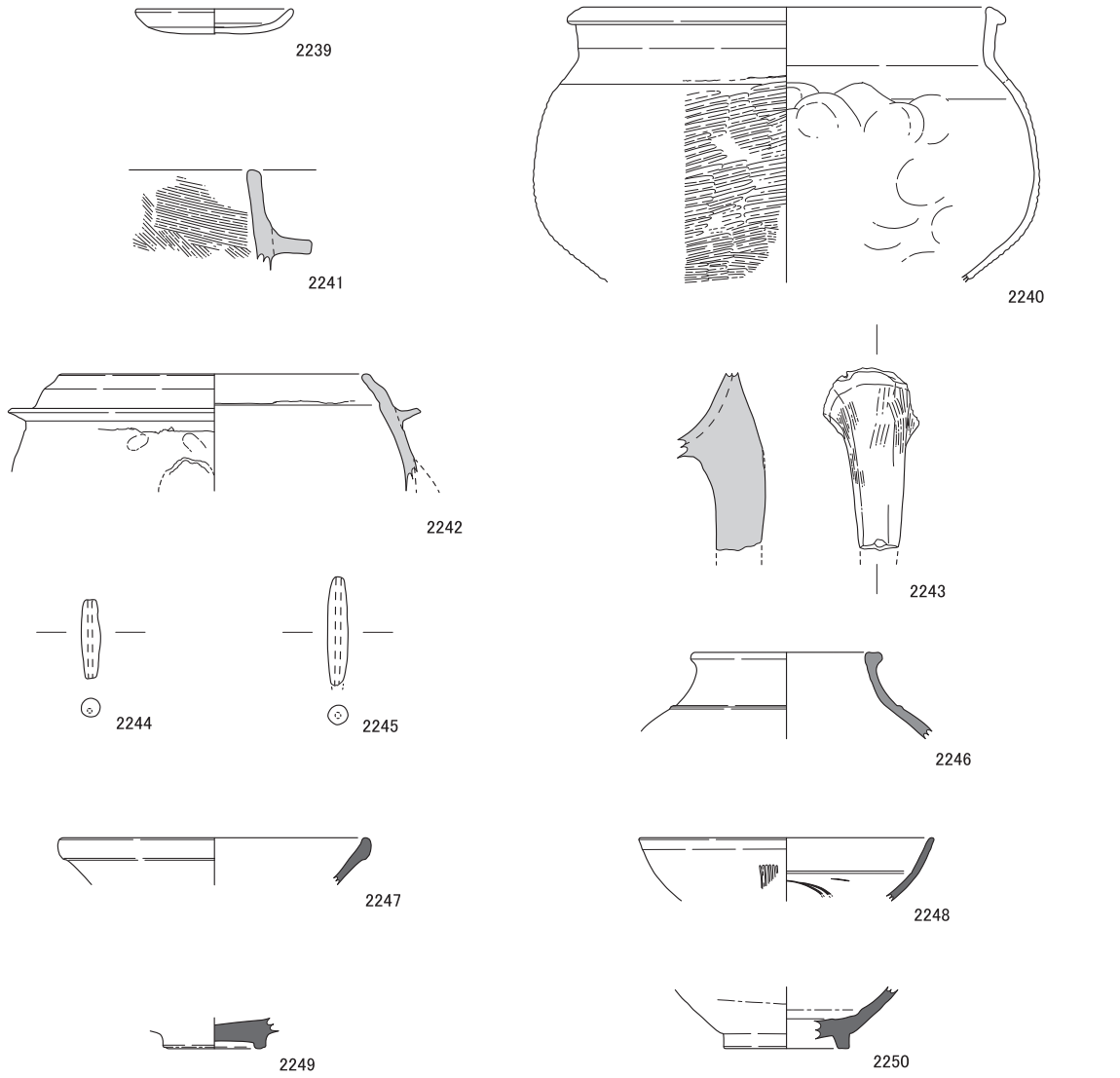
土器 2181～2201


2202
2203
2204
2205
2207
2206
2211
2208
2209
2210
2214
2212
2213
2215
2216
2217
2218
2219
2220
2223
2221
2222
2224
2225
2226
2227
0
20cm

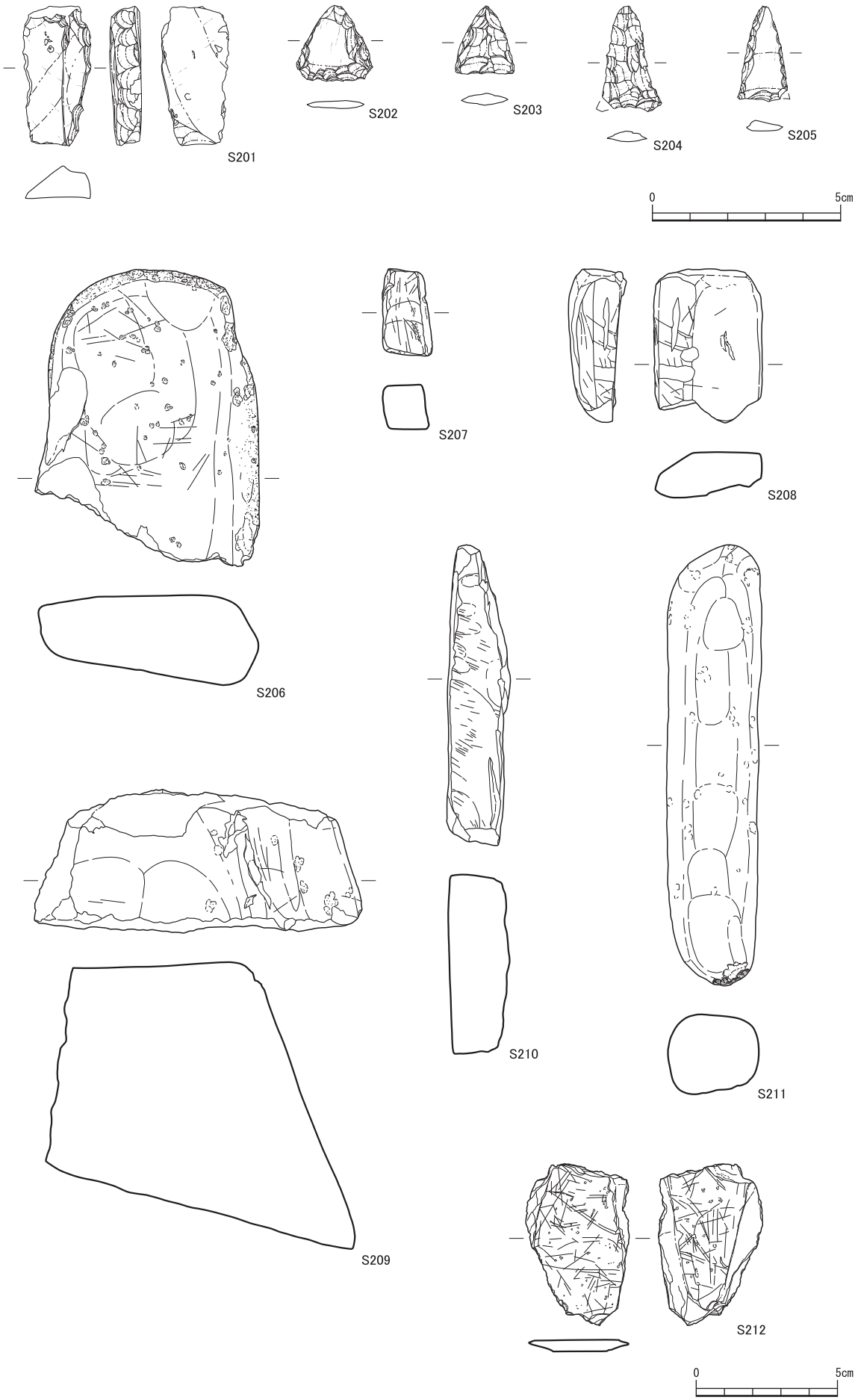
土器 2202～2227



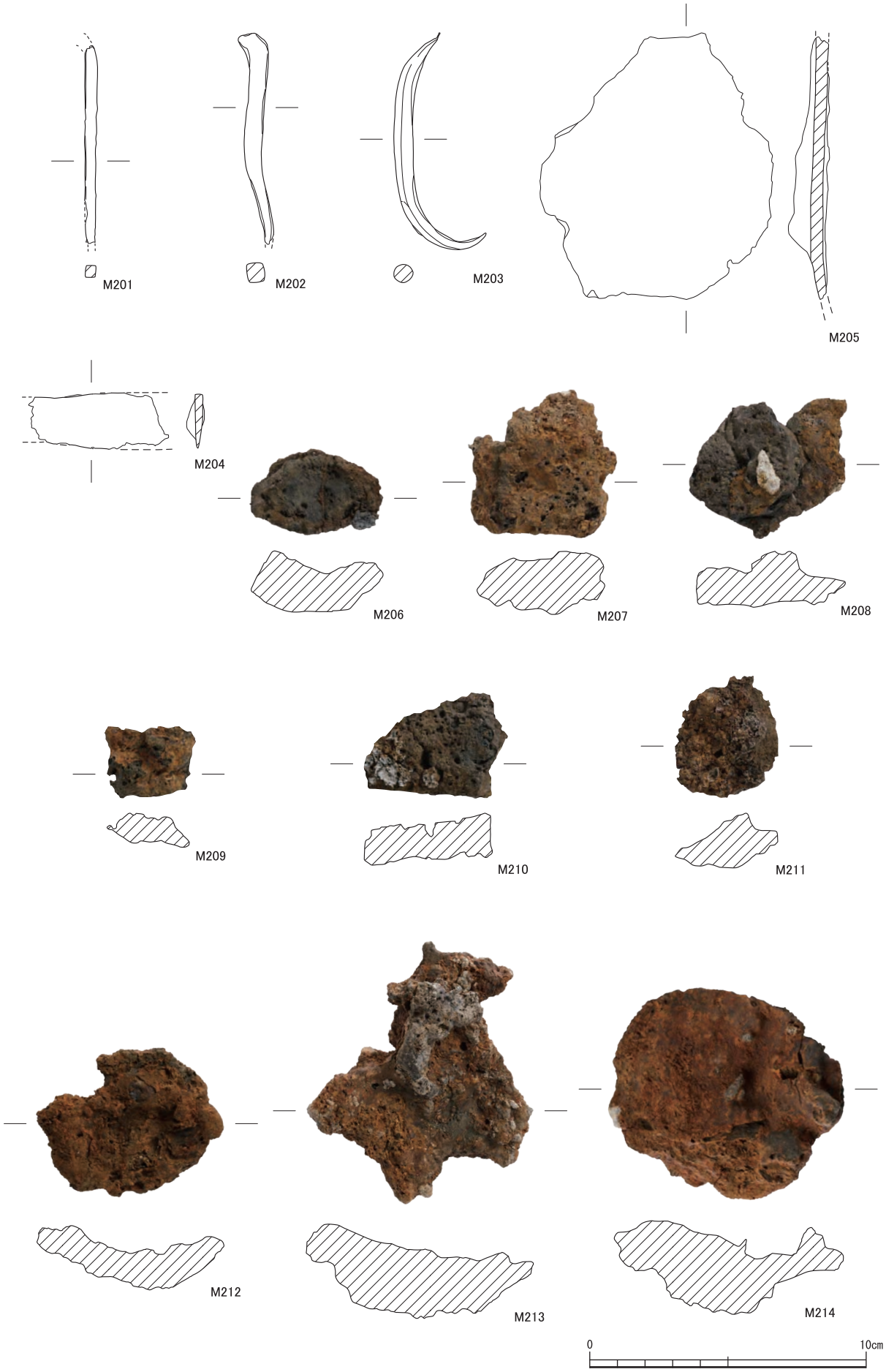

土器 2228～2238


2239
2240
2241
2242
2243
2244
2245
2246
2247
2248
2249
2250
0
20cm

土器 2239～2250


S201
S202
S203
S204
S205
0
5cm
S206
S207
S208
S209
S210
S211
S212
0
5cm

石器 S201～S212



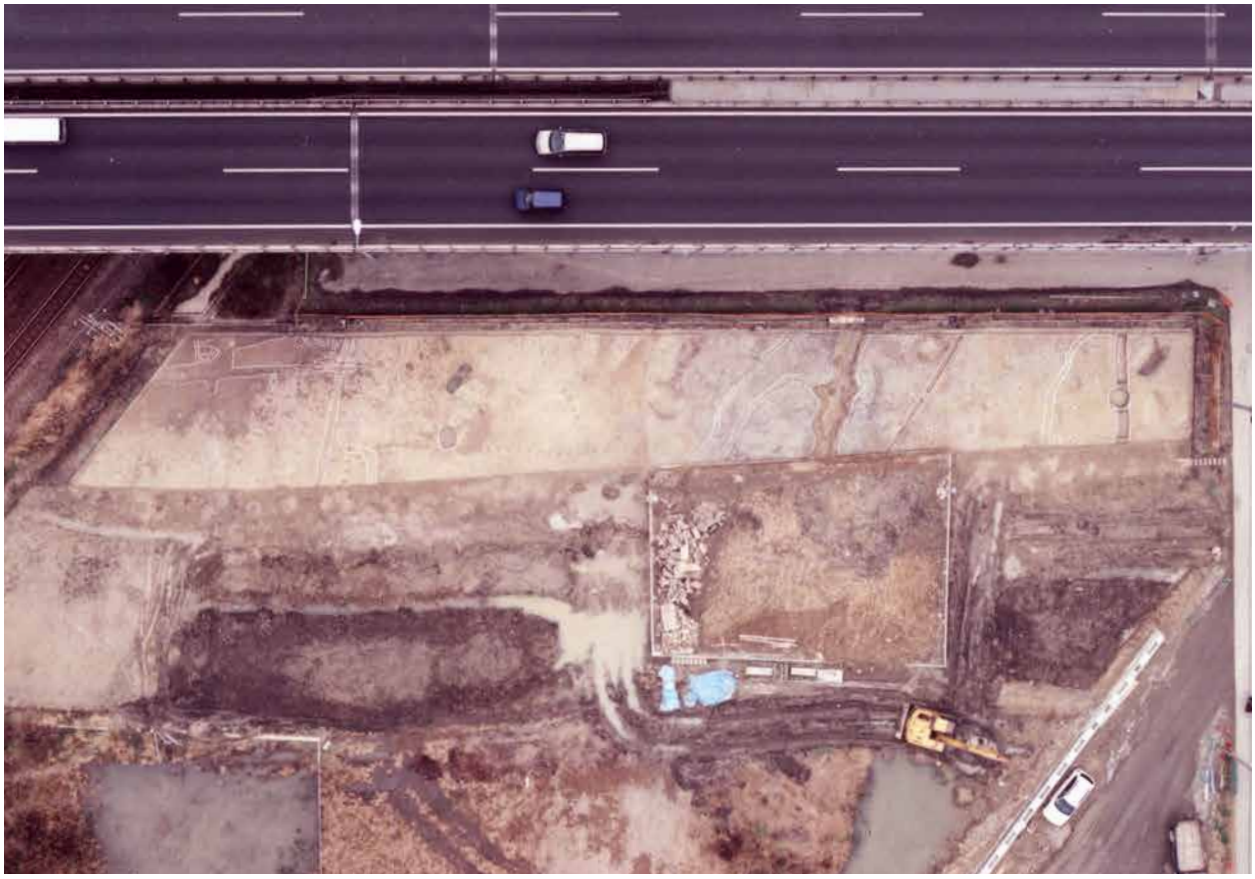

金属器　M201～M214

# 写真図版

全景（2007 年撮影）（東から）

全景（2007 年撮影）（北から）

70 区　近景（上が南）



70 区　全景（上が南）

70区　全景（東から）

70 区　全景（西から）

70 区　SB301・SB302（西から）

SB301 P02 土層断面（南から）

SB301 P05 土層断面（南から）

SB301 P04 土層断面（南から）

SB301 P05 石出土状況（南から）

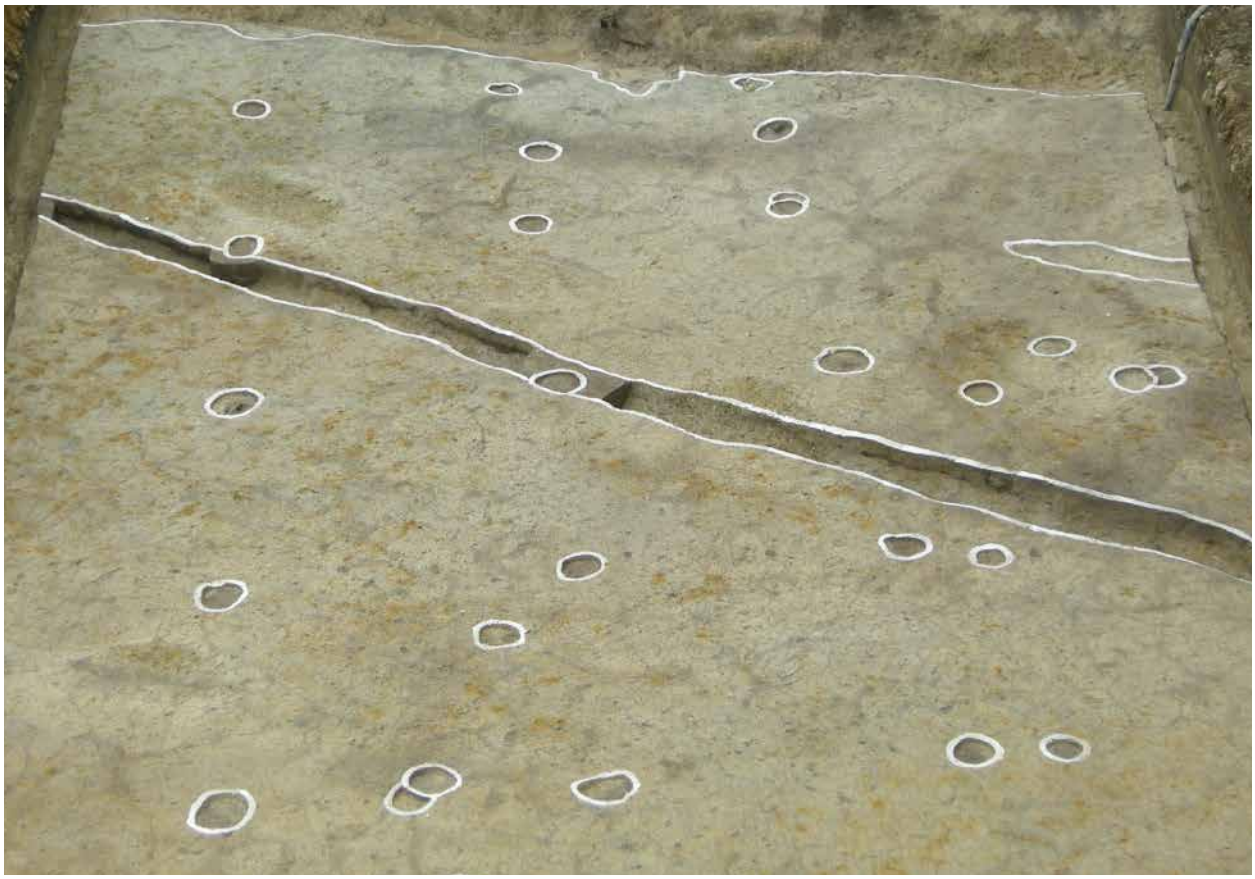
70 区　SB303（東から）

SB303 P02 土層断面（南から）

SB303 P03 土層断面（南から）

SB303 P05 土層断面（南から）

SB303 P06 土層断面（南から）



70 区　SB304（西から）

SB304 P03 土層断面（南から）

SB304 P05 土層断面（南から）

SB304 P04 土層断面（南から）

SB304 P05 柱出土状況（南から）

SB304 P06 柱出土状況（南から）

SB304 P07 土層断面（南から）

SB304 P08 土層断面（南から）

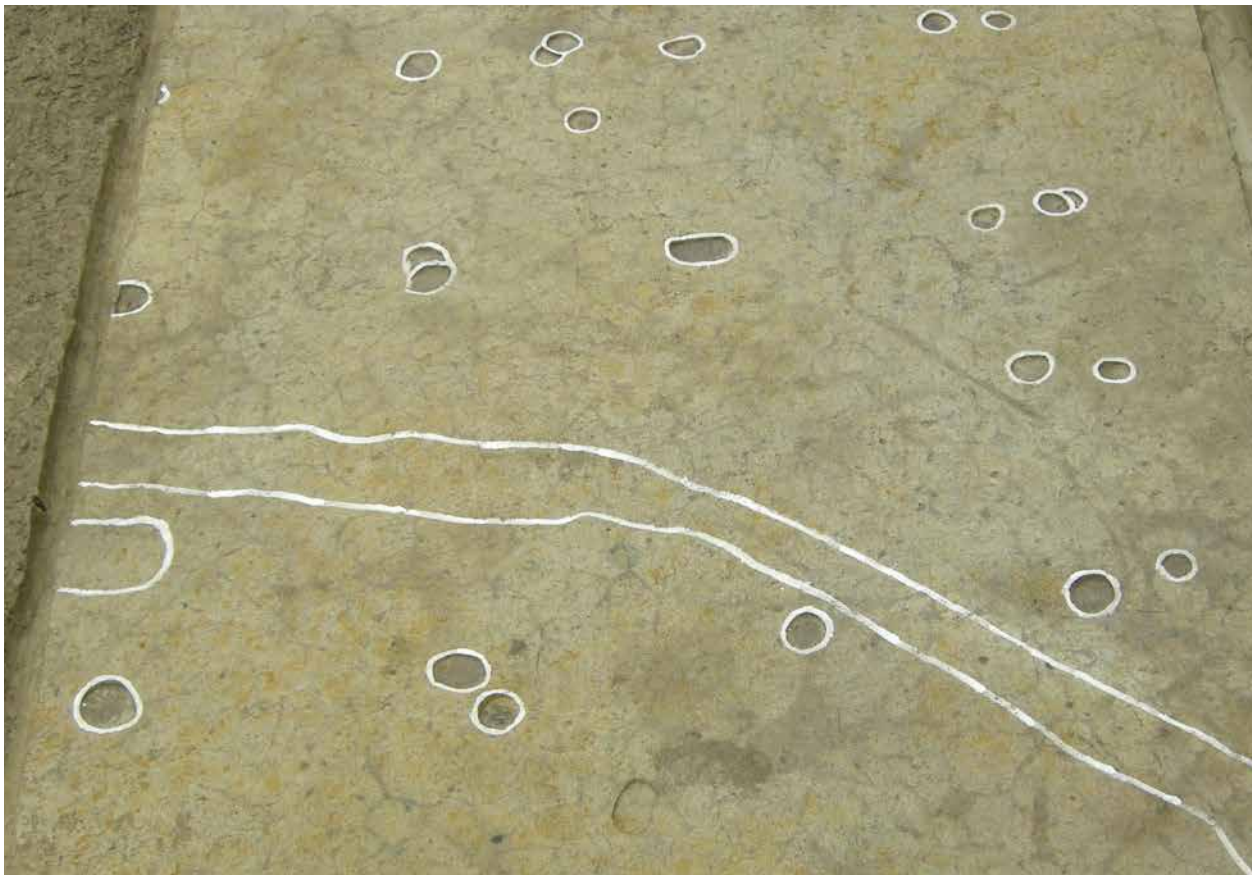
SB304 P09 土層断面（南から）

SB304 P10 土層断面（南から）

SB304 P11 土層断面（南から）

SB304 P16 土層断面（南から）

SB304 P17 石出土状況（南から）



70 区　SB305（西から）

SB305 P01 土層断面（南から）

SB305 P02 遺物出土状況（東から）

SB305 P01 石出土状況（南から）

SB305 P02 土層断面（南東から）

SB305 P03 石出土状況（南から）

SB305 P04 柱出土状況（東から）

SB305 P05 遺物出土状況（南から）

B305 P06 土層断面（南から）

SB305 P07 土層断面（南から）

SB305 P09 土層断面（南から）

SB305 P08 土層断面（南から）

SB305 P09 鉄滓出土状況（南から）

70 区　SA304（北東から）

SA304 P01 土層断面（南から）

SA304 P02 土層断面（南から）

SA304 P03 土層断面（南から）

SA304 P02 遺物検出状況（南から）

SA304 P04 土層断面（南から）

SA304 P05 土層断面（南から）

SD301 土層断面（南西から）

SD303 土層断面（南西から）

SD304 土層断面（西から）

SD303 W301 杭出土状況（北東から）

SD306 土層断面（南から）

SD308 土層断面（南から）

SD307 土層断面（東から）

SD310 土層断面（南西から）

SD311 土層断面（南から）

SD312 土層断面（西から）

SD315 土層断面（西から）

SK302 土層断面（南から）

SK301 遺物出土状況（西から）

SK308（西から）

SK303 土層断面（南から）

SK308 土層断面（南から）

SK304 完掘状況（南から）

SK305 完掘状況（南から）

SK306 完掘状況（南から）

SK307 完掘状況（南から）

SK304・SK305・SK306・SK307 土層断面（北から）

71 区・73 区　全景（上が南）

71 区　全景（東から）

71 区　SD317（東から）

SD317（東から）

SD317 土層断面（東から）

72 区　遠景（東から）

72 区　遠景（北から）

上層水田（東から）

上層水田（西から）

上層水田　東半部（東から）

上層水田　西半部（西から）

SD318（北から）

下層全景（北から）

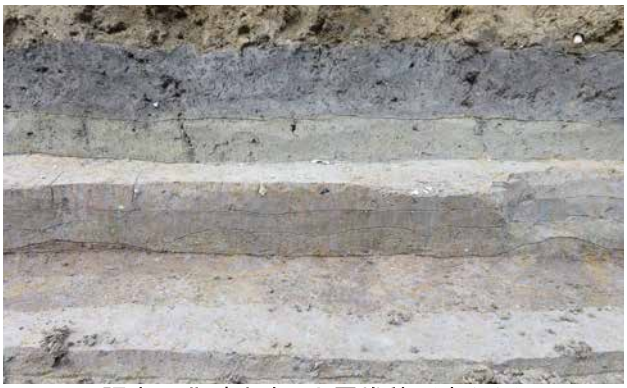
下層水田跡（東から）

調査区北壁の状況（西北西から）

調査区北壁　東端の土層堆積（南から）

調査区北壁　SD318 部分土層堆積（南から）

調査区中央東寄り土層堆積（南から）



調査区北壁中央　土層堆積（南から）

調査区北壁　SD319 部分土層堆積（南から）

SD319　調査区北壁部分（南から）

SD320 土層堆積（西から）

SD320 土層断面（西から）

SD320 断ち割り（西から）

SX2003・SD320（南南東から）

SX2004（北東から）

SX2004 断ち割り（東から）

73 区　全景（北から）

南壁土層断面（北から）

SD321（北から）

SD322（北から）

SD321 土層断面（北から）

SD322 土層断面（西から）

74 区　遠景（東北東から）

74 区　遠景（西から）

74 区　全景（北から）

74 区　全景（東から）

74 区　全景（西から）

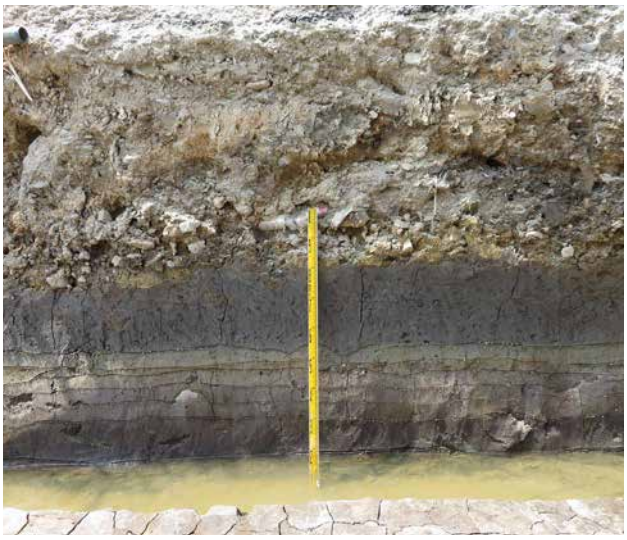
西壁土層断面（東から）

北壁西端土層断面（南から）

北壁西半土層断面（南から）

北壁中央付近土層断面（南から）

北壁東端土層断面（南から）



南壁中央部土層断面（北から）

P74101（南から）

P74102（南から）

SK401（南から）

SX101（南から）

旧河道 SR101 断ち割り状況（南東から）

SR101 土層断面（東から）

75 区　遠景（西北西から）

75 区　遠景（東から）

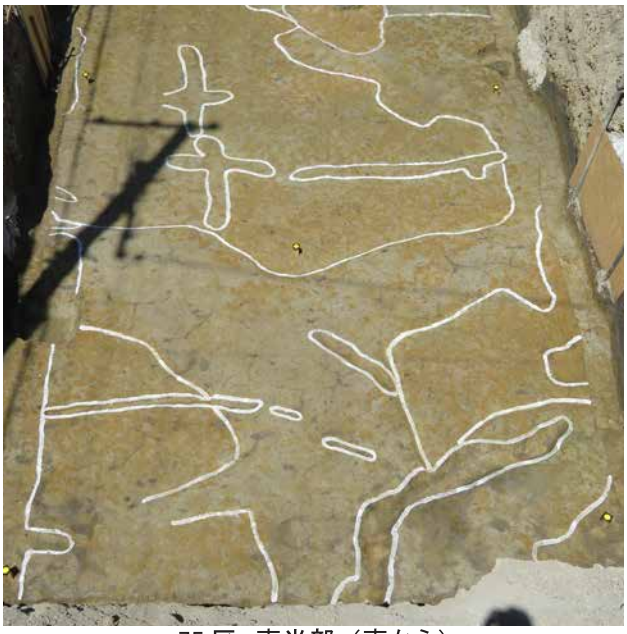
75 区　全景（北から）

75 区　近景（西から）

75 区　全景（西から）

75 区　全景（東から）

75 区　西半部（東から）


75 区　東半部（東から）

北壁　北東隅（南から）

東壁（西から）

南壁（西北西から）

P75201（北から）

奈良時代　SK516（北から）

粘土採掘坑検出状況（北から）

粘土採掘坑検出状況（西から）

粘土採掘坑群（東から）

粘土採掘坑群（南南東から）

SK502・SK503（西から）

SK503（南から）

SK512・SK505・SK506（北から）

SK505（南から）

SK506（北から）

SK506 土層断面（東から）

SK507・SK508（西から）

SK507・SK508 土層断面（東から）

SK509・SK510（東北東から）

SK509・SK510 土層断面（東から）

SK511（北から）

SK512　土器出土状況（南から）

SK512 完掘状況（北から）

SK512 土層断面（南から）

SK514・SK515（南から）

SK514・SK515 土層断面（西から）

SK517-1・SK517-2（南から）

SK517 土層断面（南から）

SK518（南から）

SD327（北から）

76 区　全景（上が南）

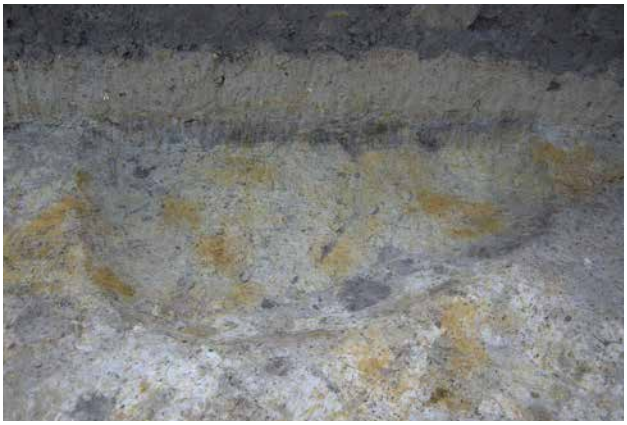
76 区　全景（上が南）

76区　全景（東から）

SK650 遺物出土、完掘状況（西から）

SK605 土層断面、完掘状況（西から）

SK650 土層断面（南から）



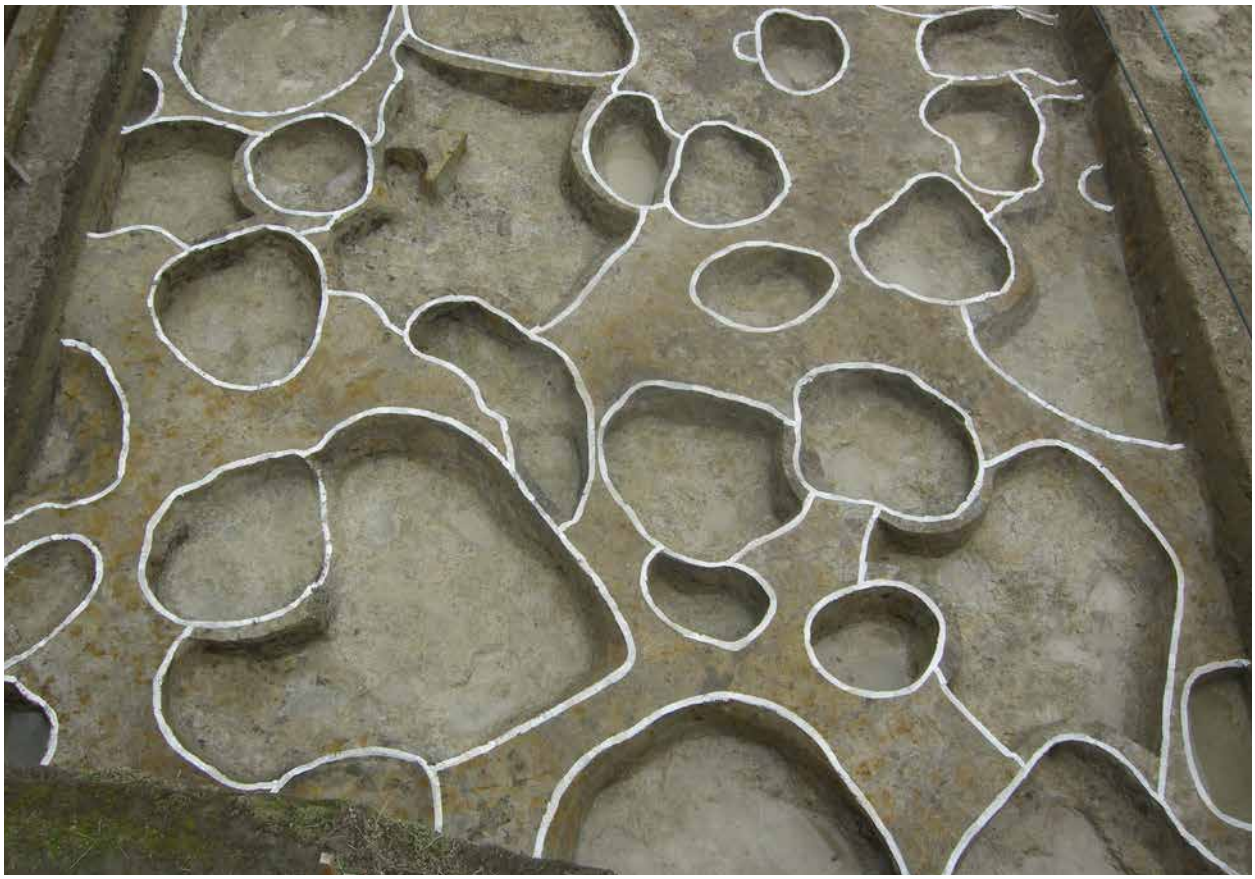
SK610 土層断面、完掘状況（西から）

SK607 完掘状況（西から）

SK665 土層断面（南から）

SK604 土層断面、完掘状況（北から）

SK620 完掘状況（北から）



SK666・SK649・SK614・SK623（東から）

SK666 土層断面（西から）

SK649 土層断面（南西から）

SK614 土層断面（東から）

SK623 土層断面、遺物出土状況（南から）

SK612 遺物出土状況（西から）

SK613 遺物出土状況（西から）

SK612 土層断面（西から）

SK613 土層断面（西から）

SK615 遺物出土状況（北西から）

SK619 遺物出土状況（北から）

SK615 土層断面（西から）

SK619 土層断面（北から）

SK624・SK630・SK669・SK631（北から）

SK624 土層断面（南西から）

SK630 土層断面（北東から）

SK669 土層断面（北から）

SK631 土層断面（西から）

SK606 周辺（北から）

SK606 遺物出土、完掘状況（北から）

SK606 遺物出土状況（東から）

SK606 土層断面（西から）

SK606 遺物出土状況（東から）

SK743 遺物出土、完掘状況（東から）

SK646 遺物出土、完掘状況（北から）

SK743 土層断面（北東から）

SK646 土層断面（北から）

SK632 遺物出土、完掘状況（西から）

SK621・SK622 遺物出土、完掘状況（西から）

SK632 土層断面（南西から）

SK621・SK622 土層断面（西から）

SK663 遺物出土状況（北東から）

SK627 完掘状況（西から）

SK663 土層断面（北東から）

SK627 土層断面（西から）

SK629 遺物出土、完掘状況（南西から）

SK625 完掘状況（西から）

SK629 遺物出土状況（南西から）

SK625 土層断面（西から）

SK628・SK673・SK664・SK675（西から）

SK628 土層断面（南西から）

SK673 土層断面（北東から）

SK664 土層断面（西から）

SK675 土層断面（西から）

SK670・SK671 遺物出土、完掘状況（南から）

SK674 遺物出土状況（北から）

SK670・SK671 土層断面（南西から）

SK674 土層断面（東から）

SK658 遺物出土、完掘状況（南から）

SK633 遺物出土、完掘状況（西から）

SK658 土層断面（西から）

SK633 土層断面（南西から）

SK643 完掘状況（西から）

SK638 完掘状況（西から）

SK643 土層断面（西から）

SK638 土層断面（西から）

SK651 完掘状況（北から）

SK660 完掘状況（北から）

SK651 土層断面（西から）

SK660 土層断面（西から）

SK709 完掘状況（東から）

SK641 完掘状況（北から）

SK702 遺物出土、完掘状況（東から）

SK641 土層断面（西から）

SK652 土層断面（西から）

SK608 土層断面（北西から）

SK637 土層断面（西から）

SK640・SK642 土層断面（北から）

SK720 遺物出土、完掘状況（南から）

SK655 遺物出土、完掘状況（西から）

SK720 土層断面（南から）

SK655 土層断面（西から）

SK720 遺物出土状況（南から）

SK655 遺物出土状況（北から）

SK668 土層断面（北西から）

SK644 土層断面（東から）

SK679・SK680 遺物出土、完掘状況（北東から）

SK685 遺物出土状況（西から）

SK679・SK680 土層断面（北東から）

SK685 土層断面（西から）

SK721 遺物出土、完掘状況（南から）

SK685 遺物出土状況（北から）

SK721 土層断面（南から）

SK730 遺物出土、完掘状況（北西から）

SK699 土層断面（北から）

SK725 土層断面（南から）

SK711 土層断面（東から）

SK713 土層断面（北から）

SK716 遺物出土、完掘状況（南西から）

SK715 遺物出土、完掘状況（南から）

SK716 遺物出土状況（南から）

SD329 完掘状況（北から）

77 区　遠景（西から）

77 区　第 1 面（北から）

77 区　第 1 面近接（北から）

第１面（南から）

第２面（南から）

南壁（西北西から）

南壁（東北東から）

東壁（西から）

東壁近接（西から）

南壁東半近接（北から）

南壁中央近接（北から）

奈良時代の掘立柱建物跡
SB306・SB307（南から）

SB308・SB309（東から）

SB310・SB311（東から）

SB306 P80 土層断面（北から）

SB306 P67 土層断面（西から）

SB306 P67 土層断面（東から）

SB306 P67 土層断面（南から）

SB306 P67 土層断面（北から）

SB306 P05 土層断面（西から）

SB306 P139 土層断面（東から）

SB306 P137 土層断面（東から）

SB306 P136 土層断面（西から）

SB306 P148 土層断面（東から）

SB306 P123 土層断面（東から）

SB305 P95・SB306 P100（南から）

P98・SB307 P101・SB306 P102（南から）

SB306 P102（南から）

SB306 P106（北から）

SB306 P106（東から）

SB306 P106（南から）

SB306 P106（西から）

SB307 P16（北から）

SB307 P16（東から）

SB307 P63（東から）

SB307 P76（東から）

SB307 P176（東から）

SB307 P09（西から）

SB307 P04（西から）

SB308 P229 遺物出土状況（西から）

SB308 P150 白磁碗出土状況（西から）

SB308 P150 土層断面（北から）

SB308 P191 土層断面（西から）

SB308 P195・P194（西から）

SB308 P195（南から）

SB309 P218 土器出土状況（北から）

SB309 P220 遺物出土状況（北から）

SB309 P220 土層断面（西から）

P77059 土師器皿出土状況
（南から）

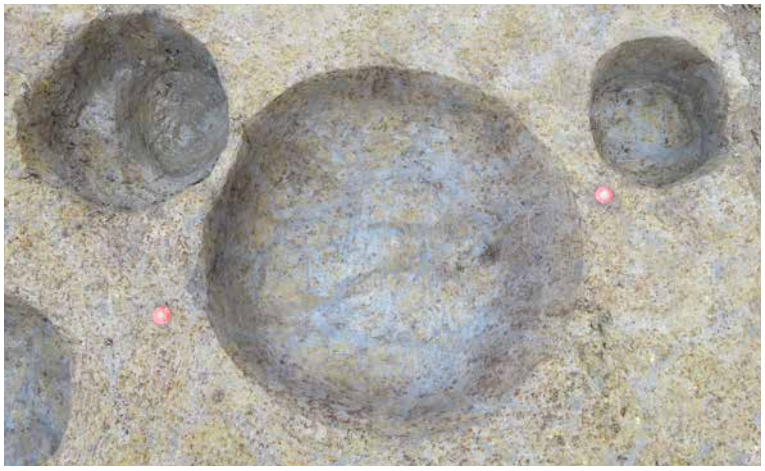
P77070 土師器皿出土状況
（南から）

P77254 土師器皿出土状況
（東から）

SK793 須恵器甕検出状況（南東から）

SK793 埋積状況（西から）

SK793 埋納状況（南東から）



SK793 完掘状況（北西から）

SD330 全景（南西から）

SD330 土層断面（西から）

SD330 遺物出土状況（南から）

第 2 面粘土採掘坑（西から）

第 2 面粘土採掘坑近接（西から）

南東隅　粘土採掘坑部分土層断面（北西から）

平成 19 年度現地説明会状況

70 区現地説明会状況

76 区現地説明会状況

2005

2008

2002
2003
2004

2006

2001

2007

2010

2014

2012

2013

2011

2009

土器2

2017

2019

2015

2016

2018

2020

2036

2029

2030

2023

2028

2045

2021

2022

2024

2031

2025

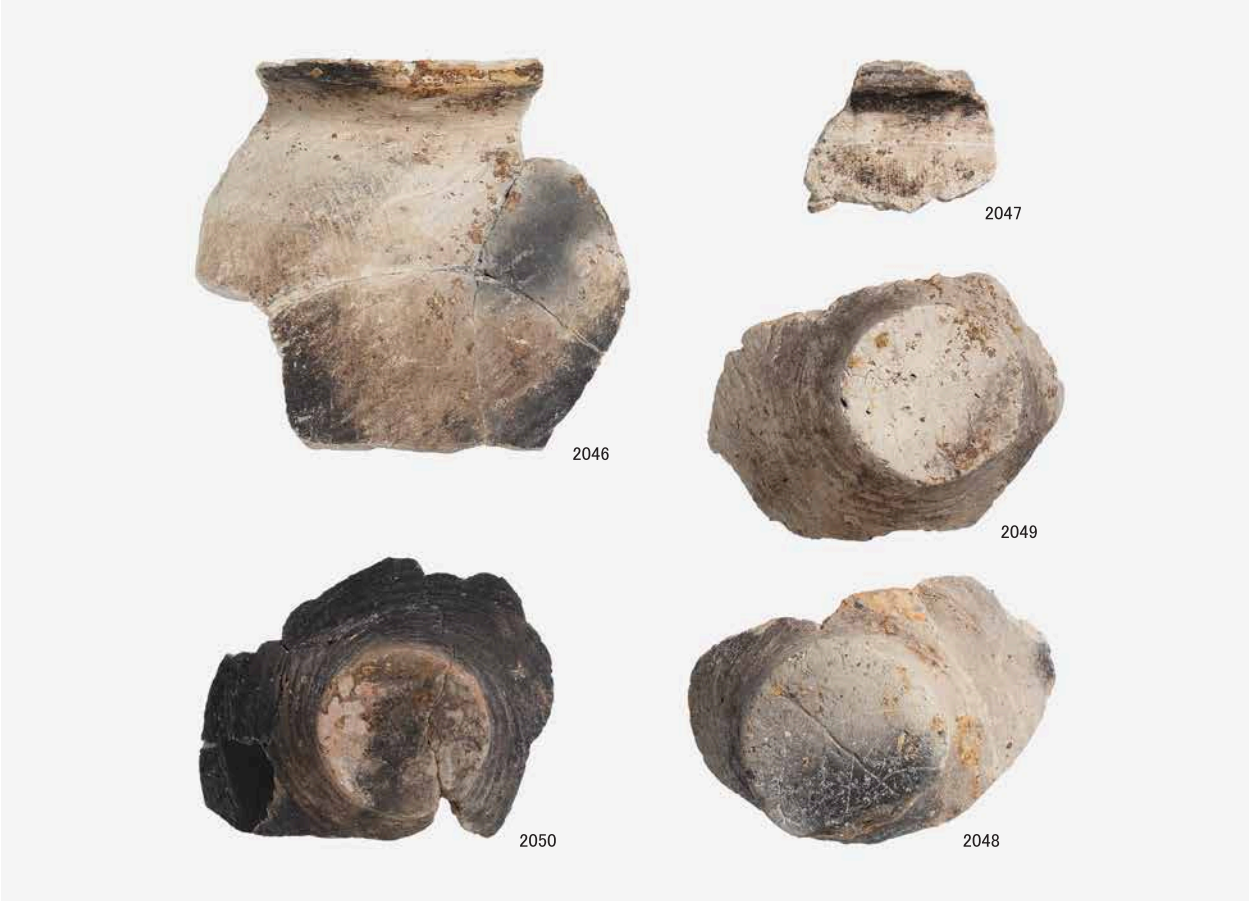
2026

2027

2035
2033
2032
2034

2038
2037
2039

2040
2043
2042
2044
2041


2047
2046
2049
2050
2048

2055
2056
2057
2058
2060
2059

2051
2053
2052
2054

2061

2101
2102
2103
2105
2107
2106
2108

2101
2102
2103
2105
2107
2106
2108

2104

2112

2110

2111

2109

2110

2111

2109

2113
2115
2122
2114
2116
2119
2117
2118

2113
2115
2122
2114
2116
2119
2117
2118

2120

2126

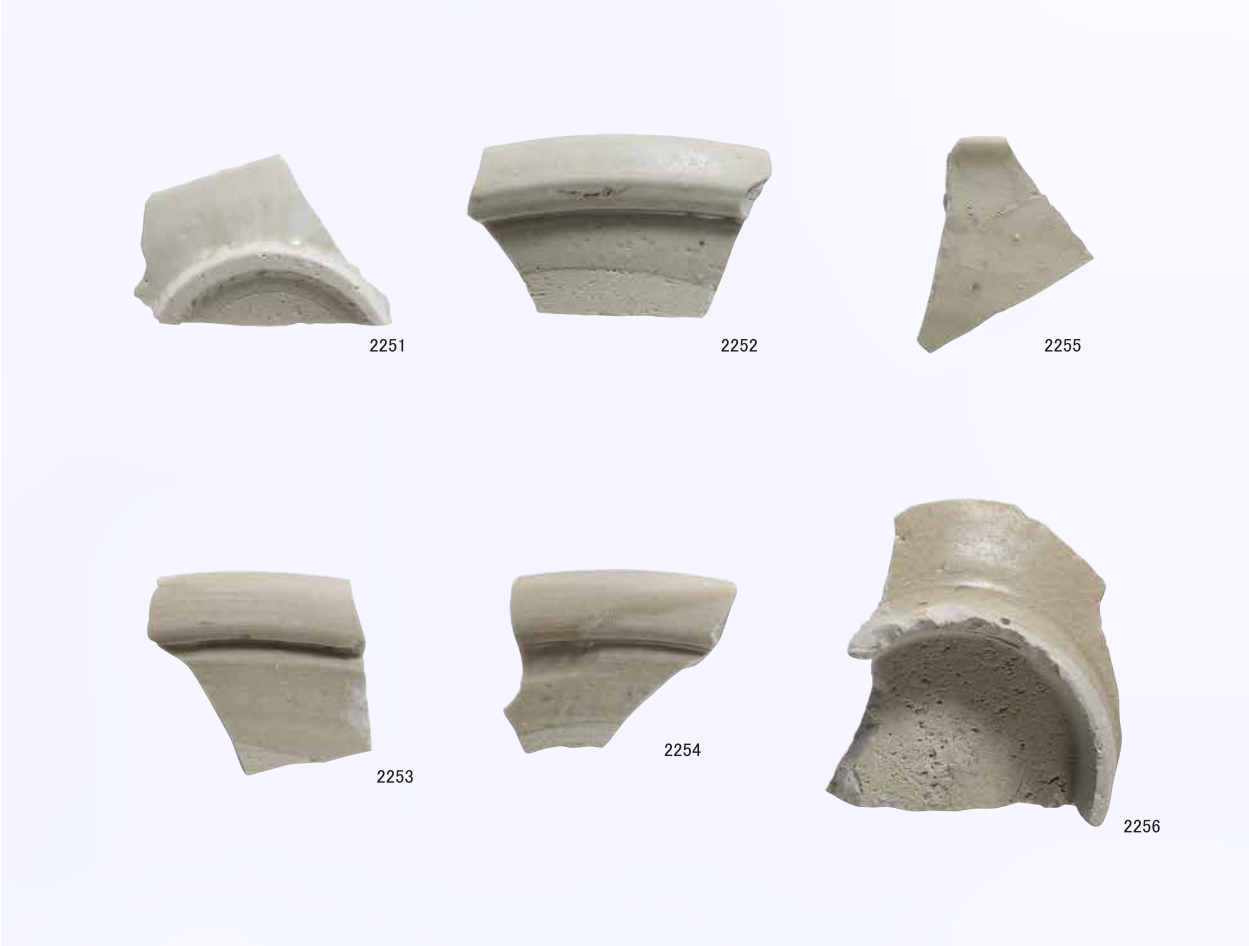
2123
2125
2124
2121

2130

2128
2129
2127
2132
2131
2133

2134

2135


2251
2252
2255
2253
2254
2256

2251
2252
2255
2253
2254
2256

2138
2139
2137
2141
2142
2136
2143
2144

2138
2139
2137
2141
2142
2136
2143
2144

2146
2147
2151
2149
2155
2156
2150
2157
2162

2146
2147
2151
2149
2155
2156
2150
2157
2162

2148

2161

2158
2165
2159
2154
2166

2158
2165
2159
2154
2166

2167

2163
2168
2169

2170

2171

2172

2173

2170

2171

2172

2173

2175

2174

2177

2176

2179

2178

2180

2181

2182

2186

2183
2184
2185
2187
2188

2190
2189
2192
2193
2191

2190
2189
2192
2193
2191

2197

2194

2196

2198

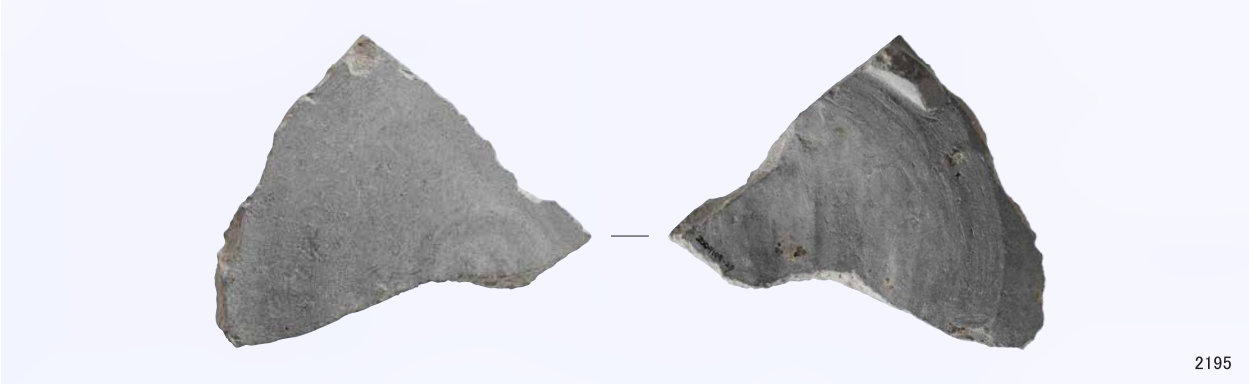
2199

2200

2201

2160

2195


2195

2153

2145

2160

2140
2152
2164

2205

2215

2216

2221

2222

2223

2218

2212

2224

2202
2203
2204
2207
2208
2209
2213

2202
2203
2204
2207
2208
2209
2213

2217
2219
2220
2225
2226

2217
2219
2220
2225
2226

2206
2210
2214
2211

2206
2210
2214
2211

2228

2229
2230
2232
2231
2233
2234
2235
2236

2238
2237

2238
2237

2240

2239

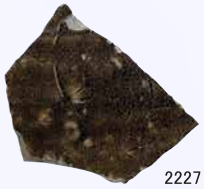
2244

2245

2241

2243

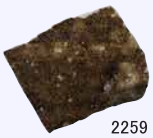
2242



2227

2257

2258



2259

2246

2260

2247
2262
2261
2263
2248
2250
2264
2249

2247
2262
2261
2263
2248
2250
2264
2249

2265
2266
2267
2268
2269
2270
2271
2272
2273

2274
2275
2276
2277
2278
2279
2280
2281
2282
2283
2284
2285
2286

2287
2288
2289
2290
2291
2292
2293
2294
2295
2296

石器1

S213

S214

M203

M201

M202

M205

M204

W201

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| ふりがな | いけのしたいせき |
| 書名 | 池ノ下遺跡Ⅱ |
| 副書名 | 一般国道2号姫路バイパス改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| シリーズ名 | 兵庫県文化財調査報告 |
| シリーズ番号 | 第524冊 |
| 編著者名 | 篠宮　正・鐵　英記・西口圭介・西山昌孝<br>㈱古環境研究所・一般社団法人文化財科学研究センター |
| 編集機関 | 公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部 |
| 所在地 | 〒675-0142　加古郡播磨町大中１丁目１番１号（兵庫県立考古博物館内）　TEL079-437-5561 |
| 発行機関 | 兵庫県教育委員会 |
| 所在地 | 〒650-8567　神戸市中央区下山手通５丁目10番１号　TEL078－362－3784 |
| 発行年月日 | 令和5（2022）年2月22日 |
| 資料保管機関 | 兵庫県立考古博物館 |
| 所在地 | 〒675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中１丁目１番１号　TEL079-437-5589 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間（遺跡調査番号） | 調査面積（㎡） | 発掘原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| 池ノ下遺跡 | 姫路市苫編 | 2821014 | 20578 | 34°49′1.26″ | 134°39′0.78″ | 20071207～20180906<br>(2007107・2017054・2017078・2018013) | 1,885 | 記録保存調査 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 池ノ下遺跡 | 集落・生産遺跡 | 弥生時代中期・後期末～古墳時代初頭 | 粘土採掘坑群・溝・水田遺構 | 庄内期の土器 | |
| | | 奈良時代～平安時代前期 | 掘立柱建物跡・水田遺構 | 土師器・須恵器・墨書土器・円面硯<br>円形硯・転用硯・緑釉陶器・瓦<br>製塩土器 | |
| | | 平安時代後期～鎌倉時代 | 掘立柱建物跡・土坑 | 墨書土器・華南産灰釉陶器壺・白磁端反り碗・亀山焼甕・柱根 | |


要約

調査地点の東端と西端にある扇状地上において奈良時代から鎌倉時代にかけての集落を調査した。また、両扇状地の間にある沖積地において粘土採掘坑群の調査を行った。粘土採掘坑群は弥生時代後期末～古墳時代初頭である。このほか、弥生時代中期・弥生時代末の溝、時期の確定できない水田遺構を検出している。遺物には奈良時代の円面硯・円形硯・墨書土器が出土しており、77区の掘立柱建物2棟と、区画整理事業に伴う調査結果を合わせ、西側の扇状地上から北側の山裾にかけて官衙が存在する可能性が高くなった。鎌倉時代の集落は、70区・77区において調査している。

兵庫県文化財調査報告　第 524 冊

姫路市

# 池ノ下遺跡Ⅱ

－一般国道２号姫路バイパス改良事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書－

令和５（2023）年２月 22 日　発行

編集：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
〒675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中１丁目１番１号
（兵庫県立考古博物館内）

発行：兵庫県教育委員会
〒650-8567　兵庫県神戸市中央区下山手通５丁目 10 番１号

印刷：有限会社東光舎
〒675-0965　兵庫県姫路市東延末４丁目81